KyotoMicrobio Laboratory

総合検査案内 INSPECTION GUIDE 2024-2025

※各ページの上部見出欄をクリックするとこちらのページに戻ります。

文字列検索

★検索したい頭文字をクリックしてください

ア	イ	ウ	エ	オ
カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	ユ	ヨ		
ラ	リ	ル	レ	ロ
ワ				

A	B	C	D	E
F	G	H	I	J
K	L	M	N	O
P	Q	R	S	T
U	V	W	X	Y
Z	α	β	γ	δ
数 字				

分野別検索

目 次

細菌検査　検体採取方法

特殊健康診断関連検査

腫瘍マーカー一覧

特定薬剤治療管理料

ウイルス検査　参考資料

容器一覧

2024年8月版

総合検査案内

2024-2025

INSPECTION GUIDE

項目検索
ご利用の手引き
アレルゲンセット一覧
アレルギー検査
一般検査
微生物学的検査
血液学的検査
病理学的検査
生化学的検査
薬物検査
免疫学的検査
遺伝子関連検査
ウイルス感染症検査
内分泌学的検査
資料
参考文献一覧
容器一覧

KyotoMicrobio Laboratory

2024年8月版

個人情報保護における基本方針宣言書

一般社団法人京都微生物研究所の個人情報保護における「基本方針」をここに宣言する。

基本方針

1．総　　則

① 検体検査の受託にあたり取得する被験者又は依頼者の個人情報を、適切な安全管理措置を講ずることによって保護管理する。

② 個人情報に関する法令及びその他の規範を遵守し、さらには当研究所の策定した個人情報保護システムに基づいて個人情報を保護する。また、このシステムは適宜見直しを行い、継続的に改善する。

2．情報収集の原則

① 検体検査は、医療機関等と個人情報取扱委託契約を結んで実施する。

② 医療機関等より取得する被験者又は依頼者の個人情報は、受託した検体検査の実施に必要な範囲のものとする。

3．情報利用の原則

① 検体検査の受託に際して取得する被験者又は依頼者の個人情報は、受託した検体検査の実施目的以外には利用しない。

② 医療機関等の要請により、医療の向上を目的として検査結果を利用するが、被験者氏名など個人を特定できるような形での開示は行わない。

4．情報提供・開示の原則

① 受託した検体検査の一部を他の検査機関等に再委託する場合は、個人情報を適切に取扱っている検査機関等を選定するとともに、その取扱いについて定期的に確認する。

② 検査結果は医師又は依頼者にとって重要な判断情報の一部であり、当研究所が被験者本人又はその代理人等に直接、情報提供又は開示等を行うことはしない。

5．安全管理の原則

① 個人情報保護管理者の設置をはじめ内部における責任体制を確保し、不正アクセス、紛失、改ざん、漏洩等の危険防止を図るために、必要かつ適切な保護措置を講じる。

② 個人情報の適切な保護が確保できるよう、教育研修の実施等を通じて、従業者の意識の啓発を図る。

③ 検体検査を再委託する場合には、委託先において安全管理措置が確保されるよう、委託契約により、委託元と委託先の責任を明確に定める。

制定日：2005年４月１日
改定日：2014年４月１日

一般社団法人京都微生物研究所
理事長　大藪　正樹

認　定　資　格

公益財団法人日本適合性認定協会（JAB）の臨床検査室認定を取得しています。

健康診断業務においてISO27001情報セキュリティマネジメントシステムの認証を取得しています。

一般財団法人医療関連サービス振興会が定める衛生検査所業務に係わる認定要件に適合し、認定証を取得しています。

項目検索
ご利用の手引き
アレルゲンセット一覧
項目検索…… <2>
ご利用の手引き…… <30>
緊急報告対象項目とその基準 <33>
包括点数算定の該当項目…… <34>
アレルゲンセット一覧…… <36>

アレルギー検査
アレルギー検査……1

一般検査
尿検査…… 4
リコール（髄液）検査・精液検査 5
穿刺液（関節液・胸水・腹水）検査 6
糞便検査…… 7

微生物学的検査
一般細菌・薬剤…… 9
抗酸菌…… 11
その他…… 13
一般細菌・抗酸菌　参考資料…… 14
性感染症関連検査…… 15
感受性薬剤一覧表…… 17
検体の採取方法…… 19

血液学的検査
血液形態・機能検査…… 22
その他…… 23
血液凝固検査…… 24
凝固因子検査…… 25
血液凝固・線溶系検査…… 26

病理学的検査
病理組織検査…… 28
各種染色…… 29
依頼上の留意事項…… 30
細胞診検査…… 31
標本作製法と固定法…… 32
細胞診検査　判定基準…… 33
その他…… 34

生化学的検査
蛋白…… 35
CKDの定義・重症度分類 …… 36
窒素化合物…… 37
アミノ酸…… 38
糖および糖質関連物質…… 39
糖尿病の診断基準・手順…… 40
酵素関連物質…… 41
酵素アイソザイム…… 44
生体色素検査…… 45
生理機能…… 46
脂質関連検査…… 47
電解質…… 50
無機質…… 51
その他…… 52
特殊健康診断関連検査…… 53
ビタミン…… 55
腫瘍関連検査…… 57
腫瘍マーカー　参考資料…… 63

薬物検査
抗てんかん剤…… 68
抗てんかん剤　精神神経用剤…… 69
強心剤　不整脈用剤…… 70
不整脈用剤　抗生物質製剤…… 71
その他…… 72
特定薬剤治療管理料…… 73

免疫学的検査
感染症関連検査…… 75
梅毒血清反応…… 80
血液型関連検査…… 81
血液型関連検査　参考資料…… 82
血漿蛋白関連検査…… 83
免疫電気泳動・その他…… 87
自己抗体関連検査…… 88
細胞性免疫検査…… 94
HLA検査…… 97

遺伝子関連検査
癌関連遺伝子…… 98
造血器腫瘍遺伝子検査…… 102
遺伝子関連検査のご依頼について 103

ウイルス感染症検査
ウイルス感染症検査…… 104
ウイルス感染症検査　参考資料 121

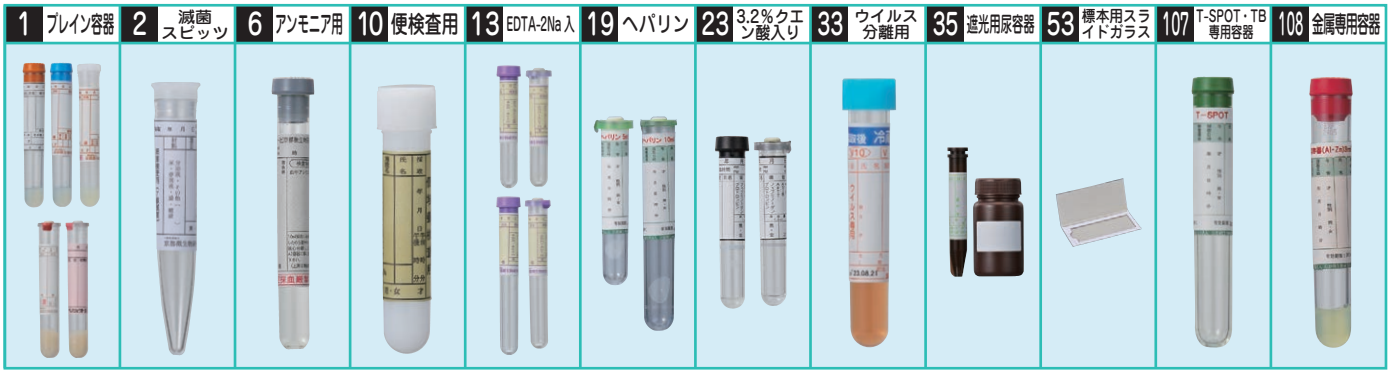
内分泌学的検査
視床下部・下垂体関連検査…… 122
甲状腺関連検査…… 124
副甲状腺・骨代謝関連検査…… 125
副腎髄質関連検査…… 127
副腎皮質関連検査…… 129
性腺・胎盤関連検査…… 130
膵・消化管関連検査…… 134
心臓関連検査…… 135
その他…… 136
主な内分泌負荷試験…… 138

資料
参考文献一覧
白血球の分化抗原のCD分類 … 139
検査方法の略称と概要…… 140
検体の安定性…… 143
溶血・乳びの影響を受ける検査項目 … 144
主要参考文献…… 146

容器一覧
容器一覧…… 158

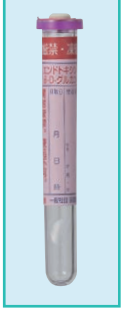
項目検索

項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
ア							
亜鉛(Ｚｎ)	51	132	生化Ⅰ	D007 37	亜鉛(Ｚｎ)	160029110	1
(抗)アクアポリン４抗体	92	1000	免疫	D014 47	抗アクアポリン４抗体	160202250	1
アスコルビン酸(ビタミンＣ)	55	296	生化Ⅰ	D007 60	ビタミンＣ	160030110	専用
アスペルギルス抗原	75	157	免疫	D012 30	アスペルギルス抗原	160158350	1
アセタゾラミド	69	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
(抗)アセチルコリンレセプター抗体	92	775	免疫	D014 45	抗アセチルコリンレセプター抗体(抗ＡＣｈＲ抗体)	160118410	1
アデノウイルス＜ＣＦ＞	104	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(アデノウイルス)	160041610	1
アデノウイルス＜ＮＴ＞(1～7、11、19、37)	104	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(アデノウイルス)	160041610	1
アデノウイルス抗原[便]	8・104	60	免疫	D012 07	アデノウイルス抗原定性(糞便)	160112810	10
アデノシンデアミナーゼ(ＡＤＡ)	42	32	生化Ⅰ	D007 11	アデノシンデアミナーゼ(ＡＤＡ)	160025210	1
アデノシンデアミナーゼ(ＡＤＡ)[胸水]	42	32	生化Ⅰ	D007 11	アデノシンデアミナーゼ(ＡＤＡ)(胸水)	160138050	2
アトピー鑑別試験	3	194	免疫	D015 21	アトピー鑑別試験定性	160143850	1
アプリンジン	71	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1・19
アポリポ蛋白(ＡⅠ、ＡⅡ、Ｂ、ＣⅡ、ＣⅢ、Ｅ)	47	31	生化Ⅰ	D007 10	アポリポ蛋白（１項目の場合）	160206110	1
アポリポ蛋白Ａ２(ＡＰＯＡ２)アイソフォーム	57	335	生化Ⅱ	D009 35	アポリポ蛋白Ａ２(ＡＰＯＡ２)アイソフォーム	160238550	1
アミオダロン	71	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	19
アミカシン	71	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
アミノ酸定量(全種)[血漿、尿]	38	1107	生化Ⅱ	D010 04	アミノ酸(５種類以上)	160102410	2・19
(尿中δ-)アミノレブリン酸	45・53	106	尿・糞便	D001 11	δアミノレブリン酸(δ－ＡＬＡ)(尿)	160004610	35
アミラーゼ(ＡＭＹ)	41	11	生化Ⅰ	D007 01	アミラーゼ	160020310	1
アミラーゼ(ＡＭＹ)[尿]	41	11	生化Ⅰ	D007 01	アミラーゼ(尿)	160132350	2
アミラーゼアイソザイム	44	48	生化Ⅰ	D007 14	アミラーゼアイソザイム	160026410	1
アミラーゼアイソザイム[尿]	44	48	生化Ⅰ	D007 14	アミラーゼアイソザイム(尿)	160133950	2
アミロイドＡ蛋白(ＳＡＡ)	83	47	免疫	D015 06	血清アミロイドＡ蛋白(ＳＡＡ)	160160250	1
(便中)アメーバ検査	7	67	微生物	D017 03	細菌顕微鏡検査(その他のもの)	160057710	10
アルカリホスファターゼ(ＡＬＰ)	41	11	生化Ⅰ	D007 01	アルカリホスファターゼ(ＡＬＰ)	160020010	1
アルカリホスファターゼアイソザイム(ＡＬＰアイソザイム)	44	48	生化Ⅰ	D007 14	ＡＬＰアイソザイム	160026310	1
アルドステロン	129・136	122	生化Ⅱ	D008 15	アルドステロン	160034110	1・13
アルドステロン[尿]	129・136	122	生化Ⅱ	D008 15	アルドステロン(尿)	160136550	2
アルドステロン/レニン活性比	136	122+100	生化Ⅱ	D008 08 15	アルドステロン(160034110) ＋ レニン活性(160032210)		13
アルドステロン/レニン濃度比	136	122+102	生化Ⅱ	D008 10 15	アルドステロン(160034110) ＋ レニン定量(160115810)		13
アルドラーゼ(ＡＬＤ)	42	11	生化Ⅰ	D007 01	アルドラーゼ	160020710	1
アルブミン(ＢＣＰ改良法)	35	11	生化Ⅰ	D007 01	アルブミン(ＢＣＰ改良法・ＢＣＧ法)	160018910	1
アルブミン/グロブリン比(Ａ/Ｇ比)	35	－	－				
アルブミン定性[尿]	35	49	尿・糞便	D001 06	アルブミン定性(尿)	160112010	2
アルブミン定量[尿]	35	99	尿・糞便	D001 09	アルブミン定量(尿)	160004810	2
アルベカシン	71	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
アルミニウム(ＡⅠ)	51	109	生化Ⅰ	D007 29	アルミニウム(ＡＬ)	160029010	108
アンギオテンシンⅠ転換酵素(ＡＣＥ)	42	136	生化Ⅰ	D007 39	アンギオテンシン１転換酵素(ＡＣＥ)	160029410	1
(α１)アンチトリプシン	83	80	血液	D006 10	α１－アンチトリプシン	160113710	1
アンチトロンビンⅢ(ＡＴ-Ⅲ)	26	70	血液	D006 09	アンチトロンビン活性	160113510	23
アンチプラスミン活性(α2-ＰⅠ)	26	128	血液	D006 16	プラスミンインヒビター(アンチプラスミン)	160113910	23
アンモニア(ＮＨ３)	37	50	生化Ⅰ	D007 16	アンモニア	160025910	6

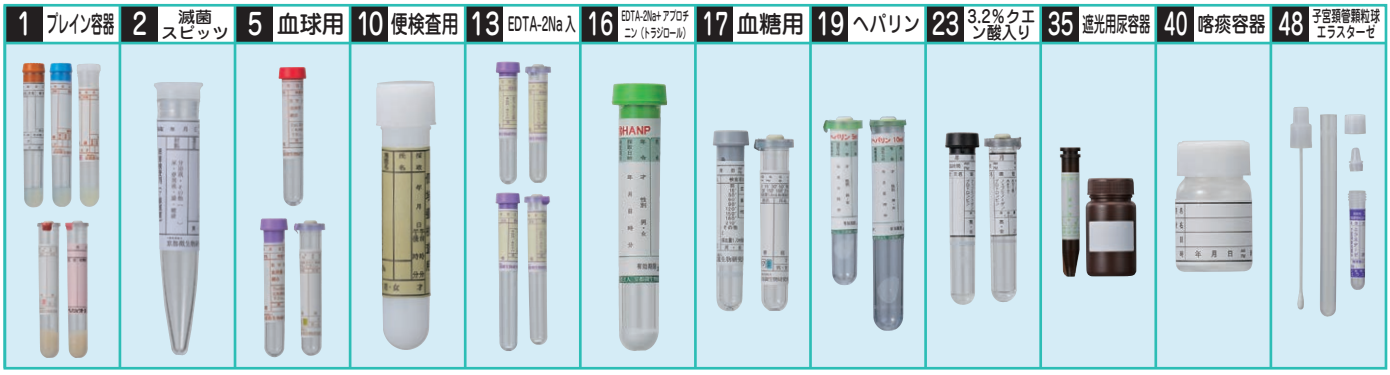


項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
イ							
イオン化カルシウム(Ｃａ$^{2+}$)	50	26	生化Ⅰ	D007 07	イオン化カルシウム	160021610	1(P50参照)
胃がんリスク層別化検査	43	－	－				1
一般細菌塗抹	9	67	微生物	D017 03	細菌顕微鏡検査(その他のもの)	160057710	P9参照
一般細菌培養同定　気道材料	9	180	微生物	D018 01	細菌培養同定検査(気道からの検体)	160144410	P9参照
一般細菌培養同定　血液材料	9	225	微生物	D018 03	細菌培養同定検査(血液)	160058610	P9参照
一般細菌培養同定　呼吸器材料	9	180	微生物	D018 01	細菌培養同定検査(呼吸器からの検体)	160144510	P9参照
一般細菌培養同定　口腔材料	9	180	微生物	D018 01	細菌培養同定検査(口腔からの検体)	160058210	P9参照
一般細菌培養同定　穿刺液材料	9	225	微生物	D018 03	細菌培養同定検査(穿刺液)	160144710	P9参照
一般細菌培養同定　消化管材料	9	200	微生物	D018 02	細菌培養同定検査(消化管からの検体)	160058310	P9参照
一般細菌培養同定　生殖器材料	9	190	微生物	D018 04	細菌培養同定検査(生殖器からの検体)	160144610	P9参照
一般細菌培養同定　その他材料	9	180	微生物	D018 05	細菌培養同定検査(その他の部位からの検体)	160058710	P9参照
一般細菌培養同定　泌尿器材料	9	190	微生物	D018 04	細菌培養同定検査(泌尿器からの検体)	160058410	P9参照
(抗)胃壁細胞抗体	91	－	－				1
(血清)インジウム	53	－	－				1
インスリン抗体	134	107	免疫	D014 06	抗インスリン抗体	160054110	1
インスリン(ＩＲＩ)	134	100	生化Ⅱ	D008 08	インスリン(ＩＲＩ)	160031510	1
インターフェロン-γ遊離試験(T-SPOT・TB)	79	593	免疫	D015 30	結核菌特異的インターフェロンーγ産生能	160177450	107
(可溶性)インターロイキン-2受容体(ｓＩＬ-２Ｒ)	60	438	生化Ⅱ	D009 36	可溶性インターロイキンー２レセプター(ｓＩＬ－２Ｒ)	160158050	1
インターロイキン-６(ＩＬ-６)	85	170	免疫	D015 17	インターロイキンー６(ＩＬ－６)	160225450	1
インドシアニングリーン(消失率)	46	(150)	－	D286	肝クリアランステスト	160086210	1
インドシアニングリーン(停滞率)	46	(100)	－	D289 02	肝機能テスト(ＩＣＧ１回・２回法)	160088410	1
インフルエンザウイルスＡ型<ＨＩ、CF>	105	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(インフルエンザウイルスＡ型)	160042210	1
インフルエンザウイルスＢ型<ＨＩ、CF>	105	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(インフルエンザウイルスＢ型)	160042310	1
ウ							
ウイルス分離、同定	115	－	－				33
(尿)ウロビリノゲン定性	4	(26)	－	D000	尿中一般物質定性半定量検査	160000310	2
ウロポルフィリン[尿]	45	105	尿・糞便	D001 10	ウロポルフィリン(尿)	160112210	35
エ							
エコーウイルス<ＮＴ>	106	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(エコーウイルス)	160042010	1
エステラーゼ染色[骨髄塗抹標本]	22	加60	血液	D005 14注	特殊染色加算(骨髄像・エステラーゼ染色)	160011370	53
エステラーゼ染色[末梢血塗抹標本]	22	加37	血液	D005 06注	特殊染色加算(末梢血液像(鏡検法)・エステラーゼ染色)	160009270	53
エストラジオール(Ｅ$_2$)	130	167	生化Ⅱ	D008 33	エストラジオール(Ｅ２)	160035310	1
エストロゲンレセプター	29	720	病理	N002 01	免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製(エストロジェンレセプター)	160060350	
エチルアルコール(エタノール)	52	105	生化Ⅰ	D007 26	エタノール	160114910	19
エトスクシミド	68	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1･19
エラスターゼ1	57	120	生化Ⅱ	D009 08	エラスターゼ１	160037710	1
エリスロポエチン	137	209	生化Ⅱ	D008 41	エリスロポエチン	160125650	1
塩基性フェトプロテイン(ＢＦＰ)	57	150	生化Ⅱ	D009 17	塩基性フェトプロテイン(ＢＦＰ)	160116910	1
エンテロウイルス７０型、７１型<ＮＴ>	108	－	－				1
エンドトキシン(ＥＳ)	75	229	免疫	D012 52	エンドトキシン	160115510	113
オ							
黄体形成ホルモン(ＬＨ)	122	105	生化Ⅱ	D008 12	黄体形成ホルモン(ＬＨ)	160149910	1

113 エンドトキシン

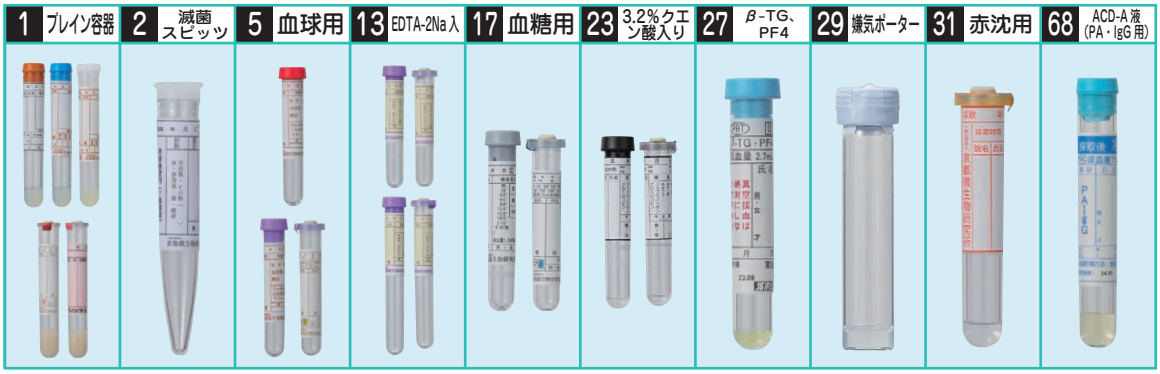


項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
オートタキシン(ＡＴＸ)	86	194	生化Ⅰ	D007 50	オートタキシン	160215150	1
オーム病クラミジア(シッタシ抗体)	76	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(オーム病クラミジア)	160043510	1
オステオカルシン(ＢＧＰ；ＯＣ)	126	157	生化Ⅱ	D008 26	オステオカルシン(ＯＣ)	160151250	1
オリゴクローナルバンド	85	522	尿・糞便	D004 11	オリゴクローナルバンド	160178010	1+2
カ							
ガストリン放出ペプチド前駆体(ＰｒｏＧＲＰ)	58	175	生化Ⅱ	D009 24	ガストリン放出ペプチド前駆体(ＰｒｏＧＲＰ)	160162250	13
活性化部分トロンボプラスチン時間(ＡＰＴＴ)	24	29	血液	D006 07	活性化部分トロンボプラスチン時間(ＡＰＴＴ)	160012310	23
カテコールアミン3分画(ＣＡ3分画)[血漿、髄液、尿]	127	161	生化Ⅱ	D008 29	カテコールアミン分画	160033410	2·13·35
カテコールアミン[尿]	127	184	生化Ⅱ	D008 37	カテコールアミン	160033510	35
カドミウム(Ｃｄ)[血液、尿]	51	－	－				19·124
ガバペンチン	69	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	19
可溶性ＩＬ-２受容体(ｓＩＬ-２Ｒ)	60	438	生化Ⅱ	D009 36	可溶性インターロイキン－２レセプター(ｓＩＬ－２Ｒ)	160158050	1
可溶性フィブリンモノマー複合体(ＳＦＭＣ)	26	93	血液	D006 11	フィブリンモノマー複合体定性	160013310	23
(抗)ガラクトース欠損ＩｇＧ抗体	88	111	免疫	D014 08	抗ガラクトース欠損ＩｇＧ抗体定量	160195910	1
カリウム(Ｋ)	50	11	生化Ⅰ	D007 01	カリウム	160021410	1
カリウム(Ｋ)[尿]	50	11	生化Ⅰ	D007 01	カリウム(尿)	160132650	2
(子宮頸管粘液中)顆粒球エラスターゼ	132	116	尿・糞便	D004 08	顆粒球エラスターゼ(子宮頸管粘液)	160163150	48
カルシウム(Ｃａ)	50	11	生化Ⅰ	D007 01	カルシウム	160021510	1
カルシウム(Ｃａ)[尿]	50	11	生化Ⅰ	D007 01	カルシウム(尿)	160132750	2
(抗)カルジオリピンβ２グリコプロテインⅠ複合体抗体	93	223	免疫	D014 29	抗カルジオリピンβ２グリコプロテインⅠ複合体抗体	160154350	1
(抗)カルジオリピン ＩｇＧ抗体	93	226	免疫	D014 30	抗カルジオリピン ＩｇＧ抗体	160164050	1
(抗)カルジオリピン ＩｇＭ抗体	93	226	免疫	D014 30	抗カルジオリピン ＩｇＭ抗体	160228750	1
カルシトニン	125	130	生化Ⅱ	D008 18	カルシトニン	160033610	1
カルニチン	56	95＋95	生化Ⅰ	D007 23	総カルニチン(160211850)＋ 遊離カルニチン(160210550)		1
カルバマゼピン	68	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1·19
(便中)カルプロテクチン	84	268	尿・糞便	D003 09	カルプロテクチン(糞便)	160210050	10
簡易培養	9	60	微生物	D018 06	細菌培養同定検査(簡易培養)	160058810	P9参照
肝細胞増殖因子(ＨＧＦ)	83	227	生化Ⅰ	D007 54	肝細胞増殖因子(ＨＧＦ)	160154250	1
カンジダマンナン抗原	75	134	免疫	D012 23	カンジダ抗原定量	160195010	1
感受性検査(一般細菌)1菌種	10	185	微生物	D019 01	細菌薬剤感受性検査(１菌種)	160146210	
感受性検査(一般細菌)2菌種	10	240	微生物	D019 02	細菌薬剤感受性検査(２菌種)	160146310	
感受性検査(一般細菌)3菌種	10	310	微生物	D019 03	細菌薬剤感受性検査(３菌種以上)	160146410	
関節液一般	6	－	－				2
間接クームス試験	81	47	免疫	D011 02	Ｃｏｏｍｂｓ試験(間接)	160039410	1
間接クームス試験定量	81	－	－				13
癌胎児性抗原(ＣＥＡ)	57	99	生化Ⅱ	D009 03	癌胎児性抗原(ＣＥＡ)	160036510	1
寒冷凝集反応	79	11	免疫	D014 01	寒冷凝集反応	160052710	1
キ							
キニジン	70	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1·19
急性白血病解析セット(CD45 Ｂｌａｓｔ Ｇａｔｉｎｇ法)	95	1940	血液	D005 15	造血器腫瘍細胞抗原検査(一連につき)	160057410	19·111·112
凝固因子(第２因子)	25	223	血液	D006 29	凝固因子(第２因子)	160015910	23
凝固因子(第５因子)	25	223	血液	D006 29	凝固因子(第５因子)	160016010	23
凝固因子(第７因子)	25	223	血液	D006 29	凝固因子(第７因子)	160016110	23
凝固因子(第８因子)	25	223	血液	D006 29	凝固因子(第８因子)	160016210	23



項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
凝固因子(第９因子)	25	223	血液	D006 29	凝固因子(第９因子)	160016310	23
凝固因子(第10因子)	25	223	血液	D006 29	凝固因子(第１０因子)	160016410	23
凝固因子(第11因子)	25	223	血液	D006 29	凝固因子(第１１因子)	160016510	23
凝固因子(第12因子)	25	223	血液	D006 29	凝固因子(第１２因子)	160121310	23
凝固因子(第13因子)	25	223	血液	D006 29	凝固因子(第１３因子)	160016610	23
凝固抑制因子(第８因子)	25	144	血液	D006 19	凝固因子インヒビター(第８因子)	160015410	23
凝固抑制因子(第９因子)	25	144	血液	D006 19	凝固因子インヒビター(第９因子)	160015510	23
胸水一般	6	－	－				2
ク							
グアナーゼ	42	35	生化Ⅰ	D007 12	グアナーゼ	160025410	1
(間接)クームス試験	81	47	免疫	D011 02	Ｃｏｏｍｂｓ試験(間接)	160039410	1
(直接)クームス試験	81	34	免疫	D011 02	Ｃｏｏｍｂｓ試験(直接)	160039310	5
クラミジア・トラコマチス核酸検出	15	188	微生物	D023 01	クラミジア・トラコマチス核酸検出	160158650	101･102･103
クラミジア・トラコマチス抗体(ＩｇＡ・ＩｇＧ)	76	200	免疫	D012 43	グロブリンクラス別クラミジア・トラコマチス抗体	160117810	1
クラミドフィラ・ニューモニエＩｇＡ抗体	76	75	免疫	D012 10	クラミドフィラ・ニューモニエＩｇＡ抗体	160167450	1
クラミドフィラ・ニューモニエＩｇＧ抗体	76	70	免疫	D012 09	クラミドフィラ・ニューモニエＩｇＧ抗体	160167350	1
クラミドフィラ・ニューモニエＩｇＭ抗体	76	152	免疫	D012 29	クラミドフィラ・ニューモニエＩｇＭ抗体	160177050	1
クリオグロブリン	85	42	免疫	D015 05	クリオグロブリン定性	160054810	1
グリコアルブミン(ＧＡ)	39	55	生化Ⅰ	D007 17	グリコアルブミン	160151050	1･13
クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原	75	169	免疫	D012 35	クリプトコックス抗原定性	160151950	1･2
(膵)グルカゴン	134	150	生化Ⅱ	D008 23	グルカゴン	160035210	16
グルコース(血糖)	39	11	生化Ⅰ	D007 01	グルコース	160019410	17
クレアチニン	37	11	生化Ⅰ	D007 01	クレアチニン	160019210	1
クレアチニン[尿]	37	11	生化Ⅰ	D007 01	クレアチニン(尿)	160132150	2
クレアチニンクリアランス(ＣＣｒ)	37	－	－				
クレアチン	37	11	生化Ⅰ	D007 01	クレアチン	160019110	1
クレアチン[尿]	37	11	生化Ⅰ	D007 01	クレアチン(尿)	160132050	2
クレアチンキナーゼ(ＣＫ)	41	11	生化Ⅰ	D007 01	クレアチンキナーゼ(ＣＫ)	160020610	1
クレアチンキナーゼアイソザイム(ＣＫアイソザイム)	44	55	生化Ⅰ	D007 17	ＣＫアイソザイム	160026710	1
クロール(Ｃｌ)	50	11	生化Ⅰ	D007 01	ナトリウム及びクロール	160021110	1
クロール(Ｃｌ)[関節液、穿刺液]	6	11	生化Ⅰ	D007 01	ナトリウム及びクロール	160021110	2
クロール(Ｃｌ)[髄液]	5	11	生化Ⅰ	D007 01	クロール(髄液)	160138250	2
クロール(Ｃｌ)[尿]	50	11	生化Ⅰ	D007 01	ナトリウム及びクロール(尿)	160132450	2
クロザピン	69	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	13
クロストリジオイデス・ディフィシル抗原・トキシン	8･13	80	免疫	D012 12	クロストリジオイデス・ディフィシル抗原定性	160007110	10
クロスマッチ(交差適合試験)	81		－	K920 注8	血液交叉試験加算(１回につき)	150225510	13
クロナゼパム	69	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
クロバザム	69	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
クロム(Ｃｒ)	51	－	－				19
ケ							
血液型(ＡＢＯ式)	81	24	免疫	D011 01	ＡＢＯ血液型	160039110	5
血液型(Ｒｈ式)	81	24	免疫	D011 01	Ｒｈ(Ｄ)血液型	160039210	5
血液像(Ｈｍ)	22	15	血液	D005 03	末梢血液像(自動機械法)	160191510	5
結核菌群核酸検出(結核菌 ＤＮＡ-ＰＣＲ)	12	410	微生物	D023 14	結核菌群核酸検出	160157850	2･40

項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
血色素量(Ｈｂ)	22	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	160008010	5
血小板関連ＩｇG(ＰＡ-ＩｇG)	91	190	免疫	D011 06	血小板関連ＩｇG(ＰＡ－ＩｇG)	160178610	68
(抗)血小板抗体検査(ＡＰＡ)	91	261	免疫	D011 08	抗血小板抗体	160039710	1
血小板数(ＰＬＴ)	22	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	160008010	5
血小板第４因子(ＰＦ４)	24	173	血液	D006 25	血小板第４因子(ＰＦ４)	160016710	27
血小板第４因子－ヘパリン複合体抗体(ＨＩＴ抗体)	27･91	390	免疫	D011 10	血小板第４因子－ヘパリン複合体抗体(ＩｇG、ＩｇM及びＩｇA抗体)	160201050	23
血清アミロイドＡ蛋白(ＳＡＡ)	83	47	免疫	D015 06	血清アミロイドＡ蛋白(ＳＡＡ)	160160250	1
血清インジウム	53	－	－				1
血清中抗ＢＰ１８０ＮＣ１６ａ抗体	92	270	免疫	D014 36	抗ＢＰ１８０－ＮＣ１６ａ抗体	160181650	1
血清鉄（Ｆｅ）	51	11	生化Ⅰ	D007 01	鉄(Ｆｅ)	160022110	1
血清銅(Ｃｕ)	51	23	生化Ⅰ	D007 05	銅(Ｃｕ)	160024710	1
血清補体価(ＣＨ50)	84	38	免疫	D015 04	血清補体価(ＣＨ５０)	160054910	1
結石分析	52	117	生化Ⅱ	D010 02	結石分析	160038310	2
血中総ＦＤＰ	26	80	血液	D006 10	フィブリン・フィブリノゲン分解産物(ＦＤＰ)定量	160191910	23
血沈(赤血球沈降速度)	23	(9)	血液	D005 01	赤血球沈降速度(ＥＳＲ)	160007610	31
血糖(グルコース)	39	11	生化Ⅰ	D007 01	グルコース	160019410	17
(尿)ケトン体定性	4	(26)	－	D000	尿中一般物質定性半定量検査	160000310	2
ケトン体分画	52	59	生化Ⅰ	D007 19	ケトン体分画	160027010	1
嫌気性培養	10	加122	微生物	D018 注1	嫌気性培養加算(細菌培養同定検査)	160058970	29
ゲンタマイシン	71	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
コ							
抗ＡＲＳ抗体	90	190	免疫	D014 23	抗ＡＲＳ抗体	160202650	1
(血清中)抗ＢＰ１８０ＮＣ１６ａ抗体	92	270	免疫	D014 36	抗ＢＰ１８０－ＮＣ１６ａ抗体	160181650	1
抗ＣＣＰ抗体(抗シトルリン化ペプチド抗体)	88	193	免疫	D014 24	抗シトルリン化ペプチド抗体定量	160197410	1
抗ＣＬ-β２ＧＰⅠ複合体抗体	93	223	免疫	D014 29	抗カルジオリピンβ２グリコプロテインⅠ複合体抗体	160154350	1
抗ＤＮＡ抗体	89	159	免疫	D014 17	抗ＤＮＡ抗体定量	160197210	1
抗ｄｓＤＮＡ-ＩｇG抗体	89	159	免疫	D014 17	抗ＤＮＡ抗体定量	160197210	1
抗ｄｓＤＮＡ-ＩｇM抗体	89	－	－				1
抗ＧＡＤ抗体	39･134	134	生化Ⅱ	D008 19	抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗ＧＡＤ抗体)	160162050	1
抗ＩＡ-２抗体	39	213	生化Ⅱ	D008 43	抗ＩＡ－２抗体	160176950	1
抗Ｊｏ-１抗体	90	140	免疫	D014 12	抗Ｊｏ－１抗体定量	160196110	1
抗ＬＫＭ-１抗体	90	215	免疫	D014 28	抗ＬＫＭ－１抗体	160173250	1
抗ＭＤＡ５抗体	90	270	免疫	D014 37	抗ＭＤＡ５抗体	160209150	1
抗Ｍｉ-２抗体	90	270	免疫	D014 37	抗Ｍｉ－２抗体	160209250	1
抗ＭｕＳＫ抗体(抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体)	92	1000	免疫	D014 47	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体	160202350	1
抗ｐ５３抗体	58	163	生化Ⅱ	D009 22	抗ｐ５３抗体	160181750	1
抗ＲＮＡポリメラーゼⅢ抗体	90	170	免疫	D014 19	抗ＲＮＡポリメラーゼ３抗体	160188550	1
抗ＲＮＰ抗体	89	144	免疫	D014 13	抗ＲＮＰ抗体定量	160196310	1
抗Ｓｃｌ-７０抗体	90	157	免疫	D014 16	抗Ｓｃｌ－７０抗体定量	160197110	1
抗Ｓｍ抗体	89	147	免疫	D014 14	抗Ｓｍ抗体定量	160196510	1
抗ＳＳ-Ａ抗体	89	161	免疫	D014 18	抗ＳＳ－Ａ／Ｒｏ抗体定量	160196710	1
抗ＳＳ-Ｂ抗体	89	157	免疫	D014 16	抗ＳＳ－Ｂ／Ｌａ抗体定量	160196910	1
抗ｓｓ-ＤＮＡ ＩｇG抗体	89	159	免疫	D014 17	抗ＤＮＡ抗体定量	160197210	1
抗ｓｓ-ＤＮＡ ＩｇM抗体	89	－	－				1
抗ＴＩＦ1-γ抗体	90	270	免疫	D014 37	抗ＴＩＦ１－γ抗体	160209350	1



項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
抗β２グリコプロテインⅠ　ＩｇＧ抗体	93	226	免疫	D014 30	抗β２グリコプロテインⅠＩｇＧ抗体	160228850	1
抗β２グリコプロテインⅠ　ＩｇＭ抗体	93	226	免疫	D014 30	抗β２グリコプロテインⅠＩｇＭ抗体	160228950	1
抗アクアポリン４抗体	92	1000	免疫	D014 47	抗アクアポリン４抗体	160202250	1
抗アセチルコリンレセプター抗体	92	775	免疫	D014 45	抗アセチルコリンレセプター抗体(抗ＡＣｈＲ抗体)	160118410	1
抗胃壁細胞抗体	91	－	－				1
抗核抗体(ＡＮＡ)＜ＦＡＴ＞	89	99	免疫	D014 05	抗核抗体(蛍光抗体法)半定量	160195710	1
抗核抗体(ＡＮＡ)＜ＦＥＩＡ＞	89	110	免疫	D014 07	抗核抗体(蛍光抗体法を除く。)	160121210	1
抗ガラクトース欠損ＩｇＧ抗体	88	111	免疫	D014 08	抗ガラクトース欠損ＩｇＧ抗体定量	160195910	1
抗カルジオリピンβ2グリコプロテインⅠ複合体(抗ＣＬβ2ＧＰ1抗体)	93	223	免疫	D014 29	抗カルジオリピンβ２グリコプロテインⅠ複合体抗体	160154350	1
抗カルジオリピンＩｇＧ抗体	93	226	免疫	D014 30	抗カルジオリピン　ＩｇＧ　抗体	160164050	1
抗カルジオリピンＩｇＭ抗体	93	226	免疫	D014 30	抗カルジオリピン　ＩｇＭ　抗体	160228750	1
抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体(抗ＭｕＳＫ抗体)	92	1000	免疫	D014 47	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体	160202350	1
高感度ＰＳＡ	60	121	生化Ⅱ	D009 09	前立腺特異抗原(ＰＳＡ)	160037510	1
抗血小板抗体検査(ＡＰＡ)	91	261	免疫	D011 08	抗血小板抗体	160039710	1
抗甲状腺ペルオキシターゼ抗体(抗ＴＰＯ抗体)	124	138	免疫	D014 11	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	160157450	1
抗好中球細胞質抗体(ＰＲ3-ＡＮＣＡ)	91	252	免疫	D014 33	抗好中球細胞質プロテイナーゼ３抗体(ＰＲ３－ＡＮＣＡ)	160197710	1
抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体(MPO-ANCA)	91	251	免疫	D014 32	抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体(ＭＰＯ－ＡＮＣＡ)	160167850	1
抗サイログロブリン抗体(抗Ｔｇ抗体)	124	136	免疫	D014 10	抗サイログロブリン抗体	160141750	1
交差適合試験(クロスマッチ)	81		－	K920 注8	血液交叉試験加算(１回につき)	150225510	13
好酸球数	22	17	血液	D005 04	好酸球数	160007710	5
抗酸菌液体培養(ＭＧＩＴ法)	11	300	微生物	D020 01	抗酸菌分離培養検査(液体培地法)(酸素感受性蛍光センサーによるもの)	160059210	
抗酸菌薬剤感受性	11	400	微生物	D022	抗酸菌薬剤感受性検査(培地数に関係なく)	160059610	
抗酸菌抗体定性(ＭＡＣ抗体)	79	116	免疫	D012 18	抗酸菌抗体定性	160173650	1
抗酸菌同定(質量分析)	12	361	微生物	D021	抗酸菌同定(種目数にかかわらず一連につき)	160059410	
抗酸菌塗抹 ＜チール・ネルゼン染色＞	11	67	微生物	D017 03	細菌顕微鏡検査(その他のもの)	160057710	
抗酸菌塗抹(集菌・蛍光法)	11	50+35	微生物	D017 01	細菌顕微鏡検査(蛍光顕微鏡、位相差顕微鏡、暗視野装置等を使用するもの)(160057510)+ 集菌塗抹法加算(160185570)		
抗酸菌分離培養(小川法)	11	209	微生物	D020 02	抗酸菌分離培養検査(それ以外のもの)	160169910	
抗糸球体基底膜抗体(抗ＧＢＭ抗体)	91	262	免疫	D014 34	抗糸球体基底膜抗体(抗ＧＢＭ抗体)	160169050	1
抗シトルリン化ペプチド抗体(抗ＣＣＰ抗体)	88	193	免疫	D014 24	抗シトルリン化ペプチド抗体定量	160197410	1
甲状腺刺激抗体(ＴＳＡｂ)	124	330	免疫	D014 40	甲状腺刺激抗体(ＴＳＡｂ)	160162550	1
甲状腺刺激ホルモン(ＴＳＨ)	122･124	98	生化Ⅱ	D008 06	甲状腺刺激ホルモン(ＴＳＨ)	160031710	1
甲状腺刺激ホルモンレセプター抗体(ＴＲＡｂ)	124	214	免疫	D014 27	抗ＴＳＨレセプター抗体(ＴＲＡｂ)	160035810	1
抗ストレプトリジンO(ＡＳＯ)	75	15	免疫	D012 01	抗ストレプトリジンO(ＡＳＯ)定量	160193610	1
抗精子抗体	91	－	－				1
抗セントロメア抗体	90	174	免疫	D014 20	抗セントロメア抗体定量	160197310	1
抗デスモグレイン１抗体	92	300	免疫	D014 39	抗デスモグレイン１抗体	160175250	1
抗デスモグレイン３抗体	92	270	免疫	D014 36	抗デスモグレイン３抗体	160175350	1
抗内因子抗体	91	－	－				1
抗平滑筋抗体(ＡＳＭＡ)	90	－	－				1
抗ミトコンドリア抗体(ＡＭＡ)	90	181	免疫	D014 21	抗ミトコンドリア抗体半定量	160203310	1
抗ミトコンドリアＭ２抗体	90	189	免疫	D014 22	抗ミトコンドリア抗体定量	160197510	1
抗ミュラー管ホルモン(ＡＭＨ)	130	597	生化Ⅱ	D008 52	抗ミュラー管ホルモン(ＡＭＨ)	160231210	1
抗利尿ホルモン(ＡＤＨ)(ＡＶＰ)	122	224	生化Ⅱ	D008 47	抗利尿ホルモン(ＡＤＨ)	160035910	13
抗リン脂質抗体パネル	93	226×3	免疫	D014 30	抗カルジオリピン　ＩｇＧ　抗体(他２項目)		1
呼気試験(尿素呼気試験)	77	70	微生物	D023-2 02	尿素呼気試験(ＵＢＴ)	160172850	専用

項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
コクサッキーウイルス＜ＮＴ、ＣＦ＞	107･108	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(コクサッキーウイルス)	160041710	1
骨型アルカリホスファターゼ(ＢＡＰ)	62･126	157	生化Ⅱ	D008 26	骨型アルカリホスファターゼ(ＢＡＰ)	160168650	1
骨髄像(マルク)	22	788	血液	D005 14	骨髄像	160010410	53
コプロポルフィリン[血液]	45	210	生化Ⅰ	D007 52	赤血球コプロポルフィリン	160114810	19
コプロポルフィリン[尿]	45	131	尿・糞便	D001 14	コプロポルフィリン(尿)	160112310	35
(4型)コラーゲン	86	131	生化Ⅰ	D007 36	4型コラーゲン	160145310	1
(4型)コラーゲン[尿]	35	184	尿・糞便	D001 15	4型コラーゲン(尿)	160169250	64
(4型)コラーゲン・7S	86	148	生化Ⅰ	D007 42	4型コラーゲン・7S	160125050	1
コリンエステラーゼ(ＣｈＥ)	41	11	生化Ⅰ	D007 01	コリンエステラーゼ(ＣｈＥ)	160020210	1
コルチゾール[血清、尿]	129	121	生化Ⅱ	D008 14	コルチゾール	160034010	1･35
(総)コレステロール(T-Cho)	47	17	生化Ⅰ	D007 03	総コレステロール	160022410	1
(遊離)コレステロール	47	11	生化Ⅰ	D007 01	遊離コレステロール	160021010	1
コレステロール分画	47	57	生化Ⅰ	D007 18	コレステロール分画	160114510	1
サ							
(肺)サーファクタントプロテインA(SP-A)	85	130	生化Ⅰ	D007 35	肺サーファクタント蛋白－A(ＳＰ－Ａ)	160169350	1
(肺)サーファクタントプロテインD(SP-D)	85	136	生化Ⅰ	D007 39	肺サーファクタント蛋白－D(ＳＰ－Ｄ)	160168450	1
細菌定量	10	－	－				2
細菌塗抹	9	67	微生物	D017 03	細菌顕微鏡検査(その他のもの)	160057710	
サイクリックAMP(C-AMP)	137	165	生化Ⅱ	D008 32	サイクリックＡＭＰ(ｃＡＭＰ)	160035410	13
サイクリックAMP(C-AMP)[尿]	137	165	生化Ⅱ	D008 32	サイクリックＡＭＰ(ｃＡＭＰ)(尿)	160136850	35
サイトケラチン19フラグメント(シフラ)	58	154	生化Ⅱ	D009 18	サイトケラチン１９フラグメント(シフラ)	160159050	1
サイトメガロウイルス＜ＣＦ＞	113	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(サイトメガロウイルス)	160041810	1
サイトメガロウイルス(ＩｇＧ、ＩｇＭ)	113	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(サイトメガロウイルス)	160109410	1
サイトメガロウイルスｐｐ65抗原(C7-HRP)	113	356	免疫	D012 57	サイトメガロウイルスｐｐ６５抗原定性	160163850	13
サイトメガロウイルス核酸検出(新生児尿)	113	801	微生物	D023 20	サイトメガロウイルス核酸検出	160210450	105
サイトメガロウイルス核酸定量	113	450	微生物	D023 17	サイトメガロウイルス核酸定量	160224550	122
細胞診(一般細胞診)	31	190	病理	N004 02	細胞診(穿刺吸引細胞診、体腔洗浄等によるもの)(１部位につき)	160060610	53
細胞診(肺癌３日連続法)	31	190×3	病理	N004 02	細胞診(穿刺吸引細胞診、体腔洗浄等によるもの)(１部位につき)	160060610	39
細胞診(肺癌集細胞法)	31	190	病理	N004 02	細胞診(穿刺吸引細胞診、体腔洗浄等によるもの)(１部位につき)	160060610	32
細胞診(婦人科)	31	150	病理	N004 01	細胞診(婦人科材料等によるもの)(１部位につき)	160060510	53･70
細胞分類	5･6	－	－				2
サイロキシン(T_4)	124	105	生化Ⅱ	D008 11	サイロキシン(Ｔ４)	160031810	1
サイロキシン結合グロブリン(ＴＢＧ)	124	130	生化Ⅱ	D008 18	サイロキシン結合グロブリン(ＴＢＧ)	160034310	1
サイログロブリン	124	128	生化Ⅱ	D008 16	サイログロブリン	160034210	1
(抗)サイログロブリン抗体(抗Ｔｇ抗体)	124	136	免疫	D014 10	抗サイログロブリン抗体	160141750	1
サリチル酸	72	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
酸化ＬＤＬ(MDA-LDL)	48	194	生化Ⅰ	D007 50	マロンジアルデヒド修飾ＬＤＬ(ＭＤＡ－ＬＤＬ)	160184250	1
シ							
ジアゼパム	69	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
シアリルＬｅˣ-ｉ抗原(ＳＬＸ)	58	140	生化Ⅱ	D009 13	シアリルＬｅˣ－ｉ抗原(ＳＬＸ)	160117210	1
シアリルＴｎ抗原(ＳＴＮ)	59	146	生化Ⅱ	D009 16	シアリルＴｎ抗原(ＳＴＮ)	160142450	1
シアル化糖鎖抗原(ＫＬ-６)	85	108	生化Ⅰ	D007 28	ＫＬ－６	160168550	1
子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ	132	116	尿・糞便	D004 08	顆粒球エラスターゼ(子宮頸管粘液)	160163150	48
(抗)糸球体基底膜抗体(抗ＧＢＭ抗体)	91	262	免疫	D014 34	抗糸球体基底膜抗体(抗ＧＢＭ抗体)	160169050	1

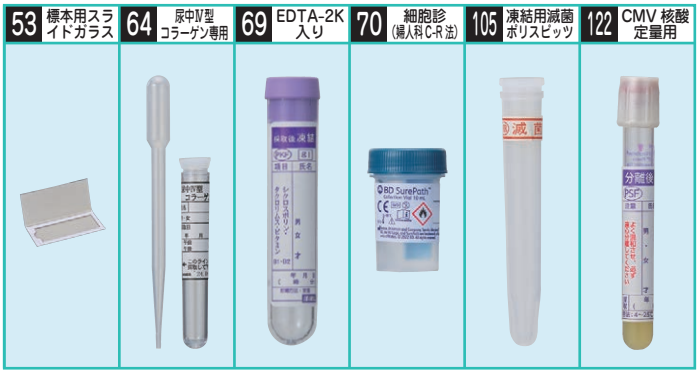
項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
シクロスポリン	72	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	69
ジゴキシン	70	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1･19
シスタチンC	37	112	生化Ⅰ	D007 30	シスタチンC	160177250	1
(5-S-)シスチニールL-ドーパ(5-S-CD)	60	－	－				1
ジソピラミド	70	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
シッタシ抗体(オーム病クラミジア)	76	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(オーム病クラミジア)	160043510	1
(抗)シトルリン化ペプチド抗体(抗CCP抗体)	88	193	免疫	D014 24	抗シトルリン化ペプチド抗体定量	160197410	1
シフラ(サイトケラチン19フラグメント)	58	154	生化Ⅱ	D009 18	サイトケラチン１９フラグメント(シフラ)	160159050	1
シベンゾリン	70	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1･19
脂肪酸分画(4成分)	49	393	生化Ⅱ	D010 07	脂肪酸分画	160038510	1･19
脂肪酸分画(24成分)	49	393	生化Ⅱ	D010 07	脂肪酸分画	160038510	1･19
酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(TRACP-5b)	61	156	生化Ⅱ	D008 25	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(ＴＲＡＣＰ－５ｂ)	160184450	1
真菌塗抹	9	67	微生物	D017 03	細菌顕微鏡検査(その他のもの)	160057710	2
心筋トロポニンT	85･135	109	生化Ⅰ	D007 29	心筋トロポニンT(ＴｎＴ)定性・定量	160152850	1
神経特異エノラーゼ(NSE)	58	142	生化Ⅱ	D009 14	神経特異エノラーゼ(ＮＳＥ)	160037910	1
心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	85･135	184	生化Ⅰ	D007 48	心室筋ミオシン軽鎖１	160115210	1
浸透圧	52	15	血液	D005 03	血液浸透圧	160008110	1
浸透圧[尿]	52	16	尿・糞便	D001 03	尿浸透圧	160003910	2

ス

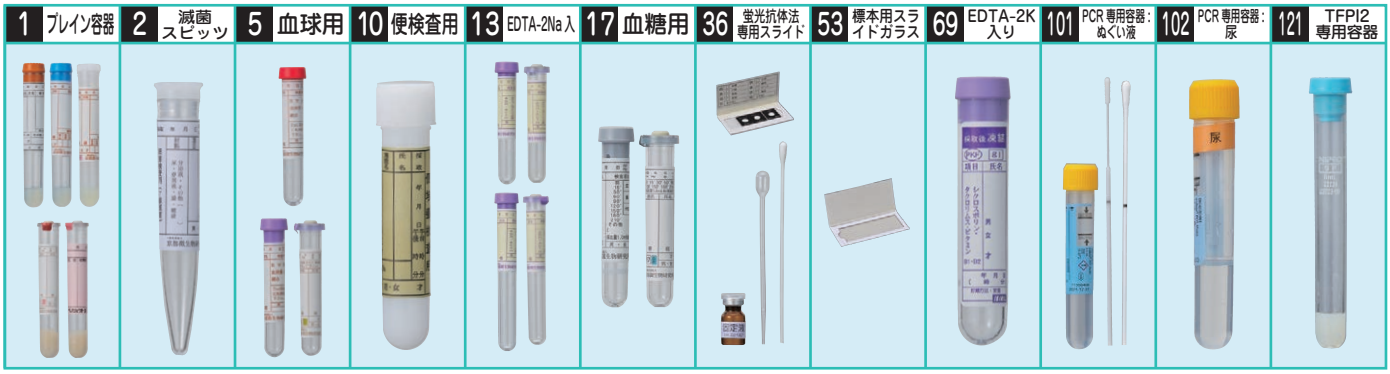
膵PLA2(膵ホスフォリパーゼA2)	42	204	生化Ⅰ	D007 51	ホスフォリパーゼA２(ＰＬＡ２)	160145150	1
髄液一般	5	62	尿・糞便	D004 04	髄液一般検査	160061110	2
髄液クロール(CI)	5	11	生化Ⅰ	D007 01	クロール(髄液)	160138250	2
髄液蛋白定量	5	11	生化Ⅰ	D007 01	総蛋白	160017410	2
髄液糖定量	5	11	生化Ⅰ	D007 01	グルコース(髄液)	160138150	2
膵グルカゴン	134	150	生化Ⅱ	D008 23	グルカゴン	160035210	16
推算GFR creat	37	－	－				
推算GFR cys	37	－	－				
水痘帯状ヘルペスウイルス<CF>	111	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(水痘・帯状疱疹ウイルス)	160174310	1
水痘帯状ヘルペスウイルス(IgG、IgM)	111	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(水痘・帯状疱疹ウイルス)	160204610	1
水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原	111	227	免疫	D012 51	水痘ウイルス抗原定性(上皮細胞)	160125850	36
スチレン代謝物	53	－	－				2
(抗)ストレプトリジンO(ASO)	75	15	免疫	D012 01	抗ストレプトリジンO(ＡＳＯ)定量	160193610	1
スモールデンスLDL-C(sd LDL-C)	47	－	－				1

セ

精液一般	5	70	尿・糞便	D004 05	精液一般検査	160060910	2
(抗)精子抗体	91	－	－				1
成人T細胞白血病ウイルス(HTLV-1)抗体<CLIA>	117	159	免疫	D012 31	ＨＴＬＶ－１抗体	160045210	1
成人T細胞白血病ウイルス(HTLV-1)抗体<ラインブロット>	117	425	免疫	D012 60	ＨＴＬＶ－１抗体(ウエスタンブロット法及びラインブロット法)	160142650	1
成長ホルモン(GH)	122	105	生化Ⅱ	D008 12	成長ホルモン(ＧＨ)	160031910	1
赤血球コプロポルフィリン	45	210	生化Ⅰ	D007 52	赤血球コプロポルフィリン	160114810	19
赤血球数(RBC)	22	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	160008010	5
赤血球沈降速度(ESR)	23	(9)	血液	D005 01	赤血球沈降速度(ＥＳＲ)	160007610	31
赤血球プロトポルフィリン	45	272	生化Ⅰ	D007 58	赤血球プロトポルフィリン	160115410	19
赤血球遊離プロトポルフィリン	53	－	－				19

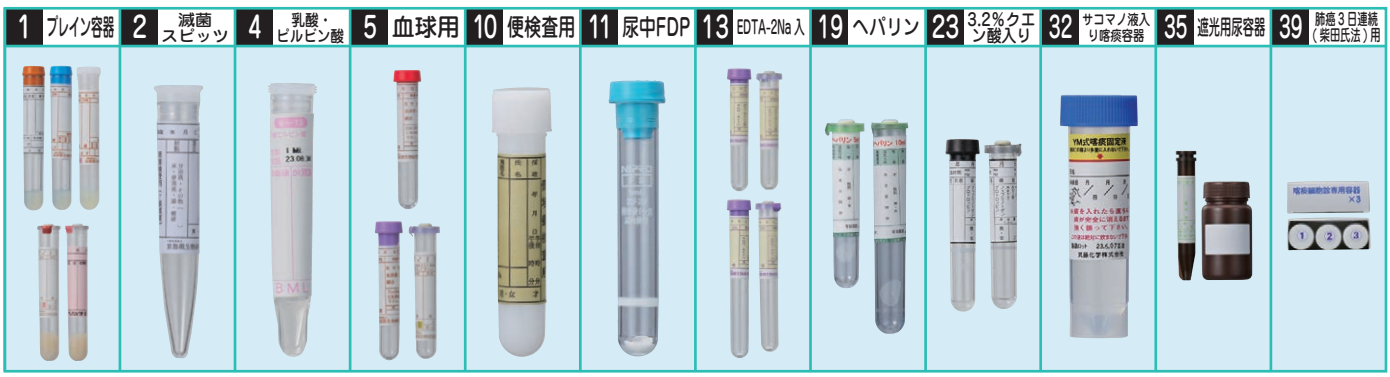


項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
(γ-)セミノプロテイン　(γ-Sm)	60	192	生化Ⅱ	D009 28	γ－セミノプロテイン(γ－Sm)	160038110	1
セルロプラスミン	83	90	免疫	D015 09	セルロプラスミン	160028410	1
(尿)潜血	4	(26)	－	D000	尿中一般物質定性半定量検査	160000310	2
(抗)セントロメア抗体	90	174	免疫	D014 20	抗セントロメア抗体定量	160197310	1
前立腺特異抗原(ＰＳＡ)	60	121	生化Ⅱ	D009 09	前立腺特異抗原(ＰＳＡ)	160037510	1
前立腺特異抗原アンチキモトリプシン(ＰＳＡ-ＡＣＴ)	60	121	生化Ⅱ	D009 09	前立腺特異抗原(ＰＳＡ)	160037510	1
前立腺特異抗原レクチン結合分画比(Ｓ2,3ＰＳＡ%)	60	248	生化Ⅱ	D009 31	Ｓ2、3ＰＳＡ%	160238450	1
ソ							
総コレステロール(Ｔ-Ｃｈｏ)	47	17	生化Ⅰ	D007 03	総コレステロール	160022410	1
総三塩化物[尿]	53	－	－				2
総蛋白(ＴＰ)	35	11	生化Ⅰ	D007 01	総蛋白	160017410	1
総鉄結合能(ＴＩＢＣ)(比色法)	51	11	生化Ⅰ	D007 01	総鉄結合能(ＴＩＢＣ)(比色法)	160023610	1
総ビリルビン(Ｔ-Ｂｉｌ)	45	11	生化Ⅰ	D007 01	総ビリルビン	160017010	1
総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比(ＢＴＲ)	38	283	生化Ⅱ	D010 05	総分岐鎖アミノ酸／チロシンモル比(ＢＴＲ)	160157550	1
組織因子経路インヒビター2(ＴＦＰＩ2)	59	190	生化Ⅱ	D009 27	組織因子経路インヒビター2(ＴＦＰＩ2)	160226250	121
組織適合抗原(ＨＬＡ-Ａ、Ｂ)	97	－	－				13
組織適合抗原(ＨＬＡ-ＤＲ)	97	－	－				13
組織特殊染色	29	－	－				
ゾニサミド	68	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
ソマトメジンＣ(ＩＧＦ-１)	122	212	生化Ⅱ	D008 42	ソマトメジンＣ	160035710	1
タ							
大腸菌抗原同定検査(大腸菌血清型別)	13	175	免疫	D012 37	大腸菌血清型別	160162750	
大腸菌ベロトキシン検査(Ｖｅｒｏ毒素)＜ＥＩＡ＞	13	184	微生物	D023-2 03	大腸菌ベロトキシン定性	160162650	10
大腸菌ベロトキシン検査(Ｖｅｒｏ毒素)＜ＬＡ＞	13	184	微生物	D023-2 03	大腸菌ベロトキシン定性	160162650	
タクロリムス	72	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	69
単純ヘルペスウイルス＜ＣＦ＞	111	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(ヘルペスウイルス)	160042110	1
単純ヘルペスウイルス(ＩｇＧ、ＩｇＭ)	111	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(ヘルペスウイルス)	160046010	1
単純ヘルペスウイルス1、2型＜ＮＴ＞	111	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(ヘルペスウイルス)	160042110	1
単純ヘルペスウイルス特異抗原	111	180	免疫	D012 39	単純ヘルペスウイルス抗原定性	160044210	36
(尿)蛋白定性	4	(26)	－	D000	尿中一般物質定性半定量検査	160000310	2
(尿)蛋白定量	4	7	尿・糞便	D001 01	尿蛋白	160000410	2
蛋白定量[関節液、穿刺液]	6	11	生化Ⅰ	D007 01	総蛋白	160017410	2
(髄液)蛋白定量	5	11	生化Ⅰ	D007 01	総蛋白	160017410	2
蛋白分画	35	18	生化Ⅰ	D007 04	蛋白分画	160022810	1
胆汁酸(ＴＢＡ)	48	47	生化Ⅰ	D007 13	胆汁酸	160026210	1
チ							
チアミン(ビタミンＢ1)	55	239	生化Ⅰ	D007 56	ビタミンＢ１	160123650	69
中性脂肪(ＴＧ)	47	11	生化Ⅰ	D007 01	中性脂肪	160020910	1
(便)虫体検出	7	23	尿・糞便	D003 03	虫体検出(糞便)	160006410	10
虫卵(集卵法)[便]	7	15	尿・糞便	D003 01	虫卵検出(集卵法)(糞便)	160005710	10
虫卵塗抹[便]	7	20	尿・糞便	D003 02	糞便塗抹顕微鏡検査(虫卵、脂肪及び消化状況観察を含む。)	160005510	10
直接クームス試験	81	34	免疫	D011 02	Ｃｏｏｍｂｓ試験(直接)	160039310	5
直接ビリルビン(Ｄ-Ｂｉｌ)	45	11	生化Ⅰ	D007 01	直接ビリルビン	160017110	1



項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
(尿)沈渣染色法	4	(27+9)	尿・糞便	D002 注3	尿沈渣(鏡検法)(160005010)＋染色標本加算(160005170)		2
(尿)沈渣無染色法	4	(27)	尿・糞便	D002	尿沈渣(鏡検法)	160005010	2
ツ							
痛風と仮性痛風(痛風と偽痛風)	6	50	尿・糞便	D004 02	関節液検査	160230710	2
恙虫(カープ、カトー、ギリアム)ＩｇＧ、ＩｇＭ	78	203	免疫	D012 45	ツツガムシ抗体半定量	160195310	1
テ							
低カルボキシル化オステオカルシン(ｕｃＯＣ)	125	154	生化Ⅱ	D008 24	低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)	160181350	1
テイコプラニン	71	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
デオキシピリジノリン(尿ＤＰＤ)	61･126	191	生化Ⅱ	D008 39	デオキシピリジノリン(ＤＰＤ)(尿)	160164650	2
テオフィリン	72	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
テストステロン	131	119	生化Ⅱ	D008 13	テストステロン	160033910	1
(フリー)テストステロン	131	159	生化Ⅱ	D008 27	遊離テストステロン	160116010	1
(抗)デスモグレイン１抗体	92	300	免疫	D014 39	抗デスモグレイン１抗体	160175250	1
(抗)デスモグレイン３抗体	92	270	免疫	D014 36	抗デスモグレイン３抗体	160175350	1
鉄(Ｆｅ)	51	11	生化Ⅰ	D007 01	鉄(Ｆｅ)	160022110	1
鉄染色[骨髄塗抹標本]	22	加60	血液	D005 14注	特殊染色加算(骨髄像・鉄染色)	160010970	53
鉄染色[末梢血塗抹標本]	22	加37	血液	D005 06注	特殊染色加算(末梢血液像(鏡検法)・鉄染色)	160008870	53
デヒドロエピアンドロステロンサルフェート(ＤＨＥＡ-Ｓ)	129	164	生化Ⅱ	D008 31	デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体(ＤＨＥＡ－Ｓ)	160152950	1
ト							
銅(Ｃｕ)	51	23	生化Ⅰ	D007 05	銅(Ｃｕ)	160024710	1
(尿)糖定性	4	(26)	－	D000	尿中一般物質定性半定量検査	160000310	2
(尿)糖定量	4	9	尿・糞便	D001 02	尿グルコース	160001710	2
糖定量[関節液、穿刺液]	6	11	生化Ⅰ	D007 01	グルコース	160019410	2
(髄液)糖定量	5	11	生化Ⅰ	D007 01	グルコース(髄液)	160138150	2
糖尿病分類	39	－	－				17
糖負荷試験(常用負荷試験)	39	(200)	－	D288 01	常用負荷試験(血糖、尿糖検査を含む)	160087210	2･17
(Ｌ-)ドーパ	127	－	－				13
ドーパミン総	127	－	－				2･13
トキソプラズマＩｇＧ抗体	75	93	免疫	D012 14	トキソプラズマ抗体	160043710	1
トキソプラズマＩｇＭ抗体	75	95	免疫	D012 15	トキソプラズマＩｇＭ抗体	160151350	1
特異的ＩｇＥ(ＩｇＥ-ＲＡＳＴ)	1	110	免疫	D015 13	特異的ＩｇＥ半定量・定量	160056110	1
特異的ＩｇＥ(Ｖｉｅｗ３９)	1	1430	免疫	D015 13	特異的ＩｇＥ半定量・定量	160056110	1
特異的ＩｇＥ(マルチアレルゲン)	1	110	免疫	D015 13	特異的ＩｇＥ半定量・定量	160056110	1
特殊染色(末梢血)	22	加37	血液	D005 06注	特殊染色を併加算(特殊染色ごとに)		53
特殊染色(マルク)	22	加60	血液	D005 14注	特殊染色を併加算(特殊染色ごとに)		53
トピラマート	69	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
トブラマイシン	71	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
塗抹検査	9	67	微生物	D017 03	細菌顕微鏡検査(その他のもの)	160057710	
トランスサイレチン(プレアルブミン)	83	101	免疫	D015 12	トランスサイレチン(プレアルブミン)	160055710	1
トランスフェリン	83	60	免疫	D015 07	トランスフェリン(Ｔｆ)	160124550	1
トランスフェリン[尿]	35	98	尿・糞便	D001 08	トランスフェリン(尿)	160157750	2
トリクロル酢酸[尿]	53	－	—				2
トリコモナス/マイコプラズマ・ジェニタリウム同時核酸検出	15	350	微生物	D023 12	膣トリコモナス及びマイコプラズマ・ジェニタリウム同時核酸検出	160234150	101･102

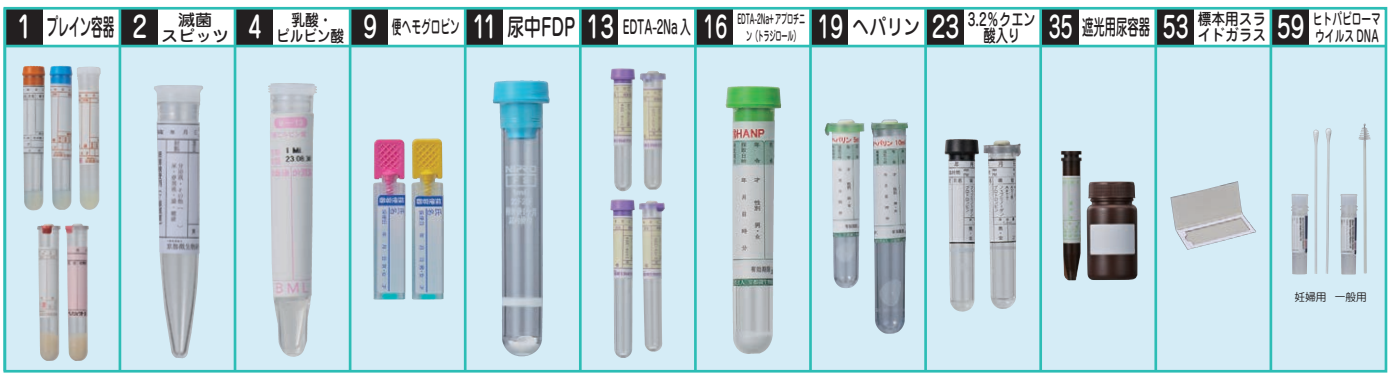
項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
トリプシン	41	189	生化Ⅰ	D007 49	トリプシン	160028910	1
トリメタジオン	68	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料1	113000410	1
トリヨードサイロニン(T3)	124	99	生化Ⅱ	D008 07	トリヨードサイロニン(T3)	160031310	1
(心筋)トロポニンT	85･135	109	生化Ⅰ	D007 29	心筋トロポニンT(TnT)定性・定量	160152850	1
トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体(TAT)	27	171	血液	D006 24	トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)	160114210	23
トロンボモジュリン	26	204	血液	D006 27	トロンボモジュリン	160157050	1
ナ							
ナイアシン(ニコチン酸)	55	－	－				19
(抗)内因子抗体	91	－	－				1
ナトリウム(Na)	50	11	生化Ⅰ	D007 01	ナトリウム及びクロール	160021110	1
ナトリウム(Na)[尿]	50	11	生化Ⅰ	D007 01	ナトリウム及びクロール(尿)	160132450	2
鉛(Pb)	51･53	－	－				19
鉛(Pb)[尿]	51	－	－				2
ニ							
ニコチン酸(ナイアシン)	55	－	－				19
ニトラゼパム	69	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料1	113000410	1
日本脳炎ウイルス<HI、CF>	109	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(日本脳炎ウイルス)	160043410	1
乳酸	39	47	生化Ⅰ	D007 13	有機モノカルボン酸(乳酸)	160025610	4
乳酸脱水素酵素(LD)	41	11	生化Ⅰ	D007 01	乳酸デヒドロゲナーゼ(LD)	160019510	1
尿DPD(デオキシピリジノリン)	61･126	191	生化Ⅱ	D008 39	デオキシピリジノリン(DPD)(尿)	160164650	2
尿FDP	26	72	尿・糞便	D001 07	フィブリン・フィブリノゲン分解産物(FDP)(尿)	160004510	11
尿pH	4	(26)	－	D000	尿中一般物質定性半定量検査	160000310	2
尿4型コラーゲン	35	184	尿・糞便	D001 15	4型コラーゲン(尿)	160169250	64
尿アルドステロン	129･136	122	生化Ⅱ	D008 15	アルドステロン(尿)	160136550	2
尿ウロビリノゲン定性	4	(26)	－	D000	尿中一般物質定性半定量検査	160000310	2
尿ウロポルフィリン	45	105	尿・糞便	D001 10	ウロポルフィリン(尿)	160112210	35
尿カテコールアミン	127	184	生化Ⅱ	D008 37	カテコールアミン	160033510	35
尿ケトン体定性	4	(26)	－	D000	尿中一般物質定性半定量検査	160000310	2
尿コプロポルフィリン	45	131	尿・糞便	D001 14	コプロポルフィリン(尿)	160112310	35
尿サイクリックAMP	137	165	生化Ⅱ	D008 32	サイクリックAMP(cAMP)(尿)	160136850	35
尿酸(UA)	37	11	生化Ⅰ	D007 01	尿酸	160019310	1
尿酸(UA)[尿]	37	11	生化Ⅰ	D007 01	尿酸(尿)	160132250	2
尿浸透圧	52	16	尿・糞便	D001 03	尿浸透圧	160003910	2
尿潜血	4	(26)	－	D000	尿中一般物質定性半定量検査	160000310	2
尿素呼気試験(ユービット)	77	70	微生物	D023-2 02	尿素呼気試験(UBT)	160172850	専用
尿素窒素(UN)	37	11	生化Ⅰ	D007 01	尿素窒素	160019010	1
尿素窒素(UN)[尿]	37	11	生化Ⅰ	D007 01	尿素窒素(尿)	160131950	2
尿蛋白定性	4	(26)	－	D000	尿中一般物質定性半定量検査	160000310	2
尿蛋白定量	4	7	尿・糞便	D001 01	尿蛋白	160000410	2
尿中δ-アミノレブリン酸	45･53	106	尿・糞便	D001 11	δアミノレブリン酸(δ－ALA)(尿)	160004610	35
尿中β2-マイクログロブリン(BMG)	83	98	免疫	D015 10	β2－マイクログロブリン(尿)	160137550	2
尿中アルブミン定性	35	49	尿・糞便	D001 06	アルブミン定性(尿)	160112010	2
尿中アルブミン定量	35	99	尿・糞便	D001 09	アルブミン定量(尿)	160004810	2
尿中総三塩化物	53	－	－				2



項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
尿中トリクロル酢酸	53	－	－				2
尿中トランスフェリン	35	98	尿・糞便	D001 08	トランスフェリン(尿)	160157750	2
尿沈渣(染色)	4	(27+9)	尿・糞便	D002 注3	尿沈渣(鏡検法)(160005010)＋染色標本加算(160005170)		2
尿沈査(無染色)	4	(27)	尿・糞便	D002	尿沈渣(鏡検法)	160005010	2
尿糖定性	4	(26)	－	D000	尿中一般物質定性半定量検査	160000310	2
尿糖定量	4	9	尿・糞便	D001 02	尿グルコース	160001710	2
尿馬尿酸	53	－	－				2
尿比重	4	(26)	－	D000	尿中一般物質定性半定量検査	160000310	2
尿ビリルビン定性	4	(26)	－	D000	尿中一般物質定性半定量検査	160000310	2
尿マンデル酸(ＥＢ代謝物)	53	－	－				2
尿メタネフリン２分画	128	220	生化Ⅱ	D008 45	メタネフリン・ノルメタネフリン分画(尿)	160137250	2
尿メチル馬尿酸	53	－	－				2
ノ							
ノロウイルスRNA	8	－	－				10
ハ							
肺癌３日連続法	31	190×3	病理	N004 02	細胞診(穿刺吸引細胞診、体腔洗浄等によるもの)(１部位につき)	160060610	39
肺癌集細胞法	31	190	病理	N004 02	細胞診(穿刺吸引細胞診、体腔洗浄等によるもの)(１部位につき)	160060610	32
肺サーファクタントプロテインA(ＳP-A)	85	130	生化Ⅰ	D007 35	肺サーファクタント蛋白－A(ＳＰ－A)	160169350	1
肺サーファクタントプロテインD(ＳP-D)	85	136	生化Ⅰ	D007 39	肺サーファクタント蛋白－D(ＳＰ－D)	160168450	1
梅毒定性(ＲＰＲ)	80	15	免疫	D012 01	梅毒血清反応(ＳＴＳ)定性	160039810	1
梅毒定性(ＴＰＬＡ)	80	32	免疫	D012 04	梅毒トレポネーマ抗体定性	160040910	1
梅毒定量(ＲＰＲ)	80	34	免疫	D012 05	梅毒血清反応(ＳＴＳ)定量	160040710	1
梅毒定量(ＴＰＬＡ)	80	53	免疫	D012 06	梅毒トレポネーマ抗体定量	160194010	1
培養同定　気道材料	9	180	微生物	D018 01	細菌培養同定検査(気道からの検体)	160144410	P9参照
培養同定　血液材料	9	225	微生物	D018 03	細菌培養同定検査(血液)	160058610	P9参照
培養同定　口腔材料	9	180	微生物	D018 01	細菌培養同定検査(口腔からの検体)	160058210	P9参照
培養同定　呼吸器材料	9	180	微生物	D018 01	細菌培養同定検査(呼吸器からの検体)	160144510	P9参照
培養同定　消化管材料	9	200	微生物	D018 02	細菌培養同定検査(消化管からの検体)	160058310	P9参照
培養同定　生殖器材料	9	190	微生物	D018 04	細菌培養同定検査(生殖器からの検体)	160144610	P9参照
培養同定　穿刺液材料	9	225	微生物	D018 03	細菌培養同定検査(穿刺液)	160144710	P9参照
培養同定　その他材料	9	180	微生物	D018 05	細菌培養同定検査(その他の部位からの検体)	160058710	P9参照
培養同定　泌尿器材料	9	190	微生物	D018 04	細菌培養同定検査(泌尿器からの検体)	160058410	P9参照
白血球数(ＷＢＣ)	22	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	160008010	5
白血球分類(血液像　Ｈｍ)	22	15	血液	D005 03	末梢血液像(自動機械法)	160191510	5
白血病リンパ腫解析(ＣＤ４５ Ｂｌａｓｔ Ｇａｔｉｎｇ法)	95	1940	血液	D005 15	造血器腫瘍細胞抗原検査(一連につき)	160057410	19·111·112
馬尿酸[尿]	53	－	－				2
バニリルマンデル酸(ＶＭＡ)	128	90	生化Ⅱ	D008 04	バニールマンデル酸(ＶＭＡ)	160031110	13
バニリルマンデル酸(ＶＭＡ)[尿]	128	90	生化Ⅱ	D008 04	バニールマンデル酸(ＶＭＡ)(尿)	160135350	35
ハプトグロビン(Ｈｐ)	83	129	免疫	D015 14	ハプトグロビン(型補正を含む。)	160056310	1
パラインフルエンザ１型＜ＨＩ＞	105	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(パラインフルエンザウイルス１型)	160042510	1
パラインフルエンザ２型＜ＨＩ＞	105	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(パラインフルエンザウイルス２型)	160042610	1
パラインフルエンザ３型＜ＨＩ＞	105	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(パラインフルエンザウイルス３型)	160042710	1
バルプロ酸	68	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1·19
(ヒト)パルボウイルスＢ１９(ＩｇＧ)	110	－	－				1

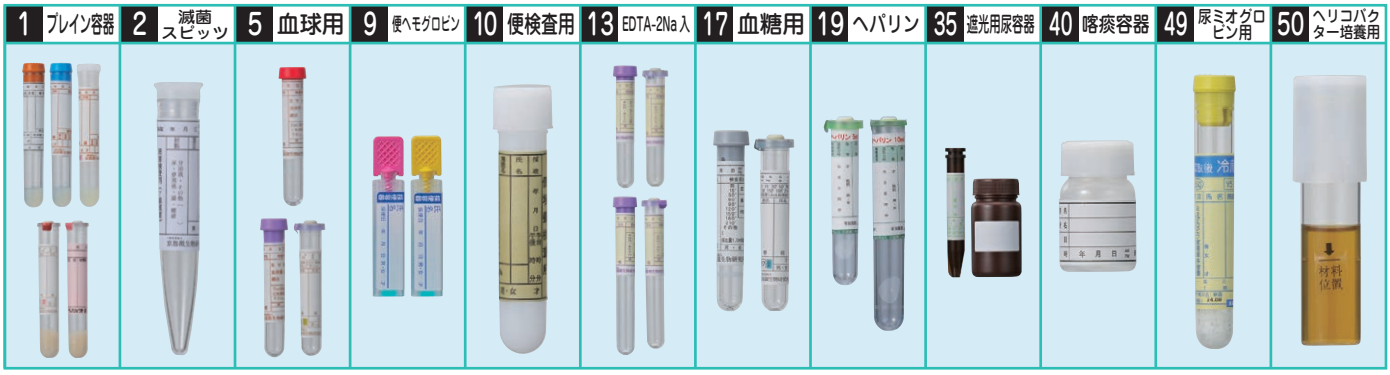
項目検索

項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
(ヒト)パルボウイルスＢ１９(ＩｇM)	110	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(ヒトパルボウイルスＢ１９)	160167550	1
ハロペリドール	69	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
バンコマイシン	71	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
ヒ							
ヒアルロン酸	86	179	生化Ｉ	D007 46	ヒアルロン酸	160151150	1
(尿)比重	4	(26)	－	D000	尿中一般物質定性半定量検査	160000310	2
鼻汁喀痰中好酸球	23	15	血液	D005 03	好酸球(鼻汁・喀痰)	160122850	53
ビタミンＡ	55	－	－				1
ビタミンＢ１(チアミン)	55	239	生化Ｉ	D007 56	ビタミンＢ１	160123650	69
ビタミンＢ２(リボフラビン)	55	235	生化Ｉ	D007 55	ビタミンＢ２	160030010	69
ビタミンＢ６	55	－	－				1
ビタミンＢ１２	55	136	生化Ｉ	D007 39	ビタミンＢ１２	160029710	1
ビタミンＣ(アスコルビン酸)	55	296	生化Ｉ	D007 60	ビタミンＣ	160030110	専用
(1,25-(OH)$_2$-)ビタミンＤ	56･125	388	生化Ｉ	D007 63	１,２５－ジヒドロキシビタミンＤ３	160158150	1
(25-OH) ビタミンＤ	56･125	117	生化Ｉ	D007 31	２５－ヒドロキシビタミン	160215350	1
ビタミンＫ分画	56	－	－				23
ヒト癌胎児性フィブロネクチン	132	204	免疫	D015 23	癌胎児性フィブロネクチン定性(頸管腟分泌液)	160156550	110
非特異的ＩｇＥ(ＩｇＥ-ＲＩＳＴ)	1	100	免疫	D015 11	非特異的ＩｇＥ定量	160197910	1
ヒト絨毛性ゴナドトロピン(ＨＣＧ)	59･132	130	生化Ⅱ	D008 18	ヒト絨毛性ゴナドトロピン(ＨＣＧ)定量	160192910	1
ヒト絨毛性ゴナドトロピン(ＨＣＧ)[尿]	59･132	130	生化Ⅱ	D008 18	ヒト絨毛性ゴナドトロピン(ＨＣＧ)定量(尿)	160193010	2
ヒト絨毛性ゴナドトロピン-β分画(ＨＣＧ-βサブユニット)	59･132	129	生化Ⅱ	D008 17	ヒト絨毛性ゴナドトロピン－βサブユニット(ＨＣＧ－β)	160032610	1
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(Ｈ-ＦＡＢＰ)	135	131	生化Ｉ	D007 36	心臓由来脂肪酸結合蛋白(Ｈ－ＦＡＢＰ)定量	160192710	1
ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(ｈＡＮＰ)	135	221	生化Ⅱ	D008 46	心房性Ｎａ利尿ペプチド(ＡＮＰ)	160116310	16
ヒト精巣上体蛋白４(ＨＥ４)	59	200	生化Ⅱ	D009 29	ヒト精巣上体蛋白４(ＨＥ４)	160209850	1
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(ＢＮＰ)	135	130	生化Ⅱ	D008 18	脳性Ｎａ利尿ペプチド(ＢＮＰ)	160162350	13
ヒト脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント	135	136	生化Ⅱ	D008 20	脳性Ｎａ利尿ペプチド前駆体Ｎ端フラグメント(ＮＴ－ｐｒｏＢＮＰ)	160181250	1
ヒトパピローマウイルスＤＮＡ型判定	116	2000	微生物	D023 25	ＨＰＶジェノタイプ判定	160189150	70
ヒトパピローマウイルスＤＮＡ同定(ハイリスク)	116	347	微生物	D023 10	ＨＰＶ核酸検出	160185610	59･70
ヒトパピローマウイルスＤＮＡ同定(ローリスク)	116	－	－				59
ヒトパピローマウイルス簡易ジェノタイプ	116	347	微生物	D023 11	ＨＰＶ核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	160201450	70
ヒトパルボウイルスＢ１９(ＩｇＧ)	110	－	－				1
ヒトパルボウイルスＢ１９(ＩｇM)	110	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(ヒトパルボウイルスＢ１９)	160167550	1
ヒトヘモグロビン(定性)[便]	7	37	尿・糞便	D003 05	糞便中ヘモグロビン定性	160006510	9
ヒトヘモグロビン(定量)[便]	7	41	尿・糞便	D003 07	糞便中ヘモグロビン	160006810	9
ヒトヘモグロビン・トランスフェリン(定量)[便]	7	56	尿・糞便	D003 08	糞便中ヘモグロビン及びトランスフェリン定性・定量	160113110	9
11-ヒドロキシコルチコステロイド(11-ＯＨＣＳ)	129	60	生化Ⅱ	D008 02	１１－ハイドロキシコルチコステロイド(１１－ＯＨＣＳ)	160123850	1
百日咳菌ＩｇＡ	78	80	免疫	D012 12	百日咳菌抗体半定量	160044010	1
百日咳菌ＩｇM	78	80	免疫	D012 12	百日咳菌抗体半定量	160044010	1
百日咳菌核酸検出	78	360	微生物	D023 13	百日咳菌核酸検出	160209450	114
百日咳菌抗体	78	257	免疫	D012 54	百日咳菌抗体	160152450	1
病理組織標本作製	28	860	病理	N000	病理組織標本作製(組織切片によるもの)(１臓器につき)	160060010	
(総)ビリルビン	45	11	生化Ｉ	D007 01	総ビリルビン	160017010	1
(直接)ビリルビン	45	11	生化Ｉ	D007 01	直接ビリルビン	160017110	1
(尿)ビリルビン定性	4	(26)	－	D000	尿中一般物質定性半定量検査	160000310	2
ピルシカイニド	70	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1･19



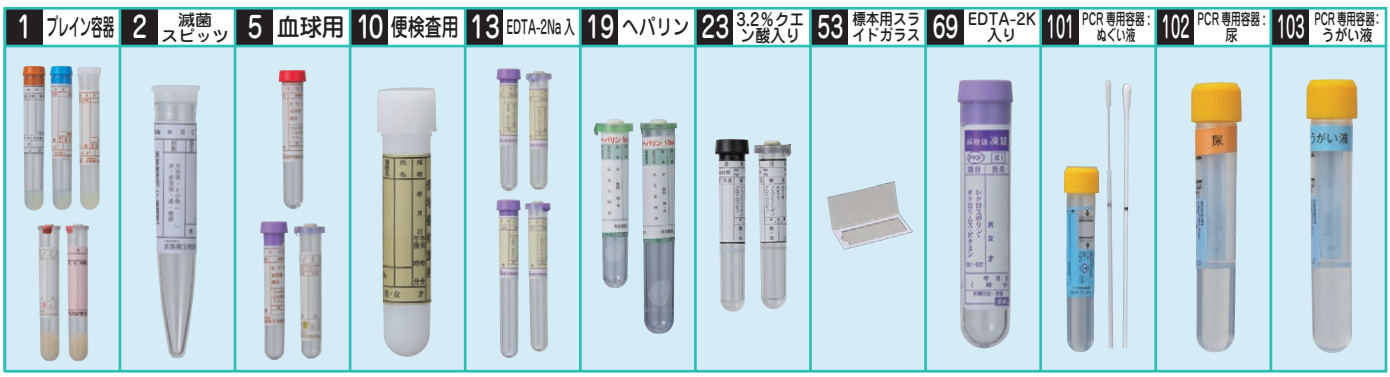
項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
ピルビン酸	39	47	生化Ⅰ	D007 13	有機モノカルボン酸(ピルビン酸)	160025710	4
ピルメノール	71	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	19
フ							
フィブリノーゲン(ＦＩＢ)	24	23	血液	D006 04	フィブリノゲン定量	160191610	23
フィブリン分解産物(ＦＤＰ)［血液］	26	80	血液	D006 10	フィブリン・フィブリノゲン分解産物(ＦＤＰ)定量	160191910	23
フィブリン分解産物(ＦＤＰ)［尿］	26	72	尿・糞便	D001 07	フィブリン・フィブリノゲン分解産物(ＦＤＰ)(尿)	160004510	11
(可溶性)フィブリンモノマー複合体(ＳＦＭＣ)	26	93	血液	D006 11	フィブリンモノマー複合体定性	160013310	23
フィブリンモノマー複合体(ＦＭ定量)	26	215	血液	D006 28	フィブリンモノマー複合体	160159850	23
フィブロネクチン(ヒト癌胎児性フィブロネクチン)	132	204	免疫	D015 23	癌胎児性フィブロネクチン定性(頸管腟分泌液)	160156550	110
風疹ウイルス＜ＨＩ＞	110	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(風疹ウイルス)	160043210	1
風疹ウイルス(ＩｇＧ、ＩｇＭ)	110	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(風疹ウイルス)	160046210	1
フェニトイン	68	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1･19
フェノバルビタール	68	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1･19
フェリチン	83	102	生化Ⅰ	D007 25	フェリチン定量	160192510	1
フォン・ウィルブランド因子活性(ｖＷ因子活性)	25	126	血液	D006 14	ｖｏｎ　Ｗｉｌｌｅｂｒａｎｄ因子(ＶＷＦ)活性	160015310	23
フォン・ウィルブランド因子抗原定量(ｖＷ因子抗原定量)	25	147	血液	D006 20	ｖｏｎ　Ｗｉｌｌｅｂｒａｎｄ因子(ＶＷＦ)抗原	160124650	23
不規則抗体(赤血球不規則抗体)	81	159	免疫	D011 04	不規則抗体	160161410	1
副甲状腺ホルモン(ＰＴＨ)-インタクト	125	161	生化Ⅱ	D008 29	副甲状腺ホルモン(ＰＴＨ)	160035510	1
副甲状腺ホルモン(ホールＰＴＨ)	125	161	生化Ⅱ	D008 29	副甲状腺ホルモン(ＰＴＨ)	160035510	13
副甲状腺ホルモン関連蛋白(ＰＴＨｒＰ)	125	186	生化Ⅱ	D008 38	副甲状腺ホルモン関連蛋白(ＰＴＨｒＰ)	160154650	16
副腎皮質刺激ホルモン(ＡＣＴＨ)	122	184	生化Ⅱ	D008 37	副腎皮質刺激ホルモン(ＡＣＴＨ)	160035610	13
腹水一般	6	－	－				2
不飽和鉄結合能(ＵＩＢＣ)(比色法)	51	11	生化Ⅰ	D007 01	不飽和鉄結合能(ＵＩＢＣ)(比色法)	160023710	1
プラスミノゲン活性(Ｐｌｇ)	26	100	血液	D006 12	プラスミノゲン活性	160015710	23
フリーＰＳＡ/トータルＰＳＡ比(ＰＳＡ-Ｆ/Ｔ比)	60	150	生化Ⅱ	D009 17	遊離型ＰＳＡ比(ＰＳＡ　Ｆ／Ｔ比)	160168950	1
フリーＴ$_3$	124	121	生化Ⅱ	D008 14	遊離トリヨードサイロニン(ＦＴ３)	160033210	1
フリーＴ$_4$	124	121	生化Ⅱ	D008 14	遊離サイロキシン(ＦＴ４)	160033310	1
フリーテストステロン	131	159	生化Ⅱ	D008 27	遊離テストステロン	160116010	1
プリミドン	68	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1･19
プレアルブミン(トランスサイレチン)	83	101	免疫	D015 12	トランスサイレチン(プレアルブミン)	160055710	1
フレカイニド	70	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1･19
プレグナンジオール[尿]	131	213	生化Ⅱ	D008 43	プレグナンジオール(尿)	160136150	35
プレグナントリオール[尿]	131	232	生化Ⅱ	D008 48	プレグナントリオール(尿)	160137050	35
プロカインアミド	70	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1･19
プロカルシトニン(ＰＣＴ)	75	276	生化Ⅰ	D007 59	プロカルシトニン(ＰＣＴ)定量	160192810	1
プロゲステロンレセプター	29	690	病理	N002 02	免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製(プロジェステロンレセプター)	160104450	
プロコラーゲンⅢペプチド(Ｐ-Ⅲ-Ｐ)	86	136	生化Ⅰ	D007 39	プロコラーゲン－３－ペプチド(Ｐ－３－Ｐ)	160029310	1
プロジェステロン(プロゲステロン)	131	143	生化Ⅱ	D008 22	プロゲステロン	160034710	1
プロテインＣ活性	27	227	血液	D006 31	プロテインＣ活性	160114110	23
プロテインＣ抗原量	27	226	血液	D006 30	プロテインＣ抗原	160192310	23
プロテインＳ活性	27	163	血液	D006 23	プロテインＳ活性	160124850	23
プロテインＳ抗原量	27	154	血液	D006 22	プロテインＳ抗原	160192210	23
プロトポルフィリン(赤血球)	45	272	生化Ⅰ	D007 58	赤血球プロトポルフィリン	160115410	19
プロトロンビン時間(ＰＴ)	24	18	血液	D006 02	プロトロンビン時間(ＰＴ)	160012010	23
プロパフェノン	70	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1

項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
プロプラノロール	71	－	－				1･19
ブロムペリドール	69	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
プロラクチン（ＰＲＬ）	122	98	生化Ⅱ	D008 06	プロラクチン（ＰＲＬ）	160032310	1
へ							
(抗)β２グリコプロテインⅠ　ＩｇＧ抗体	93	226	免疫	D014 30	抗β２グリコプロテインⅠ　ＩｇＧ抗体	160228850	1
(抗)β２グリコプロテインⅠ　ＩｇＭ抗体	93	226	免疫	D014 30	抗β２グリコプロテインⅠ　ＩｇＭ抗体	160228950	1
(２,５-)ヘキサンジオン[尿]	53	－	－				2
(抗)平滑筋抗体（ＡＳＭＡ）	90	－	－				1
ペプシノゲン	42	－	－				1
ベプリジル	70	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	19
ヘマトクリット（Ｈｔ）	22	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	160008010	5
ヘモグロビンＡ１ｃ（ＨｂＡ１ｃ）	39	49	血液	D005 09	ヘモグロビンＡ１ｃ（ＨｂＡ１ｃ）	160010010	17
ヘモグロビンＦ	23	60	血液	D005 11	ヘモグロビンＦ（ＨｂＦ）	160010210	17
ペランパネル	69	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	13
ヘリコバクター・ピロリ抗体（ＬＡ）	77	80	免疫	D012 12	ヘリコバクター・ピロリ抗体	160172550	1
ヘリコバクター・ピロリ抗原定性[便]	77	142	免疫	D012 25	ヘリコバクター・ピロリ抗原定性	160175450	65
ヘリコバクター・ピロリ培養	13	200	微生物	D018 02	細菌培養同定検査（消化管からの検体）	160058310	50
ペルオキシダーゼ染色[骨髄塗抹標本]	22	加60	血液	D005 14注	特殊染色加算（骨髄像・ペルオキシダーゼ染色）	160010670	53
ペルオキシダーゼ染色[末梢血塗抹標本]	22	加37	血液	D005 06注	特殊染色加算（末梢血液像（鏡検法）・ペルオキシダーゼ染色）	160008570	53
ベロトキシン＜ＥＩＡ＞	13	184	微生物	D023-2 03	大腸菌ベロトキシン定性	160162650	10
ベロトキシン＜逆受身ラテックス凝集反応＞	13	184	微生物	D023-2 03	大腸菌ベロトキシン定性	160162650	
便ＣＤ抗原・トキシン	8･13	80	免疫	D012 12	クロストリジオイデス・ディフィシル抗原定性	160007110	10
便Ｈｂ・Ｔｆ（定量）	7	56	尿・糞便	D003 08	糞便中ヘモグロビン及びトランスフェリン定性・定量	160113110	9
ベンスジョーンズ蛋白同定（免疫電気泳動）[尿]	87	201	免疫	D015 22	Ｂｅｎｃｅ　Ｊｏｎｅｓ蛋白同定（尿）	160004910	2
便中アメーバ検査	7	67	微生物	D017 03	細菌顕微鏡検査（その他のもの）	160057710	10
便中カルプロテクチン	84	268	尿・糞便	D003 09	カルプロテクチン（糞便）	160210050	10
便虫体検出	7	23	尿・糞便	D003 03	虫体検出（糞便）	160006410	10
扁平上皮癌関連抗原（ＳＣＣ抗原）	58	101	生化Ⅱ	D009 04	扁平上皮癌関連抗原（ＳＣＣ抗原）	160037410	1
便ヘモグロビン定性	7	37	尿・糞便	D003 05	糞便中ヘモグロビン定性	160006510	9
便ヘモグロビン定量	7	41	尿・糞便	D003 07	糞便中ヘモグロビン	160006810	9
ホ							
ホールＰＴＨ	125	161	生化Ⅱ	D008 29	副甲状腺ホルモン（ＰＴＨ）	160035510	13
ホモバニリン酸（ＨＶＡ）	128	69	生化Ⅱ	D008 03	ホモバニリン酸（ＨＶＡ）	160031010	13
ホモバニリン酸（ＨＶＡ）[髄液]	128	69	生化Ⅱ	D008 03	ホモバニリン酸（ＨＶＡ）（髄液）	160138450	2
ホモバニリン酸（ＨＶＡ）[尿]	128	69	生化Ⅱ	D008 03	ホモバニリン酸（ＨＶＡ）（尿）	160135250	35
ボリコナゾール	71	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	19
ホルター心電図	135(1750)		－	D210 02	ホルター型心電図検査（８時間を超えた場合）	160069610	
マ							
マイクロアルブミン定量[尿]	35	99	尿・糞便	D001 09	アルブミン定量（尿）	160004810	2
(α１-)マイクログロブリン	83	129	免疫	D015 14	α１－マイクログロブリン	160029610	1･2
(β２-)マイクログロブリン（ＢＭＧ）[血清、尿]	83	98	免疫	D015 10	β２－マイクログロブリン	160036610	1･2
マイクロサテライト不安定性検査（ＭＳＩ）	99	2500	遺伝子	D004-2 01	悪性腫瘍遺伝子検査（医薬品の適応判定の補助等に用いるもの）（固形癌におけるマイクロサテライト不安定性検査）	160228450	5･53･105



項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
マイクロトランスフェリン[尿]	35	98	尿・糞便	D001 08	トランスフェリン(尿)	160157750	2
マイコバクテリウムアビウム・イントラセルラー(ＭＡＣ)核酸検出	12	421	微生物	D023 16	マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー(ＭＡＣ)核酸検出	160142150	2･40
マイコプラズマ抗体	79	32	免疫	D012 04	マイコプラズマ抗体半定量	160193910	1
マイコプラズマ・ニューモニエ核酸検出	79	291	微生物	D023 06	マイコプラズマ核酸検出	160189650	105･106
マグネシウム(Ｍｇ)	50	11	生化Ⅰ	D007 01	マグネシウム	160022210	1
マグネシウム(Ｍｇ)[尿]	50	11	生化Ⅰ	D007 01	マグネシウム(尿)	160132950	2
麻疹ウイルス(ＩｇＧ、ＩｇＭ)	109	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(麻疹ウイルス)	160157210	1
麻疹ウイルス＜ＮＴ＞	109	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(麻疹ウイルス)	160043310	1
末血ＡＬＰ染色(ＮＡＰスコア)	22	加37	血液	D005 06注	特殊染色加算(末梢血液像(鏡検法)・アルカリホスファターゼ染色)	160008670	5+53
マトリックスメタロプロテイナーゼ(ＭＭＰ-３)	88	116	免疫	D014 09	マトリックスメタロプロテイナーゼ－３(ＭＭＰ－３)	160173150	1
マルク(骨髄像)	22	788	血液	D005 14	骨髄像	160010410	53
マルク(特殊染色)	22	加60	血液	D005 14注	特殊染色を併加算(特殊染色ごとに)		53
マルチアレルゲン(特異的ＩｇＥ)	1	110	免疫	D015 13	特異的ＩｇＥ半定量・定量	160056110	1
マンガン(Ｍｎ)	51	27	生化Ⅰ	D007 08	マンガン(Ｍｎ)	160173910	19
マンデル酸(ＥＢ代謝物)[尿]	53	－	－				2
ミ							
ミエリン塩基性蛋白(ＭＢＰ)	85	570	尿・糞便	D004 12	ミエリン塩基性蛋白(ＭＢＰ)(髄液)	160177910	2
ミオグロビン[血清、尿]	85･135	131	生化Ⅰ	D007 36	ミオグロビン定量	160192610	1･49
(心室筋)ミオシン軽鎖Ⅰ	85･135	184	生化Ⅰ	D007 48	心室筋ミオシン軽鎖１	160115210	1
(抗)ミトコンドリア抗体(ＡＭＡ)	90	181	免疫	D014 21	抗ミトコンドリア抗体半定量	160203310	1
(抗)ミトコンドリア Ｍ２抗体	90	189	免疫	D014 22	抗ミトコンドリア抗体定量	160197510	1
ム							
無機リン(ＩＰ)[血清、尿]	50	17	生化Ⅰ	D007 03	無機リン及びリン酸	160021810	1･2
ムンプスウイルス＜ＣＦ、ＨＩ、ＮＴ＞	109	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(ムンプスウイルス)	160042410	1
ムンプスウイルス(ＩｇＧ、ＩｇＭ)	109	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(ムンプスウイルス)	160157310	1
メ							
メキシレチン	70	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
(尿)メタネフリン２分画	128	220	生化Ⅱ	D008 45	メタネフリン・ノルメタネフリン分画(尿)	160137250	2
メチルイソブチルケトン	53	－	－				116
メチル馬尿酸[尿]	53	－	－				2
メトトレキサート(メソトレキセート)	72	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1･19
免疫グロブリンＩｇＡ	84	38	免疫	D015 04	免疫グロブリン(ＩｇＡ)	160055010	1
免疫グロブリンＩｇＧ	84	38	免疫	D015 04	免疫グロブリン(ＩｇＧ)	160055210	1
免疫グロブリンＩｇＭ	84	38	免疫	D015 04	免疫グロブリン(ＩｇＭ)	160055310	1
免疫グロブリン遊離Ｌ鎖κ/λ比	87	388	免疫	D015 29	免疫グロブリン遊離Ｌ鎖κ／λ比	160189350	1
免疫固定電気泳動	87	218	免疫	D015 24	免疫電気泳動法(特異抗血清)	160212210	1
免疫固定電気泳動[尿]	87	201	免疫	D015 22	Ｂｅｎｃｅ　Ｊｏｎｅｓ蛋白同定(尿)	160004910	2
免疫染色(免疫抗体法)	29	400	病理	N002 08	免疫染色(免疫抗体法) 病理組織標本作製(その他(１臓器につき))	160060270	
免疫電気泳動(ＩＥＰ)抗ヒト全血清	87	170	免疫	D015 17	免疫電気泳動法(抗ヒト全血清)	160212110	1
免疫電気泳動(ＩＥＰ)抗ヒト特異血清	87	218	免疫	D015 24	免疫電気泳動法(特異抗血清)	160212210	1
免疫電気泳動[尿] ＢＪ-Ｐ	87	201	免疫	D015 22	Ｂｅｎｃｅ　Ｊｏｎｅｓ蛋白同定(尿)	160004910	2
免疫複合体(モノクローナルＲＦ)	88	194	免疫	D014 25	モノクローナルＲＦ結合免疫複合体	160143750	1

項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
モ							
網赤血球数(ＲＥＴ)	22	12	血液	D005 02	網赤血球数	160007910	5
モノクローナルＲＦ(免疫複合体)	88	194	免疫	D014 25	モノクローナルＲＦ結合免疫複合体	160143750	1
ヤ							
薬剤感受性検査１菌種	10	185	微生物	D019 01	細菌薬剤感受性検査(１菌種)	160146210	
薬剤感受性検査２菌種	10	240	微生物	D019 02	細菌薬剤感受性検査(２菌種)	160146310	
薬剤感受性検査３菌種	10	310	微生物	D019 03	細菌薬剤感受性検査(３菌種以上)	160146410	
(抗酸菌)薬剤感受性	11	400	微生物	D022	抗酸菌薬剤感受性検査(培地数に関係なく)	160059610	
薬剤によるリンパ球刺激試験(ＤＬＳＴ)(１薬剤)	96	345	免疫	D016 07	リンパ球刺激試験(ＬＳＴ)(１薬剤)	160212310	19
ユ							
遊離βＨＣＧ(ＨＣＧβサブユニット)	59･132	129	生化Ⅱ	D008 17	ヒト絨毛性ゴナドトロピンーβサブユニット(ＨＣＧ－β)	160032610	1
遊離サイロキシン(ＦＴ４)	124	121	生化Ⅱ	D008 14	遊離サイロキシン(ＦＴ４)	160033310	1
遊離コレステロール(Ｆ-Ｃｈｏ)	47	11	生化Ⅰ	D007 01	遊離コレステロール	160021010	1
遊離トリヨードサイロニン(ＦＴ３)	124	121	生化Ⅱ	D008 14	遊離トリヨードサイロニン(ＦＴ３)	160033210	1
ヨ							
葉酸	55	146	生化Ⅰ	D007 41	葉酸	160115310	1
ラ							
ラコサミド	69	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	13
ラモトリギン	69	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	19
卵胞刺激ホルモン(ＦＳＨ)	122	105	生化Ⅱ	D008 12	卵胞刺激ホルモン(ＦＳＨ)	160032910	1
リ							
リウマトイド因子(ＲＦ定量)	88	30	免疫	D014 02	リウマトイド因子(ＲＦ)定量	160195610	1
リゾチーム[血清、尿]	42	－	－				1･2
リチウム(Ｌｉ)	69	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
リドカイン	70	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
リパーゼ	41	24	生化Ⅰ	D007 06	リパーゼ	160024010	1
リポ蛋白(ａ)(ＬＰ(ａ))	48	107	生化Ⅰ	D007 27	リポ蛋白(ａ)	160153450	1
リポ蛋白分画<アガロース膜電気泳動法>	47	49	生化Ⅰ	D007 15	リポ蛋白分画	160026910	1
リポ蛋白分画<ＨＰＬＣ>	47	129	生化Ⅰ	D007 34	リポ蛋白分画(ＨＰＬＣ法)	160201650	1
リポ蛋白リパーゼ(ＬＰＬ)	42	219	生化Ⅰ	D007 53	リポ蛋白リパーゼ(ＬＰＬ)	160157150	19
リボフラビン(ビタミンＢ２)	55	235	生化Ⅰ	D007 55	ビタミンＢ２	160030010	69
(無機)リン(ＩＰ)	50	17	生化Ⅰ	D007 03	無機リン及びリン酸	160021810	1･2
淋菌核酸検出	15	198	微生物	D023 02	淋菌核酸検出	160164150	101･102･103
淋菌/クラミジア・トラコマチス同時核酸検出	15	262	微生物	D023 05	淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出	160177650	101･102･103
リン脂質(ＰＬ)	47	15	生化Ⅰ	D007 02	リン脂質	160023210	1
リンパ球刺激試験-薬剤(ＤＬＳＴ)(1薬剤)	96	345	免疫	D016 07	リンパ球刺激試験(ＬＳＴ)(１薬剤)	160212310	19
リンパ球表面マーカー	94	185	免疫	D016 02	Ｔ細胞サブセット検査(一連につき)	160057210	19
リンパ球幼若化検査(ＣｏｎＡ)	96	345	免疫	D016 07	リンパ球刺激試験(ＬＳＴ)(１薬剤)	160212310	19
リンパ球幼若化検査(ＰＨＡ)	96	345	免疫	D016 07	リンパ球刺激試験(ＬＳＴ)(１薬剤)	160212310	19
リンパ腫解析セット(７ＡＡＤ)	95	1940	血液	D005 15	造血器腫瘍細胞抗原検査(一連につき)	160057410	19･111･112



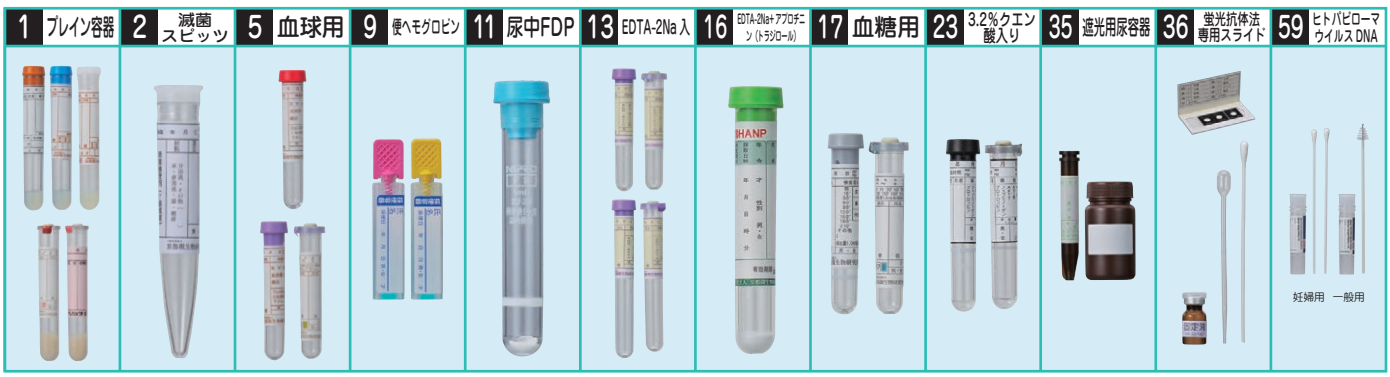
項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
ル							
ループスアンチコアグラント	27・93	265	免疫	D014 35	ループスアンチコアグラント定量	160197610	23
レ							
レチノール結合蛋白(ＲＢＰ)	83	132	免疫	D015 15	レチノール結合蛋白(ＲＢＰ)	160118910	1
レニン活性(ＰＲＡ)	136	100	生化Ⅱ	D008 08	レニン活性	160032210	13
レニン濃度(ＡＲＣ)	136	102	生化Ⅱ	D008 11	レニン定量	160115810	13
レベチラセタム	69	特	－	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
レムナント様リポ蛋白コレステロール(ＲＬＰ-Ｃｈ)	48	174	生化Ⅰ	D007 44	レムナント様リポ蛋白コレステロール(ＲＬＰ－Ｃ)	160153550	1
ロ							
ロイシンアミノペプチダーゼ(ＬＡＰ)	41	11	生化Ⅰ	D007 01	ロイシンアミノペプチダーゼ(ＬＡＰ)	160020510	1
ロイシンリッチα２グリコプロテイン(ＬＲＧ)	84	268	生化Ⅰ	D007 57	ロイシンリッチα２グリコプロテイン	160223850	1
ロタウイルス抗原[便]	8・104	65	免疫	D012 08	ロタウイルス抗原定性(糞便)	160112910	10
A							
A/G比(アルブミン/グロブリン比)	35	－	－				
ＡＢＣ分類	43	－	－				1
ＡＢＯ式血液型	81	24	免疫	D011 01	ＡＢＯ血液型	160039110	5
ＡＣＥ(アンギオテンシンⅠ転換酵素)	42	136	生化Ⅰ	D007 39	アンギオテンシン１転換酵素(ＡＣＥ)	160029410	1
ＡＣＴＨ(副腎皮質刺激ホルモン)	122	184	生化Ⅱ	D008 37	副腎皮質刺激ホルモン(ＡＣＴＨ)	160035610	13
ＡＤＡ(アデノシンデアミナーゼ)	42	32	生化Ⅰ	D007 11	アデノシンデアミナーゼ(ＡＤＡ)	160025210	1
ＡＤＡ(アデノシンデアミナーゼ)[胸水]	42	32	生化Ⅰ	D007 11	アデノシンデアミナーゼ(ＡＤＡ)(胸水)	160138050	2
ＡＤＨ(抗利尿ホルモン)(ＡＶＰ)	122	224	生化Ⅱ	D008 47	抗利尿ホルモン(ＡＤＨ)	160035910	13
ＡＦＰ(α-フェトプロテイン)	57	98	生化Ⅱ	D009 02	α－フェトプロテイン(ＡＦＰ)	160036710	1
ＡＩ(アルミニウム)	51	109	生化Ⅰ	D007 29	アルミニウム(ＡＬ)	160029010	108
ＡＩｂ(アルブミン)	35	11	生化Ⅰ	D007 01	アルブミン(ＢＣＰ改良法・ＢＣＧ法)	160018910	1
ＡＬＤ(アルドラーゼ)	42	11	生化Ⅰ	D007 01	アルドラーゼ	160020710	1
ＡＬＰ(アルカリホスファターゼ)	41	11	生化Ⅰ	D007 01	アルカリホスファターゼ(ＡＬＰ)	160020010	1
ＡＬＰアイソザイム	44	48	生化Ⅰ	D007 14	ＡＬＰアイソザイム	160026310	1
(末血)ＡＬＰ染色	22	加37	血液	D005 06注	特殊染色加算(末梢血液像(鏡検法)・アルカリホスファターゼ染色)	160008670	5+53
ＡＬＴ(ＧＰＴ)	41	17	生化Ⅰ	D007 03	アラニンアミノトランスフェラーゼ(ＡＬＴ)	160022610	1
ＡＭＡ(抗ミトコンドリア抗体)	90	181	免疫	D014 21	抗ミトコンドリア抗体半定量	160203310	1
ＡＭＨ(抗ミュラー管ホルモン)	130	597	生化Ⅱ	D008 52	抗ミュラー管ホルモン(ＡＭＨ)	160231210	1
ＡＭＹ(アミラーゼ)	41	11	生化Ⅰ	D007 01	アミラーゼ	160020310	1
ＡＭＹ(アミラーゼ)[尿]	41	11	生化Ⅰ	D007 01	アミラーゼ(尿)	160132350	2
ＡＭＹアイソザイム	44	48	生化Ⅰ	D007 14	アミラーゼアイソザイム	160026410	1
ＡＭＹアイソザイム[尿]	44	48	生化Ⅰ	D007 14	アミラーゼアイソザイム(尿)	160133950	2
ＡＮＡ(抗核抗体)＜ＦＡＴ＞	89	99	免疫	D014 05	抗核抗体(蛍光抗体法)半定量	160195710	1
ＡＮＡ(抗核抗体)＜ＦＥＩＡ＞	89	110	免疫	D014 07	抗核抗体(蛍光抗体法を除く。)	160121210	1
ＡＰＡ(抗血小板抗体)	91	261	免疫	D011 08	抗血小板抗体	160039710	1
ＡＰＯＡ２アイソフォーム	57	335	生化Ⅱ	D009 35	アポリポ蛋白Ａ２(ＡＰＯＡ２)アイソフォーム	160238550	1
ＡＰＴＴ(活性化部分トロンボプラスチン時間)	24	29	血液	D006 07	活性化部分トロンボプラスチン時間(ＡＰＴＴ)	160012310	23
ＡＲＣ(レニン濃度)	136	102	生化Ⅱ	D008 10	レニン定量	160115810	13
(抗)ＡＲＳ抗体	90	190	免疫	D014 23	抗ＡＲＳ抗体	160202650	1

項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
ＡＳＭＡ(抗平滑筋抗体)	90	－	－				1
ＡＳＯ(抗ストレプトリジンＯ)	75	15	免疫	D012 01	抗ストレプトリジンＯ(ＡＳＯ)定量	160193610	1
ＡＳＴ(ＧＯＴ)	41	17	生化Ⅰ	D007 03	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(ＡＳＴ)	160022510	1
ＡＴ-Ⅲ(アンチトロンビンⅢ)	26	70	血液	D006 09	アンチトロンビン活性	160113510	23
ＡＴＬＡ抗体(ＨＴＬＶ１抗体)＜ＣＬＩＡ＞	117	159	免疫	D012 31	ＨＴＬＶ－１抗体	160045210	1
ＡＴＬＡ抗体(ＨＴＬＶ-１抗体)＜ラインブロット＞	117	425	免疫	D012 60	ＨＴＬＶ－１抗体(ウエスタンブロット法及びラインブロット法)	160142650	1
ＡＶＰ(抗利尿ホルモン)(ＡＤＨ)	122	224	生化Ⅱ	D008 47	抗利尿ホルモン(ＡＤＨ)	160035910	13
Ａ型肝炎ウイルス抗体(ＨＡ抗体)	119	146	免疫	D013 08	ＨＡ抗体	160120810	1
B							
ＢＡＰ(骨型アルカリホスファターゼ)	62･126	157	生化Ⅱ	D008 26	骨型アルカリホスファターゼ(ＢＡＰ)	160168650	1
ＢＣＡ２２５	59	158	生化Ⅱ	D009 20	ＢＣＡ２２５	160125750	1
ＢＦＰ(塩基性フェトプロテイン)	57	150	生化Ⅱ	D009 17	塩基性フェトプロテイン(ＢＦＰ)	160116910	1
ＢＧＰ(オステオカルシン)	126	157	生化Ⅱ	D008 26	オステオカルシン(ＯＣ)	160151250	1
ＢＭＧ(β２-マイクログロブリン)	83	98	免疫	D015 10	β２－マイクログロブリン	160036610	1
ＢＭＧ(β２-マイクログロブリン)[尿]	83	98	免疫	D015 10	β２－マイクログロブリン(尿)	160137550	2
ＢＮＰ(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド)	135	130	生化Ⅱ	D008 18	脳性Ｎａ利尿ペプチド(ＢＮＰ)	160162350	13
(血清中抗)ＢＰ１８０ＮＣ１６ａ抗体	92	270	免疫	D014 36	抗ＢＰ１８０－ＮＣ１６ａ抗体	160181650	1
ＢＴＲ(総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比)	38	283	生化Ⅱ	D010 05	総分岐鎖アミノ酸／チロシンモル比(ＢＴＲ)	160157550	1
ＢＵＮ(尿素窒素)	37	11	生化Ⅰ	D007 01	尿素窒素	160019010	1
Ｂ細胞表面免疫グロブリン	95	155	免疫	D016 01	Ｂ細胞表面免疫グロブリン	160056910	19
C							
Ｃ１インアクチベータ	83	253	免疫	D015 25	Ｃ１インアクチベータ	160056610	23
Ｃ３(β１Ｃ/β１Ａグロブリン)	84	70	免疫	D015 08	Ｃ３	160124350	1
Ｃ４(β１Ｅグロブリン)	84	70	免疫	D015 08	Ｃ４	160124450	1
Ｃａ(カルシウム)	50	11	生化Ⅰ	D007 01	カルシウム	160021510	1
Ｃａ(カルシウム)[尿]	50	11	生化Ⅰ	D007 01	カルシウム(尿)	160132750	2
Ca^{2+}(イオン化カルシウム)	50	26	生化Ⅰ	D007 07	イオン化カルシウム	160021610	1(P50参照)
ＣＡ１２５	59	136	生化Ⅱ	D009 11	ＣＡ１２５	160038010	1
ＣＡ１５-３	59	112	生化Ⅱ	D009 06	ＣＡ１５－３	160037310	1
ＣＡ１９-９	57	121	生化Ⅱ	D009 09	ＣＡ１９－９	160037210	1
ＣＡ3分画(カテコールアミン3分画)[血漿、髄液、尿]	127	161	生化Ⅱ	D008 29	カテコールアミン分画	160033410	2･13･35
ＣＡ５４/６１	59	184	生化Ⅱ	D009 25	ＣＡ５４／６１	160150450	1
ＣＡ７２-４	59	146	生化Ⅱ	D009 16	ＣＡ７２－４	160116510	1
Ｃ-ＡＭＰ(サイクリックＡＭＰ)	137	165	生化Ⅱ	D008 32	サイクリックＡＭＰ(ｃＡＭＰ)	160035410	13
Ｃ-ＡＭＰ(サイクリックＡＭＰ)[尿]	137	165	生化Ⅱ	D008 32	サイクリックＡＭＰ(ｃＡＭＰ)(尿)	160136850	35
(抗)ＣＣＰ抗体	88	193	免疫	D014 24	抗シトルリン化ペプチド抗体定量	160197410	1
ＣＣｒ(Cock croft Gault推定式)	37	－	－				
ＣＤ４５ Blast Gating法による急性白血病解析セット	95	1940	血液	D005 15	造血器腫瘍細胞抗原検査(一連につき)	160057410	19･111･112
Ｃｄ(カドミウム)[血液、尿]	51	－	－				19･124
ＣＤ抗原・トキシン[便]	8･13	80	免疫	D012 12	クロストリジオイデス・ディフィシル抗原定性	160007110	10
ＣＤトキシンＢ遺伝子	13	450	微生物	D023-2 05	クロストリジオイデス・ディフィシルのトキシンＢ遺伝子検出	160216150	10
ＣＥＡ(癌胎児性抗原)	57	99	生化Ⅱ	D009 03	癌胎児性抗原(ＣＥＡ)	160036510	1
ＣＨ50(血清補体価)	84	38	免疫	D015 04	血清補体価(ＣＨ５０)	160054910	1
ＣｈＥ(コリンエステラーゼ)	41	11	生化Ⅰ	D007 01	コリンエステラーゼ(ＣｈＥ)	160020210	1

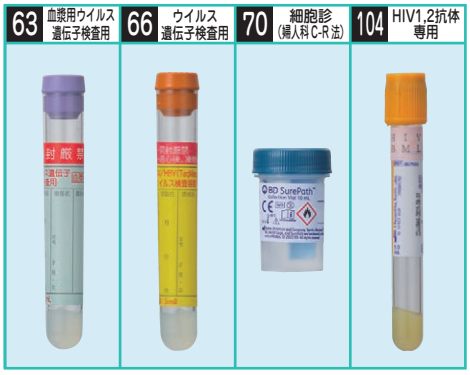
項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
ＣＫ(クレアチンキナーゼ)	41	11	生化Ⅰ	D007 01	クレアチンキナーゼ(ＣＫ)	160020610	1
ＣＫ-ＭＢ	44	90	生化Ⅰ	D007 22	ＣＫ－ＭＢ(蛋白量測定)	160114710	1
ＣＫアイソザイム	44	55	生化Ⅰ	D007 17	ＣＫアイソザイム	160026710	1
Ｃｌ(クロール)	50	11	生化Ⅰ	D007 01	ナトリウム及びクロール	160021110	1
Ｃｌ(クロール)[関節液、穿刺液]	6	11	生化Ⅰ	D007 01	ナトリウム及びクロール	160021110	2
Ｃｌ(クロール)[髄液]	5	11	生化Ⅰ	D007 01	クロール(髄液)	160138250	2
Ｃｌ(クロール)[尿]	50	11	生化Ⅰ	D007 01	ナトリウム及びクロール(尿)	160132450	2
ＣＭＶ＜ＣＦ＞	113	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(サイトメガロウイルス)	160041810	1
ＣＭＶ(ＩｇＧ、ＩｇＭ)	113	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(サイトメガロウイルス)	160109410	1
ＣＭＶ ｐｐ６５抗原(Ｃ７-ＨＲＰ)	113	356	免疫	D012 57	サイトメガロウイルスｐｐ６５抗原定性	160163850	13
ＣＭＶ核酸検出(新生児尿)	113	801	微生物	D023 20	サイトメガロウイルス核酸検出	160210450	105
ＣＭＶ核酸定量	113	450	微生物	D023 17	サイトメガロウイルス核酸定量	160224550	122
ＣｏｎＡによるリンパ球幼若化	96	345	免疫	D016 07	リンパ球刺激試験(ＬＳＴ)(１薬剤)	160212310	19
ＣＰＲ(Ｃ-ペプチド)	134	105	生化Ⅱ	D008 12	Ｃ－ペプチド(ＣＰＲ)	160033010	1
ＣＰＲ(Ｃ-ペプチド)[尿]	134	105	生化Ⅱ	D008 12	Ｃ－ペプチド(ＣＰＲ)(尿)	160135850	2
Ｃｒ(クロム)	51	－	－				19
ＣＲＰ定性(Ｃ反応性蛋白定性)	83	16	免疫	D015 01	Ｃ反応性蛋白(ＣＲＰ)定性	160054610	1
ＣＲＰ定量(Ｃ反応性蛋白定量)	83	16	免疫	D015 01	Ｃ反応性蛋白(ＣＲＰ)	160054710	1
Ｃｕ(銅)	51	23	生化Ⅰ	D007 05	銅(Ｃｕ)	160024710	1
D							
Ｄ-Ｂｉｌ(直接ビリルビン)	45	11	生化Ⅰ	D007 01	直接ビリルビン	160017110	1
Ｄ-Ｄダイマー(Ｄダイマー)定量	26	127	血液	D006 15	Ｄダイマー	160114010	23
ＤＨＥＡ-Ｓ	129	164	生化Ⅱ	D008 31	デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体(ＤＨＥＡ－Ｓ)	160152950	1
ＤＬＳＴ(薬剤によるリンパ球刺激試験)(１薬剤)	96	345	免疫	D016 07	リンパ球刺激試験(ＬＳＴ)(１薬剤)	160212310	19
(抗)ＤＮＡ抗体	89	159	免疫	D014 17	抗ＤＮＡ抗体定量	160197210	1
(尿)ＤＰＤ(デオキシピリジノリン)	61･126	191	生化Ⅱ	D008 39	デオキシピリジノリン(ＤＰＤ)(尿)	160164650	2
(抗)ｄｓ-ＤＮＡ　ＩｇＧ抗体	89	159	免疫	D014 17	抗ＤＮＡ抗体定量	160197210	1
(抗)ｄｓ-ＤＮＡ　ＩｇＭ抗体	89	－	－				1
ＤＵＰＡＮ-２	57	115	生化Ⅱ	D009 07	ＤＵＰＡＮ－２	160036910	1
E							
E_2(エストラジオール)	130	167	生化Ⅱ	D008 33	エストラジオール(Ｅ２)	160035310	1
ＥＢウイルス抗ＥＡ　ＩｇＧ	114	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(ＥＢウイルス)	160121510	1
ＥＢウイルス抗ＥＢＮＡ　ＩｇＧ	114	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(ＥＢウイルス)	160121510	1
ＥＢウイルス抗ＥＡ-ＤＲ　ＩｇＧ	114	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(ＥＢウイルス)	160121510	1
ＥＢウイルス抗ＶＣＡ　ＩｇＧ＜ＥＩＡ、ＦＡ＞	114	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(ＥＢウイルス)	160121510	1
ＥＢウイルス抗ＶＣＡ　ＩｇＭ＜ＥＩＡ、ＦＡ＞	114	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(ＥＢウイルス)	160121510	1
ＥＢウイルス抗ＥＡ-ＤＲ　ＩｇＡ	114	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(ＥＢウイルス)	160041910	1
ＥＢウイルス抗ＥＢＮＡ	114	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(ＥＢウイルス)	160041910	1
ＥＢウイルス抗ＶＣＡ　ＩｇＡ	114	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(ＥＢウイルス)	160041910	1
ｅＧＦＲ ｃｒｅａｔ	37	－	－				
ｅＧＦＲ ｃｙｓ	37	－	－				
ＥＳ(エンドトキシン)	75	229	免疫	D012 52	エンドトキシン	160115510	113
ＥＳＲ(赤血球沈降速度)	23	(9)	血液	D005 01	赤血球沈降速度(ＥＳＲ)	160007610	31

項目検索

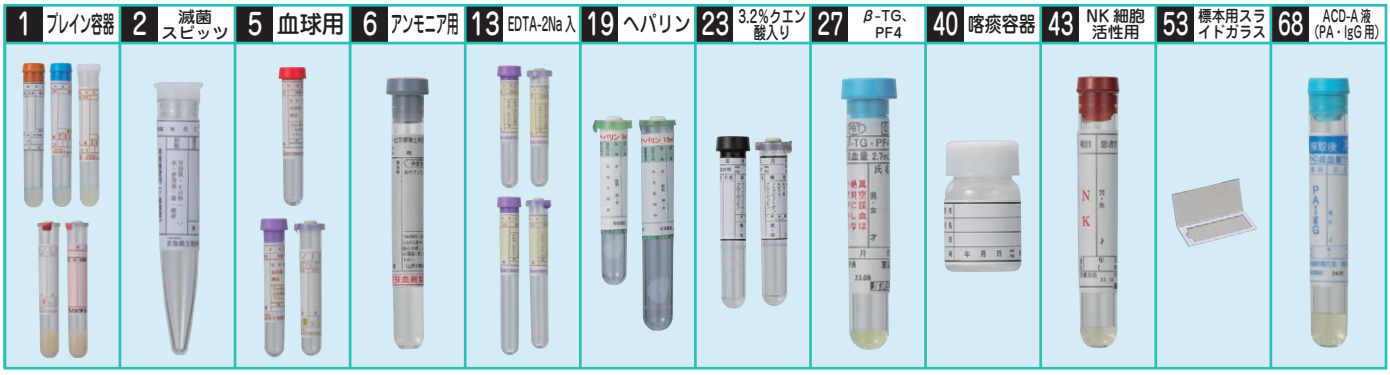
項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
F							
F-Cho(遊離コレステロール)	47	11	生化Ⅰ	D007 01	遊離コレステロール	160021010	1
FDP(フィブリン分解産物)[血液]	26	80	血液	D006 10	フィブリン・フィブリノゲン分解産物(FDP)定量	160191910	23
FDP(フィブリン分解産物)[尿]	26	72	尿・糞便	D001 07	フィブリン・フィブリノゲン分解産物(FDP)(尿)	160004510	11
Fe(血清鉄)	51	11	生化Ⅰ	D007 01	鉄(Fe)	160022110	1
FIB(フィブリノーゲン)	24	23	血液	D006 04	フィブリノゲン定量	160191610	23
FLC(免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比)	87	388	免疫	D015 29	免疫グロブリン遊離L鎖κ／λ比	160189350	1
FM定量(フィブリンモノマー複合体)	26	215	血液	D006 28	フィブリンモノマー複合体	160159850	23
FSH(卵胞刺激ホルモン)	122	105	生化Ⅱ	D008 12	卵胞刺激ホルモン(FSH)	160032910	1
FT3(遊離トリヨードサイロニン)	124	121	生化Ⅱ	D008 14	遊離トリヨードサイロニン(FT3)	160033210	1
FT4(遊離サイロキシン)	124	121	生化Ⅱ	D008 14	遊離サイロキシン(FT4)	160033310	1
FTA-ABS定性	80	134	免疫	D012 23	梅毒トレポネーマ抗体(FTA－ABS試験)定性	160044710	1
FTA-ABS-IgM抗体	80	－	－				1
G							
GA(グリコアルブミン)	39	55	生化Ⅰ	D007 17	グリコアルブミン	160151050	1･13
(抗)GAD抗体	39･134	134	生化Ⅱ	D008 19	抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)	160162050	1
(抗)GBM抗体(抗糸球体基底膜抗体)	91	262	免疫	D014 34	抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)	160169050	1
GH(成長ホルモン)	122	105	生化Ⅱ	D008 12	成長ホルモン(GH)	160031910	1
GOT(AST)	41	17	生化Ⅰ	D007 03	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST)	160022510	1
GPT(ALT)	41	17	生化Ⅰ	D007 03	アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)	160022610	1
H							
HA-IgG抗体	119	146	免疫	D013 08	HA抗体	160120810	1
HA-IgM抗体	119	146	免疫	D013 08	HA－IgM抗体	160120910	1
hANP(ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド)	135	221	生化Ⅱ	D008 46	心房性Na利尿ペプチド(ANP)	160116310	16
Hb(血色素量)	22	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	160008010	5
HbA1c(ヘモグロビンA1c)	39	49	血液	D005 09	ヘモグロビンA1c(HbA1c)	160010010	17
HBc抗体	119	130	免疫	D013 06	HBc抗体半定量・定量	160120710	1
(IgM-)HBc抗体	119	146	免疫	D013 08	HBc－IgM抗体	160121010	1
HBcrAg	119	252	免疫	D013 12	HBVコア関連抗原(HBcrAg)	160182050	1
HBe抗原	119	98	免疫	D013 04	HBe抗原	160050010	1
HBe抗体	119	98	免疫	D013 04	HBe抗体	160050110	1
HbF(ヘモグロビンF)	23	60	血液	D005 11	ヘモグロビンF(HbF)	160010210	17
HBs抗原	119	88	免疫	D013 03	HBs抗原	160049210	1
HBs抗原(迅速)	119	29	免疫	D013 01	HBs抗原定性・半定量	160046810	1
HBs抗体	119	88	免疫	D013 03	HBs抗体	160049510	1
(便)Hb・Tf(定量)	7	56	尿・糞便	D003 08	糞便中ヘモグロビン及びトランスフェリン定性・定量	160113110	9
HBV核酸定量(IU)	119	256	微生物	D023 04	HBV核酸定量	160160350	66
HBVゲノタイプ	119	340	免疫	D013 14	HBVジェノタイプ判定	160189050	1
HCGβサブユニット(遊離βHCG分画)	59･132	129	生化Ⅱ	D008 17	ヒト絨毛性ゴナドトロピンーβサブユニット(HCG－β)	160032610	1
HCG定量(絨毛性ゴナドトロピン定量)	59･132	130	生化Ⅱ	D008 18	ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量	160192910	1
HCG定量(絨毛性ゴナドトロピン定量)[尿]	59･132	130	生化Ⅱ	D008 18	ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量(尿)	160193010	2
HCV-3抗体(迅速)	120	102	免疫	D013 05	HCV抗体定性・定量	160118510	1
HCV　RNAコアジェノタイプ	120	－	－				66
HCV核酸定量	120	412	微生物	D023 15	HCV核酸定量	160158450	66



項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
ＨＣＶコア蛋白質(ＨＣＶ抗原)	120	102	免疫	D013 05	ＨＣＶコア蛋白	160167750	1
ＨＣＶ抗体	120	102	免疫	D013 05	ＨＣＶ抗体定性・定量	160118510	1
ＨＣＶ特異抗体群別判定(グルーピング)	120	215	免疫	D013 11	ＨＣＶ血清群別判定	160162450	1
ＨＤＬコレステロール	47	17	生化Ⅰ	D007 03	ＨＤＬ－コレステロール	160023410	1
ＨＤＬ2,3 コレステロール	48	－	－				1
ＨＥ４(ヒト精巣上体蛋白４)	59	200	生化Ⅱ	D009 29	ヒト精巣上体蛋白４(ＨＥ４)	160209850	1
ＨＥＲ-２タンパク	29	690	病理	N002 03	免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製(ＨＥＲ２タンパク)	160173550	
Ｈ-ＦＡＢＰ(ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白)	135	131	生化Ⅰ	D007 36	心臓由来脂肪酸結合蛋白(Ｈ－ＦＡＢＰ)定量	160192710	1
ＨＧＦ(肝細胞増殖因子)	83	227	生化Ⅰ	D007 54	肝細胞増殖因子(ＨＧＦ)	160154250	1
(５-)ＨＩＡＡ	128	95	生化Ⅱ	D008 05	５－ハイドロキシインドール酢酸(５－ＨＩＡＡ)	160030810	13
(５-)ＨＩＡＡ[尿]	128	95	生化Ⅱ	D008 05	５－ハイドロキシインドール酢酸(５－ＨＩＡＡ)(尿)	160135150	35
ＨＩＴ抗体(血小板第４因子-ヘパリン複合体抗体)	27･91	390	免疫	D011 10	血小板第４因子－ヘパリン複合体抗体(ＩｇＧ、ＩｇＭ及びＩｇＡ抗体)	160201050	23
ＨＩＶ-１/２抗体確認検査	118	660	免疫	D012 63	ＨＩＶ－１特異抗体・ＨＩＶ－２特異抗体	160225550	104
ＨＩＶ-１核酸定量	118	520	微生物	D023 18	ＨＩＶ－１核酸定量	160163650	63
ＨＩＶ-抗原・抗体	118	109	免疫	D012 16	ＨＩＶ－１、２抗原・抗体同時測定定性	160194710	1
ＨＩＶ-抗原・抗体定量	118	127	免疫	D012 20	ＨＩＶ－１、２抗原・抗体同時測定定量	160194810	1
ＨＩＶ-抗原・抗体(迅速)	118	109	免疫	D012 16	ＨＩＶ－１、２抗体定性	160153050	1
ＨＬＡ(組織適合抗原)-Ａ、Ｂ	97	－	－				13
ＨＬＡ(組織適合抗原)-ＤＲ	97	－	－				13
Ｈｍ(血液像)	22	15	血液	D005 03	末梢血液像(自動機械法)	160191510	5
Ｈｐ(ハプトグロビン)	83	129	免疫	D015 14	ハプトグロビン(型補正を含む。)	160056310	1
ＨＰＶ-ＤＮＡ型判定	116	2000	微生物	D023 25	ＨＰＶジェノタイプ判定	160189150	70
ＨＰＶ-ＤＮＡ同定(ハイリスク)	116	347	微生物	D023 10	ＨＰＶ核酸検出	160185610	59･70
ＨＰＶ-ＤＮＡ同定(ローリスク)	116	－	－				59
ＨＰＶ簡易ジェノタイプ	116	347	微生物	D023 11	ＨＰＶ核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	160201450	70
ＨＳＶ１型、２型＜ＮＴ＞	111	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(ヘルペスウイルス)	160042110	1
ＨＳＶ＜ＣＦ＞	111	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(ヘルペスウイルス)	160042110	1
ＨＳＶ(ＩｇＧ、ＩｇＭ)	111	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(ヘルペスウイルス)	160046010	1
ＨＳＶ特異抗原	111	180	免疫	D012 39	単純ヘルペスウイルス抗原定性	160044210	36
Ｈｔ(ヘマトクリット)	22	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	160008010	5
ＨＴＬＶ-１抗体＜ＣＬＩＡ＞	117	159	免疫	D012 31	ＨＴＬＶ－１抗体	160045210	1
ＨＴＬＶ-１抗体＜ラインブロット＞	117	425	免疫	D012 60	ＨＴＬＶ－１抗体(ウエスタンブロット法及びラインブロット法)	160142650	1
ＨＶＡ(ホモバニリン酸)	128	69	生化Ⅱ	D008 03	ホモバニリン酸(ＨＶＡ)	160031010	13
ＨＶＡ(ホモバニリン酸)[髄液]	128	69	生化Ⅱ	D008 03	ホモバニリン酸(ＨＶＡ)(髄液)	160138450	2
ＨＶＡ(ホモバニリン酸)[尿]	128	69	生化Ⅱ	D008 03	ホモバニリン酸(ＨＶＡ)(尿)	160135250	35
Ⅰ							
(抗)ＩＡ-２抗体	39	213	生化Ⅱ	D008 43	抗ＩＡ－２抗体	160176950	1
ＩＣＧ-Ｋ(インドシアニングリーン消失率)	46	(150)	－	D286	肝クリアランステスト	160086210	1
ＩＣＧ-Ｒ(インドシアニングリーン停滞率)	46	(100)	－	D289 02	肝機能テスト(ＩＣＧ１回・２回法)	160088410	1
ＩＥＰ(免疫電気泳動)[尿]	87	201	免疫	D015 22	Ｂｅｎｃｅ　Ｊｏｎｅｓ蛋白同定(尿)	160004910	2
ＩＥＰ(免疫電気泳動)-抗ヒト全血清	87	170	免疫	D015 17	免疫電気泳動法(抗ヒト全血清)	160212110	1
ＩＥＰ(免疫電気泳動)-抗ヒト特異血清	87	218	免疫	D015 24	免疫電気泳動法(特異抗血清)	160212210	1
ＩｇＡ(免疫グロブリンＡ)	84	38	免疫	D015 04	免疫グロブリン(ＩｇＡ)	160055010	1
ＩｇＥ-ＲＡＳＴ(特異的ＩｇＥ)	1	110	免疫	D015 13	特異的ＩｇＥ半定量・定量	160056110	1
ＩｇＥ-ＲＩＳＴ(非特異的ＩｇＥ)	1	100	免疫	D015 11	非特異的ＩｇＥ定量	160197910	1

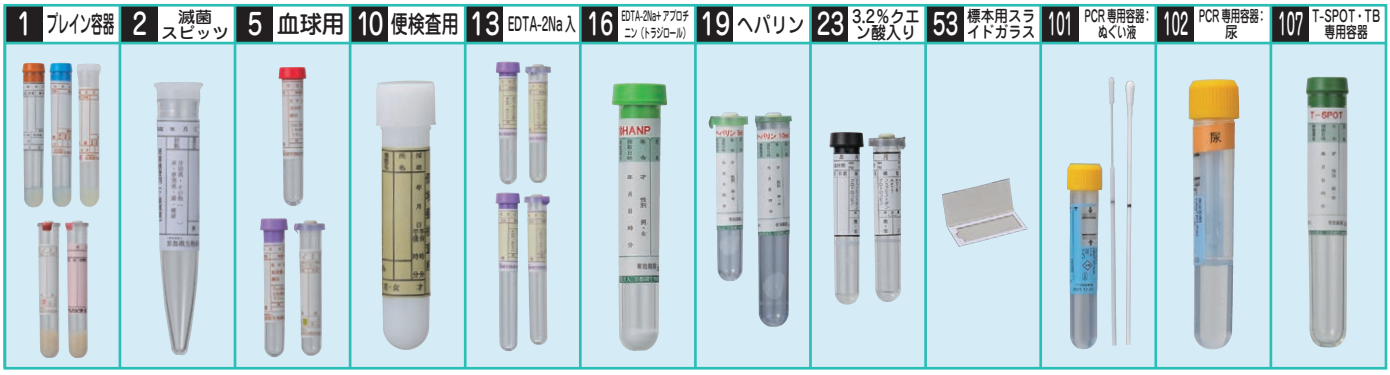


項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
ＩＧＦ-１(ソマトメジンＣ)	122	212	生化Ⅱ	D008 42	ソマトメジンＣ	160035710	1
ＩｇＧ２	84	239	免疫	D014 31	ＩｇＧ２(ＴＩＡ法によるもの)	160205750	1
ＩｇＧ４	84	377	免疫	D014 41	ＩｇＧ４	160185410	1
ＩｇＧ(免疫グロブリンＧ)	84	38	免疫	D015 04	免疫グロブリン(ＩｇＧ)	160055210	1
ＩｇＧサブクラス分画	84	－	－				1
ＩｇＧ型リウマチ因子	88	198	免疫	D014 26	ＩｇＧ型リウマトイド因子	160151650	1
ＩｇＭ(免疫グロブリンＭ)	84	38	免疫	D015 04	免疫グロブリン(ＩｇＭ)	160055310	1
ＩｇＭ-ＨＢｃ抗体	119	146	免疫	D013 08	ＨＢｃ－ＩｇＭ抗体	160121010	1
(ｓ)ＩＬ-２Ｒ(可溶性インターロイキン-2受容体)	60	438	生化Ⅱ	D009 36	可溶性インターロイキン－２レセプター(ｓＩＬ－２Ｒ)	160158050	1
ＩＬ-６(インターロイキン-６)	85	170	免疫	D015 17	インターロイキン－６(ＩＬ－６)	160225450	1
ＩＰ(無機リン)[血清、尿]	50	17	生化Ⅰ	D007 03	無機リン及びリン酸	160021810	1･2
ＩＲＩ(インスリン)	134	100	生化Ⅱ	D008 08	インスリン(ＩＲＩ)	160031510	1
J							
(抗)Ｊｏ-１抗体	90	140	免疫	D014 12	抗Ｊｏ－１抗体定量	160196110	1
K							
Ｋ(カリウム)	50	11	生化Ⅰ	D007 01	カリウム	160021410	1
Ｋ(カリウム)[尿]	50	11	生化Ⅰ	D007 01	カリウム(尿)	160132650	2
ＫＬ-６(シアル化糖鎖抗原)	85	108	生化Ⅰ	D007 28	ＫＬ－６	160168550	1
L							
ＬＡＰ(ロイシンアミノペプチダーゼ)	41	11	生化Ⅰ	D007 01	ロイシンアミノペプチダーゼ(ＬＡＰ)	160020510	1
ＬＤ(ＬＤＨ)	41	11	生化Ⅰ	D007 01	乳酸デヒドロゲナーゼ(ＬＤ)	160019510	1
ＬＤ(ＬＤＨ)アイソザイム	44	48	生化Ⅰ	D007 14	ＬＤアイソザイム	160026810	1
ＬＤＬコレステロール	48	18	生化Ⅰ	D007 04	ＬＤＬ－コレステロール	160167250	1
Ｌ-ＦＡＢＰ(Ｌ型脂肪酸結合蛋白)	35	210	尿・糞便	D001 19	Ｌ型脂肪酸結合蛋白(Ｌ－ＦＡＢＰ)(尿)	160189250	2
ＬＨ(黄体形成ホルモン)	122	105	生化Ⅱ	D008 12	黄体形成ホルモン(ＬＨ)	160149910	1
Ｌｉ(リチウム)	69	特	—	B001 02	特定薬剤治療管理料１	113000410	1
(抗)ＬＫＭ-１抗体	90	215	免疫	D014 28	抗ＬＫＭ－１抗体	160173250	1
ＬＰ(ａ)(リポ蛋白(ａ))	48	107	生化Ⅰ	D007 27	リポ蛋白(ａ)	160153450	1
ＬＰＬ(リポ蛋白リパーゼ)	42	219	生化Ⅰ	D007 53	リポ蛋白リパーゼ(ＬＰＬ)	160157150	19
ＬＲＧ(ロイシンリッチα２グリコプロテイン)	84	268	生化Ⅰ	D007 57	ロイシンリッチα２グリコプロテイン	160223850	1
Ｌ-ドーパ	127	－	－				13
M							
Ｍ２ＢＰＧｉ(Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体)	86	194	生化Ⅰ	D007 50	Ｍａｃ－２結合蛋白糖鎖修飾異性体	160204950	1
ＭＡＣ(マイコバクテリウム・アビウム・イントラセルラー)核酸検出	12	421	微生物	D023 16	マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー(ＭＡＣ)核酸検出	160142150	2･40
ＭＡＣ抗体(抗酸菌抗体定性)	79	116	免疫	D012 18	抗酸菌抗体定性	160173650	1
ＭＢＰ(ミエリン塩基性蛋白)	85	570	尿・糞便	D004 12	ミエリン塩基性蛋白(ＭＢＰ)(髄液)	160177910	2
(抗)ＭＤＡ５抗体	90	270	免疫	D014 37	抗ＭＤＡ５抗体	160209150	1
ＭＤＡ-ＬＤＬ(酸化ＬＤＬ)	48	194	生化Ⅰ	D007 50	マロンジアルデヒド修飾ＬＤＬ(ＭＤＡ－ＬＤＬ)	160184250	1
Ｍｇ(マグネシウム)	50	11	生化Ⅰ	D007 01	マグネシウム	160022210	1
Ｍｇ(マグネシウム)[尿]	50	11	生化Ⅰ	D007 01	マグネシウム(尿)	160132950	2
(抗)Ｍｉ-２抗体	90	270	免疫	D014 37	抗Ｍｉ－２抗体	160209250	1
ＭＭＰ-３(マトリックスメタロプロテイナーゼ3)	88	116	免疫	D014 09	マトリックスメタロプロテイナーゼ－３(ＭＭＰ－３)	160173150	1



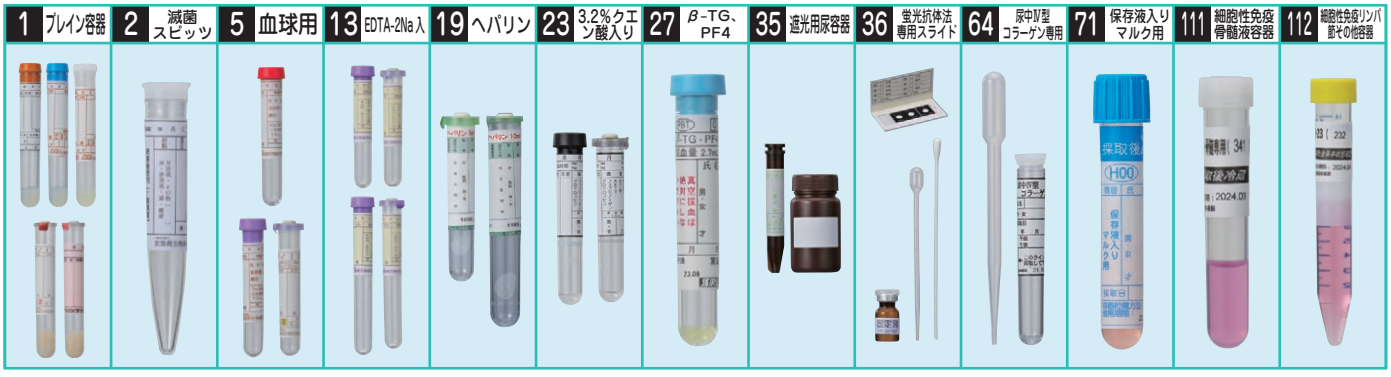
項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
Mn(マンガン)	51	27	生化Ⅰ	D007 08	マンガン(Mn)	160173910	19
MPO-ANCA(抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体)	91	251	免疫	D014 32	抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体(MPO－ANCA)	160167850	1
MSI(マイクロサテライト不安定性検査)	99	2500	遺伝子	D004-2 01	悪性腫瘍遺伝子検査(医薬品の適応判定の補助等に用いるもの)(固形癌におけるマイクロサテライト不安定性検査)	160228450	5·53·105
(抗)MuSK抗体(抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体)	92	1000	免疫	D014 47	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体	160202350	1
N							
Na(ナトリウム)	50	11	生化Ⅰ	D007 01	ナトリウム及びクロール	160021110	1
Na(ナトリウム)[尿]	50	11	生化Ⅰ	D007 01	ナトリウム及びクロール(尿)	160132450	2
NAG(N-アセチルグルコサミニダーゼ)[尿]	41	41	尿・糞便	D001 05	N－アセチルグルコサミニダーゼ(NAG)(尿)	160004110	2
NAPスコア(末血ALP染色)	22	加37	血液	D005 06注	特殊染色加算(末梢血液像(鏡検法)・アルカリホスファターゼ染色)	160008670	5+53
NCC-ST-439	57	112	生化Ⅱ	D009 06	NCC－ST－439	160116410	1
NH_3(アンモニア)	37	50	生化Ⅰ	D007 16	アンモニア	160025910	6
NK細胞活性	96	－	－				43
non-HDL-C	47	－	－				
NSE(神経特異エノラーゼ)	58	142	生化Ⅱ	D009 14	神経特異エノラーゼ(NSE)	160037910	1
NT-proBNP	135	136	生化Ⅱ	D008 20	脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント(NT－proBNP)	160181250	1
NTX(Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド)[尿]	61·126	156	生化Ⅱ	D008 25	1型コラーゲン架橋N－テロペプチド(NTx)	160164250	2
N-メチルホルムアミド[尿]	53	－	－				2
O							
OC(オステオカルシン)	126	157	生化Ⅱ	D008 26	オステオカルシン(OC)	160151250	1
(11-)OHCS	129	60	生化Ⅱ	D008 02	11－ハイドロキシコルチコステロイド(11－OHCS)	160123850	1
O抗原同定(大腸菌抗原同定)	13	175	免疫	D012 37	大腸菌血清型別	160162750	
P							
P(無機リン、IP)[血清、尿]	50	17	生化Ⅰ	D007 03	無機リン及びリン酸	160021810	1·2
(total-)P1NP(1型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	62·125	160	生化Ⅱ	D008 28	1型プロコラーゲン－N－プロペプチド(P1NP)	160201750	1
P-Ⅲ-P(プロコラーゲンⅢペプチド)	86	136	生化Ⅰ	D007 39	プロコラーゲン－3－ペプチド(P－3－P)	160029310	1
(抗)p53抗体	58	163	生化Ⅱ	D009 22	抗p53抗体	160181750	1
PA-IgG(血小板関連IgG)	91	190	免疫	D011 06	血小板関連IgG(PA－IgG)	160178610	68
PAS染色[骨髄塗抹標本]	22	加60	血液	D005 14注	特殊染色加算(骨髄像・パス染色)	160010870	53
PAS染色[末梢血塗抹標本]	22	加37	血液	D005 06注	特殊染色加算(末梢血液像(鏡検法)・パス染色)	160008770	53
Pb(鉛)	51·53	－	－				19
Pb(鉛)[尿]	51	－	－				2
PCT(プロカルシトニン)	75	276	生化Ⅰ	D007 59	プロカルシトニン(PCT)定量	160192810	1
PF4(血小板第4因子)	24	173	血液	D006 25	血小板第4因子(PF4)	160016710	27
PFD(PABA排泄率)	46	(100)	－	D289 01	膵機能テスト(PFDテスト)	160088310	2
PG(ペプシノゲン)	42	－	－				1
(尿)pH	4	(26)	－	D000	尿中一般物質定性半定量検査	160000310	2
PHAによるリンパ球幼若化	96	345	免疫	D016 07	リンパ球刺激試験(LST)(1薬剤)	160212310	19
PIC(α2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体)	27	150	血液	D006 21	プラスミン・プラスミンインヒビター複合体(PIC)	160015810	23
Plg(プラスミノゲン活性)	26	100	血液	D006 12	プラスミノゲン活性	160015710	23
PIVKA-Ⅱ定量	57	131	生化Ⅱ	D009 10	PIVKA－2定量	160193310	1
PL(リン脂質)	47	15	生化Ⅰ	D007 02	リン脂質	160023210	1
PLA_2(膵ホスフォリパーゼA_2)	42	204	生化Ⅰ	D007 51	ホスフォリパーゼA2(PLA2)	160145150	1

項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
ＰＬＴ(血小板数)	22	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	160008010	5
ＰＲ３-ＡＮＣＡ(抗好中球細胞質抗体)	91	252	免疫	D014 33	抗好中球細胞質プロテイナーゼ３抗体(ＰＲ３－ＡＮＣＡ)	160197710	1
ＰＲＡ(レニン活性)	136	100	生化Ⅱ	D008 08	レニン活性	160032210	13
ＰＲＬ(プロラクチン)	122	98	生化Ⅱ	D008 06	プロラクチン(ＰＲＬ)	160032310	1
ＰｒｏＧＲＰ(ガストリン放出ペプチド前駆体)	58	175	生化Ⅱ	D009 24	ガストリン放出ペプチド前駆体(ＰｒｏＧＲＰ)	160162250	13
ＰＳＡ(前立腺特異抗原)	60	121	生化Ⅱ	D009 09	前立腺特異抗原(ＰＳＡ)	160037510	1
ＰＳＡ-ＡＣＴ	60	121	生化Ⅱ	D009 09	前立腺特異抗原(ＰＳＡ)	160037510	1
ＰＳＡ-Ｆ/Ｔ比	60	150	生化Ⅱ	D009 17	遊離型ＰＳＡ比(ＰＳＡ　Ｆ／Ｔ比)	160168950	1
ＰＳＡレクチン結合分画比(Ｓ２，３ＰＳＡ%)	60	248	生化Ⅱ	D009 31	Ｓ２、３ＰＳＡ%	160238450	1
ＰＴ(プロトロンビン時間)	24	18	血液	D006 02	プロトロンビン時間(ＰＴ)	160012010	23
ＰＴＨ(副甲状腺ホルモン)- インタクト	125	161	生化Ⅱ	D008 29	副甲状腺ホルモン(ＰＴＨ)	160035510	1
ＰＴＨｒＰ(副甲状腺ホルモン関連蛋白)	125	186	生化Ⅱ	D008 38	副甲状腺ホルモン関連蛋白(ＰＴＨｒＰ)	160154650	16
Ｐ型アミラーゼ定量	44	48	生化Ⅰ	D007 14	アミラーゼアイソザイム	160026410	1
R							
ＲＡＳ-ＢＲＡＦ遺伝子変異	98	4000	遺伝子	D004-2 01	悪性腫瘍遺伝子検査減算(処理が容易なもの)(２項目)	160232170	53
ＲＢＣ(赤血球数)	22	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	160008010	5
ＲＢＰ(レチノール結合蛋白)	83	132	免疫	D015 15	レチノール結合蛋白(ＲＢＰ)	160118910	1
ＲＥＴ(網赤血球数)	22	12	血液	D005 02	網赤血球数	160007910	5
ＲＦ-ＩｇＧ(ＩｇＧ型リウマチ因子)	88	198	免疫	D014 26	ＩｇＧ型リウマトイド因子	160151650	1
ＲＦ定量(リウマトイド因子)	88	30	免疫	D014 02	リウマトイド因子(ＲＦ)定量	160195610	1
Ｒｈ-Ｈｒ式血液型(タイピング)	81	148	免疫	D011 03	Ｒｈ(その他の因子)血液型	160039610	5
Ｒｈ式(Ｄ)血液型	81	24	免疫	D011 01	Ｒｈ(Ｄ)血液型	160039210	5
ＲＬＰ-Ｃｈ(レムナント様リポ蛋白コレステロール)	48	174	生化Ⅰ	D007 44	レムナント様リポ蛋白コレステロール(ＲＬＰ－Ｃ)	160153550	1
(抗)ＲＮＡポリメラーゼⅢ抗体	90	170	免疫	D014 19	抗ＲＮＡポリメラーゼ３抗体	160188550	1
(抗)ＲＮＰ抗体	89	144	免疫	D014 13	抗ＲＮＰ抗体定量	160196310	1
ＲＰＲ定性	80	15	免疫	D012 01	梅毒血清反応(ＳＴＳ)定性	160039810	1
ＲＰＲ定量	80	34	免疫	D012 05	梅毒血清反応(ＳＴＳ)定量	160040710	1
ＲＳウイルス＜ＣＦ、ＮＴ＞	105	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(ＲＳウイルス)	160043110	1
S							
Ｓ2,3ＰＳＡ%(前立腺特異抗原レクチン結合分画比)	60	248	生化Ⅱ	D009 31	Ｓ２、３ＰＳＡ%	160238450	1
ＳＡＡ(アミロイドＡ蛋白)	83	47	免疫	D015 06	血清アミロイドＡ蛋白(ＳＡＡ)	160160250	1
ＳＣＣ抗原	58	101	生化Ⅱ	D009 04	扁平上皮癌関連抗原(ＳＣＣ抗原)	160037410	1
(抗)Ｓｃｌ-７０抗体	90	157	免疫	D014 16	抗Ｓｃｌ－７０抗体定量	160197110	1
ｓｄ ＬＤＬ-Ｃ	47	－	－				1
ＳＦＭＣ(可溶性フィブリンモノマー複合体定性)	26	93	血液	D006 11	フィブリンモノマー複合体定性	160013310	23
ｓＩＬ-２Ｒ(可溶性ＩＬ-２受容体)	60	438	生化Ⅱ	D009 36	可溶性インターロイキン－２レセプター(ｓＩＬ－２Ｒ)	160158050	1
ＳＬＸ(シアリルＬｅˣ-ｉ抗原)	58	140	生化Ⅱ	D009 13	シアリルＬｅｘ－ｉ抗原(ＳＬＸ)	160117210	1
(抗)Ｓｍ抗体	89	147	免疫	D014 14	抗Ｓｍ抗体定量	160196510	1
ＳＰ-Ａ(肺サーファクタントプロテインＡ)	85	130	生化Ⅰ	D007 35	肺サーファクタント蛋白－Ａ(ＳＰ－Ａ)	160169350	1
ＳＰａｎ-１抗原	57	144	生化Ⅱ	D009 15	ＳＰａｎ－１	160117010	1
ＳＰ-Ｄ(肺サーファクタントプロテインＤ)	85	136	生化Ⅰ	D007 39	肺サーファクタント蛋白－Ｄ(ＳＰ－Ｄ)	160168450	1
(抗)ＳＳ-Ａ抗体	89	161	免疫	D014 18	抗ＳＳ－Ａ／Ｒｏ抗体定量	160196710	1
(抗)ＳＳ-Ｂ抗体	89	157	免疫	D014 16	抗ＳＳ－Ｂ／Ｌａ抗体定量	160196910	1
(抗)ｓｓ-ＤＮＡ ＩｇＧ抗体	89	159	免疫	D014 17	抗ＤＮＡ抗体定量	160197210	1



項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
(抗)ｓｓ-ＤＮＡ ＩｇＭ抗体	89	－	－				1
ＳＴＮ(シアリルＴｎ抗原)	59	146	生化Ⅱ	D009 16	シアリルＴｎ抗原(ＳＴＮ)	160142450	1
T							
T_3(トリヨードサイロニン)	124	99	生化Ⅱ	D008 07	トリヨードサイロニン(Ｔ３)	160031310	1
T_4(サイロキシンT_4)	124	105	生化Ⅱ	D008 11	サイロキシン(Ｔ４)	160031810	1
ＴＡＲＣ	3	179	免疫	D015 18	ＴＡＲＣ	160184350	1
ＴＡＴ(トロンビンアンチトロビンⅢ複合体)	27	171	血液	D006 24	トロンビン・アンチトロンビン複合体(ＴＡＴ)	160114210	23
ＴＢＡ(胆汁酸)	48	47	生化Ⅰ	D007 13	胆汁酸	160026210	1
ＴＢＧ(サイロキシン結合グロブリン)	124	130	生化Ⅱ	D008 18	サイロキシン結合グロブリン(ＴＢＧ)	160034310	1
Ｔ-Ｂｉｌ(総ビリルビン)	45	11	生化Ⅰ	D007 01	総ビリルビン	160017010	1
Ｔ-Ｃｈｏ(総コレステロール)	47	17	生化Ⅰ	D007 03	総コレステロール	160022410	1
Ｔｆ(トランスフェリン)	83	60	免疫	D015 07	トランスフェリン(Ｔｆ)	160124550	1
Ｔｆ(トランスフェリン)[尿]	35	98	尿・糞便	D001 08	トランスフェリン(尿)	160157750	2
ＴＦＰＩ2(組織因子経路インヒビター2)	59	190	生化Ⅱ	D009 27	組織因子経路インヒビター2(ＴＦＰＩ２)	160226250	121
ＴＧ(中性脂肪)	47	11	生化Ⅰ	D007 01	中性脂肪	160020910	1
(抗)Ｔｇ抗体	124	136	免疫	D014 10	抗サイログロブリン抗体	160141750	1
ＴＩＢＣ(総鉄結合能)(比色法)	51	11	生化Ⅰ	D007 01	総鉄結合能(ＴＩＢＣ)(比色法)	160023610	1
(抗)ＴＩＦ1-γ抗体	90	270	免疫	D014 37	抗ＴＩＦ１－γ抗体	160209350	1
ｔｏｔａｌ-Ｐ1ＮＰ	62･125	160	生化Ⅱ	D008 28	１型プロコラーゲンーＮープロペプチド(Ｐ１ＮＰ)	160201750	1
ＴＰ(総蛋白)	35	11	生化Ⅰ	D007 01	総蛋白	160017410	1
ＴＰＬＡ定性	80	32	免疫	D012 04	梅毒トレポネーマ抗体定性	160040910	1
ＴＰＬＡ定量	80	53	免疫	D012 06	梅毒トレポネーマ抗体定量	160194010	1
(抗)ＴＰＯ抗体	124	138	免疫	D014 11	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	160157450	1
ＴＲＡｂ(ＴＳＨレセプター抗体)	124	214	免疫	D014 27	抗ＴＳＨレセプター抗体(ＴＲＡｂ)	160035810	1
ＴＲＡＣＰ-５ｂ(骨型酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ)	61	156	生化Ⅱ	D008 25	酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ(ＴＲＡＣＰ－５ｂ)	160184450	1
ＴＳＡｂ(甲状腺刺激抗体)	124	330	免疫	D014 40	甲状腺刺激抗体(ＴＳＡｂ)	160162550	1
ＴＳＨ(甲状腺刺激ホルモン)	122･124	98	生化Ⅱ	D008 06	甲状腺刺激ホルモン(ＴＳＨ)	160031710	1
Ｔ-ＳＰＯＴ・ＴＢ(インターフェロン-γ遊離試験)	79	593	免疫	D015 30	結核菌特異的インターフェロンーγ産生能	160177450	107
ＴＶ/ＭＧ同時核酸検出	15	350	微生物	D023 12	膣トリコモナス及びマイコプラズマ・ジェニタリウム同時核酸検出	160234150	101･102
Ｔ細胞・Ｂ細胞百分率	95	193	免疫	D016 03	Ｔ細胞・Ｂ細胞百分率	160057310	19
U							
(抗)Ｕ1-ＲＮＰ抗体	89	144	免疫	D014 13	抗ＲＮＰ抗体定量	160196310	1
ＵＡ(尿酸)	37	11	生化Ⅰ	D007 01	尿酸	160019310	1
ＵＡ(尿酸)[尿]	37	11	生化Ⅰ	D007 01	尿酸(尿)	160132250	2
ｕｃＯＣ(低カルボキシル化オステオカルシン)	125	154	生化Ⅱ	D008 24	低カルボキシル化オステオカルシン(ｕｃＯＣ)	160181350	1
ＵＩＢＣ(不飽和鉄結合能)(比色法)	51	11	生化Ⅰ	D007 01	不飽和鉄結合能(ＵＩＢＣ)(比色法)	160023710	1
ＵＮ(尿素窒素)	37	11	生化Ⅰ	D007 01	尿素窒素	160019010	1
ＵＮ(尿素窒素)[尿]	37	11	生化Ⅰ	D007 01	尿素窒素(尿)	160131950	2
V							
Ｖｅｒｏ毒素(大腸菌ベロトキシン検査)＜ＥＩＡ＞	13	184	微生物	D023-2 03	大腸菌ベロトキシン定性	160162650	10
Ｖｅｒｏ毒素(大腸菌ベロトキシン検査)＜ＬＡ＞	13	184	微生物	D023-2 03	大腸菌ベロトキシン定性	160162650	
Ｖｉｅｗ３９	1	1430	免疫	D015 13	特異的ＩｇＥ半定量・定量	160056110	1
ＶＭＡ(バニリルマンデル酸)	128	90	生化Ⅱ	D008 04	バニールマンデル酸(ＶＭＡ)	160031110	13

項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
ＶＭＡ(バニリルマンデル酸)[尿]	128	90	生化Ⅱ	D008 04	バニールマンデル酸(ＶＭＡ)(尿)	160135350	35
ＶＺＶ(水痘帯状ヘルペスウイルス)＜CF＞	111	79	免疫	D012 11	ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(水痘・帯状疱疹ウイルス)	160174310	1
ＶＺＶ(水痘帯状ヘルペスウイルス)IgG、IgM	111	200	免疫	D012 44	グロブリンクラス別ウイルス抗体価(水痘・帯状疱疹ウイルス)	160204610	1
ＶＺＶ(水痘帯状ヘルペスウイルス)抗原	111	227	免疫	D012 51	水痘ウイルス抗原定性(上皮細胞)	160125850	36
ｖＷ因子活性(フォン・ウィルブランド因子活性)	25	126	血液	D006 14	ｖｏｎ　Ｗｉｌｌｅｂｒａｎｄ因子(ＶＷＦ)活性	160015310	23
ｖＷ因子抗原定量(フォン・ウィルブランド因子抗原定量)	25	147	血液	D006 20	ｖｏｎ　Ｗｉｌｌｅｂｒａｎｄ因子(ＶＷＦ)抗原	160124650	23
Ｗ							
ＷＢＣ(白血球数)	22	21	血液	D005 05	末梢血液一般検査	160008010	5
ＷＴ１ｍＲＮＡ定量	102	2520	遺伝子	D006-9	ＷＴ１　ｍＲＮＡ	160181850	13･71
Ｚ							
Ｚｎ(亜鉛)	51	132	生化Ⅰ	D007 37	亜鉛(Ｚｎ)	160029110	1
α							
α１-ＡＴ(α１-アンチトリプシン)	83	80	血液	D006 10	α１－アンチトリプシン	160113710	1
α１-ＭＧ(α１-マイクログロブリン)	83	129	免疫	D015 14	α１－マイクログロブリン	160029610	1
α１-ＭＧ(α１-マイクログロブリン)[尿]	83	129	免疫	D015 14	α１－マイクログロブリン(尿)	160134450	2
α２-ＰⅠ(アンチプラスミン活性)	26	128	血液	D006 16	プラスミンインヒビター(アンチプラスミン)	160113910	23
α２-プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(ＰＩＣ)	27	150	血液	D006 21	プラスミン・プラスミンインヒビター複合体(ＰＩＣ)	160015810	23
α２マクログロブリン(α２-ＭＧ)	83	138	血液	D006 17	α２－マクログロブリン	160113610	1
α-フェトプロテイン(ＡＦＰ)	57	98	生化Ⅱ	D009 02	α－フェトプロテイン(ＡＦＰ)	160036710	1
β							
β２-ＭＧ(β２-マイクログロブリン)	83	98	免疫	D015 10	β２－マイクログロブリン	160036610	1
β２-ＭＧ(β２-マイクログロブリン)[尿]	83	98	免疫	D015 10	β２－マイクログロブリン(尿)	160137550	2
(抗)β２グリコプロテインⅠ　ＩｇＧ抗体	93	226	免疫	D014 30	抗β２グリコプロテインⅠＩｇＧ抗体	160228850	1
(抗)β２グリコプロテインⅠ　ＩｇＭ抗体	93	226	免疫	D014 30	抗β２グリコプロテインⅠＩｇＭ抗体	160228950	1
(1→3)-β-Ｄグルカン	75	195	免疫	D012 42	(1→3)－β－Ｄ－グルカン	160160150	113
β-ＴＧ(β-トロンボグロブリン)	24	171	血液	D006 24	β－トロンボグロブリン(β－ＴＧ)	160016810	27
γ							
γ-ＧＴ(γ-ＧＴＰ)	41	11	生化Ⅰ	D007 01	γ－グルタミルトランスフェラーゼ(γ－ＧＴ)	160020410	1
γ-セミノプロテイン(γ-Ｓｍ)	60	192	生化Ⅱ	D009 28	γ－セミノプロテイン(γ－Ｓｍ)	160038110	1
δ							
δ-ＡＬＡ(デルタアミノレブリン酸)[尿]	45･53	106	尿・糞便	D001 11	δアミノレブリン酸(δ－ＡＬＡ)(尿)	160004610	35
数字							
(1→3)-β-Ｄグルカン	75	195	免疫	D012 42	(1→3)－β－Ｄ－グルカン	160160150	113
1,25(OH)$_2$ビタミンＤ(1,25ジヒドロキシビタミンＤ)	56･125	388	生化Ⅰ	D007 63	1,25－ジヒドロキシビタミンＤ３	160158150	1
1,5ＡＧ(1,5-アンヒドロ-Ｄ-グルシトール)	39	80	生化Ⅰ	D007 21	1,5－アンヒドロ－Ｄ－グルシトール(1.5ＡＧ)	160142350	1
１型コラーゲン-Ｃ-テロペプチド(ＩＣＴＰ)	61	－	－	D009 23	１型コラーゲン－Ｃ－テロペプチド(１ＣＴＰ)	160178510	1
１型コラーゲン架橋Ｎ-テロペプチド(NTX)[尿]	61･126	156	生化Ⅱ	D008 25	１型コラーゲン架橋Ｎ－テロペプチド(ＮＴｘ)	160164250	2



項　目　名	ページ	点数	判断区分	診療区分	診療行為名称	診療行為コード	容器
1型プロコラーゲン-N-プロペプチド(ｔｏｔａｌ-Ｐ１ＮＰ)	62･125	160	生化Ⅱ	D008 28	１型プロコラーゲンーＮープロペプチド(Ｐ１ＮＰ)	160201750	1
2,5-ヘキサンジオン[尿]	53	−	−				2
4型コラーゲン	86	131	生化Ⅰ	D007 36	４型コラーゲン	160145310	1
4型コラーゲン[尿]	35	184	尿・糞便	D001 15	４型コラーゲン(尿)	160169250	64
4型コラーゲン・７Ｓ	86	148	生化Ⅰ	D007 42	４型コラーゲン・７Ｓ	160125050	1
5-ＨＩＡＡ	128	95	生化Ⅱ	D008 05	５－ハイドロキシインドール酢酸(５－ＨＩＡＡ)	160030810	13
5-ＨＩＡＡ[尿]	128	95	生化Ⅱ	D008 05	５－ハイドロキシインドール酢酸(５－ＨＩＡＡ)(尿)	160135150	35
5-S-CD	60	−	−				1
７ＡＡＤを用いたリンパ腫生細胞解析セット	95	1940	血液	D005 15	造血器腫瘍細胞抗原検査(一連につき)	160057410	19･111･112
11-ＯＨＣＳ	129	60	生化Ⅱ	D008 02	１１－ハイドロキシコルチコステロイド(１１－ＯＨＣＳ)	160123850	1
２５-ＯＨビタミンＤ	56･125	117	生化Ⅰ	D007 31	２５－ヒドロキシビタミン	160215350	1

①取引のお申込み

ご利用に際しましては、一般社団法人京都微生物研究所本部へご連絡ください。担当者がお伺いし、ご説明・ご相談させていただきます。
ご連絡の際は、裏表紙をご参照ください。

②検査のご依頼

検査のご依頼は、検査項目の種類により異なりますので、検査項目に応じた依頼方法でご依頼ください。
ご依頼の検査項目については、各項目の欄をご参照ください。さらに詳しい情報が必要なときには、最寄りの営業所または当所ラボラトリーまでお問い合わせください。

＜検査依頼方法＞

①電子依頼による方法

●当ラボラトリーは、情報システムによる電子依頼を奨励しています。
データ交換の詳細につきましては、当ラボラトリー担当者との事前の打合せのうえ、ご依頼施設の情報システムから予め取り決めたデータ形式により電子依頼情報をご提出ください。

《検体ラベル記入例》

②検査依頼書による方法

●検査のご依頼には当所所定の検査依頼書、検体ラベル及び検体容器をご利用ください。

①総合検査依頼書　②細菌検査依頼書　③ホルター心電図検査依頼書　④病理組織検査依頼書
⑤細胞診検査依頼書　⑥アレルギー検査依頼書　⑦骨髄像検査依頼書

●検査依頼書

・患者名、性別、年齢、採取年月日（採取時刻も含む）、検体の種類、検査依頼項目、依頼元の名称及び医師の氏名（緊急時連絡先を含む）をご記入ください。
・患者名はカタカナでご記入ください。
・科目、入院、外来、病棟名、保険区分、カルテNo、蓄尿量、申し送り事項等を必要に応じて所定欄にご記入ください。
・検査依頼書は複写式になっていますので、ボールペンで強くお書きください。
・ご依頼項目は、チェック欄に斜線「／」を引いてください。
・依頼書に掲載されていない検査項目をご依頼の場合は、通信欄に項目コードと項目名をご記入ください。
・複写の一部をご依頼元の控えとし、併せて検体受領書とさせていただきますのでご了承ください。

＜検体の提出方法＞

①検体ラベル
患者名、性別、年齢、採取年月日（採取時刻を含む）、検体の種類（材料）、検査依頼項目、依頼元の名称及び医師の氏名（緊急時連絡先を含む）等もご記入ください。尚、バーコード、コンピューターで印字したIDNo等、依頼情報と関連づけられた検体ラベルの場合は患者名、性別、年齢のみご記入ください。

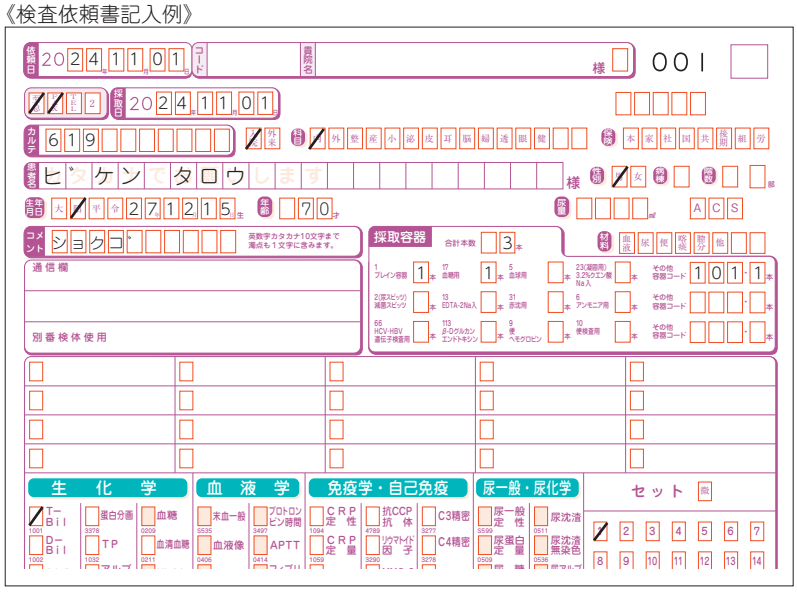
②検体容器
血清・血漿・尿の容器をはじめ、目的別に一部専用容器を用意いたしております。
必要な容器は各検査項目ごとに数字で表示しています。数字については項目検索の下段又は158～162ページの「容器一覧」をご参照ください。

③検体採取条件
採取条件は、各項目の欄をご覧ください。検体必要量は、原則として再検査に応じられるよう設定してありますのでご了承ください。

④検体保存条件
検体採取後、提出されるまでの間、所定の保存条件を遵守してください。保存条件に関しては、本案内書の「保存方法」欄をご参照ください。

⑤検体提出条件
血清分離の要否等、適正な検査・測定を行うために必要な事項です。本案内書の「検体量」「容器」「備考」の各欄を併せてご参照ください。

《検査依頼書記入例》



③検体の受領・輸送

①検体の受領
検体の集配に関しては、予め申し合わせのうえ、ご指定の時間、場所へお伺いいたします。
検体受領時間・場所（　　）
②検体の輸送
お預かりした検体は、厳密な管理の下に当ラボラトリーに搬入いたします。
平均搬送時間（　　）

④検体の採取・取り扱い

＜血液＞
①採血時間
一般的に早朝安静空腹時を原則としています。
②検体採取
●血液　所定の抗凝固剤入り採血容器にて採血後、速やかに転倒混和させ、特に指定が無い場合、室温および冷蔵保存の場合はこのままで、凍結保存の場合は提出容器に移して指定の保存条件にてご提出ください。
●血清　必要量の3倍を目安に血液を採血してください。
特に指定が無い場合、採血後室温に静置させ、凝固を確認後、遠心分離してください。
遠心分離後、上清を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。
保存条件は検査項目により異なりますので、各検査項目の保存条件をご参照ください。
●血漿　必要量の3倍を目安に血液を採血してください。
特に指定が無い場合、所定の抗凝固剤入り採血容器にて採血後、速やかに転倒混和し、遠心分離してください。
遠心分離後、上清を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。
採取方法および保存条件は検査項目により異なりますので、各検査項目の備考および保存条件、巻末の「容器一覧」をご参照ください。
③注意事項
●採血時（ホルダー採血（真空採血）の場合）
容器の規定採血量より少ない場合、容器内部が陰圧状態のままとなり溶血を引き起こす原因となります。必ず指定容量を採取してください。
●採血時（注射器採血の場合）
注射器から注射針を外し、採血管の側面に沿わせてゆっくりと注入してください。
●溶血を回避するために
・十分に乾燥した採血容器をご使用ください。
・採血時に無理な圧力や泡立ちを避けてください。
・物理的刺激（極度の高温や低温、振動など）を避けてください。

＜凝固検査用検体＞
①採血（ＪＣＣＬＳ標準採血法ガイドラインＧＰ4-Ａ3に従う）
●採血針を用いたホルダー採血（真空採血）：１番目に凝固検査用採血管、もしくは１番目に血清用採血管、２番目に凝固検査用採血管で採血してください。
●翼状針を用いたホルダー採血（真空採血）：１番目にダミーの採血管もしくは他の検査用採血管で採血後、凝固検査用採血管で採血してください。
●注射器採血：１番目に凝固検査用採血管に血液を分注してください。
②遠心分離
●遠心分離の温度設定は室温（18～25℃）にコントロールしてください。
●平均遠心重力は1500×gで最低15分間、または2000×gで最低10分間の遠心分離処理を推奨します。
●血小板の混入は測定結果に影響するため、残存血小板数が1万/μL未満になるようバフィーコートから最低5mm離れた上清を使用してください。
③注意事項
●クエン酸ナトリウム溶液と血液の比率は1：9となります。採血量によっては、測定値に影響を及ぼす可能性があります。
●正確な血液量が採血管に流入したことを確認し、血液と抗凝固剤は速やかに５回以上泡立たぬよう転倒混和してください。
●ヘパリンが混在する静脈ラインは使用不可です。
●凝固検査用検体の提出前に、凝固を視認した場合は再採血をお願いいたします。

＜尿＞
①部分尿
●採尿容器に尿を採取して、必要量を指定の提出容器・保存条件にてご提出ください。
※検査項目により、採尿時間を指定している場合がありますので、各検査項目の「備考」欄および保存条件、巻末の「容器一覧」をご参照ください。
②24時間蓄尿
●蓄尿の間は、蓄尿容器に蓋をして冷暗所にて保存してください。蓄尿終了後、蓄尿量を測定し、よく混和させ必要量を指定の提出容器、保存条件にてご提出ください。
※防腐・安定性等の目的で、蓄尿開始時に添加剤を必要とする場合がありますので、各検査項目の「備考」欄をご参照ください。

●酸性蓄尿は、各検査項目の「提出条件・備考」をご参照ください。

⑤所要日数

●原則的には、検体をお預かりした翌日を起算日とし、結果をお手元にお届けするまでの日数です。日祝日・大型連休・お盆・お正月の前後につきましては、さらに日数を要することがあります。
●依頼検査項目の組み合わせにより、所要日数の長い項目に準ずることがあります。
●再検査の場合は、さらに若干の日数を要することがあります。

⑥検査結果のご報告

●検査結果は、当ラボラトリー所定の報告書にてお届けいたします。
●当ラボラトリーは、情報システムによる電子報告が可能です。報告書とは別に、検査成績は電子情報にてご報告が可能です。
●至急を要する検査結果は、電話もしくはFAXでご報告いたします。
●本案内書で特に指定した緊急項目においては異常データを示した場合は、測定後速やかに電話またはFAXにてご報告いたします。
※報告基準につきましては、<33>ページをご参照ください。

⑦再検査

●当ラボラトリーの再検査基準に基づき、再検査をいたします。
●最小必要検体量にてご依頼の場合、量不足のため再検査に応じられないことがあります。

⑧検体の保管

●検査を追加される場合は、当所受付までお問い合わせください。ただし、検査項目や検体の状態によりお受けできない場合があります。
●検査実施後の検体は、原則として血清検体につきましては、検体受領後2週間保管し、再検や追加検査のご要望にお応えしております。ただし、血糖検査については１週間、血液一般検査（血算）については５日間、血液凝固線溶系については１週間、尿一般検査については１週間とし、また、細胞性免疫検査、輸血検査については保管の対象外とさせていただきます。特に、長期間保管を必要とする検体については、ご相談させていただきます。
●検査済み検体は、お客様との特段の取り決めがない限り当ラボラトリー所定の保管期限後、適正な方法にて廃棄いたします。なお、プール化および匿名化が可能なものにつきましては、個人情報保護法およびガイドラインを遵守したうえで検査精度維持、向上等の目的で使用することがあります。
また、検体保管期間中に検査を委託した医療機関より残検体の返還を求められた場合は速やかに返還いたしますが、委託した医療機関以外または医師個人から学術研究等の目的により検査済み検体の提供を求められたとしても、第三者への提供に応じることはできません。

⑨測定委託先

本文備考欄の※印の項目については他施設へ再委託しております。再委託先は巻末に表示しておりますので、ご参照ください。

⑩検査料金のお支払い

検査料金のお支払いは原則として銀行振込でお願いいたします。振込先は請求書にて指定させていただいております。継続お取り引きの場合は１カ月分まとめて請求いたしますので、ご契約に従ってお支払いください。

⑪免責

ご依頼いただきました検査は当社検査実施基準に基づき行われますが、お預かりした検体の状態、または検査方法の技術的限界等により検査結果を臨床診断に資することが困難な場合があります。この場合当所はその検査結果に対し免責とさせていただきます。

緊急報告対象項目とその基準

●下記の検査項目で、緊急報告値が検出された場合は、測定後速やかにFAXまたは電話にてご報告申し上げます。但し、予め異常値が予知されている場合（疾患名が確定している場合等）、または検体の性状が溶血血清、乳糜血清等で検査結果に影響するようなものである場合は、緊急報告の対象としないことがありますのでご了承ください。

	検査項目名	緊急報告範囲	基準値
血液学	白血球数（WBC）	10以下、250以上（$10^2/\mu L$）	M:39～98、F:35～91（$10^2/\mu L$）
	血色素量（ヘモグロビン、Hb）*1	5.0以下（g/dL）	M:13.0～17.0、F:11.6～15.6（g/dL）
	血小板数（PLT）*1	3以下、100以上（$10^4/\mu L$）	13.0～35.0（$10^4/\mu L$）
	白血球像*2	ブラスト出現	好中球　40.0～70.0（%） 桿状核球　2.0～10.0（%） 分葉核球　38.0～67.0（%） 好酸球　0.0～ 8.0（%） 好塩基球　0.0～ 2.0（%） リンパ球　20.0～50.0（%） 単球　2.0～ 9.0（%）
	プロトロンビン時間－INR（PT-INR）	3.00以上	0.85～1.15
生化学	グルコース	50以下、500以上（mg/dL）	60～109（mg/dL）（空腹時）
	AST（GOT）	500以上（U/L）	9～38（U/L）
	ALT（GPT）	500以上（U/L）	5～39（U/L）
	LD（LDH）（乳酸脱水素酵素）（IFCC）	1,000以上（U/L）	124～222（U/L）
	血清アミラーゼ（S-AMY）	1,000以上（U/L）	37～124（U/L）
	総ビリルビン（T-BIL）*3	12.0以上（mg/dL）	0.2～1.2（mg/dL）
	ナトリウム（Na）*1	110以下、170以上（mmol/L）	135～147（mmol/L）
	カリウム（K）*1	2.5以下、6.5以上（mmol/L）	3.6～5.0（mmol/L）
	カルシウム（Ca）*1	6.0以下、12.0以上（mg/dL）	8.6～10.1（mg/dL）
	尿素窒素（UN）*1	80以上（mg/dL）	8～20（mg/dL）
	CK（CPK）	1,000以上（U/L）	M:40～220、F:30～190（U/L）
免疫	直接クームス試験（新生児）	陽性	陰性
細菌	血液　培養*4	菌の検出	細菌検出せず
	髄液・その他無菌的材料　塗抹・培養	菌の検出	細菌検出せず
	抗酸菌　塗抹	陽性	陰性

	検査項目名	緊急報告基準値	有効治療濃度
薬物検査	フェノバルビタール	60.0以上（μg/mL）	15.0～40.0（μg/mL）
	プリミドン	15.0以上（μg/mL）	5.0～12.0（μg/mL）
	フェニトイン	30.0以上（μg/mL）	10.0～20.0（μg/mL）
	カルバマゼピン	12.0以上（μg/mL）	4.0～12.0（μg/mL）
	バルプロ酸	150.0以上（μg/mL）	50.0～100.0（μg/mL）
	エトスクシミド	120.0以上（μg/mL）	40.0～100.0（μg/mL）
	リチウム	1.50以上（mEq/L）	0.40～1.20（mEq/L）
	ジゴキシン	2.5以上（ng/mL）	0.9～2.0（ng/mL）
	テオフィリン	25.0以上（μg/mL）	10.0～20.0（μg/mL）
	プロカインアミド	12.0以上（μg/mL）	4.0～10.0（μg/mL）
	リドカイン	6.0以上（μg/mL）	1.2～5.0（μg/mL）
	サリチル酸	300以上（μg/mL）	100～250（μg/mL）
	メトトレキサート	48時間値：1以上（μmol/L）	（危険限界濃度）（μmol/L） 24時間値：10以上 48時間値：1以上 72時間値：0.1以上

＊1：透析患者検体は除外
＊2：初診者より検出した場合のみ
＊3：新生児は除外
＊4：ボトルに陽性反応が認められた時点で培養液の塗抹検査を実施してFAXにて中間報告いたします。同定菌名が確定した時点および感受性の結果が確定した時点につきましても、上記に加え中間報告いたします。

検体検査料

検体検査料は検体検査実施料と検体検査判断料に区分されております。

注１．検体検査判断料は該当する検体検査の種類、回数にかかわらず各々月１回に限り算定できる。
２．上記注１．の規定にかかわらず、尿中一般物質定性半定量検査の所定点数を算定した場合にあっては、当該当検査については、尿・糞便等検査判断料（34点）は算定しない。
３．同一区分の判断料は、入院・外来又は診療料の別にかかわらず月１回に限る。

患者から１回に採取した血液を用いて、下記にあげた項目を複数検査した場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて点数が包括されます。

同一日に尿、穿刺液・採取液及び血液を検体として生化学的検査（Ⅰ）又は生化学的検査（Ⅱ）に掲げる検査項目につきそれぞれを実施した場合の、多項目包括規定の適用については、尿、穿刺液・採取液及び血液のそれぞれについて算出した項目数により所定点数を算定するのではなく、血液、尿、穿刺液・採取液それぞれに係る項目数を合算した項目数により、所定点数を算定します。ただし、同一日に行う2回目以降の血液採取による検体を用いた検査項目については、当該項目数に合算せず、所定点数を別途算定します。

検体検査判断料

１：尿・糞便等検査判断料……	34点	…尿糞
２：遺伝子関連・染色体検査判断料…	100点	遺伝子
３：血液学的検査判断料……	125点	…血液
４：生化学的検査（Ⅰ）判断料……	144点	…生Ⅰ
５：生化学的検査（Ⅱ）判断料……	144点	…生Ⅱ
６：免疫学的検査判断料……	144点	…免疫
７：微生物学的検査判断料……	150点	微生物
８：病理判断料……	130点	…病理

※保険点数は2024年６月１日改定によるものです。

◆血液化学検査

●総ビリルビン、直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン、総蛋白、アルブミン（BCP改良法・BCG法）、尿素窒素、クレアチニン、尿酸、アルカリホスファターゼ（ＡＬＰ）、コリンエステラーゼ（ＣｈＥ）、γ－グルタミルトランスフェラーゼ（γ－ＧＴ）、中性脂肪、ナトリウム及びクロール、カリウム、カルシウム、マグネシウム、クレアチン、グルコース、乳酸デヒドロゲナーゼ（ＬＤ）、アミラーゼ、ロイシンアミノペプチダーゼ（ＬＡＰ）、クレアチンキナーゼ（ＣＫ）、アルドラーゼ、遊離コレステロール、鉄（Ｆｅ）、血中ケトン体・糖・クロール検査（試験紙法・アンプル法・固定化酵素電極によるもの）、不飽和鉄結合能（UIBC）（比色法）、総鉄結合能（TIBC）（比色法）	11点
●リン脂質	15点
●ＨＤＬ－コレステロール、無機リン及びリン酸、総コレステロール、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（ＡＳＴ）、アラニンアミノトランスフェラーゼ（ＡＬＴ）	17点
●ＬＤＬ－コレステロール、蛋白分画	18点
●銅（Ｃｕ）	23点
●リパーゼ	24点
●イオン化カルシウム	26点
●マンガン（Ｍｎ）	27点

項目数	実施料
５項目以上７項目以下	93
８項目又は９項目	99
10項目以上（入院時初回加算）	103（20）

◆内分泌学的検査

●成長ホルモン（ＧＨ）、卵胞刺激ホルモン（ＦＳＨ）、Ｃ－ペプチド（ＣＰＲ）、黄体形成ホルモン（ＬＨ）	105点
●テストステロン	119点
●遊離サイロキシン（FT_4）、遊離トリヨードサイロニン（FT_3）、コルチゾール	121点
●アルドステロン	122点
●サイログロブリン	128点
●ヒト絨毛性ゴナドトロピン－βサブユニット（ＨＣＧ－β）	129点
●サイロキシン結合グロブリン（ＴＢＧ）、脳性Ｎａ利尿ペプチド（ＢＮＰ）、カルシトニン、ヒト絨毛性ゴナドトロピン（ＨＣＧ）定量、ヒト絨毛性ゴナドトロピン（ＨＣＧ）半定量	130点
●抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗ＧＡＤ抗体）	134点
●脳性Ｎａ利尿ペプチド前駆体Ｎ端フラグメント（ＮＴ－ｐｒｏＢＮＰ）、ヒト胎盤性ラクトーゲン（ＨＰＬ）	136点
●サイロキシン結合能（ＴＢＣ）	137点
●プロゲステロン	143点
●グルカゴン	150点
●低カルボキシル化オステオカルシン（ｕｃＯＣ）	154点
●Ⅰ型コラーゲン架橋Ｎ－テロペプチド（ＮＴＸ）、酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（ＴＲＡＣＰ－５ｂ）	156点
●オステオカルシン（ＯＣ）、骨型アルカリホスファターゼ（ＢＡＰ）	157点
●遊離テストステロン	159点
●Ⅰ型プロコラーゲン－Ｎ－プロペプチド（ＰＩＮＰ）	160点
●副甲状腺ホルモン（ＰＴＨ）、カテコールアミン分画	161点
●インタクトⅠ型プロコラーゲン－Ｎ－プロペプチド（Ｉｎｔａｃｔ ＰＩＮＰ）	163点
●デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体（ＤＨＥＡ－Ｓ）	164点
●低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン（ＨＣＧ）半定量、サイクリックＡＭＰ（ｃＡＭＰ）	165点
●エストラジオール（E_2）	167点
●Ⅰ型コラーゲン架橋Ｃ－テロペプチド－β異性体（β－ＣＴＸ）（尿）	169点
●Ⅰ型コラーゲン架橋Ｃ－テロペプチド－β異性体（β－ＣＴＸ）	170点
●エストリオール（E_3）、エストロゲン半定量、エストロゲン定量、副甲状腺ホルモン関連蛋白Ｃ端フラグメント（Ｃ－ＰＴＨｒＰ）	180点
●副腎皮質刺激ホルモン（ＡＣＴＨ）、カテコールアミン	184点
●副甲状腺ホルモン関連蛋白（ＰＴＨｒＰ）	186点
●デオキシピリジノリン（ＤＰＤ）（尿）	191点
●17－ケトジェニックステロイド（17－ＫＧＳ）	200点
●エリスロポエチン	209点
●ソマトメジンＣ	212点
●17－ケトステロイド分画（17－ＫＳ分画）、17α－ヒドロキシプロゲステロン（17α－ＯＨＰ）、抗ＩＡ－２抗体、プレグナンジオール	213点
●メタネフリン	217点
●17－ケトジェニックステロイド分画（17－ＫＧＳ分画）、メタネフリン・ノルメタネフリン分画	220点
●心房性Ｎａ利尿ペプチド（ＡＮＰ）	221点
●抗利尿ホルモン（ＡＤＨ）	224点
●プレグナントリオール	232点
●ノルメタネフリン	250点
●インスリン様成長因子結合蛋白３型（ＩＧＦＢＰ－３）	280点
●遊離メタネフリン・遊離ノルメタネフリン分画	450点

項目数	実施料
３項目以上５項目以下	410
６項目又は７項目	623
８項目以上	900

◆腫瘍マーカー

●α－フェトプロテイン（ＡＦＰ）	98点
●癌胎児性抗原（ＣＥＡ）	99点
●扁平上皮癌関連抗原（ＳＣＣ抗原）	101点
●組織ポリペプタイド抗原（ＴＰＡ）	110点
●ＮＣＣ－ＳＴ－439、ＣＡ15－３	112点
●ＤＵＰＡＮ－２	115点
●エラスターゼ１	120点
●前立腺特異抗原（ＰＳＡ）、ＣＡ19－９	121点
●ＰＩＶＫＡ－Ⅱ半定量、ＰＩＶＫＡ－Ⅱ定量	131点
●ＣＡ125	136点
●核マトリックスプロテイン22（ＮＭＰ22）定量（尿）、核マトリックスプロテイン22（ＮＭＰ22）定性（尿）	139点
●シアリルＬｅ^{X}－ｉ抗原（ＳＬＸ）	140点
●神経特異エノラーゼ（ＮＳＥ）	142点
●ＳＰａｎ－１	144点
●ＣＡ72－４、シアリルＴｎ抗原（ＳＴＮ）	146点
●塩基性フェトプロテイン（ＢＦＰ）、遊離型ＰＳＡ比（ＰＳＡ　Ｆ／Ｔ比）	150点
●サイトケラチン19フラグメント（シフラ）	154点
●シアリルＬｅ^{X}抗原（ＣＳＬＥＸ）	156点
●ＢＣＡ225	158点
●サイトケラチン８･18（尿）	160点
●抗ｐ53抗体	163点
●Ⅰ型コラーゲンーＣ－テロペプチド（ＩＣＴＰ）	170点
●ガストリン放出ペプチド前駆体（ＰｒｏＧＲＰ）	175点
●ＣＡ54／61	184点
●α－フェトプロテインレクチン分画（ＡＦＰ－Ｌ３％）	185点
●ＣＡ602、組織因子経路インヒビター２（ＴＦＰＩ２）	190点
●γ－セミノプロテイン（γ－Ｓｍ）	192点
●ヒト精巣上体蛋白４（ＨＥ４）	200点
●可溶性メソテリン関連ペプチド	220点
●Ｓ２，３ＰＳＡ％	248点
●プロステートヘルスインデックス（phi）	281点
●癌胎児性抗原（ＣＥＡ）定性（乳頭分泌液）、癌胎児性抗原（ＣＥＡ）半定量（乳頭分泌液）	305点
●ＨＥＲ２蛋白	320点
●アポリポ蛋白Ａ２（ＡＰＯＡ２）アイソフォーム	335点
●可溶性インターロイキン－２レセプター（ｓＩＬ－２Ｒ）	438点

項目数	実施料
２項目	230
３項目	290
４項目以上	385

◆肝炎ウイルス関連検査

● HBs抗原、HBs抗体	88点
● HBe抗原、HBe抗体	98点
● HCV抗体定性・定量、HCVコア蛋白	102点
● HBc抗体半定量・定量	130点
● HCVコア抗体	143点
● HA-IgM抗体、HA抗体、HBc-IgM抗体	146点
● HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体定性、HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体半定量	160点
● HE-IgA抗体定性	210点
● HCV血清群別判定	215点
● HBVコア関連抗原（HBcrAg）	252点
●デルタ肝炎ウイルス抗体	330点
● HCV特異抗体価、HBVジェノタイプ判定	340点

項目数	実施料
３項目	290
４項目	360
５項目以上	425

◆自己抗体検査

●抗サイログロブリン抗体	136点
●抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	138点
●抗 Jo-1抗体定性、抗 Jo-1抗体半定量、抗 Jo-1抗体定量	140点
●抗 RNP抗体定性、抗 RNP抗体半定量、抗 RNP抗体定量	144点
●抗 Sm抗体定性、抗 Sm抗体半定量、抗 Sm抗体定量	147点
● C_1q結合免疫複合体	153点
●抗 Scl-70抗体定性、抗 Scl-70抗体半定量、抗Scl-70抗体定量、抗 SS-Ｂ／La抗体定性、抗SS-Ｂ／La抗体半定量、抗 SS-Ｂ／La抗体定量	157点
●抗 SS-Ａ／Ro抗体定性、抗 SS-Ａ／Ro抗体半定量、抗 SS-Ａ／Ro抗体定量	161点
●抗 RNAポリメラーゼⅢ抗体	170点
●抗 ARS抗体	190点
●抗 MDA5抗体、抗 TIF1-γ抗体、抗 Mi-2抗体	270点

項目数	実施料
２項目	320
３項目以上	490

◆出血・凝固検査

● Dダイマー定性	121点
● von Willebrand因子（VWF）活性	126点
● Dダイマー	127点
●プラスミンインヒビター（アンチプラスミン）、Dダイマー半定量	128点
● α_2-マクログロブリン	138点
● PIVKA-Ⅱ	143点
●凝固因子インヒビター	144点
● von Willebrand因子（VWF）抗原	147点
●プラスミン・プラスミンインヒビター複合体（PIC）	150点
●プロテインＳ抗原	154点
●プロテインＳ活性	163点
●β-トロンボグロブリン（β-TG）、トロンビン・アンチトロンビン複合体（TAT）	171点
●血小板第４因子（PF_4）	173点
●プロトロンビンフラグメント F1＋2	192点
●トロンボモジュリン	204点
●フィブリンモノマー複合体	215点
●凝固因子（第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第ＸⅠ因子、第ＸⅡ因子、第ＸⅢ因子）	223点
●プロテインＣ抗原	226点
●プロテインＣ活性	227点
● tPA・PAI-１複合体	240点

項目数	実施料
３項目又は４項目	530
５項目以上	722

アレルゲンセット一覧

アレルゲンセット一覧

アレルゲンセット一覧

乳幼児

喘息・皮膚炎A	喘息・皮膚炎B	喘息・皮膚炎C	喘息・皮膚炎D	喘息・皮膚炎E	喘息・皮膚炎F	喘息・皮膚炎G	喘息・皮膚炎H
9663	9665	9671	9699	9651	9664	9687	9672
SP　3mL	SP　3mL	SP　3mL	SP　3mL	SP　3mL	SP　3mL	SP　5mL	SP　5mL
ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ 卵白 牛乳	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ 動物上皮・マルチ カビ・マルチ	ヤケヒョウヒダニ マラセチア（属） 動物上皮・マルチ 食物・マルチ	ハウスダスト1 卵白 牛乳 小麦 ソバ	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ 動物上皮・マルチ 穀物・マルチ 食物・マルチ	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ コナヒョウヒダニ 卵白 牛乳 大豆	ヤケヒョウヒダニ 卵白 牛乳 大豆 小麦 米 イワシ 動物上皮・マルチ	ヤケヒョウヒダニ コナヒョウヒダニ 卵白 大豆 牛乳 小麦 米 ソバ ピーナッツ 動物上皮・マルチ
実施料　440点	実施料　440点	実施料　440点	実施料　550点	実施料　550点	実施料　660点	実施料　880点	実施料　1100点

喘息・皮膚炎I	喘息・皮膚炎J	喘息・皮膚炎K
9666	9655	9683
SP　5mL	SP　5mL	SP　5mL
ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ コナヒョウヒダニ アルテルナリア クラドスポリウム 米 牛乳 卵白 大豆 動物上皮・マルチ	卵白 牛乳 小麦 米 大豆 ソバ ヤケヒョウヒダニ ネコの皮屑（フケ） クラドスポリウム カンジダ	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ 卵白 オボムコイド 牛乳 大豆 小麦 米 ソバ イワシ ゴマ 動物上皮・マルチ カビ・マルチ
実施料　1100点	実施料　1100点	実施料　1430点

鼻炎

通年性A	通年性B	春A	春B	春C	春・夏	夏A	夏B
9675	9676	9677	9694	9678	9649	9679	9680
SP　3mL	SP　3mL	SP　3mL	SP　3mL	SP　5mL	SP　3mL	SP　3mL	SP　5mL
ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ 動物上皮・マルチ カビ・マルチ	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ コナヒョウヒダニ ネコの皮屑（フケ） イヌの皮屑（フケ） カビ・マルチ	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ スギ ヒノキ	ハウスダスト1 スギ ヒノキ カモガヤ ブタクサ	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ スギ ヒノキ ハルガヤ フランスギク タンポポ（属）	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ カモガヤ アスペルギルス スギ	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ ガ 雑草・マルチ イネ科・マルチ	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ クラドスポリウム カモガヤ オオアワガエリ ブタクサ ガ ユスリカ（成虫） カナムグラ
実施料　440点	実施料　660点	実施料　440点	実施料　550点	実施料　770点	実施料　550点	実施料　550点	実施料　990点

秋A	秋B	秋・冬	室内アレルゲン	室外アレルゲン	スクリーニングA	スクリーニングB	スクリーニングC
9681	9682	9650	9647	9648	9690	9654	9686
SP　3mL	SP　5mL	SP　3mL	SP　3mL	SP　3mL	SP　5mL	SP　5mL	SP　5mL
ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ ガ ヨモギ	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ ガ ヨモギ ブタクサ ユスリカ（成虫） アキノキリンソウ カナムグラ	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ ヨモギ カモガヤ クラドスポリウム	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ ネコの皮屑（フケ） アスペルギルス カンジダ	カモガヤ ヨモギ クラドスポリウム ペニシリウム スギ	ヤケヒョウヒダニ スギ カモガヤ ヨモギ ガ ブタクサ 動物上皮・マルチ カビ・マルチ	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ クラドスポリウム カンジダ ネコの皮屑（フケ） スギ ブタクサ ヨモギ カモガヤ オオアワガエリ	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ スギ ハンノキ（属） カモガヤ ブタクサ ヨモギ ガ ユスリカ（成虫） ゴキブリ ヒノキ 動物上皮・マルチ カビ・マルチ
実施料　440点	実施料　880点	実施料　550点	実施料　550点	実施料　550点	実施料　880点	実施料　1100点	実施料　1430点

アレルゲンセット一覧

気管支喘息

学童期A	学童期B	喘息A	喘息B	喘息C	喘息D	喘息E	喘息F
9667	9668	9697	9657	9669	9652	9689	9670
SP　3mL	SP　5mL	SP　3mL	SP　3mL	SP　3mL	SP　5mL	SP　5mL	SP　5mL
ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ 動物上皮・マルチ カビ・マルチ 食物・マルチ	ヤケヒョウヒダニ ハウスダスト1 カモガヤ スギ ヒノキ ガ 卵白 カビ・マルチ 穀物・マルチ 動物上皮・マルチ	ハウスダスト1 スギ イネ科・マルチ 雑草・マルチ カビ・マルチ	ヤケヒョウヒダニ スギ カビ・マルチ 雑草・マルチ 動物上皮・マルチ	ヤケヒョウヒダニ スギ ヒノキ 動物上皮・マルチ カビ・マルチ 食物・マルチ	ハウスダスト1 スギ カモガヤ ヤケヒョウヒダニ カビ・マルチ 動物上皮・マルチ 食物・マルチ	ヤケヒョウヒダニ スギ カモガヤ ガ ゴキブリ 動物上皮・マルチ カビ・マルチ 雑草・マルチ	ヤケヒョウヒダニ スギ ヒノキ ガ クラドスポリウム カモガヤ カンジダ ヨモギ ブタクサ 動物上皮・マルチ
実施料　550点	実施料　1100点	実施料　550点	実施料　550点	実施料　660点	実施料　770点	実施料　880点	実施料　1100点

喘息G	喘息H	喘息I
9653	9658	9685
SP　5mL	SP　5mL	SP　5mL
ヤケヒョウヒダニ カンジダ アルテルナリア ネコの皮屑（フケ） イヌの皮屑（フケ） スギ カモガヤ ブタクサ 卵白 大豆	ヤケヒョウヒダニ スギ ブタクサ カモガヤ ヨモギ ハルガヤ カンジダ アルテルナリア イヌの皮屑（フケ） ネコの皮屑（フケ）	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ スギ カモガヤ ブタクサ ヨモギ ガ ユスリカ（成虫） ゴキブリ カンジダ アルテルナリア アスペルギルス 動物上皮・マルチ
実施料　1100点	実施料　1100点	実施料　1430点

皮膚炎

皮膚炎A	皮膚炎B	皮膚炎C	皮膚炎D	皮膚炎E	皮膚炎F
9673	9698	9688	9674	9656	9684
SP　3mL	SP　3mL	SP　5mL	SP　5mL	SP　5mL	SP　5mL
ヤケヒョウヒダニ 動物上皮・マルチ 食物・マルチ カビ・マルチ	ハウスダスト1 スギ カビ・マルチ 穀物・マルチ 動物上皮・マルチ	ヤケヒョウヒダニ 卵白 牛乳 大豆 マラセチア（属） カンジダ 穀物・マルチ 動物上皮・マルチ	ヤケヒョウヒダニ コナヒョウヒダニ 卵白 大豆 牛乳 小麦 米 ソバ カビ・マルチ 動物上皮・マルチ	卵白 小麦 米 大豆 ヤケヒョウヒダニ ネコの皮屑（フケ） クラドスポリウム カンジダ アルテルナリア スギ	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ スギ 卵白 牛乳 大豆 小麦 米 カンジダ エンテロトキシンA エンテロトキシンB マラセチア（属） 動物上皮・マルチ
実施料　440点	実施料　550点	実施料　880点	実施料　1100点	実施料　1100点	実施料　1430点

アトピー鑑別

アトピー鑑別A	アトピー鑑別B	アトピー鑑別C	アトピー鑑別D
9659	9660	9661	9662
SP　3mL	SP　3mL	SP　3mL	SP　5mL
非特異的IgE アトピー鑑別試験	非特異的IgE アトピー鑑別試験 食物・マルチ	非特異的IgE アトピー鑑別試験 食物・マルチ 穀物・マルチ カビ・マルチ	コナヒョウヒダニ スギ 動物上皮・マルチ イネ科・マルチ 穀物・マルチ カビ・マルチ 雑草・マルチ 食物・マルチ
実施料　294点	実施料　404点	実施料　624点	実施料　880点

マルチスクリーニング

マルチA	マルチB	マルチC
9693	9695	9692
SP　5mL	SP　5mL	SP　5mL
ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ イネ科・マルチ 雑草・マルチ 動物上皮・マルチ カビ・マルチ 食物・マルチ 穀物・マルチ	食物・マルチ 穀物・マルチ イネ科・マルチ 雑草・マルチ カビ・マルチ 動物上皮・マルチ ハウスダスト1 スギ	ヤケヒョウヒダニ ハウスダスト1 スギ ヒノキ ガ ユスリカ（成虫） マラセチア（属） イネ科・マルチ 雑草・マルチ 動物上皮・マルチ カビ・マルチ 食物・マルチ 穀物・マルチ
実施料　880点	実施料　880点	実施料　1430点

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
アレルギー検査	0366	非特異的IgE (IgE-RIST) 5A090-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵(12週)	3~4	100 免疫	FEIA法	170以下 IU/mL	年齢別参考基準値：下記参照 ※06	アレルギー疾患 多発性骨髄腫
	次頁参照	特異的IgE (IgE-RAST)	血清各0.3	1	冷蔵(12週)	3~4	各1101 免疫	FEIA法	0.35未満 スコア：0 UA/mL	判定基準：下記参照 ※06	
	下記参照	特異的IgE (マルチアレルゲン) イネ科・雑草 動物・カビ 食物・穀物	血清各0.3	1	冷蔵(12週)	3~4	各1101 免疫	FEIA法	0.35未満 スコア：0 UA/mL	判定基準：下記参照 ※06	アレルギー疾患(原因アレルゲンの検索)
	3356	特異的IgE Ara h 2(ピーナッツ由来) 5A100-2500-023-023	血清0.3	1	冷蔵(12週)	3~4	1101 免疫	FEIA法	陰性 0.35未満 UA/mL	判定基準 疑陽性：0.35~3.99 陽性：4.00以上 ※06	
	3436	View39 5A100-2808-023-023	血清0.9	1	冷蔵	4~5	14301 免疫	FEIA法	index：0.27未満 クラス：0	判定基準：下記参照 ※06	アトピー性疾患(原因アレルゲンの検索)

1 特異的IgE半定量・定量検査は、特異抗原の種類ごとに所定点数を算定する。ただし、患者から1回に採取した血液を用いて検査を行った場合は、1,430点を限度として算定する。

[0366] 非特異的IgE 年齢別参考基準値

年齢(歳)	平均値±1SD (IU/mL)
1未満	1.36~19.32
1~3	5.24~29.99
4~6	5.19~111.94
7~9	13.12~141.91
10~12	11.09~171.79
13~18	24.72~126.77
19以上	27.54~138.34

出典：島津伸一郎、他：アレルギーの領域2、920-925、1995.

特異的IgE 判定基準（シングル、マルチ）

IgE抗体濃度 (UA/mL)	スコア	判定	
0.35未満	0	陰性	−
0.35~0.69	1	疑陽性	±
0.70~3.49	2	陽性	+
3.50~17.49	3		++
17.50~49.99	4		+++
50.00~99.99	5		
100以上	6		

[3436] View39 判定基準

index	クラス	判定
0.27未満	0	陰性
0.27~0.49	1	疑陽性
0.50~1.79	2	陽性
1.80~7.04	3	
7.05~17.34	4	
17.35~29.30	5	
29.31以上	6	

特異的IgE（マルチアレルゲン） 個々のアレルゲンの報告はありません。

項目コード	5489	5491	5488	5490	5492	5493
検査項目	イネ科・マルチ	雑草・マルチ	動物上皮・マルチ	カビ・マルチ	食物・マルチ	穀物・マルチ
含まれるアレルゲン	ハルガヤ ギョウギシバ カモガヤ オオアワガエリ アシ	ブタクサ ヨモギ フランスギク タンポポ(属) アキノキリンソウ	ネコの皮屑(フケ) イヌの皮屑(フケ) モルモット上皮 ラット マウス	ペニシリウム クラドスポリウム アスペルギルス カンジダ アルテルナリア ヘルミントスポリウム	卵白 牛乳 小麦 ピーナッツ 大豆	米 小麦 トウモロコシ ゴマ ソバ

[3436] View39　構成アレルゲン（39項目）

吸入系その他	
室内塵	ハウスダスト1
ダニ	ヤケヒョウヒダニ
樹木花粉	スギ
	ヒノキ
	ハンノキ（属）
	シラカンバ（属）
イネ科植物花粉	カモガヤ
	オオアワガエリ
雑草花粉	ブタクサ
	ヨモギ
真菌（カビ）	アルテルナリア
	アスペルギルス
	カンジダ
	マラセチア（属）
動物	ネコ皮屑（フケ）
	イヌ皮屑（フケ）
昆虫	ゴキブリ
	ガ
その他	ラテックス

食物系	
牛乳	牛乳
卵	卵白
	オボムコイド
穀類・豆類	米
	小麦
	ソバ
	ゴマ
	大豆
	ピーナッツ
果物	リンゴ
	キウイ
	バナナ
肉類	豚肉
	牛肉
	鶏肉
甲殻類	エビ
	カニ
魚類	サバ
	サケ
	マグロ

1 プレイン容器

特異的IgEシングルアレルゲン一覧表

イネ科花粉

項目コード	略語	アレルゲン名
1154	g1	ハルガヤ
1188	g2	ギョウギシバ
1155	g3	カモガヤ
2060	g4	ヒロハウシノケグサ
1156	g5	ホソムギ
1158	g6	オオアワガエリ
2063	g7	アシ
1157	g8	ナガハグサ
2065	g9	コヌカグサ（属）
2066	g10	セイバンモロコシ
2071	g15	小麦（属）花粉
2072	g16	オオスズメノテッポウ
2073	g17	スズメノヒエ（属）

雑草花粉

項目コード	略語	アレルゲン名
1147	w1	ブタクサ
2005	w2	ブタクサモドキ
2006	w3	オオブタクサ
2008	w5	ニガヨモギ
1149	w6	ヨモギ
2010	w7	フランスギク
2011	w8	タンポポ（属）
2012	w9	ヘラオオバコ
2013	w10	シロザ
1150	w12	アキノキリンソウ
2019	w18	ヒメスイバ
2021	w20	イラクサ（属）
1391	w22	カナムグラ

樹木花粉

項目コード	略語	アレルゲン名
2022	t1	カエデ（属）
5198	t2	ハンノキ（属）
1189	t3	シラカンバ（属）
2026	t5	ブナ（属）
2027	t6	ビャクシン（属）
2028	t7	コナラ（属）
2029	t8	ニレ（属）
2030	t9	オリーブ
2031	t10	クルミ（属）
2033	t12	ヤナギ（属）
2036	t16	マツ（属）
1152	t17	スギ
0823	t19	アカシア（属）
5197	t24	ヒノキ
0826	t70	クワ（属）

室内塵

項目コード	略語	アレルゲン名
1145	h1	ハウスダスト１
1146	h2	ハウスダスト２

ダニ

項目コード	略語	アレルゲン名
1159	d1	ヤケヒョウヒダニ
1160	d2	コナヒョウヒダニ
4978	d70	アシブトコナダニ
4979	d71	サヤアシニクダニ
4694	d72	ケナガコナダニ

寄生虫

項目コード	略語	アレルゲン名
1401	p4	アニサキス
2098	p1	回虫

昆虫

項目コード	略語	アレルゲン名
1377	i8	ガ
2056	i6	ゴキブリ
1400	i7	ユスリカ（成虫）
4626	i71	ヤブカ（属）
2053	i1	ミツバチ
2054	i3	スズメバチ
2055	i4	アシナガバチ

カビ・酵母

項目コード	略語	アレルゲン名
1163	m5	カンジダ
1191	m1	ペニシリウム
1161	m2	クラドスポリウム
1162	m3	アスペルギルス
3565	m218	Asp f 1（アスペルギルス由来）
2043	m4	ムコール
1164	m6	アルテルナリア
4735	m8	ヘルミントスポリウム
4759	m205	トリコフィトン（白せん菌）
4983	m227	マラセチア（属）

動物 ＊1

項目コード	略語	アレルゲン名
1165	e1	ネコの皮屑（フケ）
2048	e3	ウマの皮屑（フケ）
2049	e4	ウシの皮屑（フケ）
1167	e5	イヌの皮屑（フケ）
2051	e6	モルモットの上皮
0781	e70	ガチョウ羽毛
2397	e77	セキセイインコのフン
0782	e78	セキセイインコ羽毛
4980	e80	ヤギ上皮
0783	e81	ヒツジ上皮
0784	e82	家兎上皮
0785	e83	ブタ上皮
0786	e84	ハムスター上皮
2396	e85	ニワトリ羽毛
0787	e86	アヒル羽毛
0788	e87	ラット
0789	e88	マウス

＊1　動物アレルゲン検査において「フケ」は吸入性アレルゲンを、「上皮」は接触アレルゲンを主に疑う場合にそれぞれお選びください。

細菌

項目コード	略語	アレルゲン名
4577	m80	黄色ブドウ球菌 エンテロトキシン A
4578	m81	黄色ブドウ球菌 エンテロトキシン B

職業性

項目コード	略語	アレルゲン名
4545	k80	ホルマリン
4546	k82	ラテックス
3354	k220	Hev b 6.02（ラテックス由来）
4984	k72	オオバコ種子
4723	k75	イソシアネート TDI
4724	k76	イソシアネート MDI
4725	k77	イソシアネート HDI
4985	k78	エチレンオキサイド
4726	k79	無水フタル酸

薬物

項目コード	略語	アレルゲン名
4629	c73	ヒトインシュリン
5546	c74	ゼラチン

その他

項目コード	略語	アレルゲン名
0818	o1	綿

卵

項目コード	略語	アレルゲン名
1168	f1	卵白
1187	f75	卵黄
0802	f233	オボムコイド（耐熱性卵蛋白）

牛乳

項目コード	略語	アレルゲン名
1169	f2	牛乳
0812	f81	チーズ
0810	f78	カゼイン（牛乳由来）
0808	f76	α-ラクトアルブミン（牛乳由来）
0809	f77	β-ラクトグロブリン（牛乳由来）
1287	f82	モールドチーズ

肉

項目コード	略語	アレルゲン名
1178	f26	豚肉
1292	f27	牛肉
1267	f83	鶏肉
0816	f88	羊肉

魚/魚卵

項目コード	略語	アレルゲン名
1375	f50	サバ
1376	f60	アジ
1394	f61	イワシ
5111	f40	マグロ
1268	f41	サケ
1179	f3	タラ
4606	f254	カレイ
4732	f349	イクラ
4731	f350	タラコ

甲殻類/軟体動物

項目コード	略語	アレルゲン名
1176	f23	カニ
1177	f24	エビ
0794	f37	ムラサキイガイ（ムール貝）
1392	f58	イカ
1393	f59	タコ
0811	f80	ロブスター
4746	f207	アサリ
4747	f290	カキ（牡蠣）
4745	f338	ホタテ

穀類

項目コード	略語	アレルゲン名
1170	f4	小麦
4940	f416	ω-5 グリアジン（小麦由来）
1171	f9	米
1173	f11	ソバ
4628	f79	グルテン
2078	f5	ライ麦
2079	f6	大麦
2080	f7	オート麦
2081	f8	トウモロコシ
1395	f55	キビ
1396	f56	アワ
4627	f90	麦芽
0797	f45	ビール酵母
2083	f10	ゴマ

豆類/ナッツ

項目コード	略語	アレルゲン名
1175	f14	大豆
3355	f353	Gly m 4（大豆由来）
1174	f13	ピーナッツ
3356	f423	Ara h 2（ピーナッツ由来）
4742	f93	カカオ
2085	f12	エンドウ
2088	f15	インゲン
2089	f17	ハシバミ（ヘーゼルナッツ）
2090	f18	ブラジルナッツ
2091	f20	アーモンド
4981	f202	カシューナッツ
3353	f443	Ana o 3（カシューナッツ由来）
4982	f256	クルミ
3352	f441	Jug r 1（クルミ由来）
0793	f36	ココナッツ

果物

項目コード	略語	アレルゲン名
0801	f49	リンゴ
0792	f92	バナナ
1266	f33	オレンジ
1303	f95	モモ
2096	f84	キウイ
0796	f44	イチゴ
0815	f87	メロン
4631	f96	アボカド
0795	f209	グレープフルーツ
4630	f91	マンゴ
4942	f94	洋ナシ

野菜

項目コード	略語	アレルゲン名
2094	f25	トマト
0798	f31	ニンジン
1265	f35	ジャガイモ
0790	f214	ホウレンソウ
1264	f48	タマネギ
1269	f47	ニンニク
1398	f51	タケノコ
1286	f225	カボチャ
1399	f54	サツマイモ
0813	f85	セロリ
0814	f86	パセリ
4941	f329	スイカ
4939	f97	ヤマイモ

その他食品

項目コード	略語	アレルゲン名
0817	f89	マスタード

アレルギーコンポーネント

項目コード	略語	アレルゲン名
0802	f233	オボムコイド（耐熱性卵蛋白）
0810	f78	カゼイン（牛乳由来）
0808	f76	α-ラクトアルブミン（牛乳由来）
0809	f77	β-ラクトグロブリン（牛乳由来）
4940	f416	ω-5 グリアジン（小麦由来）
3355	f353	Gly m 4（大豆由来）
3356	f423	Ara h 2（ピーナッツ由来）
3353	f443	Ana o 3（カシューナッツ由来）
3352	f441	Jug r 1（クルミ由来）
3565	m218	Asp f 1（アスペルギルス由来）
3354	k220	Hev b 6.02（ラテックス由来）

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
アレルギー検査	4869	TARC 5J228-0000-023-052	血清0.4	1	冷蔵	3〜4	179❶免疫	CLEIA法	pg/mL 小児(6〜12ヵ月) 1367未満 小児(1〜2歳) 998未満 小児(2歳以上) 743未満 成人 450未満	※01	アトピー性皮膚炎の重症度評価
	2100	アトピー鑑別試験(12種吸入性アレルゲン) 5A100-2820-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3〜5	194免疫	FEIA法	陰性	構成アレルゲン下記参照 ※02	アトピー性疾患(アトピー/非アトピーの鑑別)

❶アトピー性皮膚炎の重症度評価の補助を目的として、血清中のTARC量を測定する場合に、月1回を限度として算定できる。

［2100］アトピー鑑別試験（12種吸入性アレルゲン）

含まれるアレルゲン（個々のアレルゲンの報告はありません）
ヤケヒョウヒダニ、コナヒョウヒダニ、ネコの皮屑（フケ）、イヌの皮屑（フケ）、ギョウギシバ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギ、シラカンバ（属）、スギ、カンジダ、アルテルナリア

1 プレイン容器

	項目コード	検査項目	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
尿検査	0506	尿pH 1A035-0000-001-911	尿3.0	2	冷蔵	1～2	(26) ❶	試験紙法	4.5～8.0	判断料は算定不可	尿路感染症 腎炎 糖尿病
	0507	尿比重 1A030-0000-001-903		2	冷蔵	1～2		屈折計法	1.006～1.022		腎機能障害 尿崩症
	0513	尿潜血 1A100-0000-001-911		2	冷蔵	1～2		試験紙法	(－)		糸球体腎炎 尿路感染症 尿路結石症 尿路腫瘍
	0508	尿ケトン体定性 1A060-0000-001-911		2	冷蔵	1～2		試験紙法	(－)		糖尿病 嘔吐 下痢
	0503	尿ウロビリノゲン定性 1A040-0000-001-911		2	冷蔵	1～2		試験紙法	正常		溶血性貧血 肝炎
	0505	尿ビリルビン定性 1A055-0000-001-911		2	冷蔵	1～2		試験紙法	(－)		肝細胞性黄疸 肝内胆汁うっ滞 閉塞性黄疸
	0501	尿蛋白定性 1A010-0000-001-911		2	冷蔵	1～2		試験紙法	(－)		腎機能障害
	0502	尿糖定性 1A020-0000-001-911		2	冷蔵	1～2		試験紙法	(－)		糖尿病 腎性糖尿
	0509	尿蛋白定量 1A015-0000-001-271	尿5.0	2	冷蔵	1～2	7 尿糞	ピロガロールレッド法	mg/dL 10以下		腎機能障害 尿路感染症 前立腺肥大症 尿路結石症
	0510	尿糖定量 1A025-0000-001-272		2	冷蔵	1～2	9 尿糞	HK-UV法	mg/dL 20以下		糖尿病 腎性糖尿
	0536	尿沈渣（無染色） 1A105-0000-001-701	尿10.0	2	冷蔵	1～2	(27) ❷ 尿糞	鏡検法	個/HPF 赤血球：4以下 白血球：4以下		腎機能障害 尿路感染症 尿路結石症
	0511	尿沈渣（染色） 1A105-0000-001-735	尿10.0	2	冷蔵	1～2	(27+9) ❷ 尿糞	鏡検法	個/HPF 赤血球：4以下 白血球：4以下		

❶検体検査を行った場合は所定の判断料を算定できるものであるが、尿中一般物質定性半定量検査を実施した場合は、当該検査に係る判断料は算定できない。
尿中一般物質定性半定量検査とは、試験紙、アンプル若しくは錠剤を用いて検査する場合又は試験紙等を比色計等の機器を用いて判定する場合をいい、検査項目、方法にかかわらず、1回につき所定点数により算定する。
尿中一般物質定性半定量検査は当該検査の対象患者の診療を行っている保険医療機関内で実施した場合にのみ算定できるものであり、委託契約等に基づき当該保険医療機関外で実施された検査の結果報告を受けるのみの場合は算定できない。ただし、委託契約等に基づき当該保険医療機関内で実施された検査について、その結果が当該保険医療機関に対して速やかに報告されるような場合は、所定点数を算定できる。

❷注１　同一検体について当該検査と「D017」に掲げる排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定する。
注２　当該保険医療機関内で検査を行った場合に算定する。
注３　染色標本による検査を行った場合は、染色標本加算として、９点を所定点数に加算する。
(1)　尿沈渣（鏡検法）の所定点数は、赤血球、白血球、上皮細胞、各種円柱、類円柱、粘液系、リポイド、寄生虫等の無染色標本検査の全ての費用を含む。
(2)　尿沈渣（鏡検法）は、「D000」尿中一般物質定性半定量検査若しくは「D001」尿中特殊物質定性定量検査において何らかの所見が認められ、又は診察の結果からその実施が必要と認められて実施した場合に算定すること。
(3)　尿沈渣（鏡検法）は当該検査の対象患者の診療を行っている保険医療機関内で実施した場合にのみ算定できるものであり、委託契約等に基づき当該保険医療機関外で実施された検査の結果報告を受けるのみの場合は算定できない。ただし、委託契約等に基づき当該保険医療機関内で実施された検査について、その結果が当該保険医療機関に速やかに報告されるような場合は、所定点数により算定する。
(4)　尿路系疾患が強く疑われる患者について、診療所が尿沈渣（鏡検法）を衛生検査所等に委託する場合であって、当該衛生検査所等が採尿後４時間以内に検査を行い、検査結果が速やかに当該診療所に報告された場合は、所定点数を算定できる。

2 滅菌スピッツ

リコール（髄液）検査・精液検査

項目コード	検査項目	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
0549	**髄液一般** 1C990-0000-041-920	髄液2.0	2	冷蔵	1～2	62❶ 尿糞		外観：無色透明 比重：1.005～1.007 pH：7.2～7.6 細胞数：15/3以下（個/μL）	＊1	髄膜炎 脳炎 脳腫瘍
0550	**細胞分類** 1Z030-0000-040-920	髄液1.0	2	冷蔵	2～4	❶	ライトギムザ法			
0572	**髄液蛋白定量** 1C010-0000-041-271	髄液1.0	2	冷蔵	1～2	11 生Ⅰ	ピロガロールレッド法	mg/dL 10～45		髄膜炎 脳炎 クモ膜下出血 脳出血
1435	**髄液糖定量** 1C015-0000-041-272		2	冷蔵	1～2	11 生Ⅰ	HK-UV法	mg/dL 50～75		髄膜炎 糖尿病 脳腫瘍 脳出血
0558	**髄液クロール（Cl）** 3H020-0000-041-261	髄液0.3	2	冷蔵	1～2	11 生Ⅰ	電極法	mmol/L		髄膜炎
3552	**精液一般** 1Z992-0000-060-310	精液全量	2	冷蔵	1～3	70❷ 尿糞	鏡検法	×10^6/mL 精子濃度：16以上 % 精子正常形態率：4以上	避妊具での提出は不可。 潤滑剤等の汚染を避け、すみやかに提出してください。	男性不妊症 精子減少症 無精子症

❶髄液一般検査の所定点数には、外見、比重、ノンネアペルト、パンディ、ワイヒブロート等のグロブリン反応、トリプトファン反応、細胞数、細胞の種類判定及び蛋白、グルコース、ビリルビン、ケトン体等の定性半定量の検査等が含まれる。
❷精液一般検査の所定点数には、精液の量、顕微鏡による精子の数、奇形の有無、運動能等の検査の全ての費用が含まれる。

＊1　外観（色調）、比重、pH、細胞数を報告します。

2 滅菌スピッツ

	項目コード	検査項目	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
穿刺液（関節液・胸水・腹水）検査	5290	痛風と仮性痛風（痛風と偽痛風） 1Z505-0000-044-920	関節液1.0	2	冷蔵	2～3	50❶ 尿糞	偏光顕微鏡法			関節水腫 結晶性関節炎
	0562	関節液一般 1Z993-0000-044-920	関節液5.0	2	冷蔵	1～2			色調：淡黄色 混濁：(−)～(±) フィブリン：(−)～(±) 滴下：(++)～(+++) ムチン塊：(+++)	＊1	感染性関節炎 結晶性関節炎 関節リウマチ
	0561	胸水一般 1Z993-0000-042-920	胸水5.0	2	冷蔵	1～2	❷			＊2	胸膜炎 胸膜中皮腫 肺塞栓症 うっ血性心不全
	0576	腹水一般 1Z993-0000-043-920	腹水5.0	2	冷蔵	1～2	❷			＊2	肝硬変症 うっ血性心不全 ネフローゼ症候群 腹膜炎
	0550	細胞分類 1Z030-0000-040-920	穿刺液1.0	2	冷蔵	2～4	❷	ライトギムザ法			
	0577	蛋白定量 1Z010-0000-040-271	穿刺液1.0	2	冷蔵	1～2	11 生Ⅰ	屈折計法	g/dL		
	0578	糖定量 1Z015-0000-040-272		2	冷蔵	1～2	11 生Ⅰ	HK-UV法	mg/dL		
	0196	クロール（Cl） 3H020-0000-040-261	穿刺液0.3	2	冷蔵	1～2	11 生Ⅰ	電極法	mmol/L		

❶関節液検査については、関節水腫を有する患者であって、結晶性関節炎が疑われる者に対して実施した場合、一連につき１回に限り算定する。なお、当該検査と「D017」排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

❷胸水・腹水採取の所定点数には、採取及び簡単な液検査（肉眼的性状観察、リバルタ反応、顕微鏡による細胞の数及び種類の検査）の費用が含まれる。なお、塗抹染色顕微鏡検査を行った場合は、「D017」排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査により、血液化学検査を行った場合は、「D004」穿刺液・採取液検査のその他により、細胞診検査を行った場合は、「N004」細胞診により算定する。

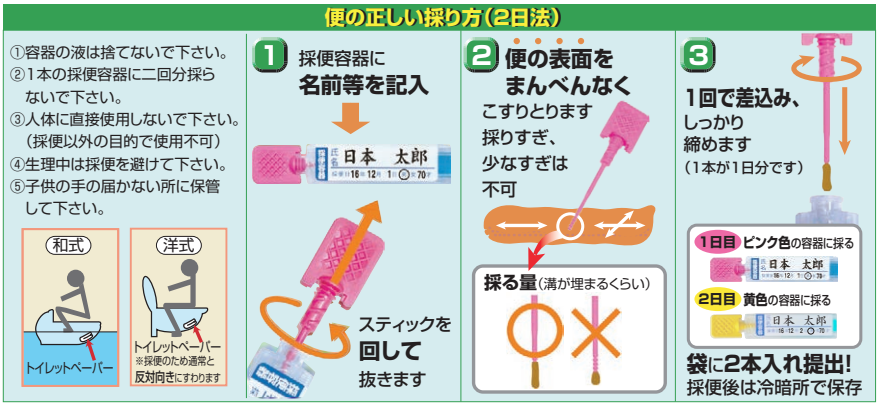
＊1　外観（色調、混濁、フィブリン）、比重、粘液含量（滴下）、粘液含量（ムチン塊）を報告します。
＊2　外観（色調、混濁、フィブリン）、比重、細胞数を報告します。

2 滅菌スピッツ

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
糞便検査	0662	虫卵塗抹 1B010-0000-015-701	糞便1g	10	冷蔵	1～2	20 尿糞	直接塗抹法	認めず		寄生虫症
	0663	虫卵（集卵法） 1B015-0000-015-701	糞便1g	10	冷蔵	1～2	15 尿糞	集卵法	認めず		
	0674	便虫体検出 1B020-0000-015-701	糞便1g	10	冷蔵	1～2	23 尿糞	鏡検法	認めず		
	0650	便中アメーバ検査 1B080-0000-015-735	糞便・肝膿瘍組織	10	37℃保温	1～3	67 微生物	鏡検法	認めず	＊1	アメーバ赤痢
	0668	便ヘモグロビン（定性） 1B040-0000-015-195	糞便	9	冷蔵	1～2	37 尿糞	金コロイド比色法	(－)	専用容器（採便容器）に採取し冷蔵保存 採取方法は下記参照	大腸癌 大腸ポリープ 潰瘍性大腸炎 クローン病 アメーバ赤痢
	2536	便ヘモグロビン（定量） 1B040-0000-015-195	糞便	9	冷蔵	1～2	41 尿糞	金コロイド比色法	ng/mL 100未満		
	4815	便Hb・Tf（定量） 1B042-0000-015-195	糞便	9	冷蔵	1～2	56 尿糞	金コロイド比色法	ng/mL Ｈｂ測定値：100未満 Ｔｆ測定値：　50未満		

＊1　アメーバ栄養型は低温に弱く、時間経過とともに自己崩壊するため、偽足を出して活発に運動している状態を検出するには、検体採取後37℃保存で２時間以内に鏡検する必要があります。
４時間までは微動が確認されますが、それ以降の検出は困難です。

便ヘモグロビンの採取方法



9 便ヘモグロビン

10 便検査用

	項目コード	検査項目	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
糞便検査	2167	アデノウイルス抗原 5F150-1410-015-190	糞便1g	10	冷蔵	1～2	60❶免疫	イムノクロマト法	（－）		急性胃腸炎 急性出血性膀胱炎 乳幼児下痢症
	3039	ロタウイルス抗原 5F610-1410-015-190	糞便1g	10	冷蔵	1～2	65❶免疫	イムノクロマト法	（－）		ロタウイルス性胃腸炎
	5184	便ＣＤ抗原・トキシン 5E110-0000-015-190	糞便1g	10	冷蔵	1～2	80免疫	イムノクロマト法	抗原　：（－） トキシンA/B：（－）		下痢症 偽膜性大腸炎
	4858	ノロウイルスRNA 5F630-1410-015-866	糞便2～3g（小指の先程度）	10	凍結	2～4		RT-PCR法	陰性		感染性胃腸炎

❶アデノウイルス抗原定性（糞便）とロタウイルス抗原定性（糞便）又は定量（糞便）を同時に行った場合は、主たる検査のみ算定する。

［5184］便ＣＤ抗原・トキシン　測定結果の判定

抗原	トキシンA/B	解　説
（＋）	（＋）	C.difficileのトキシン産生株の存在を示す
（－）	（－）	C.difficile感染症は否定的
（＋）	（－）	トキシン非産生株、もしくは低感度による偽陰性、両方の可能性を考慮する。 C.difficileの存在は確実なので、培養を実施し、培養コロニーを用いて、 トキシン産生能を確認することが勧められている。

10 便検査用

項目コード	検査項目・検査材料			容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	提出条件	備考
0601	一般細菌塗抹		培養・同定に準ずる 6A010-0000-099-704			1～3	67❶微生物	グラム染色	採取方法については P19～21 を参照してください。※09	糞便は受託不可
3626	真菌塗抹		皮膚・爪 6A105-0000-099-735	2	室温	1～3		KOH法		糸状菌を目的菌とする場合にご依頼ください。
0603	培養同定	口腔、気道又は呼吸器からの検体	喀痰 6B010-6001-061-742	40	冷蔵	4～5	180❷微生物	分離培地・増菌培地・目的菌に応じた選択分離培地及び確認培地を使用		常在菌の薬剤感受性は実施していません。
0604			咽頭 6B010-6001-064-742	30						
0605			口腔 6B010-6001-099-742	30						
0606			鼻汁 6B010-6001-063-742	30						
0611			鼻腔 6B010-6001-099-742	30						
0637			気管支洗浄液 6B010-6001-091-742	2						
0630			気道 6B010-6001-069-742	30						
0607		消化管からの検体	便 6B010-6002-015-742	10	冷蔵		200❷微生物			目的菌の指定がない場合は赤痢菌、サルモネラ菌の検査実施となります。
0608			胆汁 6B010-6002-054-742	2						
0609			胃液 6B010-6002-052-742	2						
0610			吐物 6B010-6002-090-742	2						
3544			大腸粘膜 6B010-6002-470-742	2						
0617		血液又は穿刺液	血液 6B010-6004-019-742	28	室温	4～12	225❷❸微生物			カルチャーボトル又は目的菌が髄膜炎菌、淋菌の場合は室温保存
0633			動脈血 6B010-6004-020-742	28						
0618			髄液 6B010-6004-041-742	2						
0619			腹水 6B010-6004-043-742	2	冷蔵					
0620			関節液 6B010-6004-044-742	2						
0621			胸水 6B010-6004-042-742	2						
0632			穿刺液 6B010-6004-040-742	2						
0613		泌尿器又は生殖器からの検体	尿 6B010-6003-001-742	2	冷蔵	4～5	190❷微生物			目的菌が淋菌の場合は室温保存
0614			膣分泌物 6B010-6003-067-742	30						
0628			頸管分泌物 6B010-6003-058-742	30						
0616			尿道膿 6B010-6003-086-742	2･30						
0631			精液 6B010-6003-060-742	2						
3545			帯下 6B010-6003-050-742	2						
3546			羊水 6B010-6003-047-742	2						
0625		その他の部位からの検体	眼脂 6B010-6005-066-742	30	冷蔵	4～5	180❷❸微生物			
0626			膿 6B010-6005-086-742	2･30						
0615			褥瘡 6B010-6005-099-742	2･30						
0629			菌株 6B010-6005-080-742							
0622			耳漏 6B010-6005-065-742	30						
0623			皮膚 6B010-6005-099-742	2		8～16				
0624			爪 6B010-6005-078-742	2						
0602			上記以外の材料 6B010-6005-099-742			4～5				
0642	簡易培養 6B010-0000-099-742		培養・同定に準ずる		冷蔵		60❷❹微生物			

❶❷❸❹次ページを参照してください。

2 滅菌スピッツ

10 便検査用

28 カルチャーボトル

30 シードスワブ

40 喀痰容器

	項目コード	検査項目	検査材料	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	提出条件	備考
一般細菌・薬剤	0646	細菌定量 6B205-0000-099-742	尿	2	冷蔵	4~5			採取方法についてはP19~21を参照してください。※09	
	0643	嫌気性培養 6B010-0000-099-743	培養・同定に準ずる	29	冷蔵	4~8	122❺(加算)微生物			培養同定との同時依頼が必須です。
	0644 0645 0648	感受性　1菌種 2菌種 3菌種 6C010-0000-099-762	培養・同定に準ずる			4~10	185 240 310 ❻微生物	平板ディスク1濃度法 Kirby-Bauer法 微量液体希釈法		薬剤名はP17～18参照

❶排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査
同一検体について当該検査と「D002」に掲げる尿沈渣（鏡検法）又は「D002-2」に掲げる尿沈渣（フローサイトメトリー法）を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定する。
関節液検査と当該検査を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
(1) 排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査は、尿、糞便、喀痰、穿刺液、胃液、十二指腸液、胆汁、膿、眼分泌液、鼻腔液、咽喉液、口腔液、その他の滲出物等について細菌、原虫等の検査を行った場合に該当する。
(2) 染色の有無及び方法の如何にかかわらず、また、これら各種の方法を2以上用いた場合であっても、1回として算定する。
(3) 当該検査と「D002」の尿沈渣（鏡検法）又は「D002-2」の尿沈渣（フローサイトメトリー法）を同一日に併せて算定する場合は、当該検査に用いた検体の種類を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
(4) 症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なる複数の部位又は同一部位の複数の箇所から検体を採取した場合は、主たる部位又は1箇所のみの所定点数を算定する。

❷細菌培養同定検査
ア 細菌培養同定検査は、抗酸菌を除く一般細菌、真菌、原虫等を対象として培養を行い、同定検査を行うことを原則とする。
イ 同定検査を予定して培養したものであれば、菌が陰性の場合であっても細菌培養同定検査「1」から「5」までの項により算定するが、あらかじめ培養により菌の有無のみを検索する場合は、検体の種類にかかわらず、簡易培養により算定する。
ウ 細菌培養同定検査は、検体ごとに細菌培養同定検査「1」から「5」までの所定点数を算定できるが、同一検体を用いて簡易培養を併せて行った場合は、簡易培養は算定できない。
エ 症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なった部位から、又は同一部位の数か所から検体を採取した場合は、主たる部位又は１か所のみの所定点数を算定する。ただし、血液を２か所以上から採取した場合に限り、血液又は穿刺液を２回算定できる。この場合、嫌気性培養加算及び質量分析装置加算は２回算定できる。
オ 各検体別の所定点数には、定量培養を行った場合を含む。

❸「3」における穿刺液とは、胸水、腹水、髄液及び関節液をいい、「5」の「その他の部位からの検体」とは、「1」から「4」までに掲げる部位に含まれない全ての部位からの検体をいい、例えば、皮下からの検体をいう。

❹簡易培養は、Dip-Slide法、簡易培地等を用いて簡単な培養を行うものである。
ウロトレース、ウリグロックスペーパー等の尿中細菌検査用試験紙による検査は、「D000」尿中一般物質定性半定量検査に含まれるものであり、別に算定できない。

❺「D018」細菌培養同定検査「1」から「6」までについては、同一検体について一般培養と併せて嫌気性培養を行った場合は、嫌気性培養加算として、122点を所定点数に加算する。嫌気性培養のみを行った場合は、「D018」細菌培養同定検査「1」から「6」までの所定点数のみ算定し、嫌気性培養加算は算定できない。

❻細菌薬剤感受性検査は、結果として菌が検出できず実施できなかった場合においては算定しない。

2 滅菌スピッツ

29 嫌気ポーター

	項目コード	検査項目	検査材料	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	提出条件	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
抗酸菌	0652	抗酸菌塗抹 6A205-0000-061-717	一般細菌に準ずる	一般細菌に準ずる	冷蔵	2～4	67❶微生物	チール・ネルゼン法		※09	
	0661	抗酸菌塗抹(集菌・蛍光法) 6A205-0000-061-718	一般細菌に準ずる	一般細菌に準ずる	冷蔵	2～4	50+35❶❷微生物	蛍光法		※09	
	0654	抗酸菌分離培養(小川法) 6B305-0000-061-746	一般細菌に準ずる	一般細菌に準ずる	冷蔵	4～8週	209❸微生物	小川培地使用	＊1	8週間の培養判定で打ち切ります。培養結果は4週、6週、8週それぞれについて報告します。※09	結核 非結核性抗酸菌症
	3563	抗酸菌液体培養(MGIT法) 6B305-0000-061-747	一般細菌に準ずる	一般細菌に準ずる	冷蔵	7～47	300❸微生物	酸素感受性蛍光センサー法		6週間の培養判定で打ち切ります。培養結果は2週、4週、6週それぞれ報告しますが、陽性時の報告は随時行います。※09	
	0657	抗酸菌薬剤感受性 6C105-0000-080-781	培養コロニー			4～8週	400❹微生物	比率法		培養で抗酸菌の発育が認められて実施。薬剤名は下記参照。※09	

❶排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査
同一検体について当該検査と「D002」に掲げる尿沈渣（鏡検法）又は「D002-2」に掲げる尿沈渣（フローサイトメトリー法）を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定する。
関節液検査と当該検査を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
(1) 排泄物、滲出物又は分泌物の細菌顕微鏡検査は、尿、糞便、喀痰、穿刺液、胃液、十二指腸液、胆汁、膿、眼分泌液、鼻腔液、咽喉液、口腔液、その他の滲出物等について細菌、原虫等の検査を行った場合に該当する。
(2) 染色の有無及び方法の如何にかかわらず、また、これら各種の方法を2以上用いた場合であっても、1回として算定する。
(3) 当該検査と「D002」の尿沈渣（鏡検法）又は「D002-2」の尿沈渣（フローサイトメトリー法）を同一日に併せて算定する場合は、当該検査に用いた検体の種類を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
(4) 症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なる複数の部位又は同一部位の複数の箇所から検体を採取した場合は、主たる部位又は1箇所のみの所定点数を算定する。
❷集菌塗抹法を行った場合には、集菌塗抹法加算として、35点を所定点数に加算する。
❸抗酸菌分離培養検査は、検体の採取部位が異なる場合であっても、同時に又は一連として検体を採取した場合は、1回のみ所定点数を算定する。
抗酸菌分離培養検査は、結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。
❹抗酸菌薬剤感受性検査は、直接法、間接法等の方法及び培地数にかかわらず、感受性検査を行った薬剤が4種類以上の場合に限り算定する。混合薬剤耐性検査においても、使われた薬剤が4種類以上の場合に限り算定する。

＊1　材料が血液の場合、容器5（血球用）での提出をお願いします。カルチャーボトルは不可。

抗酸菌薬剤感受性試験の検査対象となる抗菌薬

項目コード	日本化学療法学会制定略号	薬剤名	主な商品名（剤形）
4662	SM	ストレプトマイシン硫酸塩	硫酸ストレプトマイシン（注射用）
4663	PAS	パラアミノサリチル酸カルシウム	ニッパスカルシウム（顆粒）
4664 4665	INH	イソニアジド	イスコチン（注・錠・粉末）
4666	KM	カナマイシン硫酸塩	硫酸カナマイシン（注射液）
4671	EVM	エンビオマイシン硫酸塩	ツベラクチン（筋注）
4669	EB	エタンブトール塩酸塩	エサンブトール（錠）、エブトール（錠）
4670	RFP	リファンピシン	リファジン（カプセル）
4667	TH	エチオナミド	ツベルミン（錠）
4668	CS	サイクロセリン	サイクロセリン（カプセル）
4672	LVFX	レボフロキサシン	クラビット（錠・細粒）

2 滅菌スピッツ

5 血球用

40 喀痰容器

	項目コード	検査項目	検査材料	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	提出条件	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
抗酸菌	3651	抗酸菌同定(質量分析) 6B315-0000-099-299	培養コロニー			2～5	361 ❶❸ 微生物	MALDI-TOF-MS		所要日数には培養日数および増菌などにかかる日数は含まれません。 ※09	結核 非結核性抗酸菌症
	2339	結核菌群核酸検出(結核菌DNA-PCR) 6B620-0000-061-842	喀痰・体腔液・胃液・尿・気管支肺胞洗浄液など 単独検体	2 または 40	冷蔵	2～4	410❷ 微生物	TaqMan-PCR法	＊1	結核菌群の検出 死菌でも検出 ※09	結核
	2590	MAC核酸検出(マイコバクテリウム・アビウム・イントラセルラー)(MACDNA-PCR) 6B621-0000-061-842		2 または 40	冷蔵	2～4	421❸ 微生物	TaqMan-PCR法		M.アビウムとM.イントラセルラーの検出 死菌でも検出 ※09	M.アビウム M.イントラセルラー感染症

❶抗酸菌同定は、検査方法、培地数にかかわらず1回のみ所定点数を算定する。
❷結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。
❸マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー（MAC）核酸検出は、他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できる。「D021」抗酸菌同定と併せて実施された場合にあっては、主なもののみ算定する。

＊1　コンタミネーションの影響が大きく検査データに影響します。検体採取後に検体を分けると検体が汚染されてしまう可能性があります。採取にあたり取扱いに注意し、他項目との重複依頼を避けて単独検体にてご提出ください。検体は必ず1.0mL以上採取してください。材料が体液の場合、抗凝固剤には必ずクエン酸Naをご使用ください。ヘパリン添加および材料が血液、便およびシードスワブの場合、検査できません。

2 滅菌スピッツ

40 喀痰容器

	項目コード	検査項目	検査材料	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
その他	2499	ヘリコバクター・ピロリ培養 6B575-0000-070-745	胃生検組織	50	冷蔵	6～7	200❶微生物	微好気性培養		採取方法についてはP20を参照してください。 ※09	ヘリコバクター・ピロリ感染症 胃潰瘍 十二指腸潰瘍 胃炎 胃MALTリンパ腫 特発性血小板減少性紫斑病 早期胃癌の内視鏡的治療後
	1440	大腸菌抗原同定検査(大腸菌血清型別) 6B830-0000-015-121	培養コロニー			4～5	175❷免疫	免疫血清凝集反応		※09	病原性大腸菌感染症 食中毒
	5520	大腸菌ベロトキシン(Vero毒素) 5E115-0000-015-023 5E115-0000-015-062	糞便1～2g	10	冷蔵	3～4	184❸微生物	EIA法	(－)	※01	病原性大腸菌感染症 腸管出血性大腸菌感染症
	1454		培養コロニー			5～6		逆受身ラテックス凝集反応	(－)	VT1、VT2それぞれの結果を報告します。 ※09	
	5184	便CD抗原・トキシン 5E110-0000-015-190	糞便1g	10	冷蔵	1～2	80免疫	イムノクロマト法	抗原　：(－) トキシンA/B：(－)		下痢症 偽膜性大腸炎
	3649	CDトキシンB遺伝子 6B642-0000-015-862	糞便1g 単独検体	10	冷蔵 凍結不可	3～5	450❹微生物	リアルタイムPCR法	陰性	※02	クロストリジオイデス・ディフィシル感染症

❶ヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」(令和4年10月31日保医発1031第5号)に即して行うこと。
症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なった部位から、又は同一部位の数か所から検体を採取した場合は、主たる部位又は1か所のみの所定点数を算定する。

❷大腸菌血清型別は、「D018」細菌培養同定検査により大腸菌が確認され、及び「D023-2」その他の微生物学的検査の大腸菌ベロトキシン定性により毒素が確認又は腸管出血性大腸菌用の選択培地に菌の発育が確認され、並びに血清抗体法により大腸菌のO抗原又はH抗原の同定を行った場合に、使用した血清の数、菌種等に関わらず算定する。この場合において「D018」細菌培養同定検査の費用は別に算定できない。

❸大腸菌ベロトキシン定性
ア　大腸菌ベロトキシン定性は、「D018」細菌培養同定検査により大腸菌が確認され、病原性大腸菌が疑われる患者に対して行った場合に算定する。
イ　大腸菌ベロトキシン定性のうち、細菌培養を行うことなく糞便から直接検出する方法であってELISA法によるものについては、臨床症状や流行状況から腸管出血性大腸菌感染症が強く疑われる場合に限り、「D018」細菌培養同定検査を踏まえることなく行った場合にも算定できる。

❹クロストリジオイデス・ディフィシルのトキシンB遺伝子検出
別に厚生労働大臣が定める施設基準を満たす保険医療機関において実施した場合に算定する。
ア　クロストリジオイデス・ディフィシルのトキシンB遺伝子検出は、以下の(イ)から(ハ)をいずれも満たす入院中の患者に対して実施した場合に限り算定する。
(イ) クロストリジオイデス・ディフィシル感染症を疑う場合であって、「D012」感染症免疫学的検査のクロストリジオイデス・ディフィシル抗原定性において、クロストリジオイデス・ディフィシル抗原陽性かつクロストリジオイデス・ディフィシルトキシン陰性であること。
(ロ) 2歳以上でBristol Stool Scale 5以上の下痢症状があること。
(ハ) 24時間以内に3回以上、又は平常時より多い便回数があること。
イ　本検査は、関連学会の定める指針に沿って実施した場合に限り算定できる。なお、下痢症状並びに本検査を行う前のクロストリジオイデス・ディフィシル抗原及びクロストリジオイデス・ディフィシルトキシンの検査結果について診療録に記載すること。

[5184] 便CD抗原・トキシン　測定結果の判定

抗原	トキシンA/B	解　説
(＋)	(＋)	C.difficileのトキシン産生株の存在を示す
(－)	(－)	C.difficile感染症は否定的
(＋)	(－)	トキシン非産生株、もしくは低感度による偽陰性、両方の可能性を考慮する。 C.difficileの存在は確実なので、培養を実施し、培養コロニーを用いて、 トキシン産生能を確認することが勧められている。

10 便検査用

50 ヘリコバクター培養用

塗抹検査の報告表記

表　記	細菌 (1000倍鏡検)	白血球、上皮細胞 (1000倍鏡検)
(−)	認めず	認めず
(1+)	1視野　<1	全視野　<1〜数個
(2+)	1視野　1〜5	数視野　1
(3+)	1視野　6〜30	1視野　=1
(4+)	1視野　>30	1視野　>2

(参考　日本衛生検査所協会「細菌検査　塗抹・培養　ガイドライン」)

抗酸菌塗抹検査の報告表記

表　記	チール・ネルゼン染色 (1000倍鏡検)	蛍光染色 (200倍鏡検)	備考（相当するガフキー号数）
−	0/300視野	0/30視野	G0
±	1〜2/300視野	1〜2/30視野	G1
1+	1〜9/100視野	1〜19/10視野	G2
2+	>10/100視野	>20/10視野	G5
3+	>10/1視野	>100/1視野	G9

(参考　抗酸菌検査ガイド2020)

喀痰の品質評価について

一般細菌塗抹検査（材料：喀痰）をご依頼頂いた際に、検体の品質評価（Miller & Jones分類およびGeckler分類）をご報告します。検査結果を判断する際は、品質評価の結果をご参照ください。

下気道感染症（肺炎や気管支炎など）では、検査材料として喀痰が用いられますが、上気道や口腔内の常在菌が多量に混入していることがあり、喀痰の品質評価は、喀痰が検査に適しているかどうかを判断するために重要です。

Miller & Jones分類では、膿性痰と唾液の混入度合いを５段階で表記し、膿性部分が多いほど検査に適した材料になります。Geckler分類では、標本にて扁平上皮と多核白血球の個数を観察し６段階で表記します。G1、G2の検体は唾液成分を多く含み、喀痰の質は悪く適切な検体とは言えません。G4、G5の検体は唾液成分が少なくなり下気道由来の喀痰が適切に採取された良質の検体とされ、起炎菌の検出される可能性が高くなります。G6は、経気管吸引痰や好中球減少症の患者から採取された検体の場合には検査に適すると判断できます。

Miller & Jones分類（喀痰の肉眼的品質評価法）

表記	喀痰の性状
M1	唾液、完全な粘性成分のみの痰
M2	粘性痰のなかに少量の膿性痰を含む
P1	膿性部分が全体の１／３以下の痰
P2	膿性部分が全体の１～２／３の痰
P3	膿性部分が全体の２／３以上の痰

Geckler 分類（喀痰の顕微鏡下での品質評価法）

表記	細胞数（100倍鏡検　1視野あたり）	
	扁平上皮	多核白血球
G1	>25	<10
G2	>25	10〜25
G3	>25	>25
G4	10〜25	>25
G5	<10	>25
G6	<25	<25

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
性感染症関連検査	4605	淋菌核酸検出 6B610-0000-085-862 6B610-0000-001-862 6B610-0000-079-862	ぬぐい液	101	冷蔵(1年)	3~4	198 ❶❸ 微生物	TaqMan PCR法	検出せず	次ページ参照 ※06	淋菌感染症
	4933		初尿4.5	102							
	4957		うがい液4.5	103	冷蔵(3ヵ月)						
	5142	クラミジア・トラコマチス核酸検出 5E021-0000-085-862 5E021-0000-001-862 5E021-0000-079-862	ぬぐい液	101	冷蔵(1年)	3~4	188 ❷❸ 微生物	TaqMan PCR法	検出せず	次ページ参照 ※06	クラミジア・トラコマチス感染症 肺炎 尿道炎 子宮頸管炎 咽頭炎
	4934		初尿4.5	102							
	4956		うがい液4.5	103	冷蔵(3ヵ月)						
	4805	淋菌/クラミジア・トラコマチス同時核酸検出 6B615-0000-085-862 6B615-0000-001-862 6B615-0000-079-862	ぬぐい液	101	冷蔵(1年)	3~4	262❸ 微生物	TaqMan PCR法	検出せず	次ページ参照 ※06	淋菌感染症 クラミジア・トラコマチス感染症(重複感染)
	4932		初尿4.5	102							
	4958		うがい液4.5	103	冷蔵(3ヵ月)						
	3621	トリコモナス/マイコプラズマ・ジェニタリウム同時核酸検出(TV/MG同時核酸検出) 6B643-0000-085-862 6B643-0000-001-862	ぬぐい液	101	冷蔵(1年)	3~4	350❹ 微生物	TaqMan PCR法	検出せず	次ページ参照 ＊1 ※06	腟トリコモナス感染症 マイコプラズマ・ジェニタリウム感染症
	3622		初尿4.5	102							

❶淋菌核酸検出
ア　淋菌核酸検出、「D012」感染症免疫学的検査の淋菌抗原定性又は「D018」細菌培養同定検査（淋菌感染を疑って実施するもの）を併せて実施した場合は、主なもののみ算定する。
イ　淋菌核酸検出は、DNAプローブ法、LCR法による増幅とEIA法による検出を組み合わせた方法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法、SDA法、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法又はTRC法による。淋菌核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体（尿検体を含む。）によるものである。なお、SDA法、PCR法による増幅と核酸ハイブリダイゼーション法による検出を組み合わせた方法、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法又はTRC法においては咽頭からの検体も算定できる。

❷クラミジア・トラコマチス核酸検出
ア　クラミジア・トラコマチス核酸検出と「D012」感染症免疫学的検査のクラミジア・トラコマチス抗原定性を併用した場合は、主なもののみ算定する。
イ　クラミジア・トラコマチス核酸検出は、PCR法、LCR法、ハイブリッドキャプチャー法若しくはTMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法若しくは核酸ハイブリダイゼーション法による同時検出法、SDA法又はTRC法により、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体により実施した場合に限り算定できる。

❸淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出
ア　淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出は、クラミジア・トラコマチス感染症若しくは淋菌感染症が疑われる患者又はクラミジア・トラコマチスと淋菌による重複感染が疑われる患者であって、臨床所見、問診又はその他の検査による病原微生物鑑別が困難なものに対して治療法選択のために実施した場合及びクラミジア・トラコマチスと淋菌の重複感染者に対して治療効果判定に実施した場合に算定できる。
ただし、「D012」感染症免疫学的検査のクラミジア・トラコマチス抗原定性、淋菌抗原定性、「D018」細菌培養同定検査（淋菌及びクラミジアによる感染を疑って実施するもの）、本区分のクラミジア・トラコマチス核酸検出又は淋菌核酸検出を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
イ　淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出は、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法、PCR法による同時増幅法及び核酸ハイブリダイゼーション法による同時検出法又はTRC法による。淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体（尿検体を含む。）によるものである。なお、TMA法による同時増幅法並びにHPA法及びDKA法による同時検出法、SDA法、PCR法による同時増幅法及び核酸ハイブリダイゼーション法による同時検出法又はTRC法においては咽頭からの検体も算定できる。

❹腟トリコモナス核酸及びマイコプラズマ・ジェニタリウム核酸同時検出
腟トリコモナス核酸及びマイコプラズマ・ジェニタリウム核酸同時検出は、以下のいずれかに該当する場合であって、リアルタイムPCR法により測定した場合に算定する。
ア　腟トリコモナス感染症を疑う患者であって、鏡検が陰性又は実施できないもの若しくはマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症を疑う患者に対して、治療法の選択を目的として行った場合。
イ　腟トリコモナス感染症又はマイコプラズマ・ジェニタリウム感染症の患者に対して、治療効果判定を目的として実施した場合。

＊1　ぬぐい液の検体採取部位は、膣または子宮頸管です。
同一検体で淋菌核酸検出（項目コード：4605、4933)、クラミジア・トラコマチス核酸検出（項目コード：5142、4934)または淋菌/クラミジア・トラコマチス同時核酸検出（項目コード：4805、4932)との重複依頼が可能です。

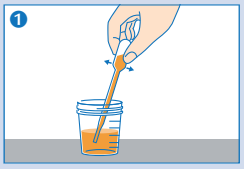
101 PCR専用容器:ぬぐい液

102 PCR専用容器:尿

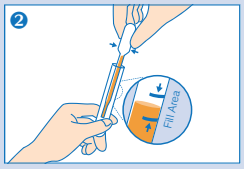
103 PCR専用容器:うがい液

検体の採取方法

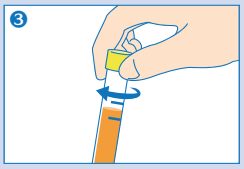
尿



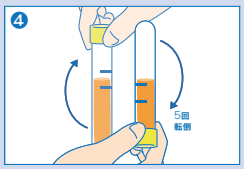
尿検体の採取
滅菌済み容器に初尿を採取します。滅菌済みスポイトを用いて、初尿をコバスPCRメディアに移します。
注意 初尿は採取後2～30℃で24時間以内にPCRメディアに移してください。



コバスPCRメディアに記載されている2つのラインの間に収まるように初尿を加えてください。



尿検体の保存
コバスPCRメディアの蓋をしっかりと閉めてください。



コバスPCRメディアを5回転倒混和させてください。

検体採取上の注意

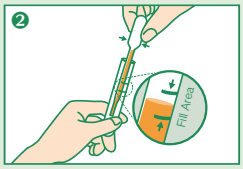
- 初尿はコバスPCRメディアに記載されている2つのラインの間に収まるように加えてください。
- 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られない事があります。
- 初尿は2～30℃で24時間以内にコバスPCRメディアに移してください。
  尿検体を保存したコバスPCRメディアは2～30℃で12ヶ月安定です。

一般的な注意

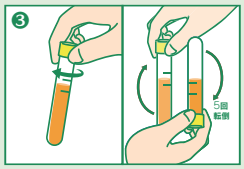
- 女性の尿を採取する前は消毒しないでください。
- 月経中の患者からは尿検体を採取しないでください。
- 最後の排尿から少なくとも1時間以上経過していることを確認してください。
- コバスPCRメディアの液体の飛散には十分ご注意ください。
- コバスPCRメディアは絶対に凍結させないでください。

うがい液

うがいの仕方
生理食塩水（日局方など）をコップに15～20mL入れてください。生理食塩水15～20mLを口に含み、顔を上に向けて10～20秒間、勢いよく"ガラガラ"とうがいを行います。
注意 口に含んで吐き出した液とうがい用容器に残した液を合わせてうがい液とします。



検体輸送液への懸濁
"うがい液"全量をうがい用容器に回収し、スポイトでコバスPCRメディア（尿・うがい用）に必要量添加します。
注意 "うがい液"はコバスPCRメディアに記載されている2つのラインの間に収まるように加えてください。



検体容器の保管
PCRメディアの蓋をしっかりと閉めてください。PCRメディアを5回転倒混和させてください。

検体採取上の注意

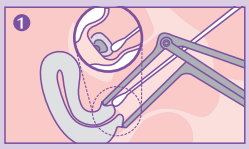
- うがい液はコバスPCRメディアに記載されている2つのラインの間に収まるように加えてください。
- 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られない事があります。

  うがい液検体を保存したコバスPCRメディアは2～30℃で12ヶ月安定です。
  うがい液をコバスPCRメディアに入れない場合は2～8℃で輸送してください。採取から10日以内にコバスPCRメディアに入れてください。

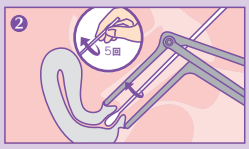
一般的な注意

- 検体採取前の食事・うがい・歯磨き・ガムを噛むことなどは避けてください。
- コバスPCRメディアの液体の飛散には十分ご注意ください。
- コバスPCRメディアは絶対に凍結させないでください。

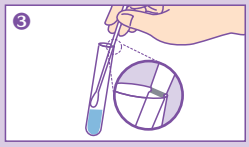
子宮頸管



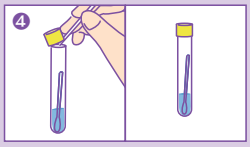
子宮頸部の粘液除去
スワブ検体採取セット付属の粘液除去用ドライスワブで子宮頸管とその周辺の過剰な粘液を充分拭い取ります。
注意 粘液を拭ったスワブは廃棄します。



子宮頸管検体の採取
付属されている検体採取用フロックスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向にそっと5回スワブを回します。（まわし過ぎないでください。）スワブを引き抜く際は膣の粘膜に触れないように注意してください。



子宮頸管検体の保存
コバスPCRメディアのキャップを開けます。採取したフロックスワブをコバスPCRメディアチューブに入れ、柄に付けられた黒い線を容器の線に合わせます。



コバスPCRメディアの容器の縁を利用して、キャップで黒い線をはさむようにして折ります。コバスPCRメディアのキャップをしっかりと閉めます。
注意 手元に残った折られた柄は廃棄してください。スワブの柄を折る際は絶対にはさみを使用しないでください。

検体採取上の注意

- コバスPCRスワブ検体採取セット付属の検体採取スワブ以外は使用しないでください。
- 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られない事があります。
- 粘液を十分除いてから検体を採取してください。
- コバスPCRメディアには検体を採取したスワブのみ入れてください。
  スワブを保存したコバスPCRメディアは2～30℃で12ヶ月安定です。

一般的な注意

- 子宮頸管検体を採取する前にスワブをコバスPCRメディアに浸さないでください。
- コバスPCRメディアの液体の飛散には十分ご注意ください。
- 検体を採取したスワブは速やかにコバスPCRメディアに入れてください。
- コバスPCRメディアは絶対に凍結しないでください。

検体採取容器

子宮頸管

◂スワブ（2本付）
子宮頸部の粘液除去用ドライスワブ（右）
子宮頸管検体の採取用フロックスワブ（左）

◂コバスPCRメディア

尿
うがい液

◂コバスPCRメディア
初尿・うがい液の採取には滅菌済みスポイトをご使用ください。

感受性試験実施薬剤と商品名

系統	項目コード	日本化学療法学会制定略号	抗菌薬名	主な商品名	経口	注射	外用その他
ペニシリン系	1501	PCG	ベンジルペニシリン（ペニシリンG）	ペニシリンGカリウム、バイシリンG	○	○	
	1502	ABPC	アンピシリン	ビクシリン	○	○	
	1504	AMPC	アモキシシリン	パセトシン、サワシリン、ワイドシリン	○		
	1512	PIPC	ピペラシリン	ペントシリン		○	
βラクタマーゼ阻害薬	1622	CVA/AMPC	クラブラン酸/アモキシシリン	オーグメンチン、クラバモックス	○		
	1656	SBT/ABPC	スルバクタム/アンピシリン	ユナシン-S、ユナスピン、スルバシリン		○	
	1666	TAZ/PIPC	タゾバクタム/ピペラシリン	ゾシン、タゾピペ		○	
	1629	SBT/CPZ	スルバクタム/セフォペラゾン	スルペラゾン、セフロニック		○	
セフェム系	1525	CEZ	セファゾリン	セファメジンα		○	
	1523	CET	セファロチン	コアキシン		○	
	1544	CEX	セファレキシン	ケフレックス、L−ケフレックス	○		
	1549	CCL	セファクロル	ケフラール、L−ケフラール	○		
	1635	FMOX	フロモキセフ	フルマリン		○	
	1532	CTM	セフォチアム	パンスポリン		○	
	1632	CXM-AX	セフロキシム　アキセチル	オラセフ	○		
	1540	CMZ	セフメタゾール	セフメタゾン		○	
	1659	CFPN-PI	セフカペン　ピボキシル	フロモックス	○		
	1653	CDTR-PI	セフジトレン　ピボキシル	メイアクトMS	○		
	1627	CFTM-PI	セフテラム　ピボキシル	トミロン	○		
	1645	CFDN	セフジニル	セフゾン	○		
	1637	CPDX-PR	セフポドキシム　プロキセチル	バナン	○		
	1538	CTRX	セフトリアキソン	ロセフィン		○	
	1533	CTX	セフォタキシム	クラフォラン、セフォタックス		○	
	1535	CMX	セフメノキシム	ベストコール、ベストロン		○	○
	1551	LMOX	ラタモキセフ	シオマリン		○	
	1534	CZX	セフチゾキシム	エポセリン			○
	1626	CFIX	セフィキシム	セフスパン	○		
	1537	CAZ	セフタジジム	セフタジジム		○	
	1655	CFPM	セフェピム	セフェピム塩酸塩		○	
	1654	CZOP	セフォゾプラン	ファーストシン		○	
＊1	1658	FRPM	ファロペネム	ファロム	○		
＊2	1553	AZT	アズトレオナム	アザクタム		○	
カルバペネム系	1624	IPM/CS	イミペネム/シラスタチン	チエナム、チエクール		○	
	1657	MEPM	メロペネム	メロペン		○	
	1668	BIPM	ビアペネム	オメガシン		○	
	1673	DRPM	ドリペネム	フィニバックス		○	
	1678	TBPM-PI	テビペネム/ピボキシル	オラペネム	○		
アミノグリコシド系	1560	GM	ゲンタマイシン	ゲンタシン		○	○
	1559	DKB	ジベカシン	パニマイシン		○	○
	1561	TOB	トブラマイシン	トブラシン、トービイ		○	○
	1562	AMK	アミカシン	アミカシン硫酸塩		○	
	1634	ISP	イセパマイシン	エクサシン		○	
	1642	ABK	アルベカシン	ハベカシン		○	

＊1　ペネム系　　＊2　モノバクタム系

系統	項目コード	日本化学療法学会制定略号	抗菌薬名	主な商品名	経口	注射	外用その他
マクロライド系	1572	EM	エリスロマイシン	エリスロシン	○	○	
	1575	JM	ジョサマイシン	ジョサマイ	○		
	1643	RXM	ロキシスロマイシン	ルリッド	○		
	1664	AZM	アジスロマイシン	ジスロマック	○	○	○
	1644	CAM	クラリスロマイシン	クラリス、クラリシッド	○		
＊3	1583	TC	テトラサイクリン	アクロマイシン、アクロマイシンV	○		○
	1586	MINO	ミノサイクリン	ミノマイシン	○	○	
	1585	DOXY	ドキシサイクリン	ビブラマイシン	○		
＊4	1587	CP	クロラムフェニコール	クロロマイセチン、クロマイ	○	○	○
キノロン系	1651	LVFX	レボフロキサシン	クラビット	○	○	○
	1599	NFLX	ノルフロキサシン	バクシダール	○		○
	1621	OFLX	オフロキサシン	タリビッド	○		○
	1633	CPFX	シプロフロキサシン	シプロキサン	○	○	
	1669	PZFX	パズフロキサシン	パシル、パズクロス		○	
	1638	TFLX	トスフロキサシン	オゼックス、トスキサシン	○		○
	1639	LFLX	ロメフロキサシン	バレオン、ロメフロン	○		○
	1670	PUFX	プルリフロキサシン	スオード	○		
	1674	MFLX	モキシフロキサシン	アベロックス、ベガモックス	○		○
	1675	GRNX	ガレノキサシン	ジェニナック	○		
	1677	STFX	シタフロキサシン	グレースビット	○		
＊5	1577	LCM	リンコマイシン	リンコシン	○	○	
	1578	CLDM	クリンダマイシン	ダラシン、ダラシンS、ダラシンT	○	○	○
ポリペプチド系	1589	CL	コリスチン	コリマイシン、メタコリマイシン、オルドレブ	○	○	
	1590	PL	ポリミキシンB	硫酸ポリミキシンB	○		
	1592	VCM	バンコマイシン	バンコマイシン	○	○	○
	1661	TEIC	テイコプラニン	タゴシッド		○	
その他	1593	ST	スルファメトキサゾール - トリメトプリム	バクタ、バクトラミン、ダイフェン	○	○	
	1602	FOM	ホスホマイシン	ホスミシン、ホスミシンS	○	○	○
	1662	MUP	ムピロシン	バクトロバン			○
	1582	RFP	リファンピシン	リファジン	○		
	1672	LZD	リネゾリド	ザイボックス	○	○	
	1679	DAP	ダプトマイシン	キュビシン		○	
	1681	TGC	チゲサイクリン	タイガシル		○	

＊3　テトラサイクリン系　　＊4　クロラムフェニコール系　　＊5　リンコマイシン系

細菌検査材料　検体の採取方法

材　料	容器・検体量	保　存	採取方法
喀痰	40 喀痰容器 2～5mL以上	冷蔵	患者様に採取方法を十分に説明してください。 口腔および上気道の汚染を最小限度にとどめるために3～5回以上うがいをしてから採取してください。（歯磨き後が望ましい） 一般的に望ましいのは早朝起床後に採取された痰です。下気道感染症において膿性痰や粘液性の濃い痰は起炎菌の検査に適しています。唾液性や血液凝固物は一般に検査材料として不適です。 検査精度向上のため、喀痰のスワブでの提出はおすすめできません。
咽頭分泌物 鼻腔分泌物 副鼻腔分泌物	30 シードスワブ 	冷蔵 ※トリコモナス原虫、淋菌検査の場合は室温で保存	病変部を滅菌スワブで強くこすり分泌物を採取し、病変部以外には触れないようにして提出してください。 百日咳を疑う場合は前鼻孔から滅菌スワブを挿入し鼻咽腔粘液を採取してください。 ジフテリア菌の検査は偽膜を採取してください。
耳漏			病変部を滅菌スワブで強くこすり、十分に膿を浸み込ませて提出してください。
膣分泌物			外陰部を消毒後、膣鏡を挿入し滅菌スワブで採取してください。
外陰部			外陰部は正常でも細菌が多数存在するため膿、苔状物を目標に材料を採取してください。
子宮分泌物			膣洗浄を十分に行い子宮膣部をよく消毒し、子宮内容採取器を用いて採取してください。
尿道分泌物			排尿後少なくとも1時間以上経過後採取してください。 男性：尿道口を消毒し滅菌ガーゼでよく拭き取った後、尿道圧搾をして分泌物を圧出し採取してください。 女性：尿道口を消毒し滅菌ガーゼでよく拭き取った後、膣を通じて尿道の圧迫とマッサージを行い分泌物を採取してください。
結膜膿分泌物			滅菌スワブでぬぐい取り、提出してください。滅菌ガーゼ、滅菌綿球で採取された場合は、嫌気ポーターを使用してください。
開放性膿瘍		冷蔵	病巣周囲を清拭、消毒し病変部を滅菌綿棒で軽く拭って表面の膿や分泌物を除去した後、新鮮な膿または滲出液を滅菌スワブで採取してください。
非開放性膿瘍		冷蔵	穿刺部位を十分に消毒し、注射器を用いて空気を混入させないように注意して吸引し出来るだけ多量に採取してください。容器を検体で満たせる量が採取できない場合は嫌気ポーターに移して速やかに提出してください。
糞便	10 便検査用 	冷蔵	糞便中に膿、粘液、血液があればその部分を採取し速やかに提出してください。病原性嫌気性菌を疑う場合は嫌気ポーターを使用してください。 排泄便が得られない場合は、シードスワブキットの綿棒を肛門から約5cm挿入して十分に便を浸み込ませて培地に穿刺してください。
血液	28 カルチャーボトル 1セット20mL ［好気用10mL 嫌気用10mL］	室温 ※冷蔵保存は不可	穿刺部位の皮膚を厳重に消毒してください。発熱の初期に検出率が高いことからこの時期に採血してください。 採血部位は通常、肘正中静脈から行ってください。（動脈血と静脈血で検出率に大きな差はありません。） 検出率の向上および検出菌が汚染菌か否かの判断のために、2セット採血が推奨されています。 2セット採取する場合は、右腕と左腕のように部位を変えて採血してください。 1回の採血量は20mLで好気用ボトルと嫌気用ボトルに各々10mLずつ入れてください。 採血量が十分でない場合は好気用ボトルを優先して接種してください。 血液接種後はボトルの内容をよく混和してください。

材　料	容器・検体量	保　存	採取方法
胃粘膜	50 ヘリコバクター培養用 	冷蔵	内視鏡で採取された胃粘膜を滅菌されたピンセットでヘリコポーターに入れて、指定された線まで胃粘膜を押し込んでください。ヘリコバクターは非常に死滅しやすいため、胃粘膜を採取後のヘリコポーターは必ず冷蔵保存してください。
尿	2 滅菌スピッツ 1mL以上 （淋菌、抗酸菌を目的とする場合は10mL以上）	冷蔵 ※淋菌検査の場合は室温保存	患者様に採取方法を十分に説明してください。（特に女性） 雑菌の混入を防ぐため尿道口を消毒し、早朝1回目の中間尿を採取してください。 抗生剤投与中であれば、一時中止または次回投与前に採取してください。 淋菌を目的とする場合は、初尿を採取してください。
髄液 胸水 腹水 関節液	2 滅菌スピッツ 1mL以上 （抗酸菌を目的とする場合は10mL以上）	冷蔵 ※化膿性髄膜炎を疑う場合は寒冷にさらされないように保温	穿刺部位の消毒を十分に行い、採取後速やかに提出してください。 嫌気性菌を疑う場合は嫌気ポーターの使用または容器を検体で満たして提出してください。
胆汁	2 滅菌スピッツ 5～10mL	冷蔵	口腔内を十分うがいさせ、十二指腸液ゾンデを使用し採取してください。 （A，B，C胆汁） 嫌気性菌を疑う場合は嫌気ポーターの使用または容器を検体で満たして提出してください。
カテーテル先端	2 滅菌スピッツ 先端部分5～6cm	冷蔵	抜去前に刺入部周囲の皮膚を十分に消毒してください。 カテーテルの体外側を上方に保持しながら周囲の皮膚に触れないよう滅菌ピンセットでカテーテルを引き抜き皮内走行部～血管内先端部までを無菌的に切り取り、滅菌容器に入れてください。 長いものは皮内走行部と血管内先端部の5～6cmをそれぞれ無菌的に切り取り滅菌容器に入れてください。
皮膚 爪 毛髪	2 滅菌スピッツ 	室温	病変部位を70%アルコールで清拭してください。 皮膚：病変部位の皮膚をピンセットで掻き取り採取してください。 水疱は疱膜を切り取り採取してください。綿棒での採取は避けてください。 爪　：感染部をハサミで切り取り提出してください。 毛髪：毛髪を抜き、皮膚病変部の角質層を掻き取り採取してください。
婦人科材料	123 トリコモナス培養用 	室温 ※冷蔵保存は不可	外陰部を消毒後、膣鏡を挿入し滅菌綿棒で採取してください。 採取した滅菌綿棒をトリコモナス専用培地の底まで入れてください。

喀痰の採取法

①採取前に歯磨き、うがいをします。

②少量の水を飲みます。

③鼻から息を吸います。
（ゆっくりとおなかを膨らませる）

③～④を
４～５回繰り返す

④口をすぼめて、息を吐きます。
（ゆっくりとおなかをへこませる）

⑤大きく深呼吸した後、
強く咳ばらいをします。

⑥なるべく多くの喀痰をとります。

血液培養採血時の皮膚の消毒方法

①血液培養ボトルのプラスチックキャップをはずします。

②アルコールでゴム栓部分を消毒します。

③採血部位をアルコール綿で広範囲に消毒します。
皮脂や汚れを取り除き、消毒効果を向上させます。

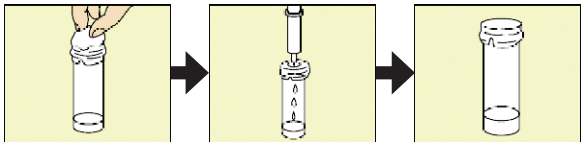
④0.5%以上のクロルヘキシジンアルコールまたは10%ポビドンヨードを塗布し、作用時間を十分に保ちます。クロルヘキシジンアルコールは30秒、ポビドンヨードは２分作用させます。

⑤採血を行います。原則的に異なる２ヶ所から１セットずつ採血します。

⑥ボトルに適量の血液を注入します。好気用ボトル、嫌気用ボトルに８～10mLが適量です。注入後は、ボトル内で凝固しない様に静かに転倒混和して下さい。

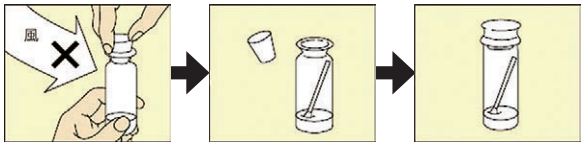
嫌気ポーターへの採取法

A. 液状検体の場合（胸水、腹水、尿、穿刺液など）



消毒用アルコール綿などを用いて穿刺部を消毒する。
消毒液が完全に乾燥してから注射針を刺し、検体を注入する。
冷蔵保存する。

B. 固形状検体の場合（便、膿、組織など）



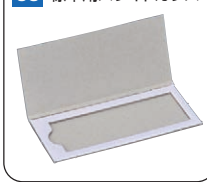
容器は立てたままの状態で注意深くゴムキャップを外す。（無風状態が理想）
速やかに（５秒以内）検体を入れる。
直ちにゴムキャップをかぶせて栓をする。

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
血液形態・機能検査	0401	赤血球数(RBC) 2A020-0000-019-301	血液2.0 (EDTA-2K加)	5	冷蔵	1~2	21❶ 血液	シースフローDC検出方式	$10^4/\mu L$ M:400~560 F:360~480	凝固検体不可 溶血検体不可 採血後 速やかに提出	各種貧血 赤血球増加症 水血症 脱水
	0402	白血球数(WBC) 2A010-0000-019-301		5	冷蔵	1~2		半導体レーザーを用いたフローサイトメトリー法	$10^2/\mu L$ M:39~98 F:35~91		感染症(炎症) 心筋梗塞 白血病 敗血症
	0403	血色素量(Hb) 2A030-0000-019-301		5	冷蔵	1~2		SLS ヘモグロビン法	g/dL M:13.0~17.0 F:11.6~15.6		脱水 各種貧血 赤血球増加症 水血症
	0404	ヘマトクリット(Ht) 2A040-0000-019-301		5	冷蔵	1~2		シースフローDC検出方式	% M:39.0~51.0 F:34.0~46.0		
	0407	血小板数(PLT) 2A050-0000-019-301		5	冷蔵	1~2		シースフローDC検出方式	$10^4/\mu L$ 13.0~35.0		感染症 骨髄増殖性疾患 再生不良性貧血 白血病
	0408	網赤血球数(RET) 2A110-0000-019-309		5	冷蔵	1~2	12 血液	半導体レーザーを用いたフローサイトメトリー法	‰ M:6~19 F:5~20		再生不良性貧血 溶血性貧血 骨髄異形成症候群 貧血　赤芽球癆
	0431	好酸球数 2A090-0000-019-301		5	冷蔵	1~2	17❷ 血液	白血球数と白血球分類での計算法	個/μL 70~440		アレルギー疾患 好酸球増加症 寄生虫・原虫疾患
	0406	血液像(Hm) 2A160-0000-019-301	血液2.0 (EDTA-2K加)	5	冷蔵	1~2	15❷❸ 血液	半導体レーザーを用いたフローサイトメトリー法	% 好中球 40.0~70.0 桿状核球 2.0~10.0 分葉核球 38.0~67.0 好酸球 0.0~8.0 好塩基球 0.0~2.0 リンパ球 20.0~50.0 単球 2.0~9.0		白血病 感染症 アレルギー疾患
	1317 1318 1319	特殊染色(末梢血) PAS染色 2A200-0000-034-477 鉄染色 2A240-0000-034-529 エステラーゼ染色 2A190-0000-034-614 ペルオキシターゼ染色 2A230-0000-034-615	スライド標本 各2~3枚	53	室温	3~5	各37(加算)❹ 血液	鏡検法		休日前日不可 採血後 速やかに標本作成して提出	白血病 鉄芽球性貧血
	0433	末血ALP染色 (NAPスコア) 2A180-0000-034-612	スライド標本2~3枚 + 血液2.0 (EDTA-2K加)	53 + 5	室温(スライド) 冷蔵(血液)	3~5		鏡検法 (朝長法)	陽性率 M:60.5~99.5% F:67.5~99.5% 陽性指数 M:170~335点 F:189~369点		慢性骨髄性白血病 骨髄線維症 真性多血症
	0423	骨髄像(マルク) (BM-Hm) 2A170-0000-049-605	スライド標本 未固定 3~5枚	53	室温	6~8	788❸ 血液	鏡検法		採取後 速やかに標本作成して提出	白血病 多発性骨髄腫 再生不良性貧血
	1314 1315 1316 2170	特殊染色(マルク) PAS染色 2A200-0000-049-477 鉄染色 2A240-0000-049-529 エステラーゼ染色 2A190-0000-049-614 ペルオキシターゼ染色 2A230-0000-049-615	スライド標本 各2~3枚	53	室温	6~8	各60(加算)❺ 血液	鏡検法		休日前日不可 採取後 速やかに標本作成して提出	白血病 鉄芽球性貧血

❶末梢血液一般検査は、赤血球数、白血球数、血色素測定(Hb)、ヘマトクリット値(Ht)、血小板数の全部又は一部を行った場合に算定する。
❷同一検体について、好酸球数及び末梢血液像(自動機械法)又は末梢血液像(鏡検法)を行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。
❸末梢血液像(自動機械法)、末梢血液像(鏡検法)及び骨髄像の検査については、少なくともリンパ球、単球、好中球、好酸球、好塩基球の5分類以上の同定・比率計算を行った場合に算定する。
❹末梢血液像(鏡検法)と特殊染色を併せて行った場合は、特殊染色加算として、特殊染色ごとにそれぞれ37点を所定点数に加算する。
❺骨髄像と特殊染色を併せて行った場合は、特殊染色加算として、特殊染色ごとにそれぞれ60点を所定点数に加算する。

5 血球用

53 標本用スライドガラス



	項目コード	検査項目	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
その他	0410	**赤血球沈降速度（ESR）** 2Z010-0000-019-920	血液1.6 （クエン酸Na加）	31	冷蔵	2～3	(9) ❶ 血液	Westergren法	1時間値 mm M：10以下 F：15以下	＊1	膠原病 悪性腫瘍 ネフローゼ症候群 慢性肝炎 肝硬変症 多発性骨髄腫 炎症性疾患
	0184	**ヘモグロビンF（胎児ヘモグロビン）** 2C010-0000-019-204	血液1.0 （NaF加）	17	冷蔵	1～2	60 血液	HPLC法	% 2.0以下		再生不良性貧血 サラセミア 遺伝性高HbF症
	5183	**鼻汁喀痰中好酸球** 2A300-0000-094-603	スライド標本 未固定 1～2枚	53	室温	1～2	15 血液	鏡検法	（－）		アレルギー性鼻炎 気管支喘息 アレルギー性呼吸器疾患

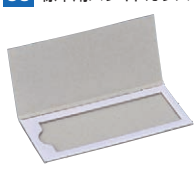
❶赤血球沈降速度（ESR）は当該検査の対象患者の診療を行っている保険医療機関内で実施した場合にのみ算定できるものであり、委託契約等に基づき当該保険医療機関外で実施された検査の結果報告を受けるのみの場合は算定できない。ただし、委託契約等に基づき当該保険医療機関内で実施された検査について、その結果が当該保険医療機関に速やかに報告されるような場合は、所定点数により算定する。

＊1　3.8%クエン酸ナトリウム0.4mLに血液1.6mLを正確に採取し、5～6回転倒混和後、当日中にご提出ください。

17 血糖用

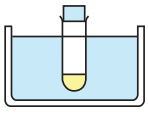
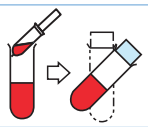
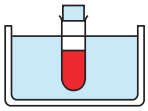
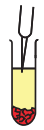
31 赤沈用

53 標本用スライドガラス



	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
血液凝固検査	0432	フィブリノーゲン(FIB) 2B100-0000-022-311	1種につき血漿0.5(容器1本にて3項目同時測定可) 速やかに遠心	23	(分離後)凍結	1~2	23 血液	トロンビン法	mg/dL 200~400	3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5~6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 凝固やフィブリン析出の場合は検査不能となります。	脳血管障害 心筋梗塞 DIC 無(低)フィブリノーゲン血症
	3497	プロトロンビン時間(PT) 2B030-0000-022-311		23	(分離後)凍結	1~2	18 血液	凝固時間測定法	PT : 9.6~13.1秒 PT活性 : 70~130% PT-INR : 0.85~1.15		外因系及び共通系凝固因子の先天性欠乏症及び分子異常症 重症肝障害 DIC 抗凝固療法のモニター
	3625	活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT) 2B020-0000-022-311		23	(分離後)凍結	1~2	29 血液	エラグ酸活性化法	秒 24.0~34.0		内因系及び共通系凝固因子の先天性欠乏症及び分子異常症 重症肝障害 DIC 抗リン脂質抗体症候群
	2361	血小板第4因子(PF4) 2B620-0000-022-023	血漿0.3 速やかに冷却遠心	27	(分離後)凍結(1ヵ月)	3~10	173 血液	EIA法	ng/mL 20以下	真空採血厳禁 必ず専用容器にて採取 下記参照のうえ操作は厳守のこと ※02	心筋梗塞 脳梗塞 血栓症 血小板減少症
	5359	β-トロンボグロブリン(β-TG) 2B600-0000-022-023	血漿0.3 速やかに冷却遠心	27	(分離後)凍結(1ヵ月)	3~10	171 血液	EIA法	ng/mL 50以下		

[2361] 血小板第4因子(PF4)、[5359] β-トロンボグロブリン(β-TG)の採取方法

採取方法	注意事項
 あらかじめ専用容器(27)を冷却しておいてください。	砕氷水の水面より専用容器中の液面が下になるようにしてください。角氷は使用しないでください。
できるだけ20ゲージ(19~21ゲージでも可)の針を用いたプラスティック注射器で血液3.0mLを採取してください。(採血にあたって、専用容器(27)を使用しての直接採血は絶対にしないでください。)	真空採血管、カテーテルおよび他の方法は使用しないでください。また、駆血帯も使用しないでください。10mL以上の採血は避け、出来るだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取してください。
 針を取って静かに専用容器(27)のフタを開け、血液2.7mLを静かに移し、ゆっくり2~3回転倒混和してください。	指定の専用容器以外は使用しないでください。 専用容器は振とうさせないでください。
 専用容器を速やかに砕氷と水の入ったラックに入れてください。	砕氷水の水面より専用容器中の血液の液面が下になるようにしてください。
以上の操作を2分以内に行ってください。	
砕氷水に15~30分間放置後、採取血液を2000Gで30分間、2~4℃で遠心分離してください。(右表は2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。) *遠心機回転数の計算式 $G=1.118\times10^{-5}\times r\times n^2$ r:遠心機のローター半径(cm) n:1分間あたりの回転数(rpm)	1時間以内に必ず冷却下で遠心分離してください。 換算表 半径(cm) 回転数(rpm) 半径(cm) 回転数(rpm) 10 4200 22 2800 12 3800 24 2700 14 3500 26 2600 16 3300 28 2500 18 3100 30 2400 20 3000
 上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで1項目につき0.3mL検体容器へ採取してください。血餅に近い部分からの採取は絶対に避けてください。(血漿の全量採取は避けてください。)検体は必ず凍結保存してください。(1ヵ月安定)	

23 3.2%クエン酸Na入り

27 β-TG、PF4

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
凝固因子検査	2351	凝固因子第2因子 2B350-0000-022-311	血漿0.4 速やかに遠心	23	(分離後)凍結(21日)	3～5	223血液	凝固時間法	% 75～135	＊1 ※02	先天性プロトロンビン欠乏症 ビタミンK欠乏症
	2352	凝固因子第5因子 2B370-0000-022-311	血漿0.4 速やかに遠心	23	(分離後)凍結(21日)	3～5	223血液	凝固時間法	% 70～135	＊1 ※02	第Ⅴ因子欠乏症
	2353	凝固因子第7因子 2B380-0000-022-311	血漿0.4 速やかに遠心	23	(分離後)凍結(21日)	3～5	223血液	凝固時間法	% 75～140	＊1 ※02	第Ⅶ因子欠乏症 ビタミンK欠乏症
	2354	凝固因子第8因子 2B390-0000-022-311	血漿0.3 速やかに遠心	23	(分離後)凍結	3～6	223血液	ヒト欠乏血漿による補正法	% 78.0～165.0	＊1 ※01	血友病A von Willebrand病 後天性血友病A
	2355	凝固因子第9因子 2B400-0000-022-311	血漿0.4 速やかに遠心	23	(分離後)凍結(21日)	3～5	223血液	凝固時間法	% 70～130	＊1 ※02	血友病B ビタミンK欠乏症 後天性血友病B
	2356	凝固因子第10因子 2B410-0000-022-311	血漿0.4 速やかに遠心	23	(分離後)凍結(21日)	3～5	223血液	凝固時間法	% 70～130	＊1 ※02	第Ⅹ因子欠乏症 ビタミンK欠乏症
	2357	凝固因子第11因子 2B420-0000-022-311	血漿0.4 速やかに遠心	23	(分離後)凍結(21日)	3～5	223血液	凝固時間法	% 75～145	＊1 ※02	第Ⅺ因子欠乏症
	2364	凝固因子第12因子 2B430-0000-022-311	血漿0.4 速やかに遠心	23	(分離後)凍結(21日)	3～5	223血液	凝固時間法	% 50～150	＊1 ※02	第Ⅻ因子欠乏症
	2385	凝固因子第13因子抗原量 2B440-0000-022-062	血漿0.3 速やかに遠心	23	(分離後)凍結	3～4	223血液	ラテックス凝集反応	% 70～140	＊1 ※01	第XIII因子欠乏症 IgA血管炎
	2358	凝固抑制因子検査(凝固因子インヒビター)第8因子 2B460-0000-022-311	血漿1.0 速やかに遠心	23	(分離後)凍結	3～6	144血液	Bethesda法	BU/mL 1.0 以下	＊1 ※01	血友病A 後天性血友病A 第Ⅷ因子インヒビター陽性 先天性血友病
	2359	凝固抑制因子検査(凝固因子インヒビター)第9因子 2B470-0000-022-311	血漿1.0 速やかに遠心	23	(分離後)凍結	3～6	144血液	Bethesda法	BU/mL 1.0 以下	＊1 ※01	血友病B 後天性血友病B 第Ⅸ因子インヒビター陽性 先天性血友病
	5423	vW因子抗原定量(フォン・ウィルブランド因子抗原定量) 2B450-0000-022-062	血漿0.2 速やかに遠心	23	(分離後)凍結(21日)	3～5	147血液	ラテックス凝集反応	% 50～155	＊1 ※02	出血傾向 von Willebrand病
	1134	vW因子活性(フォン・ウィルブランド因子活性) 2B480-0000-022-316	血漿0.3 速やかに遠心	23	(分離後)凍結	3～6	126血液	固定血小板凝集法	% 50.0～150.0	＊1 ※01	

＊1　3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。

23 3.2%クエン酸Na入り

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
血液凝固・線溶系検査	0427	プラスミノゲン活性(Plg) 2B260-0000-022-315	血漿0.5 速やかに遠心	23	(分離後)凍結	3～5	100 血液	発色性合成基質法	% 75～125	*1 ※02	先天性プラスミノゲン欠損症 DIC 血栓症 肝障害
	0442	アンチプラスミン活性(α2プラスミンインヒビター) 2B270-0000-022-315	血漿0.5 速やかに遠心	23	(分離後)凍結(1ヵ月)	3～5	128 血液	発色性合成基質法	% 85～115	*1 ※02	DIC 肝硬変症 出血傾向
	3312	アンチトロンビンⅢ(AT-Ⅲ) 2B200-0000-022-315	血漿0.5 速やかに遠心	23	(分離後)凍結	1～2	70 血液	合成基質法	% 80～130	*1	ATⅢ欠乏症 DIC 肝硬変症 静脈血栓症
	3313	血中総FDP 2B120-0000-022-062	血漿0.5 速やかに遠心	23	(分離後)凍結	1～2	80 血液	ラテックス免疫比濁法	μg/mL 5.0以下	*1	DIC 血栓症
	0430	尿FDP 2B120-0000-001-062	尿1.0 (蓄尿不可)	11	冷蔵	3～5	72 尿糞	ラテックス凝集法	μg/mL 0.1以下	専用容器に新鮮尿1.0mL採取し、容器のままご提出下さい。 ※01	DIC 血栓症 妊娠高血圧症候群 糸球体腎炎
	3503	可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC) 2B110-0000-022-062	血漿0.4 速やかに遠心	23	(分離後)凍結(21日)	3～5	93 血液	LPIA法	μg/mL 7未満 陰性	*1 ※02	DIC 血栓症
	4526	フィブリンモノマー複合体(FM定量) 2B110-0000-022-062	血漿0.3 速やかに遠心	23	(分離後)凍結	3～4	215❶ 血液	ラテックス免疫比濁法	μg/mL 6.1以下	*1 ※01	
	1204	D-Dダイマー定量 2B140-0000-022-062	血漿0.5 速やかに遠心	23	(分離後)凍結	1～2	127 血液	ラテックス免疫比濁法	μg/mL 1.0以下	*1	DIC 血栓症
	3627	トロンボモジュリン 2B730-0000-023-052	血清0.6	1	(分離後)凍結	3～9	204❷ 血液	CLEIA法	U/mL 12.1～24.9	 ※01	DIC 膠原病

❶フィブリンモノマー複合体は、DIC、静脈血栓症又は肺動脈血栓塞栓症の診断及び治療経過の観察のために実施した場合に算定する。
トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)、プロトロンビンフラグメントF1+2及びフィブリンモノマー複合体のうちいずれか複数を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
❷トロンボモジュリンは、膠原病の診断若しくは経過観察又はDIC若しくはそれに引き続いて起こるMOF観察のために測定した場合に限り算定できる。

＊1　3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。

1 プレイン容器

11 尿中FDP

23 3.2%クエン酸Na入り

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
血液凝固・線溶系検査	5495	α2プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PIC) 2B280-0000-022-062	血漿0.3 速やかに遠心	23	(分離後)凍結	3~4	150 血液	ラテックス凝集法	μg/mL 0.8以下	*1 ※01	DIC 肝硬変症 血栓症
	3249	トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体(TAT) 2B210-0000-022-052	血漿0.4 速やかに遠心	23	(分離後)凍結	3~4	171❶ 血液	CLEIA法	ng/mL 4.0未満	*1 ※01	静脈血栓症 DIC 急性心筋梗塞
	0456	プロテインC活性 2B700-0000-022-311	血漿0.4 速やかに遠心	23	(分離後)凍結	3~5	227 血液	凝固時間法	% 64~146	*1 ※02	プロテインC欠乏症 DIC ビタミンK欠乏症
	5215	プロテインC抗原量 2B700-0000-022-062	血漿0.3 速やかに遠心	23	(分離後)凍結	3~6	226 血液	LPIA法	% 70~150	*1 ※02	
	4963	プロテインS活性 2B710-0000-022-311	血漿0.4 速やかに遠心	23	(分離後)凍結	3~5	163 血液	凝固時間法	% M:67~164 F:56~126	*1 ※02	プロテインS欠乏症 ビタミンK欠乏症 静脈血栓症
	3502	プロテインS抗原量 2B710-0000-022-062	血漿0.2 速やかに遠心	23	(分離後)凍結(21日)	3~5	154 血液	ラテックス凝集反応	% M:73~137 F:59~143	*1 ※02	
	4575	ループスアンチコアグラント 5G501-0000-022-311	血漿1.0 速やかに遠心	23	(分離後)凍結(21日)	3~5	265❷ 免疫	希釈ラッセル蛇毒時間法	1.2以下	*2 ※02	抗リン脂質抗体症候群
	5050	HIT抗体 (血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体) 5G530-0000-022-062	血漿0.5 速やかに遠心	23	(分離後)凍結(2週)	3~4	390❸ 免疫	ラテックス凝集法	U/mL 1.0未満	HIT抗体(IgG、IgMおよびIgA)を測定し、その濃度をご報告しますが、免疫グロブリンの各クラス別の濃度報告は行いません。 *1 ※06	ヘパリン起因性血小板減少症

❶トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)、プロトロンビンフラグメントF1+2及びフィブリンモノマー複合体のうちいずれか複数を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
❷ループスアンチコアグラント定量及び同定性は、希釈ラッセル蛇毒試験法又はリン脂質中和法により、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として行った場合に限り算定する。
❸血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG抗体)、血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG抗体、IgM及びIgA抗体)及び血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体定性は、ヘパリン起因性血小板減少症の診断を目的として行った場合に算定する。

＊1　3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。
＊2　採血後、速やかに室温で1500G以上15分間遠心後、バフィーコートより5㎜以上うえから血漿を採取して凍結保存にてご提出ください。
血小板の混入は、測定結果に影響しますのでご注意ください。
※遠心器回転数の計算式
$G=1.118\times10^{5}\times r\times n^{2}$

r：遠心器のローター半径(cm)
n：1分間あたりの回転数(rpm)

23 3.2%クエン酸Na入り

	項目コード	検査項目		検査材料	保存(安定性)	所要日数	実施料 判断料	提出条件・備考
病理組織検査	0851	病理組織標本作製（一般病理）	1臓器	ホルマリン固定組織	室温	5~8	1臓器につき860❶（3臓器を限度）病理	病理組織容器でご提出ください。生検はカセットも利用できます。※29
	0852		2臓器					
	0854		3臓器					
	0853	標本判定		染色済標本	室温	4~6		※29
	0879	ブロック作製		ホルマリン固定組織	室温	4~6		※29
	0881	未染標本作製		パラフィンブロック（ホルマリン固定組織）	室温	4~6		用途によって使用するガラスが違うので使用目的の記載が必要です。※29
	0880	ＨＥ染色標本作製		未染標本スライド（ホルマリン固定組織）	室温	4~6		※29

❶・病理標本作製に当たって、３臓器以上の標本作製を行った場合は、３臓器を限度として算定する。
・リンパ節については、所属リンパ節ごとに１臓器として数えるが、複数の所属リンパ節が１臓器について存在する場合は、当該複数の所属リンパ節を１臓器として数える。
・病理組織標本作製の組織切片によるものについて、次に掲げるものは、各区分ごとに１臓器として算定する。
ア　気管支及び肺臓　　イ　食道　　ウ　胃及び十二指腸　　エ　小腸　　オ　盲腸　　カ　上行結腸、横行結腸及び下行結腸　　キ　Ｓ状結腸
ク　直腸　　ケ　子宮体部及び子宮頸部
・病理組織標本作製において、１臓器又は１部位から多数のブロック、標本等を作製した場合であっても、１臓器又は１部位の標本作製として算定する。
・病理組織標本作製において、悪性腫瘍がある臓器又はその疑いがある臓器から多数のブロックを作製し、又は連続切片標本を作製した場合であっても、所定点数のみ算定する。
・当該標本作製において、ヘリコバクター・ピロリ感染診断を目的に行う場合の保険診療上の取扱いについては、「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」（令和4年10月31日保医発1031第5号）に即して行うこと。
・免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製、「N000」病理組織標本作製又は「N001」電子顕微鏡病理組織標本作製のうち、いずれを算定した場合であっても、他の２つの項目を合わせて算定することができる。

●採取容器につきましては当所にて専用容器を準備しています。
●判定を実施する上でHE染色以外に各種染色が必要となった場合は、追加オーダーさせて頂くことがありますので、あらかじめご了承下さい。
●ブロック作製をご依頼される際、摘出臓器のままご提出される場合は、その切出し図と包埋の方向について専用依頼書に必ずご記載下さい。
●未染標本スライドで染色標本作製をご依頼される場合は、１染色２枚をご提出下さい。

41 病理組織容器

	項目コード	検査項目	検査材料	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	提出条件・備考
各種染色	1227	エストロゲンレセプター 7B020-7725-070-666	パラフィンブロックまたは未染色標本	室温	5～6	720❶❷❹病理	免疫抗体法	※29
	1226	プロゲステロンレセプター 7B020-7726-070-666			5～6	690❶❷❹病理		
	5976	HER-2タンパク 7B020-8757-070-666			5～6	690❷❹病理		
	0877	組織特殊染色	未染標本スライド(ホルマリン固定組織)		4～8			※29
	0876	免疫染色(免疫抗体法)	ホルマリン固定組織(パラフィンブロック、未染標本スライドも可)		6～8	1臓器につき400❷❸❹(3臓器を限度)病理		＊1 ※29

❶エストロジェンレセプター及びプロジェステロンレセプターの病理組織標本作製を同一月に実施した場合は、180点を主たる病理組織標本作製の所定点数に加算する。

❷免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製は、病理組織標本を作製するにあたり免疫染色を行った場合に、方法(蛍光抗体法又は酵素抗体法)又は試薬の種類にかかわらず、1臓器につき1回のみ算定する。ただし、HER2タンパクは、化学療法歴のある手術不能又は再発乳癌患者に対して、過去に乳癌に係る本標本作製を実施した場合であって、抗HER2ヒト化モノクローナル抗体抗悪性腫瘍剤の投与の適応を判定するための補助に用いるものとして薬事承認又は認証を得ている体外診断用医薬品を用いて、HER2低発現の確認により当該抗悪性腫瘍剤の投与の適応を判断することを目的として本標本作製を再度行う場合に限り、別に1回に限り算定できる（乳癌に係る初回の本標本作製を令和6年3月31日以降に実施した場合にあっては、令和8年5月31日までの間に限る）。なお、再度免疫染色が必要である医学的な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

❸確定診断のために4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対して、標本作製を実施した場合には、1,200点を所定点数に加算する。
「確定診断の為に4種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者」とは、原発不明癌、原発性脳腫瘍、悪性リンパ腫、悪性中皮腫、肺悪性腫瘍（腺癌、扁平上皮癌）、消化管間質腫瘍（GIST）、慢性腎炎、内分泌腫瘍、軟部腫瘍、皮膚の血管炎、水疱症（天疱瘡、類天疱瘡等）、悪性黒色腫、筋ジストロフィー又は筋炎が疑われる患者を指す。
これらの疾患が疑われる患者であっても3種類以下の抗体で免疫染色を行った場合は、当該加算は算定できない。
肺悪性腫瘍（腺癌、扁平上皮癌）が疑われる患者に対して1200点の加算を算定する場合は、腫瘍が未分化であった場合等HE染色では腺癌又は扁平上皮癌の診断が困難な患者に限り算定することとし、その医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に詳細に記載すること。なお、次に掲げるいずれかの項目を既に算定している場合には、当該加算は算定できない。
ア 「D004-2」悪性腫瘍組織検査の医薬品の適応判定の補助等に用いるもの（肺癌におけるEGFR遺伝子検査、ROS1融合遺伝子検査、ALK融合遺伝子検査、BRAF遺伝子検査（次世代シーケンシングを除く。）及びMETex14遺伝子検査（次世代シーケンシングを除く。）に限る。）
イ 「D004-2」悪性腫瘍組織検査の処理が複雑なもの（肺癌におけるBRAF遺伝子検査（次世代シーケンシング）、METex14遺伝子検査（次世代シーケンシング）及びRET融合遺伝子検査に限る。）
ウ 「D006-24」肺癌関連遺伝子多項目同時検査
エ 「N005-2」ALK融合遺伝子標本作製

❹免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製、「N000」病理組織標本作製又は「N001」電子顕微鏡病理組織標本作製のうち、いずれを算定した場合であっても、他の2つの項目を合わせて算定することができる。

＊1　免疫抗体法の染色結果につきましてその鑑別判定を必要とされる場合は、病理組織検査（項目コード：0851）を同時にご依頼ください。

組織特殊染色

染色法	目的
ヘマトキシリン・エオジン（HE）染色	一般染色
エラスチカ・ワンギーソン染色	弾性線維・膠原線維・筋線維
アザン染色	膠原線維・筋線維
マッソン・トリクローム染色	膠原線維・筋線維
過ヨウ素酸メセナミン（PAM）染色	腎糸球体
鍍銀染色（渡辺法）	細網線維
PAS 染色	グリコーゲン・粘液・真菌・アメーバ
アルシアン青染色	酸性粘液多糖類
ベルリン青染色	鉄（ヘモジデリン）
コンゴ赤染色	アミロイド
グロコット染色	真菌
チール・ネルゼン染色	抗酸菌
フォンタナ・マッソン染色	消化管銀還元細胞・銀還元性カルチノイド・メラニン細胞
ギムザ染色	組織内血液細胞・ヘリコバクターピロリ菌
ビクトリア青染色	弾性線維・HBs 抗原

免疫染色

TM 関連	CEA、AFP、CA19-9、CA125、NSE、HMB45 など
組織マーカー	上皮細胞膜抗原、ケラチン、ビメンチン、デスミン、S 100 蛋白、第Ⅷ因子関連抗原、SMA
免疫グロブリン及び補体	IgG、IgM、κ鎖、λ鎖
リンパ球関連	白血球共通抗原、Tリンパ球、Bリンパ球

＊抗体の入手が不可の場合もありますので、ご依頼の節はあらかじめご連絡下さい。

依頼上の留意事項

（1）検査材料の提出法

病理組織検査のご提出の際にはホルマリン固定組織、パラフィンブロック、未染標本スライド、または染色済標本でお願いします。

■10%ホルマリン固定組織

1）摘出した組織から必要な部分を切り出し、自家融解、乾燥を防ぐため、直ちに10%ホルマリン入り容器に入れて固定して下さい。
（10%ホルマリン入り容器は当所にて準備してございます。）
2）固定液は、10%ホルマリン液を使用し、組織の10倍を目安とし十分量を使用して下さい。
3）胃生検等の微小組織片をご提出の場合はろ紙等に貼り付け10%ホルマリン液に入れて下さい。
なお、複数個ご提出の際にはろ紙にナンバー等を鉛筆で記入するか、または採取部位（各ナンバー）ごとに10%ホルマリンの入った容器に入れて下さい。
4）一容器に一臓器（一種類の臓器）を入れて提出して下さい。
注１）組織を10%ホルマリン液に入れた日時を必ず依頼伝票（「採取月日」欄）に記入して下さい。
注２）次の組織を提出される際には、下記の点に注意して下さい。

組　織	注　意　点
消化管・胆嚢	薄い板に粘膜面を上にして、虫ピンでとめ、10%ホルマリン液に入れます。充分固定が行われたのち（約１日）上記方法にて提出して下さい。
肺	切り出した面の気管支断端から10%ホルマリン液を注入し、できるだけ肺胞をふくらませ空気を追い出したのちに組織を10%ホルマリン液に浸して下さい。充分固定が行われたのち（約１日）上記方法にて提出して下さい。
子宮・乳房・腎	子宮や大きい臓器などでは、固定が不十分となることが多いので、あらかじめ割面を入れてから固定して下さい。
胃・腸などのパンチバイオプシー（ろ紙につける場合）	生検材料の水分をよく取り除き、ろ紙の上に10秒程度乗せたのちに、そのまま10%ホルマリン液に浸けて下さい。（組織を乾燥させないよう充分注意して下さい。）

■パラフィンブロック

既に作製済みのパラフィンブロックが破損しないようガーゼなどで包みビニール袋等に入れて提出して下さい。

■未染標本スライド

未染標本スライドにより各種染色をご依頼される場合は、スライドガラスにナンバー等をご記入の上、切片が傷つかない様にして提出して下さい。

（2）依頼書及び容器ラベルの記入方法

病理組織検査のご提出の際は専用の「病理組織検査依頼書」及び容器を使用して下さい。
なお、依頼書及び容器ラベルには下記事項を必ず記入して下さい。

■依頼書

1）患者名、性別、年齢、生年月日
2）切除（採取）日、切除臓器名、切除数
3）臨床診断名、臨床経過、治療、臨床検査諸事項
4）前回実施の登録標本No.、残余材料とブロック、スライドの返却有無、至急報告の要・不要
5）婦人科疾患（膣スメア、女性乳腺疾患など）の場合は月経、妊娠の状態等を記入して下さい。
6）肺などの大きな組織を提出される場合は切り出し部位の指示をお願いします。

■容器ラベル

1）病院名、患者名、性別、年齢

（3）検査結果の報告

■病理組織検査報告

「病理組織検査報告書」にて報告致します。なお、判定に用いたHE染色標本も同封致します。
また、判定を実施する上で、HE染色以外に特殊染色が必要となった場合には、追加依頼させて戴くことがありますので、ご了承下さい。

■免疫染色検査および各種染色検査報告

検査結果は、ご依頼の染色済標本の返送をもって行います。
同時に陽性コントロール標本等をご希望の場合は、お問い合わせ下さい。

項目コード	検査項目	検査材料		検体量	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	染色法	提出条件・備考
0883	一般細胞診 7A010-0000-099-433	呼吸器	喀痰	塗抹標本（湿固定）2枚	冷蔵（ガラス標本は室温）	4～7※	1部位につき190❶❸病理	パパニコロウ	ティッシュにくるんだ喀痰や乾燥した喀痰は検査できません。※29
			気管支洗浄液	塗抹標本3枚（湿固定2枚乾燥固定1枚）				パパニコロウとＰＡＳまたはギムザ	※29
			気管擦過						
			肺穿刺など						
		泌尿器	尿						攪拌してから容器に7～8mL程度採取してご提出ください。※29
			カテーテル尿						
			腎嚢胞穿刺など						擦過の場合はスライドガラスに塗布してスプレー固定をしてください。液状検体も提出可能です。※29
		消化器	胆汁						
			胃液						
			膵液など						
		その他	胸水						容器に7～8mL程度採取してご提出ください。採取時に抗凝固剤（ヘパリン・クエン酸ナトリウム）を1滴加えてください。※29
			腹水						
			関節液						
			心嚢液						
			髄液						
			乳腺						擦過の場合はスライドガラスに塗布してスプレー固定をしてください。液状検体も提出可能です。※29
			リンパ節						
			甲状腺など						
0882	細胞診（婦人科） 7A020-0000-094-433	子宮膣部		塗抹標本（湿固定）1枚または70	冷蔵（ガラス標本は室温）	4～7※	1部位につき150(+45)❷❸病理	パパニコロウ	ガラス標本は必ずスプレー固定をしてください。※29
		子宮頸部							
		子宮内膜							
		膣内容							
0893	細胞診（肺癌集細胞法） 7A030-8920-061-433	喀痰（3日蓄痰）		32	室温	4～7※	190❶❸病理	パパニコロウ	※29
0894	細胞診（肺癌3日連続法） 7A010-1303-061-433	喀痰（3日連続）		39（3容器提出）	室温	4～7※	190×3❶❸病理	パパニコロウ	※29

❶穿刺吸引細胞診、体腔洗浄等によるものについて、過去に穿刺し又は採取し、固定保存液に回収した検体から標本を作製して、診断を行った場合には、液状化検体細胞診加算として、85点を所定点数に加算する。液状化検体細胞診加算は、採取と同時に作製された標本に基づいた診断の結果、再検が必要と判断され、固定保存液に回収した検体から再度標本を作製し、診断を行った場合に限り算定できる。採取と同時に行った場合は算定できない。
❷婦人科材料等によるものについて、固定保存液に回収した検体から標本を作製して、診断を行った場合には、婦人科材料等液状化検体細胞診加算として、45点を所定点数に加算する。婦人科材料等液状化検体細胞診加算は、採取と同時に行った場合に算定できる。なお、過去に穿刺又は採取し、固定保存液に回収した検体から標本を作製し診断を行った場合には算定できない。
❸同一又は近接した部位より同時に数検体を採取して標本作製を行った場合であっても、１回として算定する。
※指導医の判定が必要な場合（原則的にclassⅢａ以上）は通常所要日数より遅れることがあります。

2 滅菌スピッツ

32 サコマノ液入り喀痰容器

39 肺癌3日連続(柴田氏法)

40 喀痰容器

53 標本用スライドガラス

70 細胞診(婦人科C-R法)

■ 細胞診標本作製法

細胞診を行う上で最も大切なことは、良好な標本作製です。そのためには、新鮮な材料をできるだけ早く塗抹・固定しなければなりません。もし材料が長時間放置されたり、目的に合った塗抹・固定が素早く行われなければ、細胞は変性・膨化し、正確な判定が妨げられてしまいます。

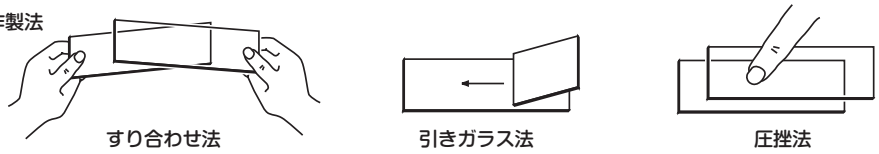
■ 検体採取から固定までの許容時間

材　　料	室　　温	冷蔵庫
喀痰	12時間	24時間
体腔液（胸水・腹水等）	2時間	12時間
十二指腸液、膵液、胆汁、髄液	採取後ただちに	
擦過物、穿刺吸引物	採取後ただちに	
尿	10～30分	2時間

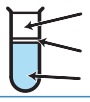
■ 提出時の注意事項

◎体腔液（胸水・腹水等）は採取時に抗凝固剤（ヘパリン・クエン酸ナトリウム等）を1滴加えてください。
◎液状検体（体腔液・尿・髄液・胆汁・洗浄液等）は、採取後直ちに遠心（1,500～2,000rpm約5分間）し、塗抹後、乾燥させることなく直ちに95%エタノール液に30分間固定又はサイトスプレー等で固定してください。
◎湿潤固定標本（塗抹後1～2秒以内に固定）は婦人科は1枚、婦人科以外は2枚作製してください。液状検体及びリンパ節やその他タッチスメヤの場合は、湿潤固定標本以外に乾燥固定標本（塗抹後急速冷風乾燥）ギムザ染色用を1枚作製し、提出してください。
◎95%エタノール固定の場合は、液から取り出し輸送する前にサイトスプレー等をたっぷり噴きかけてください。ポリエチレングリコールの皮膜が保護します。
◎原則としては塗抹済み標本を提出してください。
◎依頼書には、性別、年齢、採取部位（材料名）、臨床所見（婦人科の場合は最終月経も）を明記してください。

■標本作製法



すり合わせ法　引きガラス法　圧挫法

提出材料	標本作製法と固定法
喀痰	2枚のスライドガラスの間に「小豆」大の喀痰をはさみ、前後左右に押しつぶすようにして満遍なくのばしてください。（すり合わせ法） 癌細胞は血痰部や不透明白濁部、ゼリー状粘液部に多く含まれるので、その部分を塗抹してください。 塗抹後、直ちに湿固定を行ってください。
各種擦過物	擦過物は非常に乾燥しやすいので、塗抹と同時に湿固定を行ってください。
各種洗浄液	1,500rpm 5分間遠心後、沈渣物を塗抹してください。（すり合わせ法、引きガラス法）
各種針穿刺吸引（乳腺、肝、胆嚢、膵、甲状腺、肺、リンパ節等）	スライドガラスに静かに吹きだす。検体が微量の時はもう1枚のスライドガラスを合わせてからはがす。やや多目に得られた時や多量の場合は、引きガラス法（Wedge法）で塗抹してください。
液状検体	各種洗浄液と同様に1,500rpm 5分間遠心後、沈渣物を引きガラス法にて標本を作製してください。（引きガラス法） 血性の検体の場合：バフィーコート部分を塗抹してください。  上清（すてる） バフィーコート部分（この部分に有核細胞成分が多い） 血球成分
捺印標本	組織の割面はメスやカミソリを用いて、新しい面で捺印してください。
圧挫標本（脳組織、各種組織）	組織の小塊を2枚のスライドガラスの間にはさみ、親指で上から押し組織が伸展したら横にうかす様にして2枚のスリガラスをはなし、さらに厚い方を湿固定、薄い方を乾燥固定してください。（圧挫法）
婦人科	塗抹後直ちに湿固定してください。
喀痰集細胞法 蓄痰法（3日分）	蓄痰容器を提出してください。 （1日1回早朝痰を容器に喀出し、痰を入れたらフタをして、15～20回強く振って下さい。この操作を3日連続。 痰が多すぎるときは25目盛をこえないように注意してください。また、痰の出にくいときは容器等に熱湯を入れて、その容器の上で蒸気を吸いながら大きく深呼吸を5～6回すると痰は出やすくなります。）
3日連続法	3容器提出してください。 （1日1回早朝痰を容器に喀出し、痰を入れたらフタをして3日連続別々の容器に入れてください。また、痰の出にくいときは容器等に熱湯を入れて、その容器の上で蒸気を吸いながら大きく深呼吸を5～6回すると痰は出やすくなります。）

喀痰集細胞法、喀痰3日連続法をご依頼の際は当所の専用の容器を使用してください。

細胞診検査　判定基準

■ 検査結果（クラス判定及びABC判定）

クラス判定

5段階分類	3段階分類	判定内容
クラスⅠ	陰　性 【Negative】	正常
クラスⅡ		良性異型
クラスⅡR		良性異型であるが再検を希望
クラスⅢa	疑陽性 【Suspicious】	境界病変
クラスⅢ		
クラスⅢb		
クラスⅣ	陽　性 【Positive】	悪性を強く疑う
クラスⅤ		悪性

ABC判定（喀痰）

判定	細胞所見	指導区分
A	喀痰中に組織球を認めない	材料不適、再検査
B	正常上皮細胞のみ 基底細胞増生 軽度異型扁平上皮細胞 線毛円柱上皮細胞	現在異常を認めない 次回定期検査
C	中等度異型扁平上皮細胞、又は核の増大や濃染を伴う円柱上皮細胞	再塗抹または6ヵ月以内の再検査
D	高度（境界）異型扁平上皮細胞、又は悪性腫瘍が疑われる細胞を認める	直ちに精密検査
E	悪性腫瘍細胞を認める	

■ 従来のクラス分類（日母分類）とベセスダシステム2001準拠表記の対応表

細胞診結果　扁平上皮系

	ベセスダシステム 結　果	ベセスダシステム 略語	推定される 病変	従来の クラス分類	英語表記	運　　用
標本の適否	適正	適正		判定可能		
	不適正	See below		判定不能		再検査
細胞診判定	1)陰性	NILM	非腫瘍性所見、炎症、微生物	Ⅰ、Ⅱ	Negative for intraepithelial lesion or malignancy	異常なし：定期検査
	2)意義不明な異型扁平上皮細胞	ASC-US	軽度扁平上皮内病変疑い	Ⅱ-Ⅲa	Atypical squamous cells of undetermined significance（ASC-US）	要精密検査： ①HPV検査による判定が望ましい 陰性：1年後に細胞診、HPV併用検査 陽性：コルポ、生検 ②HPV検査非施行 6ヵ月以内細胞診検査
	3)HSILを除外できない異型扁平上皮細胞	ASC-H	高度扁平上皮内病変疑い	Ⅲa-Ⅲb	Atypical squamous cells cannot exclude HSIL（ASC-H）	要精密検査：コルポ、生検
	4)軽度扁平上皮内病変	LSIL	HPV感染 軽度異形成	Ⅲa	Low grade squamous intraepithelial lesion	
	5)高度扁平上皮内病変	HSIL	中等度異形成 高度異形成 上皮内癌	Ⅲa Ⅲb Ⅳ	High grade squamous intraepithelial lesion	
	6)扁平上皮癌	SCC	扁平上皮癌	Ⅴ	Squamous cell carcinoma	

細胞診結果　腺細胞系

	ベセスダシステム 結　果	ベセスダシステム 略語	推定される 病変	従来の クラス分類	英語表記	取 扱 い
細胞診判定	7)異型腺細胞	AGC	腺異型または腺癌疑い	Ⅲ	Atypical glandular cells	要精密検査： コルポ、生検、頸管及び内膜細胞診または組織診
	8)特定不能な異型腺細胞	AGC-NOS	特定不能な異型腺細胞	Ⅲa	Atypical glandular cells not otherwise specified	
	9)腫瘍性を示唆する異型腺細胞	AGC-favor neoplastic	腫瘍性を示唆する異型腺細胞	Ⅲb	Atypical glandular cells favor neoplastic	
	10)上皮内腺癌	AIS	上皮内腺癌	Ⅳ	Adenocarcinoma in situ	
	11)腺癌	Adenocarcinoma	腺癌	Ⅴ	Adenocarcinoma	
	12)その他の悪性腫瘍	Other malig.	その他の悪性腫瘍	Ⅴ	Other malignant neoplasms	要精密検査：病変検索

病理診断料

1　組織診断料　520点

2　細胞診断料　200点

注1　1については、病理診断を専ら担当する医師が勤務する病院又は病理診断を専ら担当する常勤の医師が勤務する診療所である保険医療機関において、「N000」に掲げる病理組織標本作製、「N001」に掲げる電子顕微鏡病理組織標本作製、「N002」に掲げる免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製若しくは「N003」に掲げる術中迅速病理組織標本作製により作製された組織標本（「N000」に掲げる病理組織標本作製又は「N002」に掲げる免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製により作製された組織標本のデジタル病理画像を含む。）に基づく診断を行った場合又は当該保険医療機関以外の保険医療機関で作製された組織標本（当該保険医療機関以外の保険医療機関で「N000」に掲げる病理組織標本作製又は「N002」に掲げる免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製により作製された組織標本のデジタル病理画像を含む。）に基づく診断を行った場合に、これらの診断の別又は回数にかかわらず、月1回に限り算定する。

2　2については、病理診断を専ら担当する医師が勤務する病院又は病理診断を専ら担当する常勤の医師が勤務する診療所である保険医療機関において、「N003-2」に掲げる迅速細胞診若しくは「N004」に掲げる細胞診の「2」により作製された標本に基づく診断を行った場合又は当該保険医療機関以外の保険医療機関で作製された標本に基づく診断を行った場合に、これらの診断の別又は回数にかかわらず、月1回に限り算定する。

3　当該保険医療機関以外の保険医療機関で作製された標本に基づき診断を行った場合は、「N000」から「N004」までに掲げる病理標本作製料は、別に算定できない。

4　病理診断管理に関する別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、病理診断を専ら担当する常勤の医師が病理診断を行い、その結果を文書により報告した場合には、当該基準に係る区分に従い、次に掲げる点数を所定点数に加算する。

イ　病理診断管理加算1
- （1）組織診断を行った場合　120点
- （2）細胞診断を行った場合　60点

ロ　病理診断管理加算2
- （1）組織診断を行った場合　320点
- （2）細胞診断を行った場合　160点

5　1については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、悪性腫瘍に係る手術の検体から「N000」に掲げる病理組織標本作製の「1」又は「N002」に掲げる免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製により作製された組織標本に基づく診断を行った場合は、悪性腫瘍病理組織標本加算として、150点を所定点数に加算する。

病理判断料　130点

注1　行われた病理標本作製の種類又は回数にかかわらず、月1回に限り算定する。

2　「N006」に掲げる病理診断料を算定した場合には、算定しない。

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
蛋白	1032	総蛋白(TP) 3A010-0000-023-271	血清0.3	1	冷蔵	1~2	111❶ 生Ⅰ	Biuret法	g/dL 6.5~8.3		肝硬変症 多発性骨髄腫 ネフローゼ症候群 栄養障害
	3601	アルブミン(BCP改良法)(Alb) 3A015-1301-023-271	血清0.3	1	冷蔵	1~2	111❶ 生Ⅰ	BCP改良法	g/dL 4.1~5.1		栄養失調症 肝硬変症 ネフローゼ症候群
	3602	アルブミン/グロブリン比 3A016-1301-023-919						計算法	1.3~2.2	TPとAlbより算出 Alb/(TP−Alb)	自己免疫疾患 慢性炎症性疾患 吸収不良症候群 肝障害
	3378	蛋白分画 3A020-0000-023-237	血清0.4	1	冷蔵	1~2	181❶ 生Ⅰ	キャピラリー電気泳動法	% Alb：55.8~66.1 α1：2.9~4.9 α2：7.1~11.8 β1：4.7~7.2 β2：3.2~6.5 γ：11.1~18.8 A/G：1.3~1.9	＊1	M蛋白関連疾患 ネフローゼ症候群
	2495	尿中アルブミン定量(マイクロアルブミン定量) 3A015-0000-001-061	尿5.0	2	冷蔵	1~2	992❷ 尿糞	TIA法	mg/gCr 30.0未満		糖尿病性腎症 (第1期・第2期)
	2494	尿中アルブミン定性 3A015-0000-001-061		2	冷蔵	1~2	49 尿糞	TIA法	(−)		糸球体腎炎 ネフローゼ症候群 糖尿病性腎症
	2169	尿中トランスフェリン 5C060-0000-001-062	尿1.0	2	冷蔵 (1ヵ月)	3~5	982❷ 尿糞	ラテックス凝集比濁法	mg/gCr 1.00以下	新鮮尿を提出 ※02	糖尿病性腎症 (第1期・第2期)
	4589	尿4型コラーゲン 5C134-0000-006-023	尿5.0 (早朝第一尿)	64	冷蔵	4~10	1842❷ 尿糞	EIA法	μg/gCr 40歳以上：4.9以下 30歳代　：4.0以下	＊2 ※01	糖尿病性腎症 (第1期・第2期)
	4964	L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP) 5C100-0000-001-052	尿2.0	2	冷蔵 (14日)	3~5	2103❸ 尿糞	CLEIA法	μg/gCr 8.4以下	＊3 ※02	腎機能障害 糖尿病性腎症

❶蛋白分画、総蛋白及びアルブミン（BCP改良法・BCG法）を併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。
❷トランスフェリン（尿）、アルブミン定量（尿）及びⅣ型コラーゲン（尿）は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの（糖尿病性腎症第１期又は第２期のものに限る。）に対して行った場合に、３月に１回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。
❸L型脂肪酸結合蛋白（L-FABP）（尿）は、原則として3月に1回に限り算定する。ただし、医学的な必要性からそれ以上算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

＊１　溶血でのご依頼は避けて下さい。造影剤などの薬剤を投与された場合には検査値に影響がみられる可能性があります。
＊２　専用容器に必要量を採尿し、そのままご提出下さい。随時尿による参考基準値（健常者）は7.3以下（μg/gCr）と報告されています。
＊３　凍結保存は避けて下さい。酸性蓄尿は、検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けて下さい。
　　室温保存ではデータ影響が認められるため、速やかに冷蔵保存にてご提出ください。

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

64 尿中Ⅳ型コラーゲン専用

CKDの定義

① 尿異常、画像診断、血液検査、病理診断で腎障害の存在が明らか。
特に0.15g/gCr以上の蛋白尿（30mg/gCr以上のアルブミン尿）の存在が重要
② GFR＜60mL／分／1.73㎡
①、②のいずれか、または両方が３カ月を越えて持続する。

（日本腎臓学会、編　エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2023　東京医学社；2023、p.3）

CKDの重症度分類

原疾患		蛋白尿区分		A1	A2	A3
糖尿病性腎臓病		尿アルブミン定量（mg/日） 尿アルブミン/Cr比（mg/gCr）		正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
				30未満	30～299	300以上
高血圧性腎硬化症 腎炎 多発性嚢胞腎 移植腎 不明 その他		尿蛋白定量（g/日） 尿蛋白/Cr比（g/gCr）		正常	軽度蛋白尿	高度蛋白尿
				0.15未満	0.15～0.49	0.50以上
GFR区分（mL/分/1.73㎡）	G1	正常または高値	≧90			
	G2	正常または軽度低下	60～89			
	G3a	軽度～中程度低下	45～59			
	G3b	中程度～高度低下	30～44			
	G4	高度低下	15～29			
	G5	高度低下～末期腎不全	＜15			

重症度は原疾患・GFR区分・蛋白尿区分を合わせたステージにより評価する。CKDの重症度は死亡、末期腎不全、心血管死亡発症のリスクを緑のステージを基準に、黄、オレンジ、赤の順にステージが上昇するほどリスクは上昇する。

（KDIGO CKD guideline 2012を日本人用に改変）

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
窒素化合物	1051	尿素窒素(UN) BUN 3C025-0000-023-272	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11 生I	ウレアーゼGLDH法	mg/dL 8~20		腎機能低下 尿毒症 肝不全 悪性腫瘍末期 消化管出血
	0105	尿UN 3C025-0000-004-272	蓄尿5.0	2	冷蔵	1~2			g/day 7~14	1日尿量記載してください	
	1049	尿酸(UA) 3C020-0000-023-271 3C020-0000-004-271	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11 生I	酵素法	mg/dL M:3.4~7.0 F:2.4~7.0		痛風 白血病 悪性腫瘍 腎機能低下
	0106		蓄尿5.0	2	冷蔵	1~2		酵素法	g/day 0.4~1.2	1日尿量記載してください	
	3521	クレアチン 3C010-0000-023-271 3C010-0000-004-271	血清0.5	1	冷蔵	3~4	11 生I	酵素法	mg/dL 0.2~1.0	※01	筋疾患(筋ジストロフィー、多発性筋炎) 甲状腺機能亢進症 熱傷
	1055		蓄尿1.0	2	冷蔵	3~4		酵素法	mg/day M:170以下 F:290以下	1日尿量記載してください ※01	
	1052	クレアチニン 3C015-0000-023-271 3C015-0000-004-271	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11 生I	酵素法	mg/dL M:0.60~1.10 F:0.40~0.80		腎機能低下 腎不全 うっ血性心不全 進行性筋ジストロフィー
	1053		蓄尿5.0	2	冷蔵	1~2		酵素法	g/day 1~1.5	1日尿量記載してください	
	4859	推算GFRcreat(eGFRcreat) 8A065-0000-023-919						計算法※	mL/min/1.73m²	血清クレアチニンと同時依頼の場合にのみ結果報告いたします。性別・年齢を明記。18歳未満は換算不可。	糸球体濾過量の推定
	3281	シスタチンC 3C016-0000-023-062	血清0.5	1	冷蔵	3~4	112❶ 生I	LA法	mg/L M:0.58~0.87 F:0.47~0.82	※01	腎機能低下 慢性腎臓病
	4976	推算GFRcys(eGFRcys) 8A066-0000-023-919						計算法※	mL/min/1.73m²	血清シスタチンCと同時依頼の場合にのみ結果報告いたします。性別・年齢を明記。18歳未満は換算不可。 ※01	糸球体濾過量の推定
	4962	CCr(Cockcroft-Gault推定式) 8A020-0000-023-919						計算法※	mL/分	血清クレアチニンと同時依頼の場合にのみ結果報告いたします。体重・年齢・性別を明記。	糸球体腎炎 腎硬化症 尿路閉塞 うっ血性心不全
	1056	アンモニア(NH_3) 3C040-0000-031-271	除蛋白上清1.5	6	(分離後)凍結	1~2	50 生I	比色法(藤井・奥田変法)	μg/dL 30~86	真空採血厳禁 専用容器(除蛋白液4mL入)に正確に1.0mLの血液を加え、十分に混和した後、遠心分離後の上清1.5mLを凍結し、ご提出ください。	肝硬変症 肝性脳症 劇症肝炎 尿毒症

❶シスタチンCは、尿素窒素又はクレアチニンにより腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できる。ただし、ペントシジンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

※計算式 ●日本腎臓学会より公表された日本人のeGFRcreatの推算式
男性：eGFRcreat(mL/min/1.73㎡)＝194×血清クレアチニン値$^{-1.094}$×年齢$^{-0.287}$
女性：eGFRcreat(mL/min/1.73㎡)＝194×血清クレアチニン値$^{-1.094}$×年齢$^{-0.287}$×0.739

●日本腎臓学会より公表された日本人のeGFRcysの推算式
男性：eGFRcys(mL/min/1.73㎡)＝(104×血清シスタチンC値$^{-1.019}$×0.996^{年齢})－8
女性：eGFRcys(mL/min/1.73㎡)＝(104×血清シスタチンC値$^{-1.019}$×0.996^{年齢}×0.929)－8

●CCr(Cockcroft-Gault推定式)
男性：CCr(mL/分)＝(140－年齢)×体重／(72×血清クレアチニン)
女性：CCr(mL/分)＝0.85×(140－年齢)×体重／(72×血清クレアチニン)

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

6 アンモニア用

	項目コード	検査項目	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
アミノ酸	3524	アミノ酸定量（全種） 3C045-0000-022-205 3C045-0000-001-205	血漿0.5 速やかに冷却遠心	19	(分離後)凍結(2週)	5〜6	1107生Ⅱ	LC-MS/MS	下記参照	採血後直ちに遠心分離し、速やかに血漿を凍結してください。※06	アミノ酸代謝異常症 重症肝疾患
	3525		尿0.5(早朝2番尿)	2	凍結(2週)	5〜6		LC-MS/MS		早朝2番尿を直ちに凍結してください。(トルエン、塩酸などの防腐剤は加えないでください。)※06	
	0459	BTR（総分岐鎖アミノ酸／チロシンモル比） 3C047-0000-023-271	血清0.5	1	(分離後)凍結	3〜4	283生Ⅱ	酵素法	下記参照	溶血は高値の影響があります。※01	慢性肝炎 肝硬変症

【3524, 3525】アミノ酸定量（全種）基準値

成分名	略号	血漿（nmol/mL）	尿（μmol/L）
タウリン	Tau	34.5〜80.6	23.3〜2349
ホスフォエタノールアミン	PEA	5.0以下	65.5以下
アスパラギン酸	Asp	5.7以下	13.8以下
ハイドロキシプロリン	Hyp	19.7以下	20.2以下
トレオニン	Thr	89.2〜241.6	28.7〜788.8
セリン	Ser	78.4〜200.1	56.4〜1062
アスパラギン	Asn	37.7〜78.5	20.6〜361.8
グルタミン酸	Glu	13.3〜86.7	33.6以下
グルタミン	Gln	503.4〜851.4	57.8〜1439
サルコシン	Sarco	5.0以下	12.7以下
α−アミノアジピン酸	α−AAA	5.0以下	117.2以下
プロリン	Pro	89.8〜304.7	42.0以下
グリシン	Gly	136.8〜397.7	277.7〜4443
アラニン	Ala	253.6〜601.9	38.4〜956.7
シトルリン	Cit	18.2〜50.1	34.4以下
α−アミノ−n−酪酸	α−AnBA	11.2〜40.1	33.7以下
バリン	Val	162.9〜351.4	5.1〜94.4
シスチン	Cys Cys	34.9〜77.7	221.8以下
メチオニン	Met	18.1〜43.5	25.1以下
シスタチオニン	Cysthio	5.0以下	58.4以下
イソロイシン	Ile	44.9〜120.3	30.9以下
ロイシン	Leu	84.4〜200.2	77.5以下
チロシン	Tyr	46.7〜103.6	10.0〜263.6
β−アラニン	β−Ala	8.0以下	84.6以下
フェニルアラニン	Phe	49.0〜90.8	7.9〜135.5
β−アミノイソ酪酸	BAIBA	6.7以下	7.8〜3013
ホモシスチン	Homocys	5.0以下	5.0以下
γ−アミノ酪酸	GABA	5.0以下	5.0以下
モノエタノールアミン	MEA	6.7〜12.2	73.6〜1076
ハイドロキシリジン	Hyl	5.0以下	46.0以下
オルニチン	Orn	50.8〜137.4	76.1以下
1−メチルヒスチジン＊1	1−Me−His	26.5以下	23.2〜1990
ヒスチジン	His	68.0〜116.6	86.1〜2375
リジン	Lys	138.6〜294.2	20.2〜1500
3−メチルヒスチジン＊2	3−Me−His	7.2以下	26.2〜755.8
トリプトファン	Trp	46.7〜92.0	8.4〜186.7
アンセリン	Ans	5.0以下	85.4以下
カルノシン	Carno	5.0以下	51.9以下
アルギニン	Arg	44.1〜115.2	77.4以下
アロイソロイシン	allo−Ile	5.0以下	5.0以下
グリシルプロリン	Gly−Pro	5.0以下	32.8以下
ホモシトルリン	hCit	5.0以下	43.0以下
S−スルホシステイン	SSC	5.0以下	27.0以下
キヌレニン	Kyn	5.0以下	16.9以下
アルギニノコハク酸	ASA	5.0以下	22.8以下
フィッシャー比＊3		2.36〜4.69＊4	—

＊1：1−メチルヒスチジンのIUPAC名は「3-メチル-L-ヒスチジン」
＊2：3−メチルヒスチジンのIUPAC名は「1-メチル-L-ヒスチジン」
＊3：フィッシャー比＝ バリン+イソロイシン+ロイシン / チロシン+フェニルアラニン
＊4：単位なし

【0459】BTR（総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比）基準値

BTR	4.99〜9.45
	単位：μmol/L
BCAA（分岐鎖アミノ酸）	379〜688
チロシン	53〜104

〈血漿〉
血清では分離前放置時間内に血球成分により代謝が進行し、一部のアミノ酸（Asp、Glu、Ala、Lys）が増加をきたします。溶血血漿ではAsp、Gluが著しい高値を、Cys Cys、Trpが低値を示します。

〈尿〉
蓄尿の場合は、細菌増殖、分離などによりアミノ酸が変化することがありますので、早朝２番尿による測定をお勧めします。

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

19 ヘパリン

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
糖および糖質関連物質	0209	グルコース(血糖) 3D010-0000-022-272	血漿0.3	17	冷蔵	1~2	11 生Ⅰ	HK-UV法	mg/dL 60~109 (空腹時)		糖尿病 甲状腺機能亢進症 膵炎 膵癌 クッシング症候群
	4929	HbA1c (ヘモグロビンA1c) 3D046-0000-019-271	血液1.0 (NaF加)	17	冷蔵	1~2	49❶ 血液	酵素法	% 4.6~6.2		糖尿病(約1~2ヵ月前の血糖値を反映) 妊娠中の耐機能低下
		糖負荷試験 (血糖)	血漿各0.3	17	冷蔵	1~2	200 (生体検査料) *1	HK-UV法	mg/dL		糖尿病 耐糖能異常
		糖負荷試験 (尿糖)	尿各5.0	2	冷蔵	1~2					
	3229	糖尿病分類 9A427-0000-022-272	血漿各0.3	17	冷蔵	1~2		HK-UV法	次ページ参照	空腹時血糖、糖負荷後120分との同時依頼が必要です。	糖尿病
	3287	グリコアルブミン (GA) 3D055-0000-023-271	血漿0.5	13	冷蔵	3~4	55❶ 生Ⅰ	酵素法	% 11.6~16.4	※01	糖尿病(約1~2週間前の血糖値を反映)
			血清0.5	1							
	3288	1,5AG (1,5-アンヒドロ-D-グルシトール) 3D085-0000-023-271	血清0.5	1	冷蔵	3~4	80❶ 生Ⅰ	比色法	μg/mL 14.0以上	※01	糖尿病(糖尿病コントロールの指標)
	3233	抗GAD抗体 5G340-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3~5	134❷ 生Ⅱ	ELISA法	U/mL 5.0未満	※02	1型糖尿病
	3445	抗IA-2抗体 5G342-0000-023-023	血清0.6	1	冷蔵 (28日)	4~10	213❸ 生Ⅱ	ELISA法	U/mL 0.6未満	※02	1型糖尿病
	0107	乳酸 3E010-0000-031-271	除蛋白 上清0.5	4	(分離後) 凍結 (1ヵ月)	3~4	47❹ 生Ⅰ	酵素法	mg/dL 4.2~17.0	氷冷1.0N過塩素酸1.0mLに血液1.0mLを入れよく混和し除蛋白後15~60分静置し、遠心分離を行ってください。上清分離後凍結。 ※01	急性循環不全 ショック 心筋梗塞 糖尿病
	0108	ピルビン酸 3E015-0000-031-271	除蛋白 上清0.5	4	(分離後) 凍結	3~4	47❹ 生Ⅰ	酵素法	mg/dL 0.3~0.9		肝硬変症 糖尿病 循環不全

❶ヘモグロビンA1c(HbA1c)、グリコアルブミン又は1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5AG)のうちいずれかを同一月中に合わせて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定する。ただし、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できる。また、クロザピンを投与中の患者については、ヘモグロビンA1c(HbA1c)を月1回に限り別に算定できる。

❷抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)は、すでに糖尿病の診断が確定した患者に対して1型糖尿病の診断に用いた場合又は自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に用いた場合に算定できる。

❸抗IA-2抗体は、すでに糖尿病の診断が確定し、かつ、抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)の結果、陰性が確認された患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定する。なお、当該検査を算定するに当たっては、抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)の結果、陰性が確認された年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

❹有機モノカルボン酸については、グルタチオン、乳酸、ピルビン酸及びα-ケトグルタール酸の各物質の測定を行った場合に、それぞれの測定ごとに所定点数を算定する。

*1 検体検査判断料は算定できない。

糖負荷試験

1 常用負荷試験(血糖及び尿糖検査を含む。) 200点
2 耐糖能精密検査(常用負荷試験及び血中インスリン測定又は常用負荷試験及び血中C-ペプチド測定を行った場合)、グルカゴン負荷試験 900点
注 注射、採血及び検体測定の費用は、採血回数及び測定回数にかかわらず所定点数に含まれるものとする。

(1) 負荷の前後に係る血中又は尿中のホルモン等測定に際しては、測定回数、測定間隔等にかかわらず、一連のものとして扱い、当該負荷試験の項により算定するものであり、検体検査実施料における生化学的検査(Ⅰ)又は生化学的検査(Ⅱ)の項では算定できない。
(2) 耐糖能精密検査(常用負荷試験及び血中インスリン測定又は常用負荷試験及び血中C-ペプチド測定を行った場合)は、常用負荷試験及び負荷前後の血中インスリン測定又は血中C-ペプチド測定を行った場合に算定する。
(3) 乳糖を服用させて行う耐糖試験は、糖負荷試験により算定する。また、使用した薬剤は、「D500」薬剤により算定する。
(4) ブドウ糖等を1回負荷し、負荷前後の血糖値等の変動を把握する検査は、糖負荷試験の所定点数により算定する。
(5) 「注」の注射とは、第6部第1節第1款の注射実施料をいい、施用した薬剤の費用は、別途算定する。

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

4 乳酸・ピルビン酸

13 EDTA-2Na入り

17 血糖用

糖尿病の診断基準・型の判定

空腹時血糖値および75g経口糖負荷試験（OGTT）２時間値の判定基準

	正常域	糖尿病域
空腹時値 75gOGTT２時間値	＜110mg/dL ＜140mg/dL	≧126mg/dL ≧200mg/dL
75gOGTTの判定	両者をみたすものを正常型とする	いずれかをみたすものを糖尿病型 *とする
	正常型にも糖尿病型にも属さないものを境界型とする。	

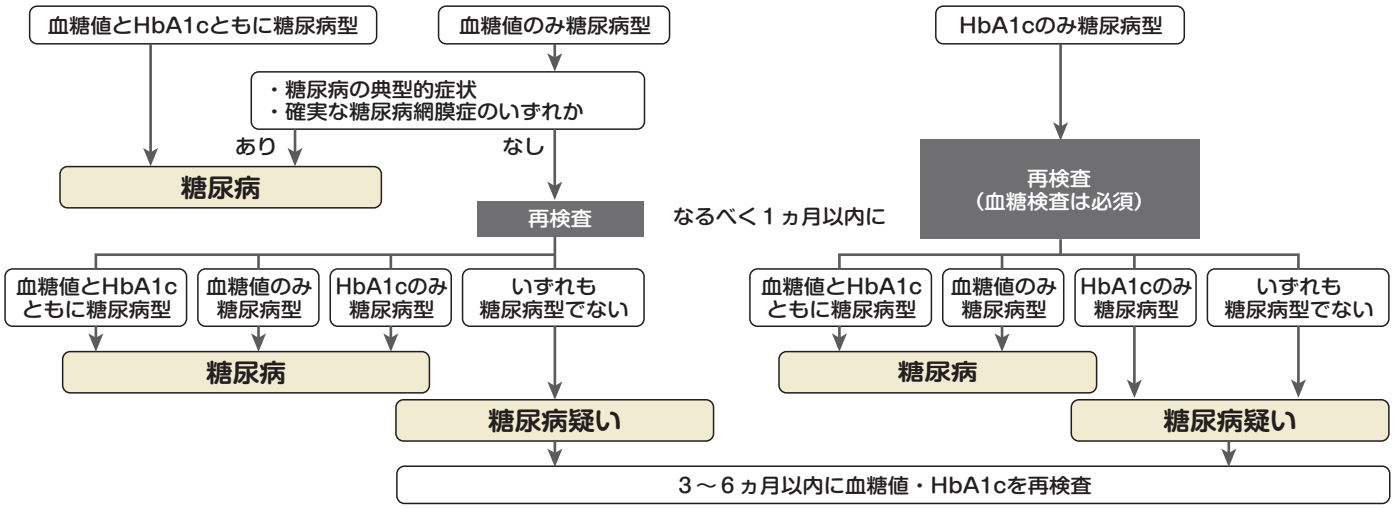
＊随時血糖値≧200mg/dL および HbA1c≧6.5% の場合も糖尿病型とみなす。

正常型であっても、１時間値が 180mg/dL 以上の場合には、180mg/dL 未満のものに比べて糖尿病に悪化するリスクが高いので、境界型に準じた取り扱い（経過観察など）が必要である。また、空腹時血糖値が 100～109mg/dL は正常域ではあるが、「正常高値」とする。この集団は糖尿病への移行や OGTT 時の耐糖能障害の程度からみて多様な集団であるため、OGTT を行うことが勧められる。

糖尿病の診断手順－臨床診断

糖尿病の臨床診断のフローチャート

糖尿病型	・血糖値（空腹時≧126mg/dL、OGTT２時間値≧200mg/dL、随時≧200mg/dLのいずれか） ・HbA1c≧6.5%



臨床診断：

1）初回検査で、①空腹時血糖値≧126mg/dL、②75gOGTT2時間値≧200mg/dL、③随時血糖値≧200mg/dL、④HbA1c（NGSP）≧6.5%のうちいずれかを認めた場合は、「糖尿病型」と判定する。別の日に再検査を行い、再び「糖尿病型」が確認されれば糖尿病と診断する*。但し、HbA1cのみの反復検査による診断は不可とする。また、血糖値とHbA1cが同一採血で糖尿病型を示すこと（①～③のいずれかと④）が確認されれば、初回検査だけでも糖尿病と診断してよい。

2）血糖値が糖尿病型（①～③のいずれか）を示し、かつ次のいずれかの条件がみたされた場合は、初回検査だけでも糖尿病と診断できる。
- 糖尿病の典型的症状（口渇、多飲、多尿、体重減少）の存在
- 確実な糖尿病網膜症の存在

3）過去において、上記１）ないしは２）の条件がみたされていたことが確認できる場合には、現在の検査値が上記の条件に合致しなくても、糖尿病と診断するか、糖尿病の疑いを持って対応する必要がある。

4）上記１）～３）によっても糖尿病の判定が困難な場合には、糖尿病の疑いを持って患者を追跡し、時期をおいて再検査する。

5）初回検査と再検査における判定方法の選択には、以下に留意する。
- 初回検査の判定に HbA1c を用いた場合、再検査ではそれ以外の判定方法を含めることが診断に必須である。検査においては、原則として血糖値と HbA1c の双方を測定するものとする。
- 初回検査の判定が随時血糖値≧200mg/dLで行われた場合、再検査は他の検査方法によることが望ましい。
- HbA1c と平均的な血糖値とが乖離する可能性がある疾患・状況の場合には、必ず血糖値による診断を行う。

疫学調査：糖尿病の頻度推定を目的とする場合は、１回だけの検査による「糖尿病型」の判定を「糖尿病」と読み替えてもよい。なるべく HbA1c（NGSP）≧6.5%あるいは OGTT2 時間値≧200mg/dLの基準を用いる。

検　　診：糖尿病およびその高リスク群を見逃すことなく検出することが重要である。スクリーニングには血糖値、HbA1c のみならず、家族歴、肥満など臨床情報も参考にする。

＊ストレスのない状態での高血糖の確認が必要である。

糖尿病の分類と診断基準に関する委員会報告（国際標準化対応版）：糖尿病55（7）、2012年より改変

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
酵素関連物質	3486	アルカリホスファターゼ(ALP)/IFCC 3B070-0000-023-275	血清0.3	1	冷蔵	1～2	11 生Ⅰ	IFCC対応法	U/L 38～113		骨疾患 肝・胆道疾患 甲状腺機能亢進症 悪性腫瘍
	1012	AST(GOT) 3B035-0000-023-272	血清0.3	1	冷蔵	1～2	17 生Ⅰ	JSCC標準化対応法	U/L 9～38		肝疾患 心筋梗塞 黄疸
	1013	ALT(GPT) 3B045-0000-023-272	血清0.3	1	冷蔵	1～2	17 生Ⅰ	JSCC標準化対応法	U/L 5～39		肝疾患 黄疸
	3487	LD(LDH)(乳酸脱水素酵素)/IFCC 3B050-0000-023-279	血清0.3	1	冷蔵	1～2	11 生Ⅰ	IFCC対応法	U/L 124～222		急性肝炎　白血病 心筋梗塞　悪性貧血 悪性腫瘍　溶血性貧血
	1017	γ-GT(γ-GTP) 3B090-0000-023-271	血清0.3	1	冷蔵	1～2	11 生Ⅰ	JSCC標準化対応法	U/L M：84以下 F：48以下		胆汁うっ滞　慢性肝炎 ｱﾙｺｰﾙ肝障害　肝硬変症 閉塞性黄疸　肝癌 急性肝炎
	1016	ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP) 3B135-0000-023-271	血清0.3	1	冷蔵	1～2	11 生Ⅰ	L-ロイシル-pニトロアニリド基質法	U/L 39～77		急性肝炎　膵炎 肝癌　胆嚢炎 肝硬変症　胆管炎
	1015	コリンエステラーゼ(ChE) 3B110-0000-023-272	血清0.3	1	冷蔵	1～2	11 生Ⅰ	JSCC標準化対応法	U/L M：235～494 F：196～452		ネフローゼ症候群 糖尿病 甲状腺機能亢進症 慢性肝炎 肝硬変症
	1018	クレアチンキナーゼ(CK) 3B010-0000-023-272	血清0.3	1	冷蔵	1～2	11 生Ⅰ	JSCC標準化対応法	U/L M：40～220 F：30～190		進行性筋ジストロフィー 多発性筋炎 心筋梗塞
	1020	アミラーゼ(AMY) 3B160-0000-023-271 3B160-0000-001-271	血清0.3	1	冷蔵	1～2	11 生Ⅰ	JSCC標準化対応法	U/L 37～124		急性膵炎 慢性膵炎 マクロアミラーゼ血症 唾液腺炎
	1021		尿2.0	2	冷蔵	1～2		JSCC標準化対応法	U/L 48～740		
	3269	リパーゼ 3B180-0000-023-271	血清0.5	1	冷蔵(1週)	2～3	24 生Ⅰ	酵素法	U/L 17～57	※01	急性膵炎 慢性膵炎 膵癌
	2371	トリプシン 3B185-0000-023-024	血清0.4	1	冷蔵(3週)	4～6	189 生Ⅰ	EIA法	ng/mL 100～550	※06	急性膵炎 慢性膵炎
	1025	N-アセチルグルコサミニダーゼ(NAG) 3B330-0000-001-271	尿5.0	2	冷蔵	1～2	41 尿糞	合成基質比色法	U/L 7.5以下		腎不全 ネフローゼ症候群

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

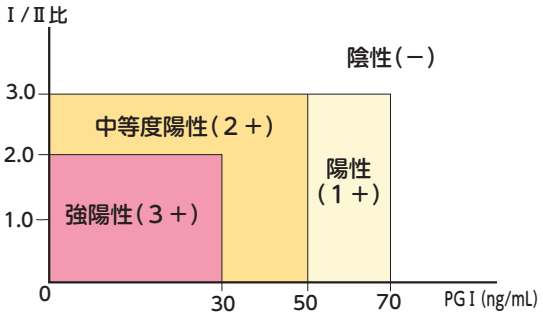
	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
酵素関連物質	1279	ペプシノゲン(PG) 3B339-0000-023-062	血清0.3	1	冷蔵(4週)	2~3		LA法		判定基準：下記参照 ※06	萎縮性胃炎 胃癌 消化性潰瘍
	2548	リポ蛋白リパーゼ(LPL) 3F160-0000-022-023	血漿0.3 速やかに冷却遠心	19	(分離後)凍結(1ヵ月)	3~9	219❶生Ⅰ	ELISA法	ng/mL 164~284	*1 ※02	LPL欠損症 高トリグリセライド血症
	1024	アルドラーゼ(ALD) 3B100-0000-023-272	血清0.5	1	冷蔵	2~3	11生Ⅰ	UV法	U/L 2.7~7.5	※01	ギラン・バレー症候群 多発性筋炎 急性心筋梗塞 急性肝炎
	1324	膵ホスフォリパーゼA2(膵PLA2) 3B192-0000-023-005	血清0.3 冷却遠心	1	(分離後)凍結(21日)	3~6	204生Ⅰ	RIA固相法	ng/dL 130~400	※02	急性膵炎 慢性膵炎 膵癌
	0141	グアナーゼ 3B125-0000-023-271	血清0.5	1	冷蔵(1週)	3~4	35生Ⅰ	酵素法	U/L 0.4~1.1	※01	急性肝炎 慢性肝炎 肝硬変症 薬物性肝障害
	3282	アンギオテンシンⅠ転換酵素(ACE) 3B325-0000-023-271	血清0.5	1	冷蔵	3~4	136生Ⅰ	比色法(笠原法)	U/L 7.0~25.0	血漿不可 ※01	サルコイドーシス
	3522	ADA(アデノシンデアミナーゼ) 3B130-0000-023-271 3B130-0000-042-271	血清0.5	1	冷蔵(1週)	3~4	32生Ⅰ	酵素法	U/L 4.8~23.1	溶血は高値の影響があります。 ※01	結核性胸膜炎 癌性胸膜炎 肝炎 急性白血病 悪性腫瘍
	2372		胸水0.5	2	冷蔵(1週)	3~4		酵素法	U/L	参考値は下記参照 ※01	
	0112	リゾチーム(ムラミダーゼ) 3B255-0000-023-292 3B255-0000-001-292	血清0.3	1	冷蔵(1週)	3~4		比濁法	μg/mL 5.0~10.0	※01	単球性白血病 肝疾患 消化器疾患
	0113		尿1.0	2	冷蔵	3~6		比濁法	μg/mL 0.0	※01	単球性白血病 尿細管障害

❶リポ蛋白リパーゼ（LPL）は、高トリグリセライド血症及びLPL欠損症が疑われる場合の鑑別のために測定した場合に限り算定できる。
また、ヘパリン負荷が行われた場合、投与したヘパリンは「D500」の薬剤として算定できるが、注射料は算定できない。

＊1　早朝空腹時にヘパリンを体重1kgあたり30単位静注し15分後に指定の容器に採取し、4℃で遠心分離後、上清の血漿を凍結保存にてご提出ください。
EDTA血漿は避けてください。基準値につきましては上記採取条件に基づき設定しております。

[1279] ペプシノゲン(PG)による胃粘膜萎縮度の判定基準

判定		測定値	
		PGⅠ(ng/mL)	Ⅰ/Ⅱ比
強陽性	3＋	30以下　かつ	2.0以下
中等度陽性	2＋	50以下　かつ	3.0以下
陽性	1＋	70以下　かつ	3.0以下
陰性	－	上記条件以外	



[2372] ADA（胸水） 参考値

単位：U/L

結核性胸膜炎症例	50.4~154.6
肺癌症例	10.9~36.1
心不全等上記以外の症例	3.2~8.8

	項目コード	検査項目	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	陽性判定基準	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
酵素関連物質	3535	**ABC分類（LA）（胃がんリスク層別化検査）** 3B347-0000-023-920	血清0.6	1	冷蔵	2～4		ラテックス凝集比濁法	〈H.ピロリ抗体〉 10以上（U/mL） 〈ペプシノゲン〉 （陽性）：PG Ⅰ70.0以下（ng/mL）かつPG Ⅰ/Ⅱ比3.0以下 （中等度陽性）：PG Ⅰ50.0以下（ng/mL）かつPG Ⅰ/Ⅱ比3.0以下 （強陽性）：PG Ⅰ30.0以下（ng/mL）かつPG Ⅰ/Ⅱ比2.0以下	ピロリ菌の除菌治療歴がある場合はABC分類の対象外（E群）となります。 ※33	胃がんの危険度

[3535] ABC分類（LA）（胃がんリスク層別化検査）報告書

ABC分類（ペプシノゲン，ヘリコバクター・ピロリ抗体による）検査報告書

コードNo.

医院コード		施設名		
氏　名			性別	年齢
カルテNo.				
コメント				

受付No.	
受診日	年　月　日
受付日	年　月　日
報告日	年　月　日

ヘリコバクター・ピロリ抗体（LA）検査結果	
測定値	U/mL
判　定	
判定基準	10未満U/mL

ペプシノゲン検査結果	
PG-Ⅰ	ng/mL
PG-Ⅱ	ng/mL
PGⅠ/Ⅱ比	
判定	

あなたのABC分類判定	

[ABC分類の判定基準]

ABC分類		ヘリコバクター・ピロリ抗体	
		10未満（−）	10以上（+）
ペプシノゲン	（−）	A群	B群
	（1+）～（3+）	D群	C群

〈注〉ペプシノゲンの結果により、ABC分類が「判定不能」となる場合があります。

ABC分類　判定結果の解説

A群	おおむね健康的な胃粘膜です。胃の病気になる危険性は低いと考えられます。ただし、一部にはピロリ菌の感染や感染の既往のある方が含まれます。一度は内視鏡検査などの画像検査を受けることが理想的です。	**B群**	少し弱った胃粘膜です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。少数ながら胃がんの可能性もあります。内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をおすすめします。
D群	萎縮が非常に進み、かなり弱った胃粘膜です。胃がんなどの病気になるリスクがあります。ピロリ菌の感染診断をおすすめします。必ず専門医療機関で内視鏡検査などの診断を受けましょう。	**C群**	萎縮の進んだ弱った胃粘膜です。胃がんなどの病気になりやすいタイプです。定期的な内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をおすすめします。

ABC分類対象外

E群（除菌群）
ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌後の方は、除菌判定の結果に関わらず、E群（除菌群）となります。
定期的に内視鏡検査を受診しましょう。
E群は除菌により胃がん発生率が低下するという報告もありますが、決して0％になるわけではありませんので、除菌後も内視鏡検査による経過観察が必要です。

以下に該当する方は正しく判定されない場合があります。

- 上部消化管疾患治療中の方
- 胃酸を抑える薬を服用中の方
- 胃切除後の方
- 腎不全の方
- ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌治療を受けた方

1 プレイン容器

酵素アイソザイム

項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
3492	LD(LDH)アイソザイム(IFCC) 3B055-0000-023-238	血清0.3	1	室温 凍結不可	3~5	48 生Ⅰ	電気泳動法(アガロース膜)	% LD1:20.0~31.0 LD2:28.8~37.0 LD3:21.5~27.6 LD4: 6.3~12.4 LD5: 5.4~13.2 U/L 総活性値:120~245 LD1定量値: 24~76 LD2定量値: 35~91 LD3定量値: 26~68 LD4定量値: 8~30 LD5定量値: 6~32	溶血検体でのご依頼は避けてください。(溶血の場合LD1,2,3の上昇が考えられます。) 血液凝固後できるだけ速やかに血清分離。凍結は厳禁(LD4、LD5の損失防止)又、低温失活の影響を受けますので4℃以下の保存は避けてください。※01	LD1,2:心筋梗塞 溶血性貧血 悪性貧血 LD2,3:白血病 悪性リンパ腫 筋ジストロフィー LD3,4,5:転移癌 LD5:急性肝炎 肝細胞癌
3491	ALPアイソザイム(アルカリホスファターゼアイソザイム)(IFCC) 3B080-0000-023-238	血清0.3	1	冷蔵	3~5	48 生Ⅰ	電気泳動法(アガロース膜)	% ALP1:0.0~5.3 ALP2:36.6~69.2 ALP3:25.2~54.2 ALP4:0.0 ALP5:0.0~18.1 ALP6:0.0	※01	ALP1:閉塞性黄疸 ALP2:肝・胆道系疾患 ALP3:骨疾患 骨腫瘍 副甲状腺機能亢進症 ALP4:妊娠 ALP5:血液型OおよびB型分泌型肝硬変症 ALP6:潰瘍性大腸炎の活動期 関節リウマチ
3263	アミラーゼアイソザイム 3B165-0000-023-233 3B165-0000-001-233	血清0.3	1	冷蔵	3~5	48 生Ⅰ	電気泳動法(アガロース膜)	P/S比:0.19~1.79 P:15.7~64.0% S:36.0~84.3%	S:唾液腺由来 P:膵由来 ※01	高アミラーゼ血症の鑑別 P型増加:急性膵炎 慢性膵炎増悪期 S型増加:唾液腺疾患 腎不全 アミラーゼ産生腫瘍
3264		尿1.0	2	冷蔵	3~5		電気泳動法(アガロース膜)	P/S比:0.63~4.65 P:38.7~82.3% S:17.7~61.3%		
4617	P型アミラーゼ定量 3B175-0000-023-271	血清0.6	1	冷蔵	2~4		免疫阻害法	U/L 50以下	※33	急性膵炎
3265	CKアイソザイム 3B025-0000-023-233	血清0.3	1	(分離後)凍結(4日)	3~5	55 生Ⅰ	電気泳動法(アガロース膜)	% BB(CK1):0~2 ALB:0~9 MB(CK2):0~6 MM(CK3):87~98 U/L 総活性値 M:50~230 F:50~210 BB定量値 M:0~5 F:0~4 MB定量値 M:0~14 F:0~13 MM定量値 M:44~225 F:44~206	MM:骨格筋由来 MB:心筋由来 BB:脳・平滑筋由来 ※01	心筋梗塞 進行性筋ジストロフィー 皮膚筋炎 多発性筋炎
5409	CK-MB 3B015-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1~2	90 生Ⅰ	CLIA法	ng/mL 5.0以下		心筋梗塞 進行性筋ジストロフィー 皮膚筋炎 多発性筋炎

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
生体色素検査	1001	総ビリルビン(T-Bil) 3J010-0000-023-271	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11 生Ⅰ	バナジン酸酸化法	mg/dL 0.2~1.2		黄疸 胆石症 肝障害
	1002	直接ビリルビン(D-Bil) 3J015-0000-023-271	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11 生Ⅰ	バナジン酸酸化法	mg/dL 0~0.4		
	0525	尿中δ-アミノレブリン酸 3J075-0000-001-204	尿0.7	35	遮光 冷蔵	4~6	106 尿糞	HPLC法	mg/L	※02	ポルフィリン症 鉛中毒
	0528	ウロポルフィリン(尿) 3J050-0000-001-204	尿2.0	35	遮光 冷蔵	4~7	105 尿糞	HPLC法	μg/gCr 36以下	※02	ポルフィリン症
	5228	コプロポルフィリン 3J040-0000-019-204 3J040-0000-001-204	血液1.5 (ヘパリン加)	19	遮光 冷蔵 凍結不可	8~12	210 生Ⅰ	HPLC法	μg/dL RBC 1以下	※02	遺伝性コプロポルフィリン症 鉛中毒 肝疾患
	0526		尿2.0	35	遮光 冷蔵	4~7	131 尿糞	HPLC法	μg/gCr 170以下	※02	ポルフィリン症 鉛中毒
	2246	プロトポルフィリン(赤血球) 3J055-0000-019-204	血液1.5 (ヘパリン加)	19	遮光 冷蔵 凍結不可	4~10	272 生Ⅰ	HPLC法	μg/dL RBC 30~86	＊1 ※01	先天性ポルフィリン症 鉄芽球性貧血 鉛中毒 溶血性貧血

＊1　鉛健康診断の場合は別項目（赤血球遊離プロトポルフィリン）になります。53ページをご参照ください。

1 プレイン容器

19 ヘパリン

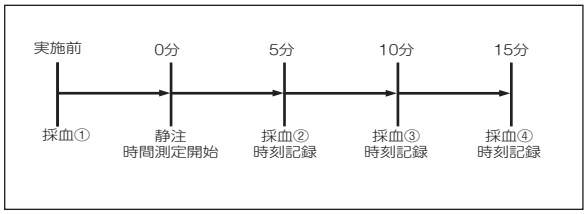
35 遮光用尿容器

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
生理機能	0122	インドシアニングリーン(停滞率)(ICG-R) 8A010-0000-023-271	血清各1.5	1	遮光冷蔵	1～2	100(生体検査料)＊1	比色法	% 0.0～10.0	採取方法は下記参照	肝炎 肝硬変症
	0140	インドシアニングリーン(消失率)(ICG-K) 8A011-0000-023-271	血清各1.5	1	遮光冷蔵	1～2	150(生体検査料)＊1	比色法	0.168～0.206	採取方法は下記参照	
	0183	PFD(PABA排泄率)[膵機能テスト] 8A090-0000-098-271	各尿3.0	2	冷蔵	3～4	100(生体検査料)＊1	比色法(DACA法)	% 6時間排泄率 73.4～90.4	服用から6時間まで全量蓄尿 尿量記録 服用前と6時間後の2本検体必要 ※01	慢性膵炎 膵癌

＊1　検査に伴って行った注射、検体採取、検体測定及びエックス線透視の費用は、全て所定点数に含まれるものとする。

■インドシアニングリーン試験（ICG）

1．早朝空腹時に採血3mL…①
2．ジアグノグリーン25mgを注射用蒸留水5mLに溶かし体重10kgにつき1mLを約30秒かけて静注。(時間測定開始)
3．静注開始後、5分ごとに3mL採血を3回。…②③④
注意）早朝空腹時に実施、検査終了まで安静仰臥がよい。採血は、注射と反対側の腕からおこなう。検体は遮光する。
提出）消失率：採血時間を明記した容器①②③④の4本
　　停滞率：容器①④の2本



■PFD試験（PABA排泄率）[膵機能テスト]

（注意）1．消化酵素含有製剤、消炎酵素剤、鎮痛剤、利胆剤は検査前3日より投与を中止する。
(分類上同じ薬剤（成分）も服用中止していただくこと。)
・影響を及ぼす薬剤
アミノアンチピリン、フェナセチン、プロカインアミド塩酸塩、パス、PL、スルピリン、センノサイド、アセトアミノフェン、アネステジン、INH、エトミドリン、p-ピペリジノアセチルアミノ安息香酸エチル、アンピシリン、アスピリン
2．検査は通常、早朝空腹時に開始し、開始から3時間以上経過するまでは食物摂取は禁止。
3．診断用医薬品（ペンチロミド500mg/10mL）を250mL以上の水とともに服用させる。
尿は完全排尿から6時間までの全尿を採尿する。
4．蓄尿時間、尿量の記録とともに提出。蓄尿はよく混和し、その一部を提出。

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
脂質関連検査	1035	総コレステロール (T-Cho) 3F050-0000-023-271	血清0.3	1	冷蔵	1~2	17❶ 生Ⅰ	酵素法	mg/dL 150~219		高脂血症 肝硬変症 ネフローゼ症候群
	1036	遊離コレステロール (F-Cho) 3F065-0000-023-271	血清0.5	1	冷蔵	2~3	11 生Ⅰ	酵素法	mg/dL 25~60	※01	高脂血症 肝硬変症 ネフローゼ症候群
	1040	HDLコレステロール 3F070-0000-023-271	血清0.3	1	冷蔵	1~2	17❶ 生Ⅰ	酵素法 (直接法)	mg/dL M：40~85 F：40~98		高脂血症 肝硬変症
	1037	中性脂肪 (TG) 3F015-0000-023-271	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11 生Ⅰ	酵素法 (グリセロール消去法)	mg/dL 50~149		高脂血症 脂肪肝 動脈硬化症
	4893	non-HDL-C 3F069-0000-023-919						計算法	mg/dL	計算式：nonHDL-C=(総コレステロール)-(HDLコレステロール) 総コレステロールとHDLコレステロールの2項目と同時依頼の場合にのみ結果報告いたします。TGが400mg/dL以上の場合に用いられます。	動脈硬化症
	3271	リン脂質 (PL) 3F025-0000-023-271	血清0.5	1	冷蔵 (1カ月)	2~3	15 生Ⅰ	酵素法	mg/dL 150~250	※01	閉塞性黄疸 ネフローゼ症候群 高脂血症 肝疾患
	3267	コレステロール分画 3F150-0000-023-233	血清0.3	1	冷蔵 凍結不可	3~5	57 生Ⅰ	電気泳動法 (アガロース膜)	下記参照	※01	
	3266	リポ蛋白分画 (LPF) 3F135-0000-023-233	血清0.3	1	冷蔵 凍結不可	3~5	49 生Ⅰ	電気泳動法 (アガロース膜)	下記参照	空腹時に採血し分離後上清を冷蔵し提出してください。 ※01	高脂血症 高コレステロール血症 脂質異常症
	3556	リポ蛋白分画／HPLC法 3F140-0000-023-204	血清0.5	1	冷蔵 凍結不可	3~6	129 生Ⅰ	HPLC法	下記参照	空腹時に採血し分離後上清を冷蔵し提出してください。 ※01	
	3557	sd LDL-C 3F088-0000-023-271	血清0.5	1	冷蔵	3~4		酵素法	mg/dL	※01	動脈硬化症
	3297	アポリポ蛋白 A-Ⅰ 3F180-0000-023-061	1種につき血清0.3 (血清0.5で6項目同時測定可能)	1	冷蔵 (2週)	3~4	1項目 31 2項目 62 3項目以上 94 ❷ 生Ⅰ	免疫比濁法 (TIA法)	mg/dL M：119~155 F：126~165	※01	高脂血症 脂質異常症 高コレステロール血症 高トリグリセライド血症 低脂血症
	3298	A-Ⅱ 3F185-0000-023-061		1	冷蔵 (2週)	3~4			mg/dL M：25.9~35.7 F：24.6~33.3	※01	
	3299	B 3F190-0000-023-061		1	冷蔵 (2週)	3~4			mg/dL M：73~109 F：66~101	※01	
	3300	C-Ⅱ 3F195-0000-023-061		1	冷蔵 (2週)	3~4			mg/dL M：1.8~4.6 F：1.5~3.8	※01	
	3301	C-Ⅲ 3F200-0000-023-061		1	冷蔵 (2週)	3~4			mg/dL M：5.8~10.0 F：5.4~9.0	※01	
	3302	E 3F205-0000-023-061		1	冷蔵 (2週)	3~4			mg/dL M：2.7~4.3 F：2.8~4.6	※01	

❶HDL-コレステロール、総コレステロール及びLDL-コレステロールを併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。
❷アポリポ蛋白は、AⅠ、AⅡ、B、CⅡ、CⅢ及びEのうち、測定した項目数に応じて、所定点数を算定する。

★LDL計算法＝総コレステロール－HDLコレステロール－（中性脂肪/5）ただし中性脂肪が、400mg/dL以上の場合は計算不可。

【3267】コレステロール分画 基準値

単位：%

HDL-C	M：17~43 F：22~51
VLDL-C	M： 2~18 F： 1~14
LDL-C	M：51~77 F：45~72

【3266】リポ蛋白分画／アガロース法 基準値

単位：%

α	M：27~51 F：33~53
preβ	M： 8~24 F： 7~21
β	M：35~56 F：34~52

＊リポ蛋白分画/アガロース法におけるαはHDL、preBはVLDL、βはLDLに概ね一致します。

【3556】リポ蛋白分画／HPLC法 基準値

	分画(単位：%)	定量値(単位：mg/dL)
HDL	23.6~49.8	40.6~91.4
LDL	42.2~63.8	67.8~132.6
IDL	2.2~6.1	3.8~12.5
VLDL	2.6~13.9	4.9~22.8
Other	0.8~4.4	1.5~9.1
総コレステロール		150~219

1 プレイン容器

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
脂質関連検査	0155	レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLPコレステロール) 3F078-0000-023-271	血清0.4	1	冷蔵(5日) 凍結不可	2~3	174❶生Ⅰ	酵素法	mg/dL 7.5以下	糖尿病、冠動脈疾患などの既往歴のある場合は、5.2mg/dL以上をハイリスク域とします。 ※06	高コレステロール血症 高トリグリセライド血症 高脂血症
	1298	リポ蛋白(a)(LP(a)) 3F156-0000-023-061	血清0.5	1	冷蔵	3~4	107❷生Ⅰ	免疫比濁法(TIA法)	mg/dL 40.0以下	※01	高脂血症 高コレステロール血症
	5440	HDL2,3コレステロール 3F075-0000-023-221	血清1.0	1	冷蔵(20日) 凍結不可	3~7		超遠心法	mg/dL HDL2コレステロール M:16.0~61.0 F:23.0~73.0 HDL3コレステロール M:13.0~25.0 F:13.0~24.0	※02	HDL$_2$・HDL$_3$増加: CETP欠損症 肝性 HTGL活性低下 HDL$_2$低下:LPL活性低下 動脈硬化性疾患 急性肝炎 HDL$_3$低下:肝硬変症 急性肝炎 閉塞性黄疸
	5536	LDLコレステロール 3F077-0000-023-271	血清0.3	1	冷蔵	1~2	18❸生Ⅰ	酵素法(直接法)	mg/dL 70~139		ネフローゼ症候群 高脂血症 高コレステロール血症
	4877	MDA-LDL(酸化LDL) 3F087-0000-023-023	血清0.3	1	(分離後)凍結(21日)	4~15	194❹生Ⅰ	ELISA法	下記参照	採血後6時間以内の血清分離を必要とする為、午前11時以降の採血をお願いいたします。 ※02	糖尿病合併の虚血性心疾患 陳旧性心筋梗塞 急性心筋梗塞 経皮的冠動脈形成術後 急性冠症候群
	3272	胆汁酸(TBA) 3F110-0000-023-271	血清0.5	1	冷蔵(1週)	2~3	47生Ⅰ	酵素法(酵素サイクリング法)	μmol/L 14.4以下 (食後4時間以上経過)	※01	急性肝炎 慢性肝炎 胆管閉塞症

❶レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)は免疫吸着法-酵素法又は酵素法により実施し、3月に1回を限度として算定できる。
❷リポ蛋白(a)は、3月に1回を限度として算定できる。
❸HDL-コレステロール、総コレステロール及びLDL-コレステロールを併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。
❹マロンジアルデヒド修飾LDL(MDA-LDL)は、冠動脈疾患既往歴のある糖尿病患者で、冠動脈疾患発症に関する予後予測の補助の目的で測定する場合に3月に1回に限り算定できる。ただし、糖尿病患者の経皮的冠動脈形成術治療時に、治療後の再狭窄に関する予後予測の目的で測定する場合、上記と別に術前1回に限り算定できる。

[4877] MDA-LDL 基準値

単位:U/L

男性	45才未満	46~82
	45才以上	61~105
女性	55才未満	46~82
	55才以上	61~105

脂質異常症診断基準(日本動脈硬化学会(編):動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022年版.日本動脈硬化学会.2022.)

LDLコレステロール	140mg/dL以上	高LDLコレステロール血症
	120~139mg/dL	境界域高LDLコレステロール血症**
HDLコレステロール	40mg/dL未満	低HDLコレステロール血症
トリグリセライド	150mg/dL以上(空腹時採血*)	高トリグリセライド血症
	175mg/dL以上(随時採血*)	
Non-HDLコレステロール	170mg/dL以上	高non-HDLコレステロール血症
	150~169mg/dL	境界域高non-HDLコレステロール血症**

* 基本的に10時間以上の絶食を「空腹時」とする。ただし水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。空腹時であることが確認できない場合を「随時」とする。
**スクリーニングで境界域高LDL-C血症、境界域高non-HDL-C血症を示した場合は、高リスク病態がないか検討し、治療の必要性を考慮する。
・LDL-CはFriedewald式(TC−HDL-C−TG/5)で計算する(ただし空腹時採血の場合のみ)。または直接法で求める。
・TGが400mg/dL以上や随時採血の場合はnon-HDL-C(=TC−HDL-C)かLDL-C直接法を使用する。ただしスクリーニングでnon-HDL-Cを用いる時は、高TG血症を伴わない場合はLDL-Cとの差が+30mg/dLより小さくなる可能性を念頭においてリスクを評価する。
・TGの基準値は空腹時採血と随時採血により異なる。
・HDL-Cは単独では薬物介入の対象とはならない。

1 プレイン容器

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
脂質関連検査	3341	脂肪酸分画（4成分） 3F095-0000-023-202 3F095-0000-022-202	血清0.5	1	冷蔵(45日)	5~7	393 生Ⅱ	GC法	μg/mL DHLA：22.6~72.5 AA：135.7~335.3 EPA：10.2~142.3 DHA：54.8~240.3 EPA/AA比0.05~0.61 DHA/AA比0.27~1.07 (EPA+DHA)/AA比0.32~1.66	DHLA(ジホモ-γ-リノレン酸) AA(アラキドン酸) EPA(エイコサペンタエン酸) DHA(ドコサヘキサエン酸) ※02	脳血栓症 動脈硬化症 高脂血症 LCAT欠損症
			血漿0.5	19	冷蔵(45日)						
	1113	脂肪酸分画（24成分） 3F095-0000-023-202 3F095-0000-022-202	血清0.5	1	冷蔵(45日)	11~15		GC法	下記参照	※02	
			血漿0.5	19	冷蔵(45日)						

[1113] 脂肪酸分画（24成分）基準値

No.	脂肪酸名	略号（炭素数）	μg/mL	重量%
1	ラウリン酸	C12:0	10.2以下	0.31以下
2	ミリスチン酸	C14:0	10.8~61.1	0.36~1.43
3	ミリストレイン酸	C14:1ω5	3.2以下	0.09以下
4	パルミチン酸	C16:0	495.1~918.3	19.18~23.84
5	パルミトレイン酸	C16:1ω7	23.8~117.3	0.87~3.18
6	ステアリン酸	C18:0	167.6~312.7	6.13~8.49
7	オレイン酸	C18:1ω9	433.9~910.1	16.19~23.66
8	リノール酸	C18:2ω6	708.1~1286.0	23.24~36.89
9	γ-リノレン酸	C18:3ω6	2.5~25.6	0.09~0.72
10	リノレン酸	C18:3ω3	11.5~45.8	0.40~1.30
11	アラキジン酸	C20:0	6.9~14.4	0.24~0.46
12	エイコセン酸	C20:1ω9	2.6~9.5	0.09~0.30
13	エイコサジエン酸	C20:2ω6	4.3~9.3	0.15~0.26
14	5-8-11エイコサトリエン酸	C20:3ω9	6.0以下	0.17以下
15	ジホモ-γ-リノレン酸	C20:3ω6	22.6~72.5	0.79~2.05
16	アラキドン酸	C20:4ω6	135.7~335.3	4.21~9.30
17	エイコサペンタエン酸	C20:5ω3	10.2~142.3	0.36~3.99
18	ベヘニン酸	C22:0	14.6~30.3	0.43~0.91
19	エルシン酸	C22:1ω9	1.4以下	0.04以下
20	ドコサテトラエン酸	C22:4ω6	2.9~10.4	0.10~0.30
21	ドコサペンタエン酸	C22:5ω3	9.5~31.8	0.34~0.89
22	リグノセリン酸	C24:0	15.5~31.2	0.49~0.90
23	ドコサヘキサエン酸	C22:6ω3	54.8~240.3	1.88~6.86
24	ネルボン酸	C24:1ω9	27.1~53.0	0.78~1.64
T/T比（C20:3ω9/C20:4ω6）			0.02以下	
EPA/AA比（C20:5ω3/C20:4ω6）			0.05~0.61	
DHA/AA比（C22:6ω3/C20:4ω6）			0.27~1.07	
（EPA+DHA）/AA比			0.32~1.66	
ω3/ω6比			0.09~0.36	

1 プレイン容器

19 ヘパリン

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
電解質	1061	ナトリウム（Na） 3H010-0000-023-261 3H010-0000-004-261	血清0.3	1	冷蔵	1～2	11❶生Ⅰ	電極法	mmol/L 135～147	採血後は、血液凝固を確認後、速やかに血清分離してください。血液のまま放置、冷却保存はナトリウムが低値を示しますので避けて下さい。	脱水症 嘔吐症 下痢症 アジソン病 原発性アルドステロン症 心不全 腎不全 クッシング症候群 アシドーシス アルカローシス
	0131		蓄尿5.0	2	冷蔵	1～2			g/day 4～8	一日尿量記入	
	1064	クロール（Cl） 3H020-0000-023-261 3H020-0000-004-261	血清0.3	1	冷蔵	1～2		電極法	mmol/L 96～110		
	0133		蓄尿5.0	2	冷蔵	1～2			g/day 6～12	一日尿量記入	
	1062	カリウム（K） 3H015-0000-023-261 3H015-0000-004-261	血清0.3	1	冷蔵	1～2	11 生Ⅰ	電極法	mmol/L 3.6～5.0	採血後は、血液凝固を確認後、速やかに血清分離してください。血液のまま放置、冷却保存又は溶血はカリウムが高値を示しますので避けて下さい。	アジソン病 尿細管性アシドーシス クッシング症候群 電解質異常
	0132		蓄尿5.0	2	冷蔵	1～2			g/day 1.5～2.5	一日尿量記入	
	1063	カルシウム（Ca） 3H030-0000-023-271 3H030-0000-004-271	血清0.3	1	冷蔵	1～2	11❷生Ⅰ	アルセナゾⅢ法	mg/dL 8.6～10.1		骨軟化症 転移性骨腫瘍 ビタミンD欠乏症 サルコイドーシス 副甲状腺機能亢進症
	0134		蓄尿5.0	2	冷蔵	1～2			g/day 0.1～0.3	一日尿量記入	
	5392	イオン化カルシウム（Ca^{2+}） 3H035-0000-023-261	流パラ血清0.9 単独検体	1	冷蔵	3～4	26❷生Ⅰ	イオン電極法	mEq/L 2.25～2.50 (4.5～5.0mg/dL)	＊1 ※01	副甲状腺機能亢進症 骨軟化症 ビタミンD欠乏症
	1066	マグネシウム（Mg） 3H025-0000-023-271 3H025-0000-004-271	血清0.3	1	冷蔵	1～2	11 生Ⅰ	キシリジルブルー法	mg/dL 1.9～2.5		高カルシウム血症 腎不全 甲状腺機能亢進症 副甲状腺機能亢進症
	0110		蓄尿5.0	2	冷蔵	1～2			g/day 0.1～0.2	一日尿量記入	
	1065	無機リン（IP） 3H040-0000-023-271 3H040-0000-004-271	血清0.3	1	冷蔵	1～2	17❸生Ⅰ	モリブデン酸直接法	mg/dL 2.5～4.5		骨軟化症 骨粗鬆症 腎不全 アルコール依存症
	0181		蓄尿5.0	2	冷蔵	1～2			g/day 0.5～2.0	一日尿量記入	

❶ナトリウム及びクロールについては、両方を測定した場合も、いずれか一方のみを測定した場合も、同一の所定点数により算定する。
❷カルシウム及びイオン化カルシウムを同時に測定した場合には、いずれか一方についてのみ所定点数を算定する。
❸無機リン及びリン酸については、両方を測定した場合も、いずれか一方のみを測定した場合も、同一の所定点数により算定する。

＊1　5mL真空採血後、ゴム栓の上から注射針を刺して流動パラフィンを1mL注入します。
室内に30分放置後、血清分離し血清と流動パラフィンを10mL用チューブに移してください。
（採血後流動パラフィンによる封入処理を行わないと、pHがアルカリ側に傾きイオン化カルシウム値が減少するので、流動パラフィンによる前処理を行ってください。）

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
無機質	1067	鉄(Fe) 3I010-0000-023-271	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11 生Ⅰ	バソフェナントロリン直接法	μg/dL M:60~180 F:50~160		鉄欠乏性貧血 小球性貧血 肝炎 多血症
	1069	総鉄結合能(TIBC)(比色法) 3I015-0000-023-919	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11❶ 生Ⅰ	バソフェナントロリン直接法	μg/dL 256~368		鉄欠乏性貧血 再生不良性貧血 肝硬変症 肝炎
	1068	不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法) 3I020-0000-023-271	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11❶ 生Ⅰ	バソフェナントロリン直接法	μg/dL 130~320		
	3273	銅(Cu) 3I025-0000-023-271	血清0.5	1	冷蔵	2~3	23 生Ⅰ	比色法 (3,5-DiBr-PAESA法)	μg/dL 66~130	※01	ウィルソン病 閉塞性黄疸 貧血
	1044	アルミニウム(Al) 3K105-0000-023-274	血清0.5	108	冷蔵	5~6	109 生Ⅰ	原子吸光法	μg/dL 0.9以下	※06	腎不全 高アルミニウム血症
	3453	亜鉛(Zn) 3I030-0000-023-271	血清0.5	1	冷蔵 (18日)	3~4	132 生Ⅰ	比色法	μg/dL 80~130	＊1 ※06	亜鉛欠乏性味覚障害 低アルブミン血症 長期高カロリー輸液時
	2511	クロム(Cr) 3K115-0000-019-274	血液0.7 (ヘパリン加)	19	冷蔵 凍結不可	7~20		原子吸光分光光度法	μg/dL 1.0以下	※02	クロム中毒 中心静脈栄養 (IVH高カロリー輸液) 糖尿病
	2509	マンガン(Mn) 3K125-0000-019-274	血液0.7 (ヘパリン加)	19	冷蔵 凍結不可	8~21	27❷ 生Ⅰ	原子吸光分光光度法	μg/dL 0.8~2.5	※02	マンガン中毒 マンガン欠乏症
	2507	カドミウム(Cd) 3K120-0000-019-299 3K120-0000-001-299	血液0.5 (ヘパリン加)	19	冷蔵 凍結不可	8~12		ICP-MS法	μg/dL 0.5以下	※02	カドミウム中毒 イタイイタイ病
	2508		尿1.0	124	冷蔵	8~14		ICP-MS法	μg/L 3.8以下	※02	
	2505	鉛(Pb) 3K110-0000-019-274 3K110-0000-001-274	血液3.0 (ヘパリン加)	19	冷蔵	4~6		原子吸光分析法	μg/dL	鉛健康診断の場合は、54ページをご参照ください。 ※02	鉛中毒
	2506		尿1.0	2	冷蔵	4~17		原子吸光分光光度法	μg/L 25.0以下	※01	

❶総鉄結合能(TIBC)(比色法)と不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)を同時に実施した場合は、不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)又は総鉄結合能(TIBC)(比色法)の所定点数を算定する。

❷マンガン(Mn)は、1月以上(胆汁排泄能の低下している患者については2週間以上)高カロリー静脈栄養法が行われている患者に対して、3月に1回に限り算定することができる。

＊1　測定値に影響が出ますので溶血検体でのご依頼は避けてください。日内変動や食物の摂取により血中濃度が低下しますので朝食前の午前中に採血してください。

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

19 ヘパリン

108 金属専用容器

124 金属専用容器(尿)

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
その他	2388	結石分析(成分比率) 3Z065-0000-081-273	結石10mg以上	2	室温	5～7	117 生Ⅱ	赤外線吸収スペクトロフォトメトリー	%	＊1 ※02	尿路結石症 胆嚢結石症
	2562	エチルアルコール(エタノール) 3Z040-0000-019-202	血液1.0(ヘパリン加)	19	凍結	4～7	105 生Ⅰ	GC法	mg/mL 0.1未満	指定の容器に採血しよく混和後血液をポリスピッツに移し必ず凍結して下さい。 ※02	急性アルコール中毒 アルコール依存症
	3317	浸透圧 3H045-0000-023-902 3H045-0000-001-902	血清1.0	1	冷蔵(4週)	3～4	15 血液	氷点降下法	mOsm/kg・H_2O 275～290	※06	糖尿病 尿崩症 腎不全 抗利尿ホルモン不適合分泌症候群
	3318		尿1.0	2	冷蔵(4週)	3～4	16 尿糞		mOsm/kg・H_2O 50～1300	※06	
	2406	ケトン体分画 3E045-0000-023-271	血清0.3 速やかに冷却遠心	1	(分離後)凍結 −70℃以下(4週)	3～4	59 生Ⅰ	酵素法	下記参照	総ケトン体にアセトンは含まれません。 ※06	糖尿病 栄養不良 糖尿病性ケトアシドーシス

＊1　サンプルは乾燥させてご提出ください。血液などの付いたサンプルは蒸留水で洗浄後、乾燥させてご提出ください。

[2406] ケトン体分画 基準値

単位：μmol/L

総ケトン体	26.0～122
アセト酢酸	13.0～69.0
3-ハイドロキシ酪酸	76.0以下

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

19 ヘパリン

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
特殊健康診断関連検査	2505	**鉛(Pb)** 3K110-0000-019-274	血液3.0 (ヘパリン加)	19	冷蔵	4~6		原子吸光分析法	μg/dL	次ページ参照 ※02	鉛健康診断
	1413	**赤血球遊離プロトポルフィリン(鉛健診項目として)** 3J055-0000-019-282	血液1.4 (ヘパリン加)	19	遮光 冷蔵	4~17		蛍光法	μg/dLRBC	次ページ参照 ※01	鉛健康診断
	0525	**尿中δ-アミノレブリン酸** 3J075-0000-001-204	尿0.7	35	遮光 冷蔵	4~6	106 尿糞 ※1	HPLC法	mg/L	次ページ参照 ※02	鉛健康診断
	4569	**血清インジウム** 3K121-0000-023-920	血清2.0	1	冷蔵	8~15		ICP-MS法 (誘導結合高周波プラズマ質量分析)	μg/L	＊1	
	5375	**総三塩化物** (トリクロルエチレンの代謝物として) 3K011-0000-001-202	尿0.8	2	冷蔵	5~11		GC法	mg/L	次ページ参照 ※02	トリクロルエチレン中毒 1,1,1-トリクロルエタン中毒 テトラクロルエチレン中毒
	4765	**総三塩化物** (1,1,1-トリクロルエタンの代謝物として) 3K012-0000-001-202	尿0.8	2	冷蔵	5~11		GC法	mg/L	次ページ参照 ※02	
	4766	**総三塩化物** (テトラクロルエチレンの代謝物として) 3K013-0000-001-202	尿0.8	2	冷蔵	5~11		GC法	mg/L	次ページ参照 ※02	
	2467	**トリクロル酢酸** (トリクロルエチレンの代謝物として) 3K016-0000-001-202	尿0.8	2	冷蔵	5~11		GC法	mg/L	次ページ参照 ※02	
	4767	**トリクロル酢酸** (1,1,1-トリクロルエタンの代謝物として) 3K017-0000-001-202	尿0.8	2	冷蔵	5~11		GC法	mg/L	次ページ参照 ※02	
	4768	**トリクロル酢酸** (テトラクロルエチレンの代謝物として) 3K018-0000-001-202	尿0.8	2	冷蔵	5~11		GC法	mg/L	次ページ参照 ※02	
	5010	**馬尿酸** (トルエンの代謝物として) 3K025-0000-001-204	尿3.0	2	冷蔵	4~7		HPLC法	g/L	＊2 次ページ参照 ※33	トルエン中毒
	5011	**メチル馬尿酸** (キシレンの代謝物として) 3K030-0000-001-204	尿3.0	2	冷蔵	4~7		HPLC法	g/L	次ページ参照 ※33	キシレン中毒
	5247	**N-メチルホルムアミド** (N,N-ジメチルホルムアミドの代謝物として) 3K045-0000-001-203	尿1.7	2	冷蔵	5~11		GC法 (GC-MSD)	mg/L	次ページ参照 ※02	N-Nジメチル ホルムアミド中毒
	5253	**2,5-ヘキサンジオン** (ノルマルヘキサンの代謝物として) 3K050-0000-001-203	尿1.7	2	冷蔵	5~11		GC法 (GC-MSD)	mg/L	次ページ参照 ※02	ノルマルヘキサン 中毒
	5012	**尿マンデル酸** (エチルベンゼンの代謝物として) 3K040-0000-001-204	尿3.0	2	冷蔵	4~7		HPLC法	g/L	次ページ参照 ※33	エチルベンゼン 中毒
	3483	**スチレン代謝物** 3K040-0000-001-205	尿1.0	2	冷蔵	6~11		LC-MS法	g/L	次ページ参照 マンデル酸(MA)、フェニルグリオキシル酸(PGA)、合算値(MA+PGA)を報告します。 ※33	スチレン中毒
	3484	**メチルイソブチルケトン**	尿15.0 以上	116	冷蔵 凍結不可	17~31		ヘッドスペース GC/FID法	mg/L 1.0以下	揮発性物質のため、容器内に空間部分を作らないよう尿を入れ、直ちに密栓してください。 ※33	メチルイソブチル ケトン中毒

特殊健康診断関連検査の概要は次のページを参照してください。

＊1　インジウム濃度が3 μg/L以上の場合であって医師が必要と認める時、就業制限(就業時間短縮、作業の転換、就業場所の変更、治療の為の休業等)の措置がとられます。

＊2　いちご・すももなど果実の摂取や安息香酸を含有する清涼飲料水などの摂取によって変動しますので、摂取状況の確認が必要です。摂取した場合は、別の日に検査を実施してください。

※1　鉛健康診断として実施された場合は、保険算定の対象外です。

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

19 ヘパリン

35 遮光用尿容器

116 メチルイソブチルケトン

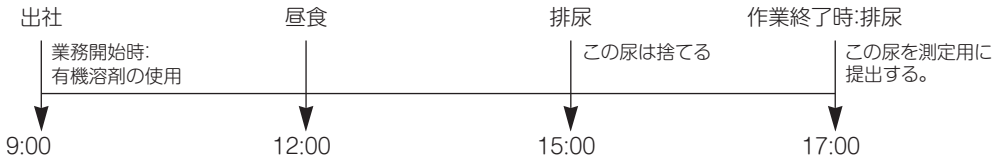
〈検査の目的〉

血液中の有害物質や尿中の有害物質の代謝物の検査結果は作業者個人への健康障害への予防に役立てたり、作業の実体（作業環境・作業方法）の評価をするために使うものです。
作業者の健康状態の正常・異常の鑑別を目的としたものではありません。
個人の暴露量や集団の分布区分は予防の資料として、作業環境測定結果等と総合的に把握して、快適な環境づくりに活用するものです。

〈検体の採取方法〉

有害化学物質はそのまま呼気中に、また代謝された後、尿中に排泄されます。一般的にある物質が体内に取り込まれ、最初の濃度の1/2の濃度になるまでの時間を生物学的半減期といいます。有機溶剤はその種類によって排泄速度は異なりますが、この生物学的半減期が比較的短いため、作業終了後の所定時間に採取しなければ信頼性のあるデータが得られません。

使用物質名	検査項目名	採取方法
鉛	血中鉛 赤血球遊離プロトポルフィリン 尿中δ-アミノレブリン酸	当該作業に従事している期間であれば、任意の時間で良い。
トルエン	馬尿酸	連続した作業日の２日目以降に、作業終了２時間前に一度排尿し、捨てる。 その後は排尿せずに、作業終了時に採尿したものを提出する。(注)
キシレン	メチル馬尿酸	
スチレン	スチレン代謝物 (マンデル酸、フェニルグリオキシル酸)	
エチルベンゼン	マンデル酸	
ノルマルヘキサン	2,5-ヘキサンジオン	
N,N-ジメチルホルムアミド	N-メチルホルムアミド	
テトラクロルエチレン	トリクロル酢酸 総三塩化物	連続した作業日のうちで週末に、作業終了２時間前に一度排尿し、捨てる。 その後は排尿せずに、作業終了時に採尿したものを提出する。(注)
1,1,1-トリクロルエタン		
トリクロルエチレン		
メチルイソブチルケトン	メチルイソブチルケトン	作業終了２時間前に一度排尿し、捨てる。 その後は排尿せずに、作業終了時に採尿したものを提出する。(注) 揮発性物質のため、容器内に空間部分を作らないように尿を入れ、直ちに密栓する。



(注)「作業終了時」とは、例えば9時から17時まで有機溶剤業務に従事している労働者の場合、15時に排尿して測定に用いる尿は17時に採取する事を「作業終了時」の排尿とします。

〈有機溶剤・鉛関連検査結果分布表〉

対象物質	検査項目名	単位	分布		
			1	2	3
鉛	血中鉛	μg/dL	20以下	20超　40以下	40超
	赤血球遊離プロトポルフィリン	μg/dL RBC	100以下	100超　250以下	250超
	尿中δ-アミノレブリン酸	mg/L	5以下	5超　10以下	10超
トルエン	馬尿酸	g/L	1以下	1超　2.5以下	2.5超
キシレン	メチル馬尿酸		0.5以下	0.5超　1.5以下	1.5超
スチレン	スチレン代謝物 (マンデル酸、フェニルグリオキシル酸)		—	—	—
エチルベンゼン	マンデル酸		—	—	—
ノルマルヘキサン	2,5-ヘキサンジオン	mg/L	2以下	2超　5以下	5超
N,N-ジメチルホルムアミド	N-メチルホルムアミド		10以下	10超　40以下	40超
テトラクロルエチレン	トリクロル酢酸		—	—	—
	総三塩化物		—	—	—
1,1,1-トリクロルエタン	トリクロル酢酸		3以下	3超　10以下	10超
	総三塩化物		10以下	10超　40以下	40超
トリクロルエチレン	トリクロル酢酸		—	—	—
	総三塩化物		—	—	—
メチルイソブチルケトン	メチルイソブチルケトン		—	—	—

※分布1、2、3と分けている数値は、厚生労働省がこの分布に属する人数を行政的に把握する為に設定したものであって、結果を判定する基準となるものではありません。したがってこの数値で診断したり判定したりはしないこととされてます。

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
ビタミン	2267	ビタミンB1(チアミン) 3G025-0000-019-205	血液0.5 (EDTA-2K加)	69	凍結 (6ヵ月)	4~6	239 生Ⅰ	LC-MS/MS法	ng/mL 24~66	※02	脚気
	2268	ビタミンB2(リボフラビン) 3G030-0000-019-204	血液0.5 (EDTA-2K加)	69	遮光 凍結 (1ヵ月)	4~6	235 生Ⅰ	HPLC法	ng/mL 66.1~111.4	採血後専用容器に採取し、転倒混和後遮光ポリチューブに移してから凍結してください。 ※02	舌炎 口内炎
	2269	ビタミンB6 3G036-0000-023-204	血清1.0	1	遮光 冷蔵 (2週)	4~10		HPLC法	下記参照	※01	ビタミンB6欠乏症
	2270	ビタミンB12 3G040-0000-023-051	血清0.6	1	冷蔵	2~4	136 生Ⅰ	CLIA法	pg/mL 233~914	※01	悪性貧血 巨赤芽球性貧血 吸収不良症候群
	5255	ビタミンC(アスコルビン酸) 予約検査 3G060-0000-023-204	血清0.7 単独検体	専用	(分離後) 遮光 凍結	4~10	296 生Ⅰ	HPLC法	μg/mL 4.7~17.8	＊1 ※01	壊血病 アルコール依存症
	3285	葉酸 3G105-0000-023-051	血清0.7	1	冷蔵	2~4	146 生Ⅰ	CLIA法	ng/mL 3.6~12.9	溶血は高値の影響があります。 ※01	巨赤芽球性貧血 吸収不良症候群 アルコール依存症
	5252	ビタミンA 3G015-0000-023-204	血清0.3	1	遮光 冷蔵 (4週)	5~11		HPLC法	μg/dL 27.2~102.7	※01	ビタミンA欠乏症 ビタミンA過剰症 肝疾患 高脂血症
	2272	ニコチン酸(ナイアシン) 3G110-0000-019-905	血液1.5 (ヘパリン加)	19	冷蔵	8~14		バイオアッセイ法	μg/mL 4.7~7.9	※02	ナイアシン欠乏症 ニコチン酸製剤のモニタリング

＊1　シュウ酸二水和物入り容器に血液8mLを入れ、速やかに混和し、遮光冷蔵保管してください。血液が凝固しはじめたら速やかに遠心分離を行い、血清を分注し遮光凍結保存してご提出ください。必ず提出日に採血を行ってください。

[2269] ビタミンB6 基準値

単位：ng/mL

	男　性	女　性
ピリドキサミン(PAM)	0.6以下	0.6以下
ピリドキサール(PAL)	6.0~40.0	4.0~19.0
ピリドキシン(PIN)	3.0以下	3.0以下

1 プレイン容器

19 ヘパリン

69 EDTA-2K入り

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
ビタミン	2181	1,25-(OH)$_2$ビタミンD 3G070-0000-023-001	血清0.6	1	冷蔵	4~8	388❶ 生Ⅰ	RIA 2抗体法	pg/mL 成人：20.0~60.0 小児：20.0~70.0	※02	副甲状腺機能低下症 慢性腎不全
	3432	25-OHビタミンD 3G065-0000-023-051	血清0.6	1	冷蔵	3~5	117❷ 生Ⅰ	CLIA法	ng/mL	判定の目安については下欄「ビタミンD不足・欠乏の判定指針」をご参照ください。 ※01	ビタミンD欠乏性くる病 ビタミンD欠乏性骨軟化症 骨粗鬆症
	3448	25-OHビタミンD/ECLIA 3G065-0000-023-053	血清0.5	1	冷蔵	3~5		ECLIA法	ng/mL		
	2498	ビタミンK分画 3G090-0000-022-204	血漿2.0 速やかに遠心	23	(分離後) 遮光 凍結 (17日)	4~10		HPLC法	ng/mL K1:0.15~1.25 K2(MK-4):0.10以下	※02	新生児メレナ 乳児ビタミンK欠乏性出血症 胆道閉塞 吸収不良症候群
	3104	カルニチン 3G055-0000-023-271	血清0.5	1	冷蔵	3~4	95+95❸ 生Ⅰ	酵素 サイクリング法	μmol/L 総カルニチン：45.0~91.0 遊離カルニチン：36.0~74.0 アシルカルニチン：6.0~23.0	※01	先天性代謝異常症 カルニチン欠乏症

❶1,25-ジヒドロキシビタミンD_3は、ラジオレセプターアッセイ法、RIA法又はELISA法により、慢性腎不全、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存症Ⅰ型若しくは低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時又はそれらの疾患に対する活性型ビタミンD_3剤による治療中に測定した場合に限り算定できる。ただし、活性型ビタミンD_3剤による治療開始後1月以内においては2回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定する。

❷25-ヒドロキシビタミンD

ア　25-ヒドロキシビタミンDは、原発性骨粗鬆症の患者に対して、ECLIA法、CLIA法又はCLEIA法により測定した場合は、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に１回に限り算定できる。なお、本検査を実施する場合は関連学会が定める実施方針を遵守すること。

イ　25-ヒドロキシビタミンDは、ビタミンD欠乏性くる病若しくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中にECLIA法、CLIA法又はCLEIA法により測定した場合は、診断時においては１回を限度とし、その後は３月に１回を限度として算定できる。

❸総カルニチン及び遊離カルニチン

ア　総カルニチン及び遊離カルニチンは、関係学会の定める診療に関する指針を遵守し、酵素サイクリング法により測定した場合に算定する。

イ　本検査を先天性代謝異常症の診断補助又は経過観察のために実施する場合は、月に１回 を限度として算定する。

ウ　静脈栄養管理若しくは経腸栄養管理を長期に受けている筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症若しくは小児の患者、人工乳若しくは特殊治療用ミルクを使用している小児患者、バルプロ酸ナトリウム製剤投与中の患者、Fanconi症候群の患者又は慢性維持透析の患者におけるカルニチン欠乏症の診断補助若しくは経過観察のために、本検査を実施する場合は、６月に１回を限度として算定する。

エ　同一検体について、本検査と「D010」特殊分析の先天性代謝異常症検査を併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

[3432, 3448] 25-OHビタミンD　ビタミンD不足・欠乏の判定指針

ビタミンD充足状態	30.0ng/mL以上
ビタミンD不足	20.0ng/mL以上、30.0ng/mL未満
ビタミンD欠乏	20.0ng/mL未満

1 プレイン容器

23 3.2%クエン酸Na入り

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
腫瘍関連検査	2258	CEA(癌胎児性抗原) 5D010-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1~2	99 ❶❷ 生Ⅱ	CLIA法	ng/mL 5.0以下	＊1	悪性腫瘍
	2487	塩基性フェトプロテイン(BFP) 5D025-0000-023-023	血清0.3 速やかに遠心	1	冷蔵	3~9	150 生Ⅱ	EIA法	ng/mL 75未満	溶血検体不可 ※02	
	2259	AFP(α-フェトプロテイン) 5D015-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	2~4	98 生Ⅱ	CLIA法	ng/mL 10.0以下	＊1 ※01	原発性肝癌 肝硬変症 慢性肝炎
	3242	PIVKA-Ⅱ定量 5D520-0000-023-051	血清0.6	1	冷蔵	3~4	131 生Ⅱ	CLIA法	mAU/mL 40未満	＊1 ※01	
	2451	DUPAN-2 5D170-0000-023-023	血清0.4	1	冷蔵	3~5	115 ❶❷ 生Ⅱ	EIA法	U/mL 150以下	※02	膵癌 胆道癌 肝細胞癌
	1093	エラスターゼ1 3B195-0000-023-062	血清0.5	1	(分離後)凍結	3~5	120 生Ⅱ	ラテックス免疫比濁法	ng/dL 300以下	＊1 ※02	膵癌 急性・慢性膵炎
	2402	CA19-9 5D130-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1~2	121 生Ⅱ	CLIA法	U/mL 37以下		膵癌 胆管癌 胃癌 大腸癌
	2486	SPan-1抗原 5D220-0000-023-006	血清0.4	1	冷蔵	3~4	144❷ 生Ⅱ	IRMA法(RIA・固相法)	U/mL 30.0以下	※01	膵癌 胆道癌
	3652	アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォーム 3F186-0000-023-023	血清0.5	1	冷蔵	4~10	335❷ 生Ⅱ	EIA法	μg/mL index：59.5以上	※01	膵癌
	2489	NCC-ST-439 5D200-0000-023-023	血清0.6	1	冷蔵	3~4	112 生Ⅱ	EIA法	U/mL M:4.50未満 F(50才以上):4.50未満 F(49才以下):7.00未満	※01	膵癌 胆道癌 大腸癌 乳癌 胃癌

❶癌胎児性抗原(CEA)とDUPAN-2を併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。

❷アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォーム

ア　アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォームは、以下の(イ)から(ハ)までのいずれかに該当する患者に対して膵癌の診断の補助を目的として、血液を検体としてELISA法により測定した場合に、膵癌の診断の確定までの間に原則として1回を限度として算定できる。本検査を実施するに当たっては、関連学会が定める指針を遵守するとともに、本検査が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

(イ)　関連学会が定める指針に基づき膵癌の高度リスクに該当する患者。ただし、本検査を実施する患者が3月以内にCA19-9検査を行われており、CA19-9の値が37.0U/mL以上である場合には、本検査は算定できない。

(ロ)　関連学会が定める指針に基づき膵癌の中等度リスクに該当する患者であって、癌胎児性抗原(CEA)検査の結果が陰性であり、CA19-9値が37.0U/mL以上かつ100U/mL以下の患者。

(ハ)　関連学会が定める指針に基づき膵癌のリスク因子が3項目以上該当する患者であって、癌胎児性抗原(CEA)及びCA19-9検査の結果が陰性である患者。

イ　アポリポ蛋白A2(APOA2)アイソフォームと、癌胎児性抗原(CEA)、DUPAN-2又はSPan-1を併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。

ウ　本検査をアの(イ)に対して実施する場合はCA19-9の測定年月日及び測定結果を、アの(ロ)及び(ハ)に対して実施する場合は癌胎児性抗原(CEA)及びCA19-9の測定年月日並びに測定結果を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

＊1　悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる場合については、65ページ参照。

1 プレイン容器

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
腫瘍関連検査	2460	シアリルLe^{X}-i抗原(SLX) 5D175-0000-023-006	血清0.2	1	冷蔵	3~5	140 生Ⅱ	RIA 固相法 (IRMA)	U/mL 38.0以下	溶血検体不可 ※02	肺癌 膵癌 卵巣癌 胃癌
	2266	サイトケラチン19フラグメント(シフラ) 5D325-0000-023-051	血清0.4	1	冷蔵	3~4	154❶ 生Ⅱ	CLIA法	ng/mL 3.5以下	※06	肺癌
	4921	ProGRP (ガストリン放出ペプチド前駆体) 5D550-0000-022-051	血漿0.6	13	冷蔵	3~4	175❷ 生Ⅱ	CLIA法	pg/mL 81.0未満	※01	肺小細胞癌
	2407	神経特異エノラーゼ (NSE) 5D410-0000-023-053	血清0.5	1	冷蔵	3~5	142❷ 生Ⅱ	ECLIA法	ng/mL 16.3以下	＊1 ※02	肺小細胞癌 神経芽細胞腫
	4840	抗p53抗体 5D560-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵	3~4	163❸ 生Ⅱ	CLEIA法	U/mL 1.30以下	※01	食道癌 大腸癌 乳癌
	3339	SCC抗原 (扁平上皮癌関連抗原) 5D300-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵	3~5	101 生Ⅱ	CLEIA法	ng/mL 2.5以下	＊2 ※02	肺扁平上皮癌 子宮頸癌 食道癌 皮膚癌

❶サイトケラチン19 フラグメント(シフラ)は、悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定できる。
❷ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)を神経特異エノラーゼ(NSE)と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
❸抗p53抗体は、食道癌、大腸癌又は乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月1回に限り算定できる。

＊1　採血後、1時間以内に血清分離し冷蔵保存してください。溶血検体でのご依頼は避けてください。溶血検体の場合、赤血球からNSEが逸脱して高値となります。
＊2　唾液・フケ・皮膚(表皮)・毛髪・爪などの混入により高値傾向を示す場合がありますので、検体の取り扱いには充分ご注意ください。

1 プレイン容器

13 EDTA-2Na入り

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
腫瘍関連検査	0457	CA54/61 5D155-0000-023-023	血清0.5	1	冷蔵	4～8	184 生Ⅱ	ELISA法	U/mL 12以下	※02	卵巣癌
	3446	HE4 (ヒト精巣上体蛋白4) 5D110-0000-023-051	血清0.3	1	冷蔵 (14日)	4～6	200 生Ⅱ	CLIA法	pmol/L 閉経前：70.0以下 閉経後：140以下	日本人卵巣癌患者における病態の経過観察としてのカットオフ値：70.0以下（閉経前、閉経後） ※06	卵巣癌
	3292	CA125 5D100-0000-023-051	血清0.4	1	冷蔵 (12週)	3～4	136 生Ⅱ	CLIA法	U/mL 35.0以下	＊1 ※06	卵巣癌 子宮癌 子宮内膜症
	3564	TFPI 2 (組織因子経路インヒビター2) 5D115-0000-023-023	血清0.3	121	(分離後) 凍結 (14日)	3～5	190 生Ⅱ	FEIA法	pg/mL 191未満	卵巣明細胞癌の判別カットオフ値：270未満 ＊2 ※06	卵巣癌 卵巣明細胞癌
	2488	CA72-4 5D150-0000-023-053	血清0.5	1	冷蔵	3～5	146 生Ⅱ	ECLIA法	U/mL 10.0以下	※02	卵巣癌　胃癌 乳癌　膵癌 大腸癌
	1256	シアリルTn抗原（STN） 5D153-0000-023-005	血清0.4	1	冷蔵	3～4	146 生Ⅱ	RIA 固相法	U/mL 45.0以下	※01	卵巣癌 胃癌 膵癌
	3325	CA15-3 5D120-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	3～4	112❶ 生Ⅱ	CLIA法	U/mL 31.3以下	※01	乳癌 膵癌 卵巣癌
	3361	BCA225 5D125-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵	3～5	158 生Ⅱ	CLEIA法	U/mL 160未満	※02	乳癌
	2212	HCG定量 (絨毛性ゴナドトロピン) 4F080-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1～2	130 ❷ 生Ⅱ	CLIA法	下記参照	妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。	妊娠 異所性妊娠 胞状奇胎 絨毛癌 切迫流産
	3612	尿HCG定量 4F080-0000-001-023	尿3.0	2	冷蔵	1～2		FEIA法	下記参照	妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。	
	3642	遊離βHCG (HCGβサブユニット) 4F090-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	3～4	129 ❷ 生Ⅱ	CLIA法	ng/mL 1.00未満	※01	HCG産生腫瘍

❶シアリルLe^{x}抗原（CSLEX）とCA15-3を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。
❷ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット（HCG-β）
ア　ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット（HCG-β）は、HCG産生腫瘍患者に対して測定した場合のみ算定できる。
イ　ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット（HCG-β）、ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定性、ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量又は同半定量を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

＊1　悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる場合については、65ページ参照。
＊2　妊婦では、TFPI 2が高値となることが確認されているため、妊婦検体の測定には適しません。必ず指定容器にて採血してください。採血後、5～6回静かに転倒混和し、凝固完了を確認後、速やかに遠心分離を行い、そのまま凍結してご提出ください（採血管内での凝固反応が十分でない場合、TFPI 2が高値を示すことがあります）。

[2212] HCG定量 基準値

単位：mIU/mL

妊娠女性	2週～4週	39.1～8388
	5週～6週	861～88769
	6週～8週	8636～218085
	8週～10週	18700～244467
	10週～12週	23143～181899
	13週～27週	6303～97171
	28週～40週	4360～74883
非妊娠女性		10未満
閉経女性		10未満
男　性		10未満

[3612] 尿HCG定量 基準値

単位：mIU/mL

男性		
女性（非妊婦）		2.5以下
妊婦	4～7週	1210～475000
	8～11週	21900～709000
	12～20週	2890～193000
	21～40週	1680～74300

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

121 TFPI2専用容器

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
腫瘍関連検査	1143	PSA(前立腺特異抗原) 5D305-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1~2	121 ❶❸ 生Ⅱ	CLIA法	ng/mL 4.00以下		前立腺癌
	4544	PSA(高感度) 5D306-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1~2		CLIA法	ng/mL 4.00以下		
	3320	PSA-ACT(前立腺特異抗原-アンチキモトリプシン) 5D306-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	3~4		CLIA法	ng/mL 3.4以下	前立腺肥大症と前立腺癌の判別カットオフ値は7.0ng/mLが推奨されます。 ※01	
	4586	フリーPSA/トータルPSA比(PSA-F/T比) 5D308-0000-023-051	血清0.7	1	冷蔵	2~4	150 ❷❸ 生Ⅱ	CLIA法	下記参照	※01	
	3653	前立腺特異抗原レクチン結合分画比(S2,3PSA%) 5D304-0000-023-024	血清0.5	1	冷蔵	5~10	248❸ 生Ⅱ	LBA-EATA法	% 38.0未満	※33	
	3389	γ-セミノプロテイン(γ-Sm) 5D310-0000-023-052	血清0.4	1	(分離後)凍結(8週)	3~4	192 生Ⅱ	CLEIA法	ng/mL 4.00以下	※06	
	5013	5-S-CD(5-S-システニールL-ドーパ) 5D350-0000-023-204	血清1.0	1	(分離後)凍結	4~8		HPLC法	nmol/L 1.5~8.0	※02	悪性黒色腫
	2177	可溶性IL-2受容体(sIL-2R) 5J095-0000-023-023	血清0.2	1	冷蔵	3~5	438❹ 生Ⅱ	EIA法	U/mL 122~496	※01	成人T細胞性白血病非ホジキンリンパ腫

❶前立腺特異抗原(PSA)は、診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定する。ただし、前立腺特異抗原(PSA)の検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月に1回に限り、3回を限度として算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

❷遊離型PSA比(PSA F/T比)は、診療及び他の検査(前立腺特異抗原(PSA)等)の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。

❸S2,3PSA%

ア S2,3PSA%は、前立腺癌であることが強く疑われる者であって、前立腺特異抗原(PSA)の結果が4.0ng/mL以上10.0ng/mL以下である者に対して、LBA法(定量)により、S2,3PSA%を測定した場合に限り算定できる。

イ 本検査は、前立腺癌の診断に当たって実施した場合に、原則として1回を限度として算定する。ただし、前立腺針生検法等により前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月に1回に限り、3回を限度として算定できる。

ウ S2,3PSA%と、前立腺特異抗原(PSA)、遊離型PSA比(PSA F/T比)又はプロステートヘルスインデックス(phi)を併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。

エ 診療報酬明細書の摘要欄に、前立腺特異抗原(PSA)の測定年月日及び測定結果を記載すること。また、本検査を2回以上算定する場合は、本検査の2回以上の実施が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

❹可溶性インターロイキン-2レセプター(sIL-2R)は、非ホジキンリンパ腫、ATL又はメトトレキサート使用中のリンパ増殖性疾患の診断の目的で測定した場合に算定できる。
また、非ホジキンリンパ腫又はATLであることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は、悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」により算定する。(悪性腫瘍特異物質治療管理料67ページ参照)

[4586] フリーPSA/トータルPSA比 基準値

前立腺癌と非癌との鑑別	トータルPSA4.1~10.0ng/mLのグレーゾーンにおいて、F/T比26.0%以下の場合、前立腺癌の高度疑い
基準値	トータルPSA:4.00ng/mL以下 フリーPSA:未設定 フリー/トータル比:26.1%以上

1 プレイン容器

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
腫瘍関連検査	5509	I CTP (1型コラーゲン-C-テロペプチド) 5C124-0000-023-001	血清0.3	1	冷蔵	3~5	❶	RIA 2抗体法	ng/mL 4.5未満	※02	乳癌骨転移 肺癌骨転移 前立腺癌骨転移
	4580	NTX (1型コラーゲン架橋N-テロペプチド) 5C123-0000-001-052	尿2.0	2	冷蔵	3~5	156 ❶❷❸❹ 生Ⅱ	CLEIA法	下記参照	早朝第二尿をご提出ください。 ※01	副甲状腺機能亢進症 骨粗鬆症 乳癌骨転移 肺癌骨転移 前立腺癌骨転移
	4579	尿DPD (デオキシピリジノリン) 5C146-0000-001-021	尿2.0	2	冷蔵	4~6	191 ❶❷❸❹ 生Ⅱ	EIA法	下記参照	早朝第二尿をご提出ください。 ※01	
	4870	TRACP-5b (酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ) 3B222-0000-023-023	血清0.3	1	(分離後)凍結	3~4	156❹ 生Ⅱ	EIA法	下記参照	※01	骨粗鬆症 肺癌骨転移 乳癌骨転移 前立腺癌骨転移

❶ I型コラーゲン-C-テロペプチド（I CTP）、I型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX）又はデオキシピリジノリン（DPD）（尿）は、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。（悪性腫瘍特異物質治療管理料67ページ参照）

❷ I型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX）及びデオキシピリジノリン（DPD）（尿）は、原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定する。なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また薬剤治療方針を変更したときは変更後6月以内に1回に限り算定できる。

❸ I型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX）、オステオカルシン（OC）又はデオキシピリジノリン（DPD）（尿）を併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定する。

❹ 酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）は、代謝性骨疾患及び骨転移（代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る）の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できる。また治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できる。
本検査とI型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX）、オステオカルシン（OC）又はデオキシピリジノリン（DPD）（尿）を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定する。なお、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査に基づいて計画的な治療管理を行った場合は、悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。

[4580] NTX 基準値

単位：nmol BCE/m mol・Cr

男性（40~59才）	13.0 ~ 66.2
女性（閉経前30~44才）	9.3 ~ 54.3
女性（閉経後45~79才）	14.3 ~ 89.0

判定基準	
骨吸収亢進の指標	55以上
副甲状腺摘出術の適応	200以上
悪性腫瘍（乳癌、肺癌、前立腺癌）の骨転移の指標	100以上

骨粗鬆症薬剤治療の指標	
骨折高リスクの指標	54.3超
骨量減少高リスクの指標	35.3以上

※BCEは骨コラーゲン相当量（Bone Collagen Equivalents）の単位

[4579] 尿DPD 基準値

単位：nmol /mmol・CRE

	基準値
男　性	2.1~5.4
女　性	2.8~7.6

骨粗鬆症薬剤治療の指標	
骨折高リスクの指標	7.6超
骨量減少高リスクの指標	5.9以上

[4870] TRACP-5b 基準値

単位：mU/dL

男　性	170~590
女性（YAM）	120~420

YAM（Young Adult Mean：若年者成人平均値）
：健常閉経前女性（30 ~ 44才）で確率された平均±1.96SDの範囲の値

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
腫瘍関連検査	4564	BAP (骨型アルカリホスファターゼ) 3B072-0000-023-052	血清0.3	1	冷蔵	3~5	157❶ 生Ⅱ	CLEIA法	下記参照	※33	悪性腫瘍に伴う骨転移 骨粗鬆症
	5049	total-P1NP (1型プロコラーゲン-N-プロペプチド) 5C120-0000-023-053	血清0.3	1	冷蔵	3~4	160❶ 生Ⅱ	ECLIA法	下記参照	ビオチンを投与している患者(1日の投与量5mg以上)からの採血は、投与後、少なくとも8時間以上経過してから実施してください。溶血は低値の影響あります。※01	骨粗鬆症

❶骨型アルカリホスファターゼ(BAP)、Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(PⅠNP)、インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド(Intact PⅠNP)及びALPアイソザイム(PAG電気泳動法)のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

[4564] BAP 基準値

単位:μg/L

男性	3.7~20.9
女性(閉経前)	2.9~14.5
女性(閉経後)	3.8~22.6

[5049] total-P1NP 基準値

単位:ng/mL

男性(30~83才)	18.1~74.1
女性(閉経前 30~44才)	16.8~70.1
女性(閉経後 45~79才)	26.4~98.2

1 プレイン容器

〈各腫瘍マーカーの疾患別有用性〉

腫瘍マーカー	悪性疾患																
	食道癌	胃癌	結腸・直腸癌	肝癌	膵癌	胆嚢・胆管癌	肺癌	腎癌	膀胱癌	前立腺癌	睾丸腫瘍	乳癌	卵巣癌	子宮頚癌	甲状腺癌	神経芽細胞腫	癌の骨転移
CEA	○	○	◎	○	◎	○	◎			△		○	△		△		
BFP	○	△	○	◎	◎	◎	○	◎	○	◎	◎		◎	○			
AFP				◎													
AFP-L3%/LBA				○													
PIVKA-Ⅱ				◎	△	○											
DUPAN-2	△	○	△	◎	◎	◎	△					△					
エラスターゼ1	○	○	○	◎	◎	◎	○										
CA19-9		○	○	○	◎	◎	○						○				
SPan-1	△	○	○	◎	◎	◎	○					△					
NCC-ST-439	△	△	○	○	◎	◎	△					○	△	○			
SLX	△	△	△	○	◎	○	腺癌○	△	△	△		△	◎	△			
CYFRA（シフラ）		△	○	△		○	扁平上皮癌◎					転移例○	△	○			
ProGRP							小細胞癌◎										
NSE							小細胞癌◎									◎	
SCC	○						扁平上皮癌◎						○	◎			
CA54/61		○	○		○		○						◎				
TFPI 2													◎				
CA125	△	○	○	◎	◎	◎	腺癌○					△	◎				
HE4													◎				
CA72-4		◎	◎		○	○						○	◎	△			
STN		再発例◎	○	△	○	○	△					△	○	○	△		
CA15-3	△	△	△				△					転移例◎	○	○			
BCA225		△	△	○	◎		△					転移例◎	○	△			
γ-Sm（γ-セミノプロテイン）										◎							
PSA										◎							
抗p53抗体	○		△									△					

特に有用性が認められる。あるいは陽性率が高い。
有用性が認められる。
〈陽性率〉　1～24%（△）
25～49%（○）
50%以上（◎）

〈目的別　主な腫瘍マーカー〉

臓器名	診断補助	治療効果判定・フォローアップ	備考
肺 扁平上皮癌 腺癌 小細胞癌	 シフラ、SCC、CEA SLX、CEA NSE、ProGRP、CEA	左記の腫瘍マーカー	骨転移マーカー(＊)も利用可
乳腺	CA15-3、BCA225、NCC-ST-439、抗p53抗体、CA72-4、CEA		
食道 扁平上皮癌 腺癌	 SCC、CEA、抗p53抗体 CEA、抗p53抗体		
胃	CA72-4、CEA、CA19-9、NCC-ST-439、STN、SLX	CA72-4、CEA、CA19-9、NCC-ST-439、STN	
大腸	CEA、CA72-4、CA19-9、STN、NCC-ST-439、抗p53抗体	左記の腫瘍マーカー	
肝	AFP、PIVKA-Ⅱ、AFP-L3%、DUPAN-2、CEA		
胆道	CEA、CA19-9、DUPAN-2、SPan-1、NCC-ST-439、STN		
膵臓	CA19-9、CEA、SPan-1、DUPAN-2、APOA2アイソフォーム、エラスターゼ1、SLX、NCC-ST-439	CA19-9、CEA、SPan-1、DUPAN-2、NCC-ST-439	
卵巣	CA125、HE4、CA54/61、CA72-4、STN、TFPI2、CEA、SLX、BFP	CA125、CA72-4、CEA、STN、CA54/61、BFP	
子宮 頸部癌 体部癌	 SCC、CEA BFP、CA125	左記の腫瘍マーカー	
膀胱	BFP、CEA	尿BTA、BFP、CEA	
精巣	AFP、HCG、BFP	左記の腫瘍マーカー	
前立腺	PSA、PSA F/T比、S2,3PSA%、γ-Sm、BFP	PSA、γ-Sm、BFP	骨転移マーカー(＊)も利用可
甲状腺	CEA、カルシトニン	左記の腫瘍マーカー	

＊骨転移マーカー：ICTP、DPD、TRACP-5b、NTX

検体検査実施料

（1） 腫瘍マーカーは、悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に、悪性腫瘍の診断の確定又は転帰の決定までの間に１回を限度として算定する。

悪性腫瘍の診断が確定し、計画的な治療管理を開始した場合、当該治療管理中に行った腫瘍マーカーの検査の費用は悪性腫瘍特異物質治療管理料に含まれ、腫瘍マーカーは、原則として、悪性腫瘍特異物質治療管理料と同一月に併せて算定できない。ただし、悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。

ア　急性及び慢性膵炎の診断及び経過観察のためにエラスターゼ１を行った場合

イ　肝硬変、HBs抗原陽性の慢性肝炎又はHCV抗体陽性の慢性肝炎の患者について、α-フェトプロテイン（AFP）、PIVKA-Ⅱ半定量又は定量を行った場合（月１回に限る。）

ウ　子宮内膜症の診断又は治療効果判定を目的としてCA125又はCA602を行った場合（診断又は治療前及び治療後の各１回に限る。）

エ　家族性大腸腺腫症の患者に対して癌胎児性抗原（CEA）を行った場合

（2） 尿中BTAは、膀胱癌であると既に確定診断がされた患者に対して、膀胱癌再発の診断のために行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料の「イ」を算定する。

（3） 癌胎児性抗原（CEA）とDUPAN-2を併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。

（4） 前立腺特異抗原（PSA）は、診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、１回を限度として算定する。ただし、前立腺特異抗原（PSA）の検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、３月に１回に限り、３回を限度として算定できる。なお、当該検査を２回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

（5） CA125及びCA602を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

（6） 上記（1）にかかわらず、（5）に掲げる項目について、１つを悪性腫瘍特異物質治療管理料の項目とし、他の１つの検査を腫瘍マーカーの項目として算定することはできず、いずれか一方のみ算定する。

（7） 核マトリックスプロテイン22（NMP22）定性（尿）又は定量（尿）

ア　核マトリックスプロテイン22（NMP22）定量（尿）及び核マトリックスプロテイン22（NMP22）定性（尿）は、「D002」尿沈渣（鏡検法）により赤血球が認められ、尿路上皮癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。

イ　核マトリックスプロテイン22（NMP22）定量（尿）及び核マトリックスプロテイン22（NMP22）定性（尿）については、尿路上皮癌の診断が確定した後に行った場合であっても、悪性腫瘍特異物質治療管理料は算定できない。

（8） 核マトリックスプロテイン22（NMP22）定量（尿）又は核マトリックスプロテイン22（NMP22）定性（尿）及びサイトケラチン８・18（尿）を同時に実施した場合は、いずれか一方の所定点数を算定する。

（9） 遊離型PSA比（PSA F/T比）は、診療及び他の検査（前立腺特異抗原（PSA）等）の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。

（10） サイトケラチン19フラグメント（シフラ）は、悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定できる。

（11） サイトケラチン８・18（尿）

ア　サイトケラチン８・18（尿）は、「D002」尿沈渣（鏡検法）により赤血球が認められ、尿路上皮癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。

イ　サイトケラチン８・18（尿）は、尿路上皮癌の診断が確定した後に行った場合であっても、悪性腫瘍特異物質治療管理料は算定できない。

（12） シアリルLe^{X}抗原（CSLEX）

ア　シアリルLe^{X}抗原（CSLEX）は、診療及び他の検査の結果から乳癌の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に算定する。

イ　シアリルLe^{X}抗原（CSLEX）とCA15-3を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

（13） 抗p53抗体は、食道癌、大腸癌又は乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月１回に限り算定できる。

（14） Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド（ⅠCTP）、Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX）又はデオキシピリジノリン（DPD）（尿）は、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。

（15） ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）を神経特異エノラーゼ（NSE）と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。

（16） α-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3%）は、電気泳動法及び抗体親和性転写法又はLBA法による。

（17） 組織因子経路インヒビター２（TFPI2）は、EIA法により測定した場合に算定できる。

（18） ヒト精巣上体蛋白４（HE4）は、CLIA法又はECLIA法により測定した場合に算定できる。

（19） 可溶性メソテリン関連ペプチド

ア　可溶性メソテリン関連ペプチドは、悪性中皮腫の診断の補助又は悪性中皮腫であると既に確定診断された患者に対して治療効果の判定若しくは経過観察を目的として実施した場合に算定する。

イ　本検査を悪性中皮腫の診断の補助を目的として実施する場合は、以下のいずれかに該当する患者に対して使用した場合に限り算定する。この場合、本検査が必要である理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

（イ）　石綿曝露歴があり、胸水、腹水等の貯留が認められる患者

（ロ）　体腔液細胞診で悪性中皮腫が疑われる患者

（ハ）　画像診断で胸膜腫瘍、腹膜腫瘍等の漿膜腫瘍が認められる患者

ウ　本検査を悪性中皮腫の治療効果の判定又は経過観察を目的として実施する場合は、悪性中皮腫であると既に確定診断された患者に対して、本検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。

（20） プロステートヘルスインデックス（phi）

ア　プロステートヘルスインデックス（phi）は、診療及び他の検査（前立腺特異抗原（PSA）等）の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者であって、以下の（イ）から（ハ）までのいずれかに該当する者に対して、CLEIA法により、前立腺特異抗原（PSA）、遊離型PSA及び［-2］proPSAを測定し、プロステートヘルスインデックス（phi）を算出した場合に限り算定する。

（イ）　前立腺特異抗原（PSA）値が4.0ng/mL以上かつ10.0ng/mL以下

（ロ）　50歳以上65歳未満であって、前立腺特異抗原（PSA）値が3.0ng/mL以上かつ10.0ng/mL以下

（ハ）　65歳以上70歳未満であって、前立腺特異抗原（PSA）値3.5ng/mL以上かつ10.0ng/mL以下

イ　アに該当する患者に対して、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に、原則として１回を限度として算定する。ただし、前立腺針生検法等により前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、３月に１回に限り、３回を限度として算定できる。

ウ　前立腺特異抗原（PSA）を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。

エ　遊離型PSA比（PSA F/T比）を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。

オ　本検査を算定する場合は、診療報酬明細書の摘要欄に、前立腺特異抗原（PSA）の測定年月日及び測定結果を記載すること。また、本検査を２回以上算定する場合は、診療報酬明細書の摘要欄にその必要性を記載すること。

（21） 癌胎児性抗原（CEA）定性（乳頭分泌液）又は同半定量（乳頭分泌液）は、乳頭異常分泌患者に対して非腫瘤性乳癌を強く疑って、乳頭分泌液中の癌胎児性抗原（CEA）を測定した場合に算定する。

（22） HER2蛋白は、悪性腫瘍が既に確定診断され、かつ、HER2蛋白過剰発現が認められている患者又は他の測定法により、HER2蛋白過剰発現の有無が確認されていない再発癌患者に対して、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。

(23)　可溶性インターロイキン-２レセプター（sIL-2R）は、非ホジキンリンパ腫、ATL又はメトトレキサート使用中のリンパ増殖性疾患の診断の目的で測定した場合に算定できる。
　また、非ホジキンリンパ腫又はATLであることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は、悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」により算定する。
(24)　「注２」に係る規定は、本区分に掲げる血液を検体とする検査と癌胎児性抗原（CEA）定性（乳頭分泌液）又は同半定量（乳頭分泌液）を同一日に行った場合にも、適用する。
(25)　S2,3PSA%
ア　S2,3PSA%は、前立腺癌であることが強く疑われる者であって、前立腺特異抗原（PSA）の結果が4.0ng/mL以上10.0ng/mL以下である者に対して、LBA法(定量)により、S2,3PSA%を測定した場合に限り算定できる。
イ　本検査は、前立腺癌の診断に当たって実施した場合に、原則として１回を限度として算定する。ただし、前立腺針生検法等により前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、３月に１回に限り、３回を限度として算定できる。
ウ　S2,3PSA%と、前立腺特異抗原（PSA）、遊離型PSA比（PSA F/T比）又はプロステートヘルスインデックス（phi）を併せて実施した場合には、いずれか主たるもののみ算定する。
エ　診療報酬明細書の摘要欄に、前立腺特異抗原（PSA）の測定年月日及び測定結果を記載すること。また、本検査を２回以上算定する場合は、本検査の２回以上の実施が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
(26)　アポリポ蛋白A2（APOA2）アイソフォーム
ア　アポリポ蛋白A2（APOA2）アイソフォームは、以下の(イ)から(ハ)までのいずれかに該当する患者に対して膵癌の診断の補助を目的として、血液を検体としてELISA法により測定した場合に、膵癌の診断の確定までの間に原則として１回を限度として算定できる。本検査を実施するに当たっては、関連学会が定める指針を遵守するとともに、本検査が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
(イ)　関連学会が定める指針に基づき膵癌の高度リスクに該当する患者。ただし、本検査を実施する患者が3月以内にCA19-9検査を行われており、CA19-9の値が37.0U/mL以上である場合には、本検査は算定できない。
(ロ)　関連学会が定める指針に基づき膵癌の中等度リスクに該当する患者であって、癌胎児性抗原（CEA）検査の結果が陰性であり、CA19-9値が37.0U/mL以上かつ100U/mL以下の患者。
(ハ)　関連学会が定める指針に基づき膵癌のリスク因子が3項目以上該当する患者であって、癌胎児性抗原（CEA）及びCA19-9検査の結果が陰性である患者。
イ　アポリポ蛋白A2（APOA2）アイソフォームと、癌胎児性抗原（CEA）、DUPAN-2又はSPan-1を併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。
ウ　本検査をアの（イ）に対して実施する場合はCA19-9の測定年月日及び測定結果を、アの（ロ）及び（ハ）に対して実施する場合は癌胎児性抗原（CEA）及びCA19-9の測定年月日並びに測定結果を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

悪性腫瘍特異物質治療管理料

（1）　悪性腫瘍特異物質治療管理料は、悪性腫瘍であると既に確定診断がされた患者について、腫瘍マーカー検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に、月１回に限り算定する。
（2）　悪性腫瘍特異物質治療管理料には、腫瘍マーカー検査、当該検査に係る採血及び当該検査の結果に基づく治療管理に係る費用が含まれるものであり、１月のうち２回以上腫瘍マーカー検査を行っても、それに係る費用は別に算定できない。
（3）　腫瘍マーカー検査の結果及び治療計画の要点を診療録に添付又は記載する。
（4）　初回月加算は、適切な治療管理を行うために多項目の腫瘍マーカー検査を行うことが予想される初回月に限って算定する。ただし、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する当該初回月の前月において、「D009」腫瘍マーカーを算定している場合は、当該初回月加算は算定できない。
（5）　「D009」腫瘍マーカーにおいて、併算定が制限されている項目を同一月に併せて実施した場合には、１項目とみなして、本管理料を算定する。
（6）　当該月に悪性腫瘍特異物質以外の検査（本通知の腫瘍マーカーの項に規定する例外規定を含む。）を行った場合は、本管理料とは別に、検査に係る判断料を算定できる。
（7）　特殊な腫瘍マーカー検査及び計画的な治療管理のうち、特に本項を準用する必要のあるものについては、その都度当局に内議し、最も近似する腫瘍マーカー検査及び治療管理として準用が通知された算定方法により算定する。

〈検体検査実施料と悪性腫瘍特異物質治療管理料〉

区分番号	検査項目名	悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる患者 検体検査実施料		悪性腫瘍であると既に診断が確定した患者 悪性腫瘍特異物質治療管理料
1	尿中BTA　*1	80		220
2	α-フェトプロテイン（AFP）	98		1項目　360 2項目以上　400 初回月加算　150 当該初回月の前月に腫瘍マーカー検査実施料の所定点数を算定している場合は、当該初回月加算は算定できない。
3	癌胎児性抗原（CEA）	99		
4	扁平上皮癌関連抗原（SCC抗原）	101		
5	組織ポリペプタイド抗原（TPA）	110		
6	NCC-ST-439 CA15-3	112		
7	DUPAN-2	115		
8	エラスターゼ1	120		
9	前立腺特異抗原（PSA） CA19-9	121		
10	PIVKA-Ⅱ半定量 PIVKA-Ⅱ定量	131		
11	CA125	136		
12	核マトリックスプロテイン22（NMP22）定量（尿）*2 核マトリックスプロテイン22（NMP22）定性（尿）*2	139		
13	シアリルLe^{X}-i抗原（SLX）	140		1項目　360 2項目以上　400 初回月加算　150 当該初回月の前月に腫瘍マーカー検査実施料の所定点数を算定している場合は、当該初回月加算は算定できない。
14	神経特異エノラーゼ（NSE）	142		
15	SPan-1	144		
16	CA72-4 シアリルTn抗原（STN）	146		
17	塩基性フェトプロテイン（BFP） 遊離型PSA比（PSA F/T比）	150	2項目　230 3項目　290 4項目以上　385	
18	サイトケラチン19フラグメント（シフラ）	154		
19	シアリルLe^{X}抗原（CSLEX）	156		
20	BCA225	158		
21	サイトケラチン8・18（尿）　*2	160		
22	抗p53抗体	163		1項目　360 2項目以上　400 初回月加算　150 当該初回月の前月に腫瘍マーカー検査実施料の所定点数を算定している場合は、当該初回月加算は算定できない。
23	Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド（ⅠCTP）*1	170		
24	ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）	175		
25	CA54/61	184		
26	α-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3%）	185		
27	CA602 組織因子経路インヒビター2（TFPI2）	190		
28	γ-セミノプロテイン（γ-Sm）	192		
29	ヒト精巣上体蛋白4（HE4）	200		
30	可溶性メソテリン関連ペプチド	220		
31	S2, 3PSA%	248		
32	プロステートヘルスインデックス（phi）	281		
33	癌胎児性抗原（CEA）定性（乳頭分泌液） 癌胎児性抗原（CEA）半定量（乳頭分泌液）	305		
34	HER2蛋白 *1	320		
35	アポリポ蛋白A2（APOA2）アイソフォーム	335		
36	可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）	438		
	Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX） デオキシピリジノリン（DPD）（尿） 酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）			

〔注〕　＊1　「悪性腫瘍特異物質治療管理料」としてのみ算定する。
　　＊2　「検体検査実施料」としてのみ算定する。

赤文字は総合検査案内書掲載項目です

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	採血時刻	備考(製品名、薬剤名等)
抗てんかん剤	2551	フェノバルビタール 3L175-0000-023-062 3L175-0000-022-062	血清0.5	1	冷蔵	1~2	特定薬剤治療管理料	ラテックス凝集法	μg/mL 治療有効濃度 15~40	次回投与直前(トラフ濃度)	複合アレビアチン ノーベルバール フェノバール ルビアール ワコビタール フェノバルビタール
			血漿0.5	19	冷蔵						
	2552	プリミドン 3L190-0000-023-024 3L190-0000-022-024	血清0.3	1	冷蔵	3~5	特定薬剤治療管理料	EIA法	μg/mL 治療有効濃度 5.0~12.0		プリミドン ※02
			血漿0.3	19	冷蔵						
	2553	フェニトイン 3L185-0000-023-062 3L185-0000-022-062	血清0.5	1	冷蔵	1~2	特定薬剤治療管理料	ラテックス凝集法	μg/mL 治療有効濃度 10~20	経口：次回投与直前(トラフ濃度) 静注：投与後2~4時間	複合アレビアチン アレビアチン ヒダントール フェニトイン
			血漿0.5	19	冷蔵						
	2554	カルバマゼピン 3L115-0000-023-062 3L115-0000-022-062	血清0.5	1	冷蔵	1~2	特定薬剤治療管理料	ラテックス凝集法	μg/mL 治療有効濃度 4~12	次回投与直前(トラフ濃度)	テグレトール カルバマゼピン
			血漿0.5	19	冷蔵						
	2555	エトスクシミド 3L135-0000-023-024 3L135-0000-022-024	血清0.5	1	冷蔵	3~5	特定薬剤治療管理料	EIA法	μg/mL 治療有効濃度 40.0~100.0		ザロンチン エピレオプチマル ※02
			血漿0.5	19	冷蔵						
	2559	バルプロ酸 3L195-0000-023-062 3L195-0000-022-062	血清0.5	1	冷蔵	1~2	特定薬剤治療管理料	ラテックス凝集法	μg/mL 治療有効濃度 50~100		デパケン セレニカR バルプロ酸ナトリウム
			血漿0.5	19	冷蔵						
	1117	ゾニサミド 3L210-0000-023-062	血清0.5	1	冷蔵	2~3	特定薬剤治療管理料	ラテックス凝集法	μg/mL 治療有効濃度 10.0~30.0		エクセグラン ゾニサミド ※01
	1118	トリメタジオン 3L205-0000-023-210	血清0.5	1	(分離後)凍結(4週)	7~13	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	μg/mL 治療有効濃度 300.0~500.0		活性代謝物であるジメタジオンを測定します。 ミノアレ ※01

特定薬剤治療管理料（73~74ページ参照）

採血時刻についての注意事項

1 TDM（血中薬物濃度モニター）における採血時間です。
2 連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3 中毒時はピーク濃度も測定する必要があります。
4 標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

1 プレイン容器

19 ヘパリン

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	採血時刻	備考(製品名、薬剤名等)
抗てんかん剤	2557	クロナゼパム 3L125-0000-023-205	血清0.3	1	冷蔵	4～6	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	ng/mL 治療有効濃度 20～70	次回投与直前(トラフ濃度)	リボトリール ランドセン ※02
	2558	ニトラゼパム 3L165-0000-023-205	血清0.3	1	冷蔵	4～6	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	ng/mL 治療有効濃度 20～200	次回投与直前(トラフ濃度) ただし、抗てんかん剤として用いる場合	ベンザリン ネルボン ニトラゼパム ※02
	5372	ジアゼパム 3L130-0000-023-204	血清0.5	1	冷蔵	4～7	特定薬剤治療管理料	HPLC法	ng/mL ジアゼパム治療有効濃度 600～1000		ジアゼパム及び代謝物のN-デスメチルジアゼパムも併せてご報告いたします。 セルシン、ホリゾン、ダイアップ、ジアゼパム ※02
	4651	クロバザム 3L145-0000-023-205	血清0.3	1	冷蔵	4～6	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	ng/mL		クロバザム及び代謝物のデスメチルクロバザムも併せてご報告いたします。 マイスタン ※02
	1425	アセタゾラミド 3L950-0000-023-204	血清0.3	1	冷蔵	4～10	特定薬剤治療管理料	HPLC法	μg/mL		ダイアモックス ※02
	4867	ガバペンチン 3L215-0000-022-205	血漿0.3	19	冷蔵	4～6	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	μg/mL		ガバペン ※02
	4945	ラモトリギン 3L220-0000-022-210	血漿0.3	19	(分離後)凍結	4～6	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	μg/mL 治療有効濃度 2.50～15.00	次回投与直前(トラフ濃度)	ラミクタール ラモトリギン ※01
	4997	レベチラセタム 3L230-0000-023-210	血清0.3	1	冷蔵(4週)	4～5	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	μg/mL 治療有効濃度 12～46		イーケプラ レベチラセタム ※06
	4960	トピラマート 3L225-0000-023-205	血清0.3	1	冷蔵(4週)	4～5	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	μg/mL 治療有効濃度 5～20		トピナ トピラマート ※06
	3465	ラコサミド 3L248-0000-022-205	血漿0.3	13	冷蔵(4週)	4～5	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	μg/mL		ビムパット ※06
	3466	ペランパネル 3L245-0000-022-205	血漿0.3	13	冷蔵(4週)	4～5	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	ng/mL		フィコンパ ※06
精神神経用剤	3482	リチウム 3L320-0000-023-271	血清0.5	1	冷蔵	2～4	特定薬剤治療管理料	比色法	mEq/L 治療有効濃度 0.40～1.20 (中毒域:1.50以上)	早朝投与前(トラフ濃度)	リーマス 炭酸リチウム ※33
	2463	ハロペリドール 3L300-0000-023-064	血清0.5	1	冷蔵	2～3	特定薬剤治療管理料	金コロイド凝集法	ng/mL 治療有効濃度 3.0～17.0	次回投与直前(トラフ濃度)	ハロペリドール・ブロムペリドールは、ほぼ同等の交差反応を示すため、双方を併用されている患者検体の測定値は、各々の正確な血中濃度値とは合致しませんので、ご注意ください。 セレネース ハロマンス ハロペリドール ※01
	5236	ブロムペリドール 3L302-0000-023-064	血清0.5	1	冷蔵	3～5	特定薬剤治療管理料	金コロイド凝集法	ng/mL 至適血中濃度 15以下	随時(ただし採血時刻を一定とする)	ハロペリドール・ブロムペリドールは、ほぼ同等の交差反応を示すため、双方を併用されている患者検体の測定値は、各々の正確な血中濃度値とは合致しませんので、ご注意ください。 ブロムペリドール ※02
	3618	クロザピン 3L304-0000-022-205	血漿0.3	13	冷蔵(4週)	4～5	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	ng/mL		クロザピンおよび活性代謝物であるデスメチルクロザピンも併せてご報告いたします。 クロザリル ※06

特定薬剤治療管理料（73～74ページ参照）

1 プレイン容器

13 EDTA-2Na入り

19 ヘパリン

採血時刻についての注意事項

1 TDM（血中薬物濃度モニター）における採血時間です。
2 連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3 中毒時はピーク濃度も測定する必要があります。
4 標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	採血時刻	備考(製品名、薬剤名等)
強心剤	2572	ジゴキシン 3L765-0000-023-062 3L765-0000-022-062	血清0.5	1	冷蔵	1~2	特定薬剤治療管理料	ラテックス凝集法	ng/mL 治療有効濃度 0.9~2.0	次回投与直前(トラフ濃度) または 投与後6時間以降	ジゴシン ジゴキシン
			血漿0.5	19							
不整脈用剤	5388	リドカイン 3L875-0000-023-024	血清0.3	1	冷蔵	3~5	特定薬剤治療管理料	EIA法	μg/mL 治療有効濃度 1.2~5.0	静注：投与後2時間 点滴静注：6~12時間	キシロカイン リドカイン ※02
	5387	キニジン 3L900-0000-023-062 3L900-0000-022-062	血清0.4	1	冷蔵	3~9	特定薬剤治療管理料	KIMS法	μg/mL 治療有効濃度 2.0~6.0	次回投与直前(トラフ濃度)	キニジン ※02
			血漿0.4	19	冷蔵						
	5451	ジソピラミド 3L865-0000-023-024	血清0.4	1	冷蔵(4週)	3~4	特定薬剤治療管理料	EIA法	μg/mL 治療有効濃度 2.0~5.0	カプセル： 投与直前(トラフ濃度) および投与後2~4時間(ピーク濃度) 徐放錠： 投与直前(トラフ濃度) および投与後4~7時間(ピーク濃度) 注射剤： 投与直前(トラフ濃度)	リスモダン ジソピラミド ※06
	2574	プロカインアミド 3L890-0000-023-024 3L890-0000-022-024	血清0.4	1	冷蔵	3~5	特定薬剤治療管理料	EIA法	μg/mL 治療有効濃度 4.0~10.0	次回投与直前(トラフ濃度)	アミサリン ※02
			血漿0.4	19	冷蔵						
	2363	プロパフェノン 3L897-0000-023-205	血清0.3	1	冷蔵	4~6	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	ng/mL		プロパフェノン及び主代謝物である5-OHプロパフェノンの各定量値をご報告いたします。 プロノン プロパフェノン ※02
	5407	メキシレチン 3L880-0000-023-205	血清0.3	1	冷蔵	4~6	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	μg/mL 治療有効濃度 0.5~2.0	経口：次回投与直前(トラフ濃度) 静注：随時	メキシチール メキシレチン ※02
	0168	ピルシカイニド 3L896-0000-023-205 3L896-0000-022-205	血清0.3	1	冷蔵	4~6	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	μg/mL 治療有効濃度 0.2~0.9	次回投与直前(トラフ濃度)	サンリズム ピルシカイニド ※02
			血漿0.3	19	冷蔵						
	1460	シベンゾリン 3L898-0000-023-205 3L898-0000-022-205	血清0.3	1	冷蔵	4~6	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	ng/mL 治療有効濃度 70~250	朝投与直前(トラフ濃度)	シベノール シベンゾリン ※02
			血漿0.3	19	冷蔵						
	5238	フレカイニド 3L905-0000-023-205 3L905-0000-022-205	血清0.3	1	冷蔵	4~6	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	ng/mL 治療有効濃度 200~1000	次回投与直前(トラフ濃度)	タンボコール フレカイニド ※02
			血漿0.3	19	冷蔵						
	5055	ベプリジル 3L802-0000-022-205	血漿0.3	19	冷蔵(21日)	4~6	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	ng/mL 治療有効濃度 250~800		ベプリコール ※02

特定薬剤治療管理料（73~74ページ参照）

採血時刻についての注意事項

1 TDM（血中薬物濃度モニター）における採血時間です。
2 連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3 中毒時はピーク濃度も測定する必要があります。
4 標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

1 プレイン容器

19 ヘパリン

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	採血時刻	備考(製品名、薬剤名等)
不整脈用剤	4602	ピルメノール 3L899-0000-022-204	血漿1.3	19	冷蔵	4~10	特定薬剤治療管理料	HPLC法	ng/mL 治療有効濃度 400.0以上	随時	ピメノール ※02
	1116	アプリンジン 3L855-0000-023-205 3L855-0000-022-205	血清0.3 血漿0.3	1 19	冷蔵	4~6	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	μg/mL 治療有効濃度 0.25~1.25	経口：次回投与直前(トラフ濃度) 投与後2~4時間(ピーク濃度) 静注：次回投与直前(トラフ濃度)	アスペノン アプリンジン ※02
	4603	アミオダロン 3L800-0000-022-205	血漿0.3	19	冷蔵	4~6	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	ng/mL	次回投与直前(トラフ濃度)	アミオダロン 有効血中濃度： 500～1000ng/mL (200mg/日投与、定常状態、トラフ値) Desethyl amiodarone/Amiodarone=0.8 (定常状態)。 アンカロン ※02
	5386	プロプラノロール 3L895-0000-023-204 3L895-0000-022-204	血清0.3 血漿0.3	1 19	冷蔵	5~18		HPLC法	ng/mL 治療有効濃度 50~100		インデラル プロプラノロール ※02
抗生物質製剤	2579	ゲンタマイシン 3M606-0000-023-024	血清0.4	1	(分離後)凍結	3~5	特定薬剤治療管理料	EIA法	μg/mL 治療有効濃度 ピーク　15.0~20.0 トラフ　1.0未満	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了後30分後)(ピーク濃度) 投与前30分以内(トラフ濃度)	ゲンタシン ゲンタマイシン ※02
	4857	トブラマイシン（トラフ） 3M602-0000-023-024	血清0.4	1	(分離後)凍結	3~5	特定薬剤治療管理料	EIA法	μg/mL 治療有効濃度 1.0未満	投与前30分以内(トラフ濃度)	トブラシン トービイ ※02
	2578	トブラマイシン（ピーク） 3M602-0000-023-024	血清0.4	1	(分離後)凍結	3~5	特定薬剤治療管理料	EIA法	μg/mL 治療有効濃度 15.0~20.0	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了後30分後)(ピーク濃度)	
	2576	アミカシン 3M601-0000-023-062	血清0.4	1	(分離後)凍結	3~5	特定薬剤治療管理料	KIMS法	μg/mL 治療有効濃度 ピーク　50.0~60.0 トラフ　4.0未満	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了後30分後)(ピーク濃度) 投与前30分以内(トラフ濃度)	アルベカシンとの交差反応があるのでご注意ください。 アミカシン ※02
	1426	アルベカシン 3M613-0000-023-062	血清0.3	1	(分離後)凍結(21日)	3~5	特定薬剤治療管理料	ラテックス凝集比濁法	μg/mL 治療有効濃度 ピーク　15.0~20.0 トラフ　1.0~2.0未満	点滴開始1時間後(30分で投与した場合、終了後30分後)(ピーク濃度) 投与前30分以内(トラフ濃度)	ハベカシン アルベカシン ※02
	4796	バンコマイシン（トラフ） 3M530-0000-023-062	血清0.5	1	冷蔵	1~2	特定薬剤治療管理料	ラテックス凝集比濁法	μg/mL 治療有効濃度 10.0~15.0	投与前30分以内(トラフ濃度)	バンコマイシン
	4797	バンコマイシン（ピーク） 3M530-0000-023-062	血清0.5	1	冷蔵	1~2	特定薬剤治療管理料	ラテックス凝集比濁法	μg/mL		
	4541	テイコプラニン 3M532-0000-023-062	血清0.3	1	冷蔵	3~5	特定薬剤治療管理料	ラテックス凝集比濁法	μg/mL 治療有効濃度 15~30	投与前30分以内(トラフ濃度)	＊1 タゴシッド テイコプラニン ※02
	4868	ボリコナゾール 3M698-0000-022-205	血漿0.3	19	冷蔵	4~6	特定薬剤治療管理料	LC-MS/MS法	μg/mL		ブイフェンド ボリコナゾール ※02

特定薬剤治療管理料（73~74ページ参照）

採血時刻についての注意事項

1 TDM（血中薬物濃度モニター）における採血時間です。
2 連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3 中毒時はピーク濃度も測定する必要があります。
4 標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

＊1　医薬品添付文書には、「テイコプラニンのトラフレベルの血中濃度は、敗血症などの重症感染症においては確実な臨床効果を得るために10μg/mL以上を保つこと。但し、トラフレベルの血中濃度が60μg/mL以上になった場合には腎障害、聴覚障害等の副作用の発現に注意すること。またトラフレベルの血中濃度が20μg/mL以上で一過性に肝機能検査値が軽度上昇したとの報告がある。(医薬品添付文書：2003年1月改訂第8版より)」の内容が記載されております。

1 プレイン容器

19 ヘパリン

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	採血時刻	備考(製品名、薬剤名等)
その他	5379	サリチル酸 3M205-0000-023-271	血清0.4	1	冷蔵	3~5	特定薬剤治療管理料	酵素法	μg/mL 抗炎症作用として治療有効濃度 100~250	次回投与直前(トラフ濃度)	アスピリン ※02
	2229	シクロスポリン 3M805-0000-019-053	血液0.7 (EDTA-2K加) 単独検体	69	凍結	3~5	特定薬剤治療管理料	ECLIA法	ng/mL		他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。 サンディミュン ネオーラル シクロスポリン ※02
	4645	タクロリムス 3M810-0000-019-053	血液0.7 (EDTA-2K加) 単独検体	69	凍結	3~5	特定薬剤治療管理料	ECLIA法	ng/mL		他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。 プログラフ グラセプター タクロリムス ※02
	5453	メトトレキサート 3M725-0000-023-024 3M725-0000-022-024	血清0.5 血漿0.5	1 19	冷蔵	3~5	特定薬剤治療管理料	EIA法	μmol/L 危険限界濃度 24時間値 10以上 48時間値 1以上 72時間値 0.1以上	メトトレキサート・ロイコボリン救援療法時 24,48,72時間	メソトレキセート リウマトレックス メトトレキサート ※02
	2556	テオフィリン 3M070-0000-023-062	血清0.5	1	冷蔵	1~2	特定薬剤治療管理料	ラテックス凝集法	μg/mL 治療有効濃度 10~20	＊1	テオフィリン テオロング テオドール ユニコン ユニフィル ネオフィリン アプニション アミノフィリン キョーフィリン

特定薬剤治療管理料（73~74ページ参照）

採血時刻についての注意事項

1 TDM（血中薬物濃度モニター）における採血時間です。
2 連続投与においては定常状態到達後、採血を行ってください。
3 中毒時はピーク濃度も測定する必要があります。
4 標準的な時間であり、患者状況にあわせて採血するのが望ましいと思われます。

＊1 経口：徐放性製剤では投与後４時間、裸錠では投与後２時間（ピーク濃度）、次回投与直前（トラフ濃度）
静注：負荷投与後30分、点滴開始後4~6、および12~18時間

1 プレイン容器

19 ヘパリン

69 EDTA-2K入り

特定薬剤治療管理料1

●特定薬剤治療管理料は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その結果に基づき当該薬剤の投与量を精密に管理した場合、月１回に限り算定する。
●同一の患者につき特定薬剤治療管理料を算定すべき測定及び計画的な治療管理を月２回以上行った場合においては、特定薬剤治療管理料は１回に限り算定することとし、第１回の測定及び計画的な治療管理を行ったときに算定する。
●本管理料には、薬剤の血中濃度測定、当該血中濃度測定に係る採血及び測定結果に基づく投与量の管理に係る費用が含まれるものであり、１月のうちに２回以上血中濃度を測定した場合であっても、それに係る費用は別に算定できない。ただし、別の疾患に対して別の薬剤を投与した場合及び同一疾患について、同一の区分に該当しない薬剤を投与した場合はそれぞれ算定できる。
●薬剤の血中濃度、治療計画の要点を診療録に添付又は記載する。
●特殊な薬物血中濃度の測定及び計画的な治療管理のうち、特に本項を準用する必要のあるものについては、その都度当局に内議し、最も近似する測定及び治療管理として準用が通知された算定方法により算定する。

<table>
<tr><th rowspan="2">薬物名（対象疾病）</th><th rowspan="2">検査項目（算定備考上の名称）</th><th colspan="2">特定薬剤治療管理料</th><th rowspan="2">加　算　点</th></tr>
<tr><th>１～３ヶ月</th><th>４ヶ月以降</th></tr>
<tr><td rowspan="2">抗てんかん剤（てんかん）</td><td rowspan="2">フェノバルビタール、プリミドン、フェニトイン、カルバマゼピン、バルプロ酸、エトスクシミド、トリメタジオン、クロナゼパム、ニトラゼパム、ジアゼパム、ゾニサミド、ガバペンチン、クロバザム、アセタゾラミド、レベチラセタム、ラモトリギン、トピラマート、スチリペントール、ルフィナミド、ペランパネル、ラコサミド　＊1</td><td>単一薬剤
470点</td><td>単一薬剤
470点</td><td rowspan="4">初回月加算 280点
（薬剤を変更した場合は算定できない。）</td></tr>
<tr><td>複数薬剤
470点×2</td><td>複数薬剤
470点×2</td></tr>
<tr><td>ジギタリス製剤（心疾患）</td><td>ジゴキシン　＊1</td><td rowspan="24">470点</td><td rowspan="11">235点</td></tr>
<tr><td>アミノ配糖体抗生物質〈入院中〉</td><td>ゲンタマイシン、トブラマイシン、アミカシン、アルベカシン</td></tr>
<tr><td rowspan="2">グリコペプチド系抗生物質
〈入院中〉</td><td>バンコマイシン</td><td rowspan="2">初回月加算 530点
（1回に限る）</td></tr>
<tr><td>テイコプラニン</td></tr>
<tr><td>トリアゾール系抗真菌剤〈入院中〉</td><td rowspan="2">ボリコナゾール</td><td rowspan="8">初回月加算 280点
（薬剤を変更した場合は算定できない。）</td></tr>
<tr><td>トリアゾール系抗真菌剤（①）</td></tr>
<tr><td>テオフィリン製剤（②）</td><td>テオフィリン</td></tr>
<tr><td>不整脈用剤（不整脈）</td><td>キニジン、プロカインアミド、N-アセチルプロカインアミド、ジソピラミド、リドカイン、アプリンジン、ピルジカイニド塩酸塩、プロパフェノン、メキシレチン、フレカイニド、シベンゾリンコハク酸塩、ピルメノール、アミオダロン、ソタロール塩酸塩、ベプリジル塩酸塩</td></tr>
<tr><td>ハロペリドール製剤
ブロムペリドール製剤（統合失調症）</td><td>ハロペリドール
ブロムペリドール</td></tr>
<tr><td>治療抵抗性統合失調症治療薬
（統合失調症）</td><td>クロザピン</td></tr>
<tr><td>リチウム製剤（躁うつ病）</td><td>リチウム</td></tr>
<tr><td>バルプロ酸ナトリウム
カルバマゼピン
（躁うつ病または躁病）</td><td>バルプロ酸
カルバマゼピン</td><td rowspan="5">470点</td></tr>
<tr><td rowspan="2">免疫抑制剤
（臓器移植後）</td><td>シクロスポリン
タクロリムス水和物</td><td rowspan="2">2740点　＊4
（臓器移植を行った月から３月以内）</td></tr>
<tr><td>ミコフェノール酸モフェチル　＊2
エベロリムス　＊3</td></tr>
<tr><td>免疫抑制剤（③）</td><td>シクロスポリン</td><td rowspan="10">初回月加算 280点
（薬剤を変更した場合は算定できない。）</td></tr>
<tr><td>免疫抑制剤（④）</td><td>タクロリムス水和物</td></tr>
<tr><td>サリチル酸系製剤
（若年性関節リウマチ、リウマチ熱又は慢性関節リウマチ）</td><td>サリチル酸</td><td rowspan="8">235点</td></tr>
<tr><td>メトトレキサート（悪性腫瘍）</td><td>メトトレキサート</td></tr>
<tr><td>バルプロ酸ナトリウム（片頭痛）</td><td>バルプロ酸</td></tr>
<tr><td>イマチニブ</td><td>イマチニブ</td></tr>
<tr><td>ブスルファン</td><td>ブスルファン</td></tr>
<tr><td>エベロリムス（結節性硬化症）</td><td>エベロリムス</td></tr>
<tr><td>シロリムス製剤（リンパ脈管筋腫症）</td><td>シロリムス</td></tr>
<tr><td>スニチニブ（腎細胞癌）</td><td>スニチニブ</td></tr>
</table>

①　重症又は難治性真菌感染症、造血幹細胞移植患者（深在性真菌症の予防を目的とするものに限る）
②　気管支喘息、喘息性（様）気管支炎、慢性気管支炎、肺気腫又は未熟児無呼吸発作
③　ベーチェット病の患者であって活動性・難治性眼症状を有するもの又はその他の非感染性ぶどう膜炎（既存治療で効果不十分で、視力低下のおそれのある活動性の中間部又は後部の非感染性ぶどう膜炎に限る。）、再生不良性貧血、赤芽球癆、尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬、全身型重症筋無力症、アトピー性皮膚炎（既存治療で十分な効果が得られない患者に限る。）、ネフローゼ症候群若しくは川崎病の急性期
④　全身型重症筋無力症、関節リウマチ、ループス腎炎、潰瘍性大腸炎又は間質性肺炎（多発性筋炎又は皮膚筋炎に合併するものに限る。）

＊1　ジギタリス製剤の急速飽和を行った場合又はてんかん重積状態の患者に対して、抗てんかん剤の注射等を行った場合は、所定点数にかかわらず、１回に限り740点を特定薬剤治療管理料1として算定する。算定する場合にあっては、初回月加算点280点を含め別に特定薬剤治療管理料1は算定できない。

＊2　ミコフェノール酸モフェチルを投与している臓器移植後の患者であって、２種類以上の免疫抑制剤を投与されているものについて、医師が必要と認め、同一暦月に血中の複数の免疫抑制剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、６月に１回に限り250点を所定点数に加算する。
加算を算定する場合は、ミコフェノール酸モフェチルの血中濃度測定の必要性について診療報酬明細書の摘要欄に詳細を記載すること。また、＊3に規定する加算は同一月内に併せて算定できない。

＊3　エベロリムスを投与している臓器移植後の患者であって、２種類以上の免疫抑制剤を投与されているものについて、医師が必要と認め、同一暦月に血中の複数の免疫抑制剤の濃度を測定し、その測定結果に基づき、個々の投与量を精密に管理した場合は、エベロリムスの初回投与を行った日の属する月を含め３月に限り月１回、４月目以降は４月に１回に限り250点を所定点数に加算する。また、＊2に規定する加算は同一月内に併せて算定できない。
加算を算定する場合は、エベロリムスの初回投与から３月の間に限り、当該薬剤の血中濃度測定の必要性について診療報酬明細書の摘要欄に詳細を記載すること。

＊4　2740点の加算を算定する場合には、＊2、＊3に規定する加算は算定できない。

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	3481	カンジダマンナン抗原 5E142-0000-023-023	血清0.8	1	冷蔵	5~8	134 ❶❷ 免疫	ELISA法	U/mL 0.05未満	※33	深在性真菌症 カンジダ症
	3326	(1→3)-β-Dグルカン 5E151-0000-018-271	血液2.0 開封厳禁	113	冷蔵 凍結不可 (5日)	3~4	195❷ 免疫	発色合成基質法	pg/mL 20以下 (深在性真菌感染症の治療法の選択対象のカットオフ値)	カットオフ値：下記参照 専用容器に無菌的に血液3mL採取し、混和後冷蔵保存 ※06	
	1458	アスペルギルス抗原 5E148-0000-023-023	血清0.7	1	冷蔵	3~5	157 ❷❸ 免疫	EIA法	(−) 0.5未満	※01	侵襲性肺アスペルギルス症
	3460	エンドトキシン(ES) 5E049-0000-019-297	血液3.0 開封厳禁	113	冷蔵 凍結不可 (5日)	3~4	229❹ 免疫	比濁時間分析法	pg/mL 5.0未満	専用容器に無菌的に血液3mL採取し、混和後冷蔵保存 ※06	敗血症
	4880	プロカルシトニン定量(PCT) 5C215-0000-023-053	血清0.3	1	(分離後) 凍結 (13ヵ月)	3~4	276❹ 生Ⅰ	ECLIA法	ng/mL 0.05以下	カットオフ値：下記参照 ※06	細菌性敗血症
	5298	クリプトコックス・ネオフォルマンス抗原 5E140-0000-023-117 5E140-0000-041-117	血清0.8	1	冷蔵	3~5	169 ❷ 免疫	LA法	陰性	EDTA(抗凝固剤)は酵素処理に影響を与え、検査不能となる場合がありますので、EDTAの使用は避けてください。 ※02	クリプトコッカス感染症
			髄液0.8	2	冷蔵						
	1075	抗ストレプトリジンO(ASO) 5E035-0000-023-062	血清0.6	1	冷蔵	2~4	15 免疫	ラテックス免疫比濁法	IU/mL 239以下	※33	リウマチ熱 急性糸球体腎炎
	1356	トキソプラズマIgM抗体 5E157-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3~5	95 免疫	ELISA法	0.8未満	判定基準：下記参照 ＊1 ※02	トキソプラズマ症
	1358	トキソプラズマIgG抗体 5E156-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3~5	93 免疫	ELISA法	IU/mL 6未満	判定基準：下記参照 ※02	

❶カンジダ抗原定性、半定量又は定量はカンジダ血症又はカンジダ肺炎の診断の目的で行った場合に算定する。
❷(1→3)-β-D-グルカンは、発色合成基質法、比濁時間分析法又はELISA法により、深在性真菌感染症が疑われる患者に対する治療法の選択又は深在性真菌感染症に対する治療効果の判定に使用した場合に算定する。
なお、本検査をカンジダ抗原定性、同半定量、同定量、アスペルギルス抗原、D-アラビニトール、クリプトコックス抗原半定量又はクリプトコックス抗原定性、アスペルギルスIgG抗体（ただし、慢性進行性肺アスペルギルス症と侵襲性肺アスペルギルス症の併存が疑われる患者に対して本検査を実施した場合を除く。）と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❸アスペルギルス抗原はLA法又はELISA法により、侵襲性肺アスペルギルス症の診断のために実施した場合にのみ算定できる。
❹プロカルシトニン（PCT）定量又は同半定量は、敗血症（細菌性）を疑う患者を対象として測定した場合に算定できる。ただし、「D012」感染症免疫学的検査のエンドトキシンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

＊1　IgM抗体は長期間陽性が持続する場合があります。

[3326] (1→3)-β-Dグルカン カットオフ値

単位：pg/mL

20pg/mLを超えるもの	治療法の選択対象
10~20pg/mL	経過観察
10pg/mL以下	健常人の値

[4880] プロカルシトニン定量 カットオフ値

単位：ng/mL

敗血症（細菌性）鑑別診断のカットオフ値	0.50未満
敗血症（細菌性）重症度判定のカットオフ値	2.00以上

[1356] トキソプラズマIgM抗体 判定基準

Cut off index	判定	解釈
0.8未満	陰性	最近のトキソプラズマ感染のないことが考えられます。
0.8~0.9	判定保留	10~20日後に再検査およびトキソプラズマIgG抗体検査による確認をお勧めします。
1.0以上	陽性	

[1358] トキソプラズマIgG抗体 判定基準

IU/mL	判定	解釈
6未満	陰性	トキソプラズマの感染は認められません。
6~8	判定保留	低濃度の抗体が認められ、トキソプラズマの感染の疑いがあります。
9以上	陽性	トキソプラズマ感染が疑われます。

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

113 エンドトキシン・β-D-グルカン

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	3026	オーム病クラミジア(シッタシ抗体) 5E026-0000-023-141	血清0.3 速やかに遠心	1	冷蔵	5~7	79❶免疫	CF法	倍 4未満	下記参照(*CF法) ※02	間質性肺炎 心筋炎
	1359	クラミジア・トラコマチス抗体 IgA・IgG 5E020-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	4~6	200❷免疫	EIA法	(−) C.O.I.:0.9未満	判定基準: 下記参照 ※06	新生児肺炎 乳児肺炎 非淋菌性尿道炎 子宮頸管炎
	5038	クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエ IgG 5E031-0000-023-023	血清0.2	1	冷蔵(21日)	3~5	70❸免疫	ELISA法	(−) EIU値:30未満	判定基準: 下記参照 ※02	クラミジア肺炎 気管支炎 咽頭炎
	5039	クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエ IgA 5E032-0000-023-023	血清0.2	1	冷蔵(21日)	3~5	75❸免疫		(−) EIU値:8未満		
	5040	クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエ IgM 5E033-0000-023-023	血清0.2	1	冷蔵(21日)	3~5	152❸免疫		(−) S/CO値:0.5未満		

❶ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(121ページ)を参照ください。
❷グロブリンクラス別クラミジア・トラコマチス抗体は、クラミジア・トラコマチス抗原検出不能又は検体採取の困難な疾患(骨盤内感染症、卵管炎、副睾丸炎、新生児・乳児肺炎等)の診断に際し、IgG抗体価又はIgA抗体価を測定した場合又は新生児・乳幼児肺炎の診断に際し、IgM抗体価を測定した場合に算定する。IgG抗体価、IgA抗体価及びIgM抗体価のうち2項目以上を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
❸クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体を、クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体又はクラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体と併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

＊CF(補体結合反応):　補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍(髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

[1359] クラミジア・トラコマチス抗体IgA・IgG 判定基準

Cut off index	判　定
0.900未満	陰性(−)
0.900~1.099	判定保留(±)
1.100以上	陽性(+)

[5038] クラミドフィラ・ニューモニエIgG 判定基準

EIU値	判　定
EIU<30	陰性(−)
30≦EIU≦45	判定保留(±)※1
EIU>45	陽性(+)

※1:28日以降に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

[5039] クラミドフィラ・ニューモニエIgA 判定基準

EIU値	判　定
EIU<8	陰性(−)
8≦EIU≦12	判定保留(±)※2
EIU>12	陽性(+)

※2:28日以降に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

[5040] クラミドフィラ・ニューモニエIgM 判定基準

S/CO値	判　定
S/CO<0.5	陰性(−)
0.5≦S/CO≦1.1	判定保留(±)※3
S/CO>1.1	陽性(+)

※3:10日以降に採血した血清による再検査をお勧めいたします。

1 プレイン容器

	項目コード	検査項目	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	3504	尿素呼気試験ユービット 6Z100-0000-098-273	呼気250 前後各1バッグ	UBT	室温	3~4	70❶微生物	IR法	‰ 2.5未満	＊1 ※06	ヘリコバクター・ピロリ感染症
	4740	H.ピロリ抗原定性（便） 5E068-0000-015-023	糞便	65	冷蔵	3~5	142❶免疫	EIA法	（−）	※01	
	3541	H.ピロリ抗体（LA） 5E064-1301-023-062	血清0.5	1	冷蔵	3~4	80❶免疫	ラテックス凝集比濁法	U/mL （−） 10.0未満	※01	

❶ヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」（令和4年10月31日保医発1031第5号）に即して行うこと。

＊1 ^{13}C尿素製剤（ユービット®）の服用前および服用後20分の呼気をそれぞれ採取し必ずペアにしてご提出ください。除菌判定は除菌終了後4週以降にご提出ください。

尿素呼気試験ユービット 実施手順

1） ^{13}C尿素製剤（ユービット®）の服用前に呼気を採取します。（「服用前」検体になります）
呼気採取バッグのキャップを外し、深く息を吸い、5~10秒息を止めてください。その後ゆっくりと呼気をバッグに入れた後、キャップをしっかりと閉めてください。
2） ^{13}C尿素製剤100mg（1錠）をつぶさずに、空腹時に水100mLと共に速やかに（5秒以内に）飲み込んでください。
3） 左側臥位の姿勢を5分間保ち、その後は座位の姿勢を保ちます。
4） ^{13}C尿素製剤100mg服用後20分に呼気を採取します。（「服用後」検体になります）
5） 「服用前」と「服用後」の呼気中$^{13}CO_2$（$^{13}CO_2/^{12}CO_2$比）を測定し、その変化量（$\Delta^{13}C$）を算出して$\Delta^{13}C$が2.5‰以上の場合にヘリコバクター・ピロリ陽性と判定します。

《注意》
・呼気採取時には、バッグが大きく膨らむまで息を吹き込み、キャップをパチンと音がするまできちんと押し込んで呼気が漏れないようにしてください。
（漏出などで呼気量が少ない場合は検査不能になることがあります）

1 プレイン容器

65 糞便中ヘリコバクターピロリ抗原検査

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	4973	百日咳菌抗体 5E054-0000-023-023	血清0.5	1	冷蔵	4~6	257 免疫	EIA法	EU/mL PT-IgG抗体 :10未満 FHA-IgG抗体 :10未満	※01	百日咳
	3418	百日咳菌核酸検出 6B636-0000-063-883	後鼻腔ぬぐい液 単独検体	114	凍結	3~5	360❶ 微生物	LAMP法	(−)	＊1 ※01	
	3435	百日咳菌 IgA 5E101-0000-023-023	血清0.2	1	冷蔵(28日)	3~5	80 免疫	ELISA法	NTU値：8.5未満	判定基準：下記参照 ※02	
	3434	百日咳菌 IgM 5E102-0000-023-023	血清0.2	1	冷蔵(28日)	3~5		ELISA法	NTU値：8.5未満	判定基準：下記参照 ※02	
	1345	ツツガムシギリアム IgG 5E128-0000-023-162	血清0.2	1	冷蔵	4~7	203❷ 免疫	FA法(蛍光抗体法)	倍 10未満	＊2 ※02	ツツガムシ病
	1341	ツツガムシギリアム IgM 5E129-0000-023-162	血清0.2	1	冷蔵	4~7					
	1346	ツツガムシカトー IgG 5E125-0000-023-162	血清0.2	1	冷蔵	4~7	203❷ 免疫	FA法(蛍光抗体法)	倍 10未満	＊2 ※02	
	1342	ツツガムシカトー IgM 5E126-0000-023-162	血清0.2	1	冷蔵	4~7					
	1347	ツツガムシカープ IgG 5E122-0000-023-162	血清0.2	1	冷蔵	4~7	203❷ 免疫	FA法(蛍光抗体法)	倍 10未満	＊2 ※02	
	1343	ツツガムシカープ IgM 5E123-0000-023-162	血清0.2	1	冷蔵	4~7					

❶百日咳菌核酸検出は、関連学会が定めるガイドラインの百日咳診断基準における臨床判断例の定義を満たす患者に対して、LAMP法又はPCR法により測定した場合に算定できる。
❷ツツガムシ抗体半定量又は同定性は、各株ごとに算定する。

＊1　後鼻腔ぬぐい液は、フロックスワブにて採取したのち、速やかに付属のチューブに入れて、凍結保存してください。採取前のスワブ取出時やチューブ内挿入時には、スワブ先端部が汚染しないようにご注意ください。他の検査項目との共用依頼はできませんのでご注意ください。専用容器以外での提出は不可です。
＊2　感染の有無はペア血清で判断してください。

[3435] 百日咳菌IgA
[3434] 百日咳菌IgM　判定基準

NTU値	判　定
<8.5	陰性（−）
8.5~11.5	判定保留（±）※
>11.5	陽性（+）

※2～4週間後に採血した血清による再検査をお勧めします。

1 プレイン容器

114 百日咳菌核酸

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
感染症関連検査	5074	寒冷凝集反応 5E105-0000-023-102	血清0.3	1	(分離後)冷蔵(4週)	4～6	11免疫	赤血球凝集反応	倍 64未満	採血後、速やかに血清分離して保存して下さい(血清分離までは37℃保存) ※06	マイコプラズマ肺炎 自己免疫性溶血性貧血
	0334	マイコプラズマ抗体 5E106-0000-023-117	血清0.3	1	冷蔵(4週)	3～4	32❶免疫	PA法	倍 40未満	※06	マイコプラズマ肺炎
	4975	マイコプラズマ・ニューモニエ核酸検出 6B616-0000-064-883 6B616-0000-061-883	咽頭ぬぐい液 喀痰2.0	105 106	凍結(21日)	3～5	291微生物	LAMP法	陰性	＊1 ※02	マイコプラズマ感染症
	3107	MAC抗体(抗酸菌抗体定性) 5E069-0000-023-023	血清0.2	1	冷蔵	4～6	116免疫	EIA法	U/mL (—) 0.70未満 (参考値)	※01	非定型抗酸菌感染症
	4965	T-SPOT・TB(インターフェロン-γ遊離試験) 予約検査 5E301-0000-019-031	血液9.0(ヘパリン加) 開封厳禁	107	室温	4～5	593❷免疫	ELISPOT法 (Enzyme Linked Immunospot法)	陰性	＊2 ※06	結核 肺結核

❶マイコプラズマ抗体定性、マイコプラズマ抗体半定量、マイコプラズマ抗原定性（免疫クロマト法）又はマイコプラズマ抗原定性（FA法）を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❷結核菌特異的インターフェロン-γ産生能は、診察又は画像診断などにより結核感染が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。

＊1　咽頭ぬぐい液は滅菌綿棒で拭い、滅菌ポリスピッツに綿棒を入れて凍結保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査はコンタミネーションの影響がより大きくなりますので検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。
＊2　ご予約の上、採血当日にご提出ください。休前日は午前診療の回収便にて集配いたします。連休前日および休日は受託できません。依頼書に採血日時をご記入ください。採血後、規定時間内（54時間以内）に検査を実施する必要があります。
ご提出いただいた検体から検査に十分な細胞（末梢血単核球）数が得られない場合は参考値または検査不能となる場合があります。

1 プレイン容器

105 凍結用滅菌ポリスピッツ

106 Lamp専用容器

107 T-SPOT・TB専用容器

	項目コード	検査項目		検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
梅毒血清反応	2523	梅毒定性	RPR 5E074-1351-023-062	血清0.3	1	冷蔵	2~3	15 免疫	LA法	陰性		梅毒
	3607	梅毒定性	TPLA 5E075-1351-023-062	血清0.3	1	冷蔵	2~3	32 免疫	LA法	陰性		
	2524	梅毒定量	RPR 5E074-1352-023-062	血清0.3	1	冷蔵	2~3	34 免疫	LA法	R.U. 1.0未満		
	3608	梅毒定量	TPLA 5E075-1352-023-062	血清0.3	1	冷蔵	2~3	53 免疫	LA法	T.U. 10未満		
	0312	FTA-ABS定性 5E079-1351-023-161		血清0.3	1	冷蔵	3~5	134 免疫	FA法	陰性	＊1 ※02	
	5297	FTA-ABS-IgM抗体 5E080-1351-023-161		血清0.3	1	冷蔵	4~5		蛍光抗体法	(−)	※01	

＊1　IgG抗体を検出しています。髄液の測定も可能です。検体量0.5mL（冷蔵）　基準値　陰性

1 プレイン容器

	項目コード	検査項目	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
血液型関連検査	0313	**ABO式血液型** 5H010-0000-019-101	血液2.0 (EDTA-2K加)	5	冷蔵	2～3	24❶ 免疫	カラム凝集法 試験管法			新生児溶血性貧血 輸血 出血 不適合妊娠
	0314	**Rh式（D）血液型** 5H020-0000-019-101	血液2.0 (EDTA-2K加)	5	冷蔵	2～3	24❶ 免疫	カラム凝集法 試験管法			
	0315	**Rh-Hr式血液型 (タイピング)** 5H025-0000-019-101	血液2.0 (EDTA-2K加)	5	冷蔵	2～3	148❷ 免疫	各特異抗血清による試験管法			
	0318	**直接クームス試験** 5H121-0000-019-101	血液1.0 (EDTA-2K加)	5	室温	2～3	34 免疫	試験管法	陰性		自己免疫性溶血性貧血 全身性エリテマトーデス
	0319	**間接クームス試験** 5H122-0000-023-101	血清1.5	1	冷蔵	2～3	47❸ 免疫	カラム凝集法 試験管法	陰性		
	0322	**間接クームス試験定量** 5H122-1352-018-101	血液10.0 (EDTA-2Na加)	13	冷蔵	2～4		試験管法	1未満 倍		不適合妊娠
	0320	**不規則抗体** 5H180-0000-023-101	血液7.0	1	冷蔵	2～3	159❹ 免疫	カラム凝集法 試験管法	陰性		輸血 妊娠
	0381	**クロスマッチ (交差適合試験)** 5H160-0000-018-101	受血者10.0 ＋ 供血者3.0又は パイロットチューブ	13		1～2	❸	カラム凝集法 試験管法			輸血

❶輸血に伴って行った患者の血液型検査（ABO式及びRh式）の費用として54点を所定点数に加算する。
❷Rh（その他の因子）血液型については、同一検体による検査の場合は因子の種類及び数にかかわらず、所定点数を算定する。
❸輸血に伴って、血液交叉試験、間接クームス検査又はコンピュータクロスマッチを行った場合は、血液交叉試験加算、間接クームス検査加算又はコンピュータクロスマッチ加算として、1回につき30点、47点又は30点をそれぞれ加算する。ただし、コンピュータクロスマッチを行った場合は、血液交叉試験加算及び間接クームス検査加算は算定できない。
❹不規則抗体
輸血歴又は妊娠歴のある患者に対し、第2章第10部手術第７款の各区分に掲げる胸部手術、同部第8款の各区分に掲げる心・脈管手術、同部第９款の各区分に掲げる腹部手術又は「K877」子宮全摘術、「K879」子宮悪性腫瘍手術、「K889」子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）、「K898」帝王切開術若しくは「K912」異所性妊娠手術が行われた場合に、手術の当日に算定する。
また、手術に際して輸血が行われた場合は、本検査又は「K920」輸血の「注6」に定める不規則抗体検査加算のいずれかを算定する。
この場合、診療報酬明細書の摘要欄に輸血歴がある患者又は妊娠歴がある患者のいずれに該当するかを記載する。
注６　輸血に伴って行った不規則抗体検査の費用として検査回数にかかわらず1月につき197点を所定点数に加算する。ただし、頻回に輸血を行う場合にあっては、1週間に1回に限り、197点を所定点数に加算する。

1 プレイン容器

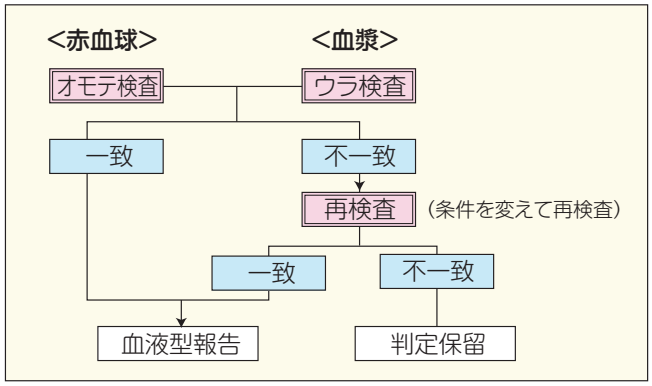
5 血球用

13 EDTA-2Na入り

【ABO式血液型】

1) 生後1歳までは、血液中の抗体価が低いためオモテ検査のみでの報告となります。
1歳未満の幼児の場合、必ず月齢あるいは生年月日を検査依頼書にご記入下さい。
2) オモテ検査とウラ検査の結果が一致した場合のみ、血液型を報告致します。
3) オモテ検査とウラ検査が一致しない場合や通常と異なる場合には「判定保留」と報告致します。
4) 検査案内書に記載された要件と異なる検体材料種・量・容器にてのご依頼に対しては、検査を受託できない場合がありますので、ご注意下さい。

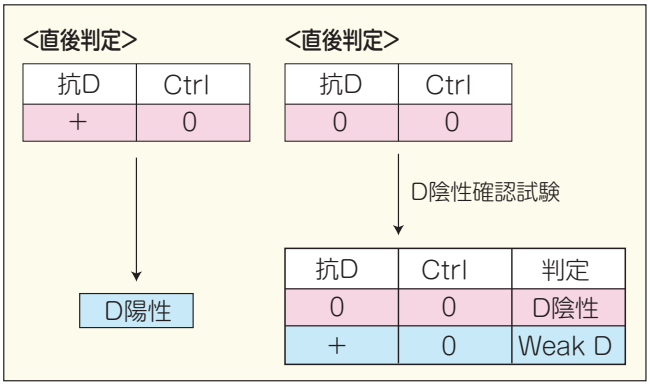
図1　ABO式血液型検査手順



【Rh式（D）血液型】

1) 抗Dには、モノクローナル抗体を使用しています。
2) 検査案内書に記載された要件と異なる検体材料種・量・容器にてのご依頼に対しては、検査を受託できない場合がありますのでご注意下さい。

図2　Rh式（D）血液型検査手順



【直接クームス試験】

1) クームス試薬には多特異抗ヒトグロブリンを使用致します。
2) 検査案内書に記載された要件と異なる検体材料種・量・容器にてのご依頼に対しては、検査を受託できない場合がありますので、ご注意下さい。

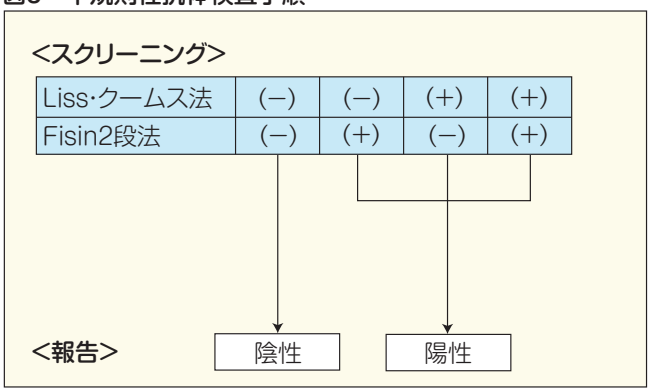
【間接クームス試験】

1) クームス法は単特異抗ヒトグロブリンを使用したLiss・クームス法を実施致します。
2) 検査案内書に記載された要件と異なる検体材料種・量・容器にてのご依頼に対しては、検査を受託できない場合がありますので、ご注意下さい。
3) 検体の状態によっては、カラム凝集法以外の検査法を実施する場合があります。

【不規則抗体】

1) 本検査は、37℃で反応する血清中の不規則性抗体の検出を目的としています。
2) クームス法は多特異性クームスを使用したLiss・クームス法を、酵素法はFisin 2段法を実施致します。
上記の検査法以外で予め検査実施し、改めて当社に検査を依頼された場合、検査手法に基づく反応性の違いによりデータが乖離する例があります。
3) パネルセルとの反応の強さやパターンによって、存在する不規則性抗体を検出できない場合があります。
4) 希な抗体は、検出できない場合があります。
5) 最近輸血を受けた患者では、正しく判定できない場合があります。
6) 検査案内書に記載された要件と異なる検体材料種・量・容器にてのご依頼に対しては、検査を受託できない場合がありますのでご注意下さい。
7) 検体の状態によっては、カラム凝集法以外の検査法を実施する場合があります。

図3　不規則性抗体検査手順



日本輸血学会の「赤血球型検査（赤血球系検査）ガイドライン」を参考にしています。

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
血漿蛋白関連検査	0357	α1アンチトリプシン 5C020-0000-023-063	血清0.4	1	冷蔵	3~5	80 血液	ネフェロメトリー法	mg/dL 94~150	※02	感染症 悪性腫瘍 膠原病 肝硬変症
	1108	レチノール結合蛋白(RBP) 5C030-0000-023-062	血清0.5	1	冷蔵	3~5	132 免疫	ラテックス凝集比濁法	mg/dL M：2.7~6.0 F：1.9~4.6	※02	ビタミンA欠乏症 肝疾患 栄養失調症
	3321	β2-マイクログロブリン(β2-MG) 5C065-0000-023-062 5C065-0000-001-062	血清0.5	1	冷蔵	3~4	98 免疫	LA法	mg/L 0.9~2.0	※01	腎不全 多発性骨髄腫 悪性リンパ腫
	3463		尿1.0	2	冷蔵(3週)	3~4		LA法	μg/L 200以下	酸性蓄尿は不可。尿はpH5.5~7.5を確認の上、ご提出ください。※06	尿細管障害 金属中毒
	1092	ハプトグロビン(Hp) 5C040-0000-023-063	血清0.5	1	冷蔵	3~5	129 免疫	ネフェロメトリー法	mg/dL 1-1型：83~209 2-1型：66~218 2-2型：25~176	※02	自己免疫性溶血性貧血 サラセミア
	3590	血清アミロイドA蛋白(SAA) 5C080-0000-023-062	血清0.5	1	冷蔵	3~4	47❶ 免疫	LA法	mg/L 3.0以下	※01	ウイルス感染症 急性肺炎 急性気管支炎 心筋梗塞　悪性腫瘍
	1094	C反応性蛋白(CRP定性) 5C070-1351-023-062	血清0.3	1	冷蔵	1~2	16❶ 免疫	LA法	(−)		細菌感染症 心筋梗塞 悪性腫瘍 膠原病
	1059	C反応性蛋白(CRP定量) 5C070-0000-023-062	血清0.3	1	冷蔵	1~2		LA法	mg/dL 0.30以下		
	2280	フェリチン 5C095-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1~2	102 生Ⅰ	CLIA法	ng/mL M：17.0~291.5 F：6.4~167.1		鉄過剰症 鉄欠乏性貧血 肝癌 肺癌
	3268	トランスフェリン(Tf) 5C060-0000-023-063	血清0.5	1	冷蔵(1週)	3~4	60 免疫	ネフェロメトリー法	mg/dL 190~320	※01	鉄欠乏性貧血 蛋白漏出性胃腸症
	5270	セルロプラスミン 5C045-0000-023-063	血清0.4	1	冷蔵	3~5	90 免疫	ネフェロメトリー法	mg/dL 21~37	※02	肝硬変症 ウイルソン病
	5525	C1-インアクチベータ 5B045-0000-022-315	血漿0.2 速やかに遠心	23	(分離後)凍結(16日)	3~5	253 免疫	発色性合成基質法	% 70~130	＊1 ※02	血管神経性浮腫 遺伝性血管性浮腫
	5274	α2-マクログロブリン(α2-MG) 5C035-0000-023-063	血清0.4	1	冷蔵	3~5	138 血液	ネフェロメトリー法	mg/dL M：100~200 F：130~250	※02	前立腺癌 ネフローゼ症候群
	3457	α1-マイクログロブリン(α1-MG) 5C015-0000-023-062 5C015-0000-001-062	血清0.5	1	冷蔵(12週)	2~4	129 免疫	LA法	mg/L 9.1~18.4	※06	腎不全
	3458		尿1.0	2	冷蔵(3週)	2~4		LA法	mg/L 8.3以下	※06	薬剤性腎障害 金属中毒
	5262	プレアルブミン(トランスサイレチン) 5C010-0000-023-063	血清0.5	1	冷蔵(1週)	3~4	101 免疫	ネフェロメトリー法	mg/dL 22.0~40.0	※01	栄養失調症
	2150	肝細胞増殖因子(HGF) 4Z315-0000-023-023	血清0.3	1	(分離後)凍結(1ヵ月)	3~9	227❷ 生Ⅰ	ELISA法	ng/mL 0.39以下	※02	劇症肝炎

❶血清アミロイドA蛋白（SAA）をC反応性蛋白（CRP）定性又はC反応性蛋白（CRP）と併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。
❷肝細胞増殖因子（HGF）は、ELISA法により、肝炎にて劇症化が疑われる場合又は劇症肝炎の経過観察に用いた場合に限り算定する。

＊1　3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を５～６回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

23 3.2%クエン酸Na入り

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
血漿蛋白関連検査	3279	血清補体価(CH50) 5B010-0000-023-142	血清0.5 速やかに遠心	1	(分離後)凍結	3~4	38 免疫	免疫溶血濁度測定法	U/mL 30~45	※01	膠原病 感染症 腎炎
	3277	C3(β1C/β1Aグロブリン) 5B023-0000-023-061	血清0.5	1	冷蔵	3~4	70 免疫	TIA法	mg/dL 80~140	※01	全身性エリテマトーデス 急性糸球体腎炎 悪性関節リウマチ
	3278	C4(β1Eグロブリン) 5B024-0000-023-061	血清0.5	1	冷蔵	3~4	70 免疫	TIA法	mg/dL 11.0~34.0	※01	
	3275	IgG 5A010-0000-023-061	1種につき 血清0.5 (3項目で血清0.7)	1	冷蔵	3~4	38❶ 免疫	TIA法	mg/dL 820~1740	※01	多発性骨髄腫 悪性リンパ腫 自己免疫疾患
	3274	IgA 5A015-0000-023-061		1	冷蔵	3~4	38❶ 免疫	TIA法	mg/dL 90~400	※01	
	3276	IgM 5A020-0000-023-061		1	冷蔵	3~4	38❶ 免疫	TIA法	mg/dL M:31~200 F:52~270	※01	多発性骨髄腫 悪性リンパ腫 原発性マクログロブリン血症
	3324	IgGサブクラス分画 5A050-0000-023-920	血清0.5	1	冷蔵	3~7		免疫比濁法およびラテックス免疫比濁法	mg/dL IgG1:351~962 IgG2:239~838 IgG3:8.5~140 IgG4:4.5~117	※02	IgG型多発性骨髄腫 全身性エリテマトーデス 関節リウマチ
	3328	IgG2 5A056-0000-023-061	血清0.5	1	冷蔵(28日)	3~7	239❷ 免疫	免疫比濁法	mg/dL 239~838	※02	原発性免疫不全症候群
	3357	IgG4 5A058-0000-023-062	血清0.5	1	冷蔵(28日)	3~5	377 免疫	ラテックス免疫比濁法	mg/dL 11~121	※02	自己免疫性膵炎 IgG4関連疾患
	3587	ロイシンリッチα2グリコプロテイン(LRG) 5C245-0000-023-062	血清0.5	1	冷蔵(28日)	3~5	268❸ 生Ⅰ	ラテックス凝集免疫法	μg/mL 16.0未満	＊1 ※02	潰瘍性大腸炎 クローン病
	3433	便中カルプロテクチン 5C235-0000-015-023	糞便1g 単独検体	10	凍結	4~7	268❸❹ 尿糞	FEIA法	mg/kg 50.0以下	＊2 ※01	

❶免疫グロブリンは、IgG、IgA、IgM及びIgDを測定した場合に、それぞれ所定点数を算定する。
❷IgG2(TIA法によるもの)及びIgG2(ネフェロメトリー法によるもの)は、原発性免疫不全等を疑う場合に算定する。これらを併せて実施した場合は、IgG2(TIA法によるもの)により算定する。
❸ロイシンリッチα2グリコプロテイン
ア ロイシンリッチα2グリコプロテインは、潰瘍性大腸炎又はクローン病の病態把握を目的として測定した場合に3月に1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由及び検査結果を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
イ ロイシンリッチα2グリコプロテインと、「D003」のカルプロテクチン(糞便)又は「D313」大腸内視鏡検査を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。
❹カルプロテクチン(糞便)
ア カルプロテクチン(糞便)を慢性的な炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病等)の診断補助を目的として測定する場合は、ELISA法、FEIA法、イムノクロマト法、LA法又は金コロイド凝集法により測定した場合に算定できる。ただし、腸管感染症が否定され、下痢、腹痛や体重減少などの症状が3月以上持続する患者であって、肉眼的血便が認められない患者において、慢性的な炎症性腸疾患が疑われる場合の内視鏡前の補助検査として実施すること。また、その要旨を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
イ 本検査を潰瘍性大腸炎又はクローン病の病態把握を目的として測定する場合、潰瘍性大腸炎についてはELISA法、FEIA法、金コロイド凝集法、イムノクロマト法又はLA法により、クローン病についてはELISA法、FEIA法、イムノクロマト法、LA法又は金コロイド凝集法により測定した場合に、それぞれ3月に1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由及び検査結果を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
ウ 慢性的な炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病等)の診断補助又は病態把握を目的として、本検査及び「D313」大腸内視鏡検査を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

＊1 炎症性腸疾患の活動期の判定の補助における参考基準値は16.0μg/mLです。
感染症、リウマチ等の炎症性疾患、一部の悪性腫瘍においてLRG値が上昇することがありますのでご注意ください。
＊2 他項目との重複依頼は避けて下さい。採取後3日以内に凍結してご提出ください。
(参考)臨床的カットオフ値としては、次の数値が示されています。
炎症性腸疾患と機能性腸疾患とのカットオフ値 :50.0mg/kg
潰瘍性大腸炎の内視鏡的活動性評価のカットオフ値:300.0mg/kg
クローン病の内視鏡的活動性評価のカットオフ値 :80.0mg/kg

1 プレイン容器

10 便検査用

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
血漿蛋白関連検査	3342	オリゴクローナルバンド 5A150-0000-098-236	血清1.0＋髄液1.0	1+2	冷蔵	11~15	522❶ 尿糞	等電点電気泳動法	検出せず	※02	多発性硬化症
	2343	ミエリン塩基性蛋白(MBP) 5G410-0000-041-023	髄液0.5	2	凍結(28日)	事前にご確認ください	570❶ 尿糞	ELISA法	pg/mL 設定なし (参考基準値:102以下)	※02	
	0157	クリオグロブリン 5A160-0000-023-920	血清2.0	1	(分離後)冷蔵(1週)	4~6	42 免疫	寒冷沈殿法	(−)	採血時から血清分離は37℃保温状態で行って下さい。全血での冷蔵保存は厳禁 ※01	膠原病 多発性骨髄腫 原発性マクログロブリン血症 糸球体腎炎 C型肝炎
	3526	インターロイキン-6(IL-6) 5J130-0000-023-053	血清0.5	1	(分離後)凍結(24カ月)	3~4	170❷ 免疫	ECLIA法	pg/mL 7.0以下	重症度判定の参考カットオフ値:100pg/mL ※06	全身性炎症反応症候群
	4563	シアル化糖鎖抗原(KL-6) 5C210-0000-023-052	血清0.4	1	冷蔵(4週)	3~5	108❸ 生Ⅰ	CLEIA法	U/mL 500未満	※33	間質性肺炎
	4562	肺サーファクタントプロテインD(SP-D) 3F253-0000-023-052	血清0.3	1	冷蔵	3~4	136❸ 生Ⅰ	CLEIA法	ng/mL 110.0未満	※01	
	4847	肺サーファクタントプロテインA(SP-A) 3F250-0000-023-052	血清0.6	1	冷蔵	3~4	130❸ 生Ⅰ	CLEIA法	ng/mL 43.8未満	※01	
	5217	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ 5C092-0000-023-023	血清0.5	1	冷蔵	3~7	184❹ 生Ⅰ	EIA法	ng/mL 2.5以下	※02	心筋梗塞 心筋炎
	0156	心筋トロポニンT 5C093-0000-023-053	血清0.5	1	冷蔵(14日)	3~5	109❺ 生Ⅰ	ECLIA法	ng/mL 0.014以下	急性心筋梗塞診断のカットオフ値:0.100ng/mL ※02	急性心筋梗塞 不安定狭心症
	2341	ミオグロビン 5C090-0000-023-051 5C090-0000-001-051	血清0.5	1	冷蔵	3~5	131❻ 生Ⅰ	CLIA法	ng/mL M:154.9以下 F:106.0以下	※02	心筋梗塞 筋炎 進行性筋ジストロフィー
	3614		尿6.0	49	冷蔵 凍結不可 (22日)	3~5		CLEIA法	ng/mL 2.0未満	採尿後、速やかに専用容器に入れ、冷蔵してください。 ※02	

❶IgGインデックス、オリゴクローナルバンド及びミエリン塩基性蛋白（MBP）（髄液）は、多発性硬化症の診断の目的で行った場合に算定する。
❷インターロイキン-6(IL-6)は、全身性炎症反応症候群の患者(疑われる患者を含む。)の重症度判定の補助を目的として、血清又は血漿を検体とし、ECLIA法、CLIA法又はCLEIA法により測定した場合に、一連の治療につき２回に限り算定する。なお、本検査を実施した年月日を診療報酬明細書に記載すること。また、医学的な必要性から一連の治療につき３回以上算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
❸KL-6、肺サーファクタント蛋白-A（SP-A）及び肺サーファクタント蛋白-D（SP-D）のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❹心室筋ミオシン軽鎖Ⅰは、同一の患者につき同一日に当該検査を２回以上行った場合は、１回のみ算定する。
❺心筋トロポニンⅠと心筋トロポニンT（TnT）定性・定量を同一月に併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❻心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）定性又は定量とミオグロビン定性又は定量を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

49 尿ミオグロビン用

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
血漿蛋白関連検査	4510	4型コラーゲン 5C134-0000-023-062	血清0.5	1	冷蔵	3~4	131 ❶❷❹ 生Ⅰ	ラテックス凝集法	ng/mL 140以下	※01	慢性肝炎 肝硬変症
	3498	4型コラーゲン・7S 5C135-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵 (23日)	3~5	148 ❶❷❹ 生Ⅰ	CLEIA法	ng/mL 4.4以下	※02	肝硬変症
	2462	P-Ⅲ-P (プロコラーゲンⅢペプチド) 5C130-0000-023-006	血清0.4	1	冷蔵	4~7	136 ❶❷❹ 生Ⅰ	IRMA (チューブ固相法)	U/mL 0.3~0.8	※06	肝硬変症 肝癌 慢性肝炎
	2468	ヒアルロン酸 3D080-0000-023-062	血清0.5	1	冷蔵	3~4	179 ❷❸❹ 生Ⅰ	LA法	ng/mL 50.0以下	肝硬変の判定基準：130ng/mL以上(50~130ng/mLの場合、肝の線維化が疑われます。) ※01	慢性肝炎
	3444	オートタキシン(ATX) 5C240-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵 (4週)	3~5	194❷ 生Ⅰ	FEIA法	下記参照	※06	肝硬変症 慢性肝炎
	3253	M2BPGi (Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体) 5C141-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵	3~4	194 ❶❷❹ 生Ⅰ	CLEIA法	(−) C.O.I.：1.00未満	判定基準：下記参照 ※01	慢性肝炎 肝硬変症

❶Ⅳ型コラーゲン又はⅣ型コラーゲン・7Sは、プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド（P-Ⅲ-P）又はMac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体と併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。

❷オートタキシン

ア　オートタキシンは、サンドイッチ法を用いた蛍光酵素免疫測定法、化学発光酵素免疫測定法又は酵素法により、慢性肝炎又は肝硬変の患者（疑われる患者を含む。）に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。

イ　本検査とⅣ型コラーゲン、プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド（P-Ⅲ-P）、Ⅳ型コラーゲン・7S、ヒアルロン酸又はMac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

❸ヒアルロン酸は慢性肝炎の患者に対して、慢性肝炎の経過観察及び肝生検の適応の確認を行う場合に算定できる。

❹Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体

ア　Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体は、２ステップサンドイッチ法を用いた化学発光酵素免疫測定法により、慢性肝炎又は肝硬変の患者（疑われる患者を含む。）に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。

イ　本検査とⅣ型コラーゲン、プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド（P-Ⅲ-P）、Ⅳ型コラーゲン・7S又はヒアルロン酸を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

[3444] オートタキシン 基準値（カットオフ値）＊1

単位：mg/L

	①線維化進展例＊2	②肝硬変
M	0.910	1.690
F	1.270	2.120

①より高い検体は、肝線維化進展例と判定します。
②より高い検体は、肝硬変と判定します。

＊1　判定上の留意事項
- 妊婦では週数が進むに従いATX濃度が高値となることが確認されているため、妊婦検体の測定には適しません。
- 悪性リンパ腫患者、進行した悪性腫瘍患者では、ATX濃度が高値となることが確認されています。また、重度の心不全患者でも高値を示す場合があります。
- 副腎皮質ステロイドを服用している人ではATX濃度が低値を示す場合があります。
- 肝炎ウイルスを原因としない慢性肝疾患においては、肝線維化ステージとATX濃度の関係がウイルス性肝疾患と異なる場合があります。

＊2　C型肝炎治療ガイドライン（第5.4版）の「肝線維化F2以上」に相当します。

[3253] M2BPGi 判定基準

判定	カットオフインデックス
(−)	1.00未満
(1+)	1.00~3.00未満
(2+)	3.00以上

1 プレイン容器

免疫電気泳動・その他

項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
0348	免疫電気泳動(IEP)(抗ヒト全血清による) 5A135-0000-023-081	血清0.5	1	冷蔵	7~14	170 ❶ 免疫	免疫電気泳動法			多発性骨髄腫 原発性マクログロブリン血症 悪性リンパ腫
0349	免疫電気泳動(IEP)(抗ヒト特異血清による) 5A135-0000-023-085	血清0.5	1	冷蔵	7~14	218 ❶ 免疫	免疫電気泳動法		M蛋白の重鎖クラスおよび軽鎖の型(κ,λ)の同定	多発性骨髄腫 原発性マクログロブリン血症 悪性リンパ腫 原発性アミロイドーシス
2411	血清免疫固定電気泳動 5A135-0000-023-085	血清0.5	1	冷蔵	7~14		免疫電気泳動法			
2412	尿免疫固定電気泳動 5A135-0000-001-085	尿10.0	2	冷蔵	7~14	201 免疫	免疫電気泳動法			多発性骨髄腫 原発性マクログロブリン血症 原発性アミロイドーシス
0350	尿中免疫電気泳動(IEP)(ベンスジョーンズ蛋白の同定) 5A145-0000-001-085	尿10.0	2	冷蔵	7~14		免疫電気泳動法			
5071	免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比(FLC κ/λ比) 5A141-0000-023-061	血清0.5	1	冷蔵	3~4	388 免疫	免疫比濁法	mg/L 遊離L鎖κ:3.3~19.4 遊離L鎖λ:5.7~26.3 κ/λ比:0.26~1.65	遊離L鎖κ、遊離L鎖λのいずれかが0.5未満の場合、κ/λ比は「換算不可」と報告させていただきます。 ※01	単クローン性マクログロブリン血症

❶免疫電気泳動法(抗ヒト全血清)及び免疫電気泳動法(特異抗血清)
ア　免疫電気泳動法(抗ヒト全血清)及び免疫電気泳動法(特異抗血清)については、同一検体につき一回に限り算定する。
イ　同一検体について免疫電気泳動法(抗ヒト全血清)及び免疫電気泳動法(特異抗血清)を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。
ウ　免疫電気泳動法(特異抗血清)は、免疫固定法により実施した場合にも算定できる。

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
自己抗体関連検査	3290	リウマトイド因子(RF定量) 5G160-0000-023-062	血清0.6	1	冷蔵	2~3	30 ❶❸ 免疫	ラテックス凝集比濁法	IU/mL 15以下	※33	関節リウマチ 強皮症 全身性エリテマトーデス
	1357	IgG型リウマチ因子 5G161-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3~5	198 ❶❷ 免疫	ELISA法	2.00未満	※02	関節リウマチ
	1310	免疫複合体(モノクローナルRF) 5G635-0000-023-023	血清0.2	1	(分離後) 凍結 (21日)	3~9	194 ❶❷ 免疫	EIA法	μg/mL 4.2未満	※02	関節リウマチ シェーグレン症候群 結節性多発動脈炎 全身性エリテマトーデス
	4597	マトリックスメタロプロテイナーゼ-3(MMP-3) 3B503-0000-023-062	血清0.5	1	冷蔵 (1週)	3~4	116 ❶❷ 免疫	LA法	ng/mL M：36.9~121.0 F：17.3~59.7	※01	
	4572	抗ガラクトース欠損IgG抗体 5G166-0000-023-053	血清0.3	1	冷蔵	3~5	111 ❶❷❸ 免疫	ECLIA法	AU/mL 6.0未満	※02	関節リウマチ
	4789	抗CCP抗体(抗シトルリン化ペプチド抗体) 5G167-0000-023-051	血清0.4	1	冷蔵 (4週)	3~4	193❷ 免疫	CLIA法	U/mL 4.5未満	※06	

❶リウマトイド因子（RF）定量、抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量、マトリックスメタロプロテイナーゼ-3（MMP-3）、C1q結合免疫複合体、モノクローナルRF結合免疫複合体及びIgG型リウマトイド因子のうち３項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの２つに限り算定する。

❷抗シトルリン化ペプチド抗体

ア　抗シトルリン化ペプチド抗体定性又は同定量は、以下のいずれかの場合に算定できる。

（イ）　関節リウマチと確定診断できない者に対して診断の補助として検査を行った場合に、原則として１回を限度として算定できる。ただし、当該検査結果が陰性の場合においては、３月に１回に限り算定できる。なお、当該検査を２回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

（ロ）　（イ）とは別に、関節リウマチに対する治療薬の選択のために行う場合においては、患者１人につき原則として１回に限り算定する。ただし、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、再度治療薬を選択する必要がある場合においては、６月に１回に限り算定できる。なお、当該検査を２回以上算定するに当たっては、その医学的な必要性を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

イ　抗シトルリン化ペプチド抗体定性、同定量、抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量、マトリックスメタロプロテイナーゼ-3（MMP-3）、C1q結合免疫複合体、モノクローナルRF結合免疫複合体及びIgG型リウマトイド因子のうち２項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの１つに限り算定する。

❸抗ガラクトース欠損IgG抗体定性、同定量は、ECLIA法又はレクチン酵素免疫測定法による。なお、リウマトイド因子（RF）定量を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

1 プレイン容器

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
自己抗体関連検査	3643	抗核抗体(ANA) 5G010-0000-023-162 5G010-0000-023-023	血清0.4	1	冷蔵(4週)	3~5	99免疫	FAT法	倍 40未満	※06	全身性エリテマトーデス 強皮症 皮膚筋炎 多発性筋炎 シェーグレン症候群 混合性結合組織病
	5034		血清0.3	1	冷蔵	3~4	110免疫	FEIA法	(−) Ratio:1.00以下	＊1 ※01	
	2321	抗DNA抗体 5G020-0000-023-002	血清0.3	1	冷蔵	4~7	159免疫	RIA法(硫安塩析法)	IU/mL 6.0以下	※33	全身性エリテマトーデス 混合性結合組織病
	2348	抗ss-DNA IgG抗体 5G026-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3~5		ELISA法	AU/mL 25以下	※02	
	2347	抗ds-DNA IgG抗体 5G036-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3~5		ELISA法	IU/mL 12以下	※02	
	2349	抗ss-DNA IgM抗体 5G028-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3~9		ELISA法	U/mL 17未満	※02	
	2346	抗ds-DNA IgM抗体 5G038-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3~9		ELISA法	U/mL 6未満	※02	
	3322	抗RNP抗体 (抗U1-RNP抗体) 5G066-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3~4	144免疫	FEIA法	U/mL (−) 3.5未満	判定基準:下記参照 ※01	強皮症 全身性エリテマトーデス シェーグレン症候群 混合性結合組織病
	3248	抗Sm抗体 (抗SmDp抗体) 5G065-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3~4	147免疫	FEIA法	U/mL (−) 7.0未満	判定基準:下記参照 ※01	全身性エリテマトーデス
	4969	抗SS-A抗体 (抗SS-A/Ro抗体) 5G076-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3~4	161免疫	FEIA法	U/mL (−) 7.0未満	判定基準:下記参照 ※01	強皮症 全身性エリテマトーデス 関節リウマチ シェーグレン症候群 混合性結合組織病
	4970	抗SS-B抗体 (抗SS-B/La抗体) 5G077-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3~4	157免疫	FEIA法	U/mL (−) 7.0未満	判定基準:下記参照 ※01	

＊1　抗核抗体／FEIA法では次の13種の核抗原を用いた試薬を使用しています。
(U1-RNP、SS-A/Ro、SS-B/La、CENP-B、Scl-70、Jo-1、フィブリラリン、Rib-P、PM-Scl、PCNA、Mi-2、Sm、dsDNA)

[3322] 抗RNP抗体 判定基準

U/mL	判　定
3.5未満	(−)
3.5以上~5.0以下	(±)
5.0を超える	(+)

[3248] 抗Sm抗体
[4969] 抗SS-A抗体 判定基準
[4970] 抗SS-B抗体

U/mL	判　定
7.0未満	(−)
7.0以上~10.0以下	(±)
10.0を超える	(+)

1 プレイン容器

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
自己抗体関連検査	4971	抗Scl-70抗体 5G085-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3~4	157 免疫	FEIA法	U/mL (−) 7.0未満	判定基準：下記参照 ※01	全身性強皮症
	5051	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体 5G087-0000-023-023	血清0.2	1	冷蔵	3~9	170❶ 免疫	EIA法	(−) index：28.0未満	判定基準：下記参照 ※01	強皮症 強皮症腎クリーゼ
	4972	抗Jo-1抗体 5G120-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3~4	140❷ 免疫	FEIA法	U/mL (−) 7.0未満	判定基準：下記参照 ※01	多発性筋炎 皮膚筋炎
	5053	抗ARS抗体 5G121-0000-023-023	血清0.2	1	冷蔵	3~5	190❷ 免疫	EIA法	(−) index：25.0未満	※01	
	3493	抗MDA5抗体 5G122-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵(4週)	3~6	270❸ 免疫	EIA法	(−) index：32未満	※06	
	3494	抗TIF1-γ抗体 5G124-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3~6	270❸ 免疫	EIA法	(−) index：32未満	※06	
	3495	抗Mi-2抗体 5G123-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3~6	270❸ 免疫	EIA法	(−) index：53未満	※06	
	5527	抗セントロメア抗体 5G090-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵	3~5	174❹ 免疫	CLEIA法	U/mL 10.0未満	※02	原発性胆汁性肝硬変 強皮症
	2331	抗ミトコンドリア抗体(AMA) 5G175-0000-023-162	血清0.2	1	冷蔵	3~5	181 免疫	蛍光抗体法	倍 20未満	※01	原発性胆汁性胆管炎
	2322	抗ミトコンドリアM2抗体 5G176-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵(28日)	3~5	189 免疫	CLEIA法	(−) index：7.0未満	※02	
	4598	抗LKM-1抗体 5G555-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3~9	215❺ 免疫	ELISA法	index：17未満	判定基準：下記参照 ※02	自己免疫性肝炎
	2332	抗平滑筋抗体(ASMA) 5G180-0000-023-162	血清0.2	1	冷蔵	3~5		蛍光抗体法	倍 20未満	※01	自己免疫性肝炎 活動性慢性肝炎

❶抗RNAポリメラーゼⅢ抗体は、びまん性型強皮症の確定診断を目的として行った場合に、1回を限度として算定できる。また、その際陽性と認められた患者に関し、腎クリーゼのリスクが高い者については治療方針の決定を目的として行った場合に、また、腎クリーゼ発症後の者については病勢の指標として測定した場合に、それぞれ3月に1回を限度として算定できる。
❷抗ARS抗体と抗Jo-1抗体定性、同半定量又は同定量を併せて実施した場合は主たるもののみ算定する。
❸抗MDA5抗体、抗TIF1-γ抗体及び抗Mi-2抗体は、厚生労働省難治性疾患克服研究事業自己免疫疾患に関する調査研究班による「皮膚筋炎診断基準」を満たす患者において、ELISA法により測定した場合に算定できる。
❹抗セントロメア抗体定量又は同定性は、原発性胆汁性胆管炎又は強皮症の診断又は治療方針の決定を目的に用いた場合に限り算定できる。
❺抗LKM-1抗体
ア　抗LKM-1抗体は、ウイルス肝炎、アルコール性肝障害及び薬剤性肝障害のいずれでもないことが確認され、かつ、抗核抗体陰性の自己免疫性肝炎が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。
イ　本検査を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に抗核抗体陰性を確認した年月日を記載すること。

[4971] 抗Scl-70抗体 [4972] 抗Jo-1抗体 判定基準

U/mL	判　定
7.0未満	(−)
7.0以上~10.0以下	(±)
10.0を超える	(+)

[5051] 抗RNAポリメラーゼⅢ抗体 判定基準

index	判　定
28.0未満	(−)
28.0以上~50.0未満	(±)
50.0以上	(+)

[4598] 抗LKM-1抗体 判定基準

index	判　定
17未満	陰　性（−）
17~49	判定保留（±）
50以上	陽　性（+）

1 プレイン容器

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
自己抗体関連検査	5192	抗好中球細胞質抗体(PR3-ANCA) 5G551-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵(28日)	3~5	252 免疫	CLEIA法	U/mL 3.5未満	※02	急速進行性糸球体腎炎 多発血管炎性肉芽腫症
	5193	抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体(MPO-ANCA) 5G552-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵(28日)	3~5	251❶ 免疫	CLEIA法	U/mL 3.5未満	※02	顕微鏡的多発血管炎 アレルギー性肉芽腫性血管炎 急速進行性糸球体腎炎
	5294	抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体) 5G420-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵	3~5	262❷ 免疫	CLEIA法	U/mL 3.0未満	※02	グッドパスチャー症候群 抗糸球体基底膜腎炎
	2496	血小板関連IgG PA-IgG 予約検査 5G525-0000-019-021	血液7.5(ACD-A液加)	68	冷蔵 凍結不可	3~5	190❸ 免疫	ELISA法	ng/10^7cells 46以下	休日前日不可 受託可能日は月~木曜日です。祝祭日の前日は不可です。末梢血の血小板が3.0×10^4/μL以下の場合は、専用容器2本を使用し必ず10mL以上採血してください。※02	特発性血小板減少性紫斑病 全身性エリテマトーデス
	2329	抗血小板抗体検査(APA) 5G520-0000-023-103	血清0.4	1	冷蔵	4~7	261 免疫	混合受身凝集法	陰性	採血後室温で静置し完全に血餅凝固後、血清分離してください。(不活性化しないでください。) 年齢・輸血歴・疾患名を明記してください。※02	
	5050	HIT抗体(血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体) 5G530-0000-022-062	血漿0.5 速やかに遠心	23	(分離後)凍結(2週)	3~4	390❹ 免疫	ラテックス凝集法	U/mL 1.0未満	HIT抗体(IgG,IgMおよびIgA)を測定し、その濃度をご報告しますが、免疫グロブリンの各クラス別の濃度報告は行いません。 ＊1 ※06	ヘパリン起因性血小板減少症
	3244	抗内因子抗体 5G190-0000-023-052	血清0.8	1	冷蔵	3~7		CLEIA法	(−)	ビタミンB_{12}摂取後1週間以内の検体は偽陽性を呈する可能性がありますのでご依頼は避けてください。※02	悪性貧血 高度な萎縮性胃炎
	3245	抗胃壁細胞抗体 5G185-0000-023-162	血清0.3	1	冷蔵	3~5		FA法	倍 陰性(10未満)	※02	悪性貧血 膠原病 萎縮性胃炎
	1330	抗精子抗体(精子不動化抗体) 5G440-0000-023-186	血清0.3	1	(分離後)凍結(9ヵ月)	事前にご確認ください		不動化法(Isojima法)	(−)	判定基準:下記参照 溶血・乳び検体などでは、精子を観察できず検査できない場合がありますのでご注意ください。※02	不妊症

❶抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体(MPO-ANCA)は、ELISA法、CLEIA法又はラテックス免疫比濁法又はFIA法により、急速進行性糸球体腎炎の診断又は経過観察のために測定した場合に算定する。
❷抗糸球体基底膜抗体(抗GBM抗体)は、抗糸球体基底膜抗体腎炎及びグッドパスチャー症候群の診断又は治療方針の決定を目的として行った場合に限り算定する。
❸血小板関連IgG(PA-IgG)は、特発性血小板減少性紫斑病の診断又は経過判定の目的で行った場合に算定する。
❹血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG抗体)、血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体(IgG、IgM及びIgA抗体)及び血小板第4因子-ヘパリン複合体抗体定性は、ヘパリン起因性血小板減少症の診断を目的として行った場合に算定する。

＊1　3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。

[1330] 抗精子抗体 判定基準

SIV値	判　定
1.40以下	(−)
1.41~1.99	判定保留
2.00~20.00	(+)
20.01以上	STRONG POSITIVE

1 プレイン容器

23 3.2%クエン酸Na入り

68 ACD-A液(PA·IgG用)

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
自己抗体関連検査	4733	抗デスモグレイン1抗体 5G396-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵	3~5	300 ❶❷ 免疫	CLEIA法	U/mL 20.0未満	※02	天疱瘡 落葉状天疱瘡 水疱性類天疱瘡
	4734	抗デスモグレイン3抗体 5G397-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵	3~5	270 ❶❷ 免疫	CLEIA法	U/mL 20.0未満	※02	天疱瘡 尋常性天疱瘡 水疱性類天疱瘡
	4866	血清中抗BP180NC16a抗体 5G398-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵	3~5	270❸ 免疫	CLEIA法	U/mL 9.0未満	※02	水泡性類天疱瘡
	3413	抗アセチルコリンレセプター抗体 5G385-0000-023-007	血清0.3	1	冷蔵	4~8	775❹ 免疫	RIA法	nmol/L 0.2以下	※02	重症筋無力症
	3239	抗MuSK抗体 (抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体) 5G386-0000-023-007	血清0.3	1	冷蔵 (21日)	4~10	1000❺ 免疫	RIA法	nmol/L 0.02未満	※02	
	3323	抗アクアポリン4抗体 5G821-0000-023-023	血清0.4	1	(分離後) 凍結 (28日)	3~9	1000❻ 免疫	ELISA法	U/mL 陰性 3.0未満	※02	視神経脊髄炎

❶抗デスモグレイン1抗体
ア　抗デスモグレイン1抗体は、ELISA法又はCLEIA法により、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生労働省難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。
イ　落葉状天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスモグレイン3抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

❷抗デスモグレイン3抗体
ア　抗デスモグレイン3抗体は、ELISA法又はCLEIA法により、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生労働省難治性疾患政策研究事業研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。
イ　尋常性天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスモグレイン1抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

❸抗BP180-NC16a抗体は、ELISA法又はCLEIA法により、水疱性類天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。

❹抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）
ア　抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）は、重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察の目的で行った場合に算定できる。
イ　本検査と抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

❺抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体
ア　抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体は、RIA法により重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察を目的として測定した場合に算定できる。
イ　本検査と抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

❻抗アクアポリン４抗体は、ELISA法により視神経脊髄炎の診断（治療効果判定を除く。）を目的として測定した場合に算定できる。なお、当該検査の結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、視神経脊髄炎が強く疑われる患者に対して、疾患の診断を行う必要があり、当該検査を再度実施した場合においても算定できる。ただし、この場合、前回の検査実施日及び検査を再度実施する医学的な必要性について診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

1 プレイン容器

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
自己抗体関連検査	3506	抗リン脂質抗体パネル 5G519-0000-023-051	血清0.6	1	(分離後)凍結	4～6	226×3 ❶❷免疫	CLIA法	U/mL 20.0以下	＊1 ※06	抗リン脂質抗体症候群 全身性エリテマトーデス 習慣流産
	3581	抗カルジオリピンIgG抗体 5G508-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵(7日)	3～5	226 ❶❷免疫	ELISA法	U/mL 12.3以下	※02	
	3582	抗カルジオリピンIgM抗体 5G510-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵(14日)	3～5	226 ❶❷免疫	ELISA法	U/mL 20.8以下	※02	
	3583	抗β2グリコプロテインⅠIgG抗体 5G515-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵(21日)	3～5	226 ❶❷免疫	CLEIA法	U/mL 0.7未満	※02	
	3584	抗β2グリコプロテインⅠIgM抗体 5G517-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵(21日)	3～5	226 ❶❷免疫	CLEIA法	U/mL 17.5以下	※02	
	2149	抗カルジオリピンβ2GPⅠ複合体抗体(抗CL-β2GPⅠ) 5G504-0000-023-023	血清0.3	1	(分離後)凍結(1ヵ月)	3～5	223❷免疫	ELISA法	U/mL 3.5未満	※02	
	4575	ループスアンチコアグラント 5G501-0000-022-311	血漿1.0 速やかに遠心	23	(分離後)凍結(21日)	3～5	265❸免疫	希釈ラッセル蛇毒時間法	1.2以下	＊2 ※02	抗リン脂質抗体症候群

❶抗カルジオリピンIgG抗体、抗カルジオリピンIgM抗体、抗β2グリコプロテインⅠIgG抗体、抗β2グリコプロテインⅠIgM抗体
ア　抗カルジオリピンIgM抗体は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として、ELISA法、CLIA法又はFIA法により実施した場合に、一連の治療につき２回に限り算定する。
イ　抗β2グリコプロテインⅠIgG抗体は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として、CLEIA法、CLIA法又はFIA法により実施した場合に、一連の治療につき２回に限り算定する。
ウ　抗β2グリコプロテインⅠIgM抗体は、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として、CLEIA法、CLIA法又はFIA法により実施した場合に、一連の治療につき２回に限り算定する。
エ　抗カルジオリピンIgG抗体、抗カルジオリピンIgM抗体、抗β2グリコプロテインⅠIgG抗体及び抗β2グリコプロテインⅠIgM抗体を併せて実施した場合は、主たるもの３つに限り算定する。
❷抗カルジオリピンβ2グリコプロテインⅠ複合体抗体と抗カルジオリピンIgG抗体、抗カルジオリピンIgM抗体、抗β2グリコプロテインⅠIgG抗体又は抗β2グリコプロテインⅠIgM抗体を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❸ループスアンチコアグラント定量及び同定性は、希釈ラッセル蛇毒試験法又はリン脂質中和法により、抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として行った場合に限り算定する。

＊1　４種の抗リン脂質抗体をご報告いたします。
・抗カルジオリピンIgG（抗CL IgG）
・抗カルジオリピンIgM（抗CL IgM）
・抗β2グリコプロテインⅠIgG（抗β2GPⅠ IgG）
・抗β2グリコプロテインⅠIgM（抗β2GPⅠ IgM）
＊2　採血後、速やかに室温で1500G以上15分間遠心後、バフィーコートより5㎜以上うえから血漿を採取して凍結保存にてご提出ください。
血小板の混入は、測定結果に影響しますのでご注意ください。
※遠心器回転数の計算式
$G = 1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$

r：遠心器のローター半径（cm）
n：１分間あたりの回転数（rpm）

1 プレイン容器

23 3.2%クエン酸Na入り

項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考
下記参照	モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカー	血液3.0(ヘパリン加)	19	室温	3~5	185❶免疫	フローサイトメトリー法	下記参照	休日前日不可 受託可能日は月曜日~木曜日です。当日中にご提出ください。 ＊1 ※01

❶T細胞サブセット検査は、免疫不全の診断目的に行う検査をいい、いずれも検査方法にかかわらず、一連として算定する。

＊1　白血球数の少ない患者様については検体量を多めにご提出ください。

モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカー

項目コード	検査項目	基準値	抗原分布
●T細胞系			
4001	CD3	54.3~81.9%	成熟T細胞
4002	CD4	24.3~49.7%	ヘルパー/インデューサーT細胞
4003	CD8	18.4~49.0%	サプレッサー/サイトトキシックT細胞
4060	CD4/CD8比	0.40~1.90	
●その他			
4007	HLA-DR	15.3~40.2%	B細胞、単球、活性化T細胞（HLAクラスⅡ-DR抗原）

19 ヘパリン

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
細胞性免疫検査	4018	T細胞・B細胞百分率 5I020-0000-019-662	血液3.0(ヘパリン加)	19	室温	3~5	193 免疫	フローサイトメトリー法	T細胞(CD3):54.3~81.9 % B細胞(CD19):2.9~20.1 %	休日前日不可 ＊1 ※01	免疫不全 サイトメガロウイルス感染症 伝染性単核球症
	4021	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgG 5I021-0000-019-662	1種につき血液1.0(ヘパリン加) 3項目以上依頼の場合は血液3.0(ヘパリン加)	19	室温	4~6	155 免疫	フローサイトメトリー法	1~3 %	休日前日不可 受託可能日は月~木曜日。 ＊1 ※02	免疫不全 慢性リンパ球性白血病 悪性リンパ腫
	4020	IgA 5I022-0000-019-662		19	室温	4~6			1~3 %		
	4022	IgM 5I023-0000-019-662		19	室温	4~6			3~12 %		
	4023	IgD 5I024-0000-019-662		19	室温	4~6			1~10 %		
	4024	κ鎖 5I025-0000-019-662		19	室温	4~6			3~8 %		
	4025	λ鎖 5I026-0000-019-662		19	室温	4~6			1~5 %		
	5067	CD45 Blast Gating法による急性白血病解析セット 5I895-0000-019-662 5I895-0000-046-662 5I895-0000-990-662	血液3.0(ヘパリン加)	19	室温	3~5	1940 ❶血液	フローサイトメトリー法(CD45-SSC Gating)		休日前日不可 受託可能日は月~木曜日。 実施項目は下記参照。 ＊1 ※01	白血病 悪性リンパ腫 骨髄異形成症候群 多発性骨髄腫
			骨髄液1.0	111	冷蔵						
			その他	112	冷蔵						
	5068	7AADを用いたリンパ腫生細胞解析セット(リンパ腫解析セット) 5I895-0000-220-662 5I895-0000-019-662 5I895-0000-046-662 5I895-0000-990-662	リンパ節実質3mm角以上 $2\sim5\times10^7$以上	112	冷蔵	3~5		フローサイトメトリー法 7AAD(FSC-SSC Gating)		休日前日不可 受託可能日は月~木曜日。 実施項目は下記参照。 ＊1 ※01	
			血液3.0(ヘパリン加)	19	室温						
			骨髄液1.0	111	冷蔵						
			その他	112	冷蔵						

❶造血器腫瘍細胞抗原検査
ア　造血器腫瘍細胞抗原検査はモノクローナル抗体を用いて蛍光抗体法、酵素抗体法、免疫ロゼット法等により白血病細胞又は悪性リンパ腫細胞の表面抗原又は細胞内抗原の検索を実施して病型分類を行った場合に算定できる。
イ　対象疾病は白血病、悪性リンパ腫等である。
ウ　検査に用いられるモノクローナル抗体は、医薬品として承認されたものであり、検査に当たって用いたモノクローナル抗体の種類、回数にかかわらず、一連として所定点数を算定する。

＊1　当日中にご提出ください。白血球数の少ない患者様については、検体量を多めにご提出ください。

[5067] CD45 Blast Gating法による急性白血病解析セット

急性白血病解析セット
45BL (CD7＊CD10)
45BL (CD2＊CD33)
45BL (CD19＊CD13)
45BL (CD5＊CD14)
45BL (CD3＊CD20)
45BL (CD8＊CD4)
45BL (HLA-DR＊CD34)
45BL (CD16＊CD56)
45BL (CD41＊KOR-SA (CD66c))

[5068] 7AADを用いたリンパ腫生細胞解析セット

リンパ腫生細胞解析セット
7AAD (CD20＊CD10)
7AAD (CD23＊CD5)
7AAD (CD3＊CD56)
7AAD (CD2＊CD16)
7AAD (CD8＊CD4)
7AAD (CD7＊CD33)
7AAD (CD15＊CD30)
7AAD (CD103＊CD25)
7AAD (SmIgD＊SmIgM)
7AAD (SmIgκ＊CD19)
7AAD (SmIgλ＊CD19)

19 ヘパリン

111 細胞性免疫骨髄液容器

112 細胞性免疫リンパ節その他容器

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
細胞性免疫検査	5181	PHAによるリンパ球幼若化検査 5I010-0000-019-814	血液5.0(ヘパリン加)	19	室温	8~9	❶免疫	3Hーサイミジン取り込み能	cpm control：127~456 PHA+：20500~56800	休日前日不可 ＊1 ※02	免疫不全 悪性腫瘍 感染症
	5182	Con-Aによるリンパ球幼若化検査 5I011-0000-019-814	血液5.0(ヘパリン加)	19	室温	8~9			cpm control：127~456 Con-A+：20300~65700	休日前日不可 ＊1 ※02	免疫不全 悪性腫瘍 感染症
	4029~4031	薬剤によるリンパ球刺激試験(DLST) 予約検査 5I014-0000-019-814	1薬剤 血液12.0(ヘパリン加)	19	室温	9~11			陰性	休日前日不可 判定基準：下記参照 ＊2 ※02	薬剤アレルギー 薬疹
	4033	NK細胞活性 予約検査 5I900-0000-019-907	血液5.0(保存液加)	43	冷蔵 凍結不可	4~6		^{51}Cr遊離法	% 18~40 (参考値)	休日前日不可 ＊1 ※02	免疫機能の評価

❶リンパ球刺激試験(LST)は、Con-A、PHA又は薬疹の被疑医薬品によるものである。
1薬剤　345点
2薬剤　425点
3薬剤以上　515点

＊1　受託可能日は月~木曜日です。当日中にご提出ください。リンパ球の少ない患者様については、多めに採血してください。
＊2　受託可能日は月~木曜日です。当日中にご提出ください。1薬剤増すごとに血液5mL必要となります。血液と同時にご依頼薬剤もご提出ください。(原則として皮内反応注射薬は検査できません。)ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は全て「43」の容器を使用してください。
「麻薬及び向精神薬取締法」第一章第二条および「覚醒剤取締法」別表に掲げられている規制対象薬剤の受領はできません。
ご依頼の際は、麻薬、覚醒剤が含まれていないことをご確認いただき、依頼書等へご署名をお願いいたします。ご署名のない場合は、受領いたしかねます。

[4029~4031] DLST 判定基準

判定	陰性	陽性
SI(%)	180以下	181以上

19 ヘパリン

43 NK細胞活性用

HLA（組織適合抗原）

	項目コード	検査項目	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
HLA検査	4708	HLA-A、B 予約検査 (血清対応型タイピング)	血液2.0 (EDTA-2Na加)	13	冷蔵 凍結不可	4～6		PCR-rSSO法		＊1 ※02	強直性脊椎炎（B27） ベーチェット病（B51） 亜急性甲状腺炎（B35,B67） 全身性エリテマトーデス（B39）
	4709	HLA-DR 予約検査 (血清対応型タイピング)	血液2.0 (EDTA-2Na加)	13	冷蔵 凍結不可	4～6		PCR-rSSO法		＊1 ※02	

＊1　受託可能日は月～木曜日です。続柄・臨床診断名・投与薬剤名・輸血歴・移植歴は必ず明記してください。
HLA検査2項目以上同時依頼の場合は、血液2.0mLで検査可能です。ただし、受給者の場合、化学療法などにより細胞数が減少し、DNAが回収できない場合がありますので細胞数2×10^6個を最低限としてご提出ください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取扱いに十分ご注意ください。また、予約検査となりますので、採取前に必ずご連絡ください。

13 EDTA-2Na入り

	項目コード	検査項目	検体量（mL）	容器	保存（安定性）	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値（単位）	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
癌関連遺伝子	3349	RAS-BRAF遺伝子変異解析 8C241-0000-070-898	未染スライド5枚（5μm厚） 単独検体	53	室温	5～8	4000 ❶ （処理が容易なもの2項目包括） 遺伝子	PCR-rSSO法	変異陰性	休日前日不可 受託可能日は月～木曜日 ＊1 ※06	抗EGFR抗体薬の効果予測等 切除不能進行再発大腸癌の治療方針決定

❶悪性腫瘍遺伝子検査については、100～101ページを参照してください。

＊1
- 病理組織診断にて腫瘍が認められた部位をマーク（実線で囲む）したHE染色スライドを併せてご提出ください。
  HE染色スライドの提出がない場合やマークがない場合には、スライド全体を使用します。
- KRAS遺伝子およびNRAS遺伝子のそれぞれcodon12、13、59 、61、117および146のアミノ酸置換およびBRAF遺伝子のcodon600のアミノ酸置換を伴うp.V600Eの遺伝子変異を検出し、変異の有無と変異型をご報告します。
- 本検査で必要な腫瘍細胞含有率は10%以上です。腫瘍細胞含有率が不足の場合、偽陰性の可能性があることをご了承願います。
- FFPE処理後12ヵ月以内、未染スライド作製後60日以内にご提出ください。
- 強酸による脱灰操作をした検体は検査できません。
- ホルマリン固定検体では、固定条件によって核酸の断片化が著しく、解析不能となる場合があります。組織検体の推奨固定時間は6~48 時間です。微小な組織検体や細胞検体では固定時間の短縮化が望ましいとされています。検体の取り扱いについては、日本病理学会「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程」および日本臨床腫瘍学会「大腸がん診療における遺伝子関連検査等のガイダンス」をご参照ください。

コンパニオン診断薬として用いられる対象医薬品

検査項目	適応疾患	測定対象	成分名	商品名
RAS-BRAF遺伝子変異解析	結腸・直腸癌	KRAS/NRAS変異	パニツムマブ（遺伝子組換え）	ベクティビックス
			セツキシマブ（遺伝子組換え）	アービタックス
		BRAF変異（p.V600E）	エンコラフェニブおよびセツキシマブ	ビラフトビおよびアービタックス
			エンコラフェニブおよびビニメチニブおよびセツキシマブ	ビラフトビおよびメクトビおよびアービタックス

53 標本用スライドガラス

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
癌関連遺伝子	下記参照	マイクロサテライト不安定性検査(MSI)(免疫チェックポイント阻害剤)	下記参照 単独検体	下記参照	下記参照	6~8	2500 ❶ 遺伝子	マルチプレックスPCR・フラグメント解析法		休日前日不可 受託可能日は月~木曜日 ＊1 ※06	免疫チェックポイント阻害剤による治療法の選択

❶悪性腫瘍遺伝子検査については、100～101ページを参照してください。

＊1 ・専用依頼書をあらかじめご依頼いただき、ご使用ください。
・本項目はリンチ症候群におけるマイクロサテライト不安定性検査に対応しておりませんので、ご了承ください。
・癌部位のみで判定できない場合、正常組織またはEDTA加血液の追加提出をお願いすることがあります。

マイクロサテライト不安定性検査(MSI)項目コード

項目コード	検査項目	項目コード	検査項目
3566	MSI 結腸・直腸癌 8C986-0000-480-955	3573	MSI 膵臓癌 8C986-0000-515-955
3567	MSI 胃癌 8C986-0000-455-955	3574	MSI その他癌 8C986-0000-099-955
3568	MSI 卵巣癌 8C986-0000-580-955	3575	MSI 子宮頸癌 8C986-0000-560-955
3569	MSI 前立腺癌 8C986-0000-600-955	3576	MSI 子宮内膜癌 8C986-0000-570-955
3570	MSI 乳癌 8C986-0000-205-955	3577	MSI 小細胞肺癌 8C986-0000-330-955
3571	MSI 食道癌 8C986-0000-450-955	3578	MSI 腎癌 8C986-0000-650-955
3572	MSI 胆管癌 8C986-0000-510-955		

マイクロサテライト不安定性検査(MSI)提出方法

＜依頼時＞ ①②のどちらかをご提出ください。

提出区分	部位	材料		提出量	容器	保存
依頼時	癌部位	①	未染スライドおよびHE染色スライド	5枚(5μm厚) 癌部位マーク付き1枚	53	室温
		②	癌組織	30mg(3mm角)	105	凍結(−70℃以下)

・病理組織診断にて腫瘍が認められた部位をマーク(実線で囲む)したHE染色を併せてご提出ください。
その際は、癌部位に加え正常組織が明確に区別できるようご配慮願います。指定がない場合は、スライド全体を使用します。
・本検査で必要な腫瘍細胞含有率は50%以上です。腫瘍細胞含有率が不足の場合、偽陰性の可能性があることをご了承願います。正常組織部位を検査に使用する場合があります。
・強酸による脱灰操作をした検体は検査できません。
・ホルマリン固定検体では、固定条件によって核酸の断片化が著しく、解析不能となる場合があります。組織検体の推奨固定時間は6~48時間です。
微小な組織検体や細胞検体では固定時間の短縮化が望ましいとされています。検体の取り扱いについては、日本病理学会「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規程」をご参照ください。

＜癌部位で結果未確定時(追加提出)＞ 癌部位のみで判定できない場合、③のいずれかの追加提出をお願いすることがあります。

項目コード	提出区分	部位	材料		提出量	容器	保存
3580	MSI 正常血液 8C986-0000-019-955	非癌部位	③	EDTA加血液	2mL	5	冷蔵
3579	MSI 正常組織 8C986-0000-070-955			未染スライド	5枚(5μm厚)	53	室温
				正常組織	30mg(3mm角)	105	凍結(−70℃以下)

コンパニオン診断薬として用いられる対象医薬品

検査項目	適応疾患	測定対象	成分名	商品名
マイクロサテライト不安定性検査(MSI)	固形癌	マイクロサテライト不安定性	ペムブロリズマブ(遺伝子組換え)	キイトルーダ
	結腸・直腸癌		ニボルマブ(遺伝子組換え)	オプジーボ
			ペムブロリズマブ(遺伝子組換え)	キイトルーダ

5 血球用

53 標本用スライドガラス

105 凍結用滅菌ポリスピッツ

❶悪性腫瘍遺伝子検査

イ　処理が容易なもの

⑴医薬品の適応判定の補助等に用いるもの　2,500 点

⑵その他のもの　2,100 点

ロ　処理が複雑なもの　5,000 点

注１　患者から１回に採取した組織等を用いて同一がん種に対してイに掲げる検査を実施した場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。

イ　２項目　4,000 点

ロ　３項目　6,000 点

ハ　４項目以上　8,000 点

２　患者から１回に採取した組織等を用いて同一がん種に対してロに掲げる検査を実施した場合は、所定点数にかかわらず、検査の項目数に応じて次に掲げる点数により算定する。

イ　２項目　8,000 点

ロ　３項目以上　12,000 点

（１）　悪性腫瘍遺伝子検査は、固形腫瘍又は悪性リンパ腫の腫瘍細胞を検体とし、悪性腫瘍の詳細な診断及び治療法の選択を目的として悪性腫瘍患者本人に対して行った、（２）から（４）までに掲げる遺伝子検査について、患者１人につき１回に限り算定する。ただし、肺癌におけるEGFR遺伝子検査については、再発や増悪により、２次的遺伝子変異等が疑われ、再度治療法を選択する必要がある場合にも算定できることとし、マイクロサテライト不安定性検査については、リンチ症候群の診断の補助を目的とする場合又は固形癌の抗悪性腫瘍剤による治療法の選択を目的とする場合に、当該検査を実施した後に、もう一方の目的で当該検査を実施した場合にあっても、別に１回に限り算定できる。

早期大腸癌におけるリンチ症候群の除外を目的としてBRAF遺伝子検査を実施した場合にあっては、KRAS遺伝子検査又はRAS遺伝子検査を併せて算定できないこととし、マイクロサテライト不安定性検査又は「N005-4」ミスマッチ修復タンパク免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製を実施した年月日を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

（２）　「イ」の「⑴」医薬品の適応判定の補助等に用いるものとは、次に掲げる遺伝子検査のことをいい、使用目的又は効果として、医薬品の適応を判定するための補助等に用いるものとして薬事承認又は認証を得ている体外診断用医薬品又は医療機器を用いて、リアルタイムPCR法、PCR-rSSO法、マルチプレックスPCRフラグメント解析法又は次世代シーケンシングにより行う場合に算定できる。

ア　肺癌におけるEGFR遺伝子検査、ROS1融合遺伝子検査、ALK融合遺伝子検査、BRAF遺伝子検査（次世代シーケンシングを除く。）、METex14遺伝子検査（次世代シーケンシングを除く。）、KRAS遺伝子変異（G12C）検査

イ　大腸癌におけるRAS遺伝子検査、BRAF遺伝子検査

ウ　乳癌におけるHER2遺伝子検査

エ　固形癌におけるマイクロサテライト不安定性検査

オ　濾胞性リンパ腫におけるEZH2遺伝子検査

（３）「イ」の「⑵」その他のものとは、次に掲げる遺伝子検査のことをいい、PCR法、SSCP法、RFLP法等により行う場合に算定できる。

ア　肺癌におけるKRAS遺伝子検査

イ　膵癌におけるKRAS遺伝子検査

ウ　悪性骨軟部組織腫瘍におけるEWS-Fli１遺伝子検査、TLS-CHOP遺伝子検査、SYT-SSX遺伝子検査

エ　消化管間葉系腫瘍におけるc-kit遺伝子検査

オ　悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節生検に係る遺伝子検査

カ　大腸癌におけるEGFR遺伝子検査、KRAS遺伝子検査

キ　リンチ症候群におけるマイクロサテライト不安定性検査（使用目的又は効果として、医薬品の適応を判定するための補助等に用いるものとして薬事承認又は認証を得ている体外診断用医薬品を使用した場合を除く。）

（４）「ロ」処理が複雑なものとは、次に掲げる遺伝子検査のことをいい、使用目的又は効果として、医薬品の適応を判定するための補助等に用いるものとして薬事承認又は認証を得ている体外診断用医薬品又は医療機器を用いて、次世代シーケンシング等により行う場合に算定できる。

ア　肺癌におけるBRAF遺伝子検査（次世代シーケンシング）、METex14遺伝子検査（次世代シーケンシング）、RET融合遺伝子検査、HER2遺伝子検査（次世代シーケンシング）

イ　悪性黒色腫におけるBRAF遺伝子検査（リアルタイムPCR法、PCR-rSSO法）

ウ　固形癌におけるNTRK融合遺伝子検査、腫瘍遺伝子変異量検査、RET融合遺伝子検査

エ　胆道癌におけるFGFR2融合遺伝子検査

オ　甲状腺癌におけるRET融合遺伝子検査、BRAF遺伝子検査

カ　甲状腺髄様癌におけるRET遺伝子変異検査

キ　固形腫瘍（肺癌及び大腸癌を除く。）におけるBRAF遺伝子検査（PCR-rSSO法）

ク　悪性リンパ腫におけるBRAF遺伝子検査（PCR-rSSO法）

ケ　乳癌におけるAKT1遺伝子変異検査、PIK3CA遺伝子変異検査、PTEN遺伝子変異検査

（５）　患者から１回に採取した組織等を用いて同一がん種に対して「１」の「イ」処理が容易なものと「１」の「ロ」処理が複雑なものを実施した場合は、「注１」及び「注２」の規定に基づき、それぞれの検査の項目数に応じた点数を合算した点数により算定する。

（６）　悪性腫瘍遺伝子検査を算定するに当たっては、（２）から（４）までに掲げる遺伝子検査の中から該当するものを診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

（７）　悪性腫瘍遺伝子検査、「D006-2」造血器腫瘍遺伝子検査、「D006-6」免疫関連遺伝子再構成、「D006-14」FLT3遺伝子検査又は「D006-16」JAK2遺伝子検査のうちいずれかを同一月中に併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。

（８）　肺癌において、「イ」の「⑴」医薬品の適応判定の補助等に用いるもののうち、（２）のアに規定する肺癌におけるEGFR遺伝子検査と「D006-12」EGFR遺伝子検査（血漿）又は「N006-24」肺癌関連遺伝子多項目同時検査を同一月中に併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。

（９）　肺癌において、「イ」の「⑴」医薬品の適応判定の補助等に用いるもののうち、（２）のアに規定する肺癌におけるALK融合遺伝子検査と「D006-24」肺癌関連遺伝子多項目同時検査、「N002」免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製のALK融合タンパク又は「N005-2」ALK融合遺伝子標本作製を併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。

（10）　乳癌において、「イ」の「⑴」医薬品の適応判定の補助等に用いるもののうち、（２）のウに規定する乳癌におけるHER2遺伝子検査と「N005」HER2遺伝子標本作製を併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。

（11）　卵巣癌又は前立腺癌において、「イ」の「⑴」医薬品の適応判定の補助等に用いるもののうち、（２）のエに規定する固形癌におけるマイクロサテライト不安定性検査又は「ロ」処理が複雑なもののうち、（４）のウに規定する固形癌におけるNTRK融合遺伝子検査若しくは腫瘍遺伝子変異量検査と「D006-18」BRCA1/2遺伝子検査の「１」腫瘍細胞を検体とするものを併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。

(12) 次世代シーケンシングを用いて、抗悪性腫瘍剤による治療法の選択を目的として特定の遺伝子の変異の評価を行う際に、包括的なゲノムプロファイルを併せて取得している場合には、包括的なゲノムプロファイルの結果ではなく、目的とする遺伝子変異の結果についてのみ患者に提供すること。また、その場合においては、目的以外の遺伝子の変異に係る検査結果については患者の治療方針の決定等には用いないこと。

(13) 抗悪性腫瘍剤感受性検査は、手術等によって採取された消化器癌、頭頸部癌、乳癌、肺癌、癌性胸膜・腹膜炎、子宮頸癌、子宮体癌又は卵巣癌の組織を検体とし、HDRA法又はCD-DST法を用いて、抗悪性腫瘍剤による治療法の選択を目的として行った場合に限り、患者１人につき１回に限り算定する。

(14) 当該検査の対象となる抗悪性腫瘍剤は、細胞毒性を有する薬剤に限る。また、当該検査に係る薬剤の費用は、所定点数に含まれる。

(15) リンチ症候群の診断の補助を目的としてマイクロサテライト不安定性検査を行う場合でも、使用目的又は効果として、医薬品の適応を判定するための補助等に用いるものとして薬事承認又は認証を得ている体外診断用医薬品を用いる場合には「１」の「イ」の「⑴」医薬品の適応判定の補助等に用いるものの所定点数を算定する。

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
造血器腫瘍遺伝子検査	4639	**WT1mRNA定量** 8C505-9962-019-875	血液7.0 (EDTA-2Na加) 単独検体	13	冷蔵 凍結不可	5~7	2520 ❶ 遺伝子	RT-PCR法 (リアルタイムPCR法)	コピー/μgRNA	休日前日不可 受託可能日は月~木曜日 ＊1 ※02	骨髄異形成症候群 急性骨髄性白血病 急性リンパ性白血病
			骨髄液 1.0 単独検体	71							

❶WT1mRNAは、リアルタイムRT-PCR法により、急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病又は骨髄異形成症候群の診断の補助又は経過観察時に行った場合に月1回を限度として算定できる。

＊1　検体採取後、当日中にご提出ください。他項目との重複依頼を避けて単独検体でご提出ください。凍結保存は避けてください。
コンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取扱いに十分ご注意ください。
受託数の増減により、所要日数が変わる場合があります。

13 EDTA-2Na入り

71 保存液入り マルク用

遺伝子関連検査のご依頼について

【検査受託可能日】
月～木曜日が受託可能日となります。ただし、日曜日および祝日とその前日は受託できません。

【専用依頼書】
遺伝子関連検査をご依頼の場合、あらかじめ当所までご連絡いただき、専用依頼書をご利用ください。

【所要日数】
検査案内記載の所要日数には、再検査の日数は含まれておりません。
検査方法、検体材料種などの要因から再検査を必要とする場合があります。再検査の場合や日曜日・祝日の前後は実際の報告までの日数が所定日数を超過する場合がありますのであらかじめご了承願います。

【検体量】
遺伝子解析の実施に当たっては、抽出される DNA あるいは RNA 量を一定収量以上に確保する必要があります。
そのため、各項目ごとに明示された検体量に不足がないようにご注意ください。

【検体保存方法】
組織：－ 70℃以下で凍結保存してください。
骨髄液：採取後、直ちに保存液入り容器71（保存液入り マルク用）に移して冷蔵保存してください。
その他の材料：各項目の指定の方法で保存してください。

【その他】
検体は、他項目との重複依頼を避けて、単独検体にてご提出ください。針付きの注射筒のままでのご提出は非常に危険ですので、ご遠慮願います。

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
ウイルス感染症検査	3039	ロタウイルス抗原 5F610-1410-015-190	糞便1.0g	10	冷蔵	1~2	65❶免疫	イムノクロマト法	(−)		ロタウイルス性胃腸炎
	2167	アデノウイルス抗原 5F150-1410-015-190	糞便1.0g	10	冷蔵	1~2	60❶免疫	イムノクロマト法	(−)		急性胃腸炎 急性出血性膀胱炎 乳幼児下痢症
	3004	アデノウイルス 5F150-1430-023-141	血清0.3 速やかに遠心	1	冷蔵	5~7	79❷免疫	CF法(補体結合反応)	4未満 倍	下記参照(*CF法) ※02	急性上・下気道感染症(1~7型) 咽頭結膜熱(3、7型) 流行性角結膜炎(3、7、8、19、37型)
	3069	アデノウイルス1型 5F151-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	4未満 倍	下記参照(*NT法) ※02	
	3070	アデノウイルス2型 5F152-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	3071	アデノウイルス3型 5F153-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	3072	アデノウイルス4型 5F154-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	3073	アデノウイルス5型 5F155-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	3074	アデノウイルス6型 5F156-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	3075	アデノウイルス7型 5F157-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	1132	アデノウイルス11型 5F161-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	3077	アデノウイルス19型 5F169-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	1133	アデノウイルス37型 5F177-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	4未満 倍	※02	

❶アデノウイルス抗原定性(糞便)とロタウイルス抗原定性(糞便)又は定量(糞便)を同時に行った場合は、主たる検査のみ算定する。

❷ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(121ページ)を参照ください。

＊CF法(補体結合反応):　補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍(髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

＊NT法(中和反応):　細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈　4倍(髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

1 プレイン容器

10 便検査用

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
ウイルス感染症検査	3037	インフルエンザウイルス A型(H1N1)(H3N2) 5F400-1430-023-111	血清0.2	1	冷蔵	4~6	79 ❶❷ 免疫	HI法(赤血球凝集抑制反応)	10未満 倍	検査結果はWHO方式の血清希釈倍数で表示しています。下記参照(*HI法) ※02	インフルエンザ 急性呼吸器感染症 脳炎
	3001	インフルエンザウイルス A型 5F400-1430-023-141	血清0.3 速やかに遠心	1	冷蔵	5~7		CF法(補体結合反応)	4未満 倍	下記参照(*CF法) ※02	
	3231	インフルエンザウイルス B型 B-1(山形系統) B-2(ビクトリア系統) 5F410-1430-023-111	血清0.2	1	冷蔵	4~6	79 ❶❷ 免疫	HI法(赤血球凝集抑制反応)	10未満 倍	検査結果はWHO方式の血清希釈倍数で表示しています。下記参照(*HI法) ※02	
	3002	インフルエンザウイルス B型 5F410-1430-023-141	血清0.3 速やかに遠心	1	冷蔵	5~7		CF法(補体結合反応)	4未満 倍	下記参照(*CF法) ※02	
	3033	パラインフルエンザウイルス 1型 5F421-1430-023-111	血清0.2	1	冷蔵	4~6	79❶ 免疫	HI法(赤血球凝集抑制反応)	10未満 倍	検査結果はWHO方式の血清希釈倍数で表示しています。下記参照(*HI法) ※02	気管支炎 肺炎 急性呼吸器感染症
	3034	パラインフルエンザウイルス 2型 5F422-1430-023-111	血清0.2	1	冷蔵	4~6	79❶ 免疫	HI法(赤血球凝集抑制反応)	10未満 倍		
	3035	パラインフルエンザウイルス 3型 5F423-1430-023-111	血清0.2	1	冷蔵	4~6	79❶ 免疫	HI法(赤血球凝集抑制反応)	10未満 倍		
	3020	RSウイルス 5F430-1430-023-141	血清0.3 速やかに遠心	1	冷蔵	5~7	79❶ 免疫	CF法(補体結合反応)	4未満 倍	下記参照(*CF法) ※02	上気道炎 気管支炎 乳幼児肺炎
	3040	RSウイルス 5F430-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~12		NT法(中和反応)	4未満 倍	下記参照(*NT法) ※02	

❶ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（121ページ）を参照ください。
❷インフルエンザウイルス抗原定性とウイルス抗体価（定性・半定量・定量）のインフルエンザウイルスA型若しくはインフルエンザウイルスB型を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

＊CF法（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
：出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）
＊NT法（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）
＊HI法（赤血球凝集抑制反応）：出発希釈　10倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL（冷蔵）　基準値　10倍未満　出発希釈　10倍）

1 プレイン容器

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
ウイルス感染症検査	3057	エコーウイルス 1型 5F311-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~19	79 ❶ 免疫	NT法(中和反応)	4未満 倍	下記参照(*NT法) ※02	無菌性髄膜炎 ヘルパンギーナ 心膜炎 心筋炎 肝炎 流行性筋痛症 結膜炎 急性発疹症 脳炎 脳症 精巣炎
	3058	エコーウイルス 3型 5F313-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~19		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	3059	エコーウイルス 4型 5F314-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~19		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	5325	エコーウイルス 5型 5F315-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	3060	エコーウイルス 6型 5F316-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~19		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	3061	エコーウイルス 7型 5F317-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~19		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	3062	エコーウイルス 9型 5F319-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~12		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	5326	エコーウイルス 11型 5F321-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	5327	エコーウイルス 12型 5F322-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	3063	エコーウイルス 13型 5F323-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~19		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	4711	エコーウイルス 14型 5F324-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	5329	エコーウイルス 16型 5F326-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	6~19		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	3064	エコーウイルス 17型 5F327-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~19		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	5330	エコーウイルス 18型 5F328-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	6~19		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	4712	エコーウイルス 19型 5F329-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	4713	エコーウイルス 21型 5F331-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	4644	エコーウイルス 22型(パレコウイルス1型) 5F332-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	4714	エコーウイルス 24型 5F334-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	3065	エコーウイルス 25型 5F335-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~19		NT法(中和反応)	4未満 倍		
	3066	エコーウイルス 30型 5F340-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~19		NT法(中和反応)	4未満 倍		

❶ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（121ページ）を参照ください。

＊NT法（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

1 プレイン容器

ウイルス感染症検査

項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
1128	コクサッキーウイルス A群2型 5F282-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21	79 ❶ 免疫	NT法(中和反応)	倍 4未満	下記参照(*NT法) ※02	ヘルパンギーナ 手足口病 無菌性髄膜炎 心筋炎 上気道感染症 流行性胸膜痛
1129	コクサッキーウイルス A群3型 5F283-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	倍 4未満		
5318	コクサッキーウイルス A群4型 5F284-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	倍 4未満		
5523	コクサッキーウイルス A群5型 5F285-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	倍 4未満		
4642	コクサッキーウイルス A群6型 5F286-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	倍 4未満		
3048	コクサッキーウイルス A群7型 5F287-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	倍 4未満		
3049	コクサッキーウイルス A群9型 5F289-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	倍 4未満		
3013	コクサッキーウイルス A群9型 5F289-1430-023-141	血清0.3 速やかに遠心	1	冷蔵	5~7		CF法(補体結合反応)	倍 4未満	下記参照(*CF法) ※02	
1130	コクサッキーウイルス A群10型 5F290-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~21		NT法(中和反応)	倍 4未満	下記参照(*NT法) ※02	
3050	コクサッキーウイルス A群16型 5F296-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~14		NT法(中和反応)	倍 4未満		
3051	コクサッキーウイルス B群1型 5F301-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~14		NT法(中和反応)	倍 4未満		
3014	コクサッキーウイルス B群1型 5F301-1430-023-141	血清0.3 速やかに遠心	1	冷蔵	5~7		CF法(補体結合反応)	倍 4未満	下記参照(*CF法) ※02	
3052	コクサッキーウイルス B群2型 5F302-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~14		NT法(中和反応)	倍 4未満	下記参照(*NT法) ※02	
3015	コクサッキーウイルス B群2型 5F302-1430-023-141	血清0.3 速やかに遠心	1	冷蔵	5~7		CF法(補体結合反応)	倍 4未満	下記参照(*CF法) ※02	
3053	コクサッキーウイルス B群3型 5F303-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~14		NT法(中和反応)	倍 4未満	下記参照(*NT法) ※02	
3016	コクサッキーウイルス B群3型 5F303-1430-023-141	血清0.3 速やかに遠心	1	冷蔵	5~7		CF法(補体結合反応)	倍 4未満	下記参照(*CF法) ※02	

❶ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（121ページ）を参照ください。

＊CF法（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

＊NT法（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

1 プレイン容器

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
ウイルス感染症検査	3054	コクサッキーウイルス B群4型 5F304-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~14	79 ❶ 免疫	NT法(中和反応)	4未満 倍	下記参照(*NT法) ※02	無菌性髄膜炎 心筋炎 上気道感染症 流行性胸膜痛
	3017	コクサッキーウイルス B群4型 5F304-1430-023-141	血清0.3 速やかに遠心	1	冷蔵	5~7		CF法(補体結合反応)	4未満 倍	下記参照(*CF法) ※02	
	3055	コクサッキーウイルス B群5型 5F305-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~14		NT法(中和反応)	4未満 倍	下記参照(*NT法) ※02	
	3018	コクサッキーウイルス B群5型 5F305-1430-023-141	血清0.3 速やかに遠心	1	冷蔵	5~7		CF法(補体結合反応)	4未満 倍	下記参照(*CF法) ※02	
	3056	コクサッキーウイルス B群6型 5F306-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~14		NT法(中和反応)	4未満 倍	下記参照(*NT法) ※02	
	3019	コクサッキーウイルス B群6型 5F306-1430-023-141	血清0.3 速やかに遠心	1	冷蔵	5~7		CF法(補体結合反応)	4未満 倍	下記参照(*CF法) ※02	
	1428	エンテロウイルス 70型 5F270-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	7~20		NT法(中和反応)	4未満 倍	下記参照(*NT法) ※02	急性出血性結膜炎
	3068	エンテロウイルス 71型 5F271-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	7~20		NT法(中和反応)	4未満 倍	下記参照(*NT法) ※02	手足口病

❶ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（121ページ）を参照ください。

＊CF法（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

＊NT法（中和反応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。
出発希釈　4倍（髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

1 プレイン容器

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
ウイルス感染症検査	3024	日本脳炎ウイルス(JaGAr株、中山株) 5F385-1430-023-111	血清0.2	1	冷蔵	5~11	79 ❶ 免疫	HI法(赤血球凝集抑制反応)	倍 10未満	髄液の測定も可能です。 検体量0.4mL(冷蔵) [髄液基準値]1未満(倍) 出発希釈　髄液1倍 ※01	日本脳炎
	3010	日本脳炎ウイルス 5F385-1430-023-141	血清0.3 速やかに遠心	1	冷蔵	5~7		CF法(補体結合反応)	倍 4未満	髄液の測定も可能です。 検体量0.4mL(冷蔵) [髄液基準値]1未満(倍) 出発希釈　血清4倍、髄液1倍 下記参照(＊CF法)　※02	
	1225	ムンプスウイルス　IgM 5F432-1432-023-023	血清0.4	1	冷蔵	3~4	200 ❷ 免疫	EIA法	(−)	判定基準：下記参照 髄液の測定も可能です。 検体量各0.7mL(冷蔵) ※01	流行性耳下腺炎 無菌性髄膜炎 脳炎 精巣炎
	1224	ムンプスウイルス　IgG 5F432-1431-023-023	血清0.4	1	冷蔵	3~4		EIA法	(−)		
	3031	ムンプスウイルス 5F432-1430-023-111	血清0.2	1	冷蔵	4~6	79 ❶ 免疫	HI法(赤血球凝集抑制反応)	倍 8未満	髄液の測定も可能です。 検体量0.4mL(冷蔵) [髄液基準値]8未満(倍) 出発希釈　血清8倍、髄液8倍 ※02	
	3042	ムンプスウイルス 5F432-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~14		NT法(中和反応)	倍 4未満	髄液の測定も可能です。 検体量0.4mL(冷蔵) [髄液基準値]1未満(倍) 出発希釈　血清4倍、髄液1倍 下記参照(＊NT法)　※02	
	3003	ムンプスウイルス 5F432-1430-023-141	血清0.3 速やかに遠心	1	冷蔵	4~6		CF法(補体結合反応)	倍 4未満	髄液の測定も可能です。 検体量0.5mL(冷蔵) [髄液基準値]1未満(倍) 出発希釈　髄液1倍 下記参照(＊CF法)　※01	
	1222	麻疹ウイルス　IgM 5F431-1432-023-023	血清0.4	1	冷蔵	3~4	200 ❷ 免疫	EIA法	(−)	判定基準：下記参照 髄液の測定も可能です。 検体量各0.7mL(冷蔵) ※01	麻疹(はしか)
	1221	麻疹ウイルス　IgG 5F431-1431-023-023	血清0.4	1	冷蔵	3~4		EIA法	(−)		
	3041	麻疹ウイルス 5F431-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	8~14	79 ❶ 免疫	NT法(中和反応)	倍 4未満	髄液の測定も可能です。 検体量0.2mL(冷蔵) [髄液基準値]1未満(倍) 出発希釈　髄液1倍 下記参照(＊NT法)　※01	

❶ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（121ページ）を参照ください。
❷グロブリンクラス別ウイルス抗体価（121ページ）を参照ください。

＊CF法（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
＊NT法（中 和 反 応）：細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますのでご注意ください。

[1225、1224] ムンプスウイルス [1222、1221] 麻疹ウイルス　(血清)　判定基準

判　定	IgM(抗体指数)	IgG(EIA価)
(−)	0.80未満	2.0未満
(±)	0.80~1.20	2.0~3.9
(＋)	1.21以上	4.0以上

判定結果とともにインデックス値（IgG抗体ではEIA価、IgM抗体では抗体指数）を併記しますが、これはウイルス抗原に対する抗体の反応の強さを表します。

1 プレイン容器

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
ウイルス感染症検査	3099	風疹ウイルス IgM 5F395-1432-023-023	血清0.4	1	冷蔵	3~4	200 ❷ 免疫	EIA法	(−)	判定基準：下記参照 髄液の測定も可能です。 検体量各0.7mL（冷蔵） ※01	風疹（3日はしか）
	3098	風疹ウイルス IgG 5F395-1431-023-023	血清0.4	1	冷蔵	3~4		EIA法	(−)		
	0329	風疹ウイルス 5F395-1430-023-111	血清0.2	1	冷蔵	4~5	79 ❶ 免疫	HI法（赤血球凝集抑制反応）	倍 8未満	髄液の測定も可能です。 検体量0.4mL（冷蔵） 【髄液基準値】1未満（倍） 出発希釈　髄液1倍 ※01	
	1336	ヒトパルボウイルスB19(パルボウイルスB19) IgM 5F011-1432-023-023	血清0.4	1	冷蔵	3~4	200 ❷❸ 免疫	EIA法	(−) 0.80未満	判定基準：下記参照 ※01	伝染性紅斑（リンゴ病）
	1467	ヒトパルボウイルスB19(パルボウイルスB19) IgG 5F011-1431-023-023	血清0.4	1	冷蔵	3~4		EIA法			

❶ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（121ページ）を参照ください。
❷グロブリンクラス別ウイルス抗体価（121ページ）を参照ください。
❸ヒトパルボウイルスB19は、紅斑が出現している15歳以上の成人について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。

[3099] 風疹ウイルス IgM
[3098] 風疹ウイルス IgG（血清） 判定基準

判　定	IgM（抗体指数）	IgG（EIA価）
(−)	0.80未満	2.0未満
(±)	0.80~1.20	2.0~3.9
(＋)	1.21以上	4.0以上

判定結果とともにインデックス値（IgG抗体ではEIA価、IgM抗体では抗体指数）を併記しますが、これはウイルス抗原に対する抗体の反応の強さを表します。

[1336] ヒトパルボウイルスB19 IgM
[1467] ヒトパルボウイルスB19 IgG 判定基準

判　定	抗体指数
(−)	0.80未満
(±)	0.80~0.99
(＋)	1.00以上

判定結果とともにインデックス値（抗体指数）を併記しますが、これはウイルス抗原に対する抗体の反応の強さを表します。

1 プレイン容器

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
ウイルス感染症検査	2244	単純ヘルペスウイルス特異抗原(HSV特異抗原) 5F190-1420-094-161	専用スライド	36	凍結	3~4	180 ❶ 免疫	蛍光抗体法	1型:(−) 2型:(−)	採取方法は次頁参照 ※01	主病変部位 1型:上半身 2型:下半身(性器) 口唇ヘルペス 性器ヘルペス
	3097	単純ヘルペスウイルス(HSV) IgM 5F190-1432-023-023	血清0.4	1	冷蔵	3~4	200 ❷ 免疫	EIA法(捕捉法)	(−)	判定基準:下記参照 髄液の測定も可能です。検体量0.7mL(冷蔵) ※01	主病変部位 1型:上半身 2型:下半身(性器) 口唇ヘルペス ヘルペスウイルス性角膜炎 歯肉口内炎 ヘルペス脳炎 性器ヘルペス 陰部ヘルペス
	3096	単純ヘルペスウイルス(HSV) IgG 5F190-1431-023-023	血清0.4	1	冷蔵	3~4		EIA法	(−)	判定基準:下記参照 ※01	
	1296	単純ヘルペスウイルス(HSV)(髄液) IgG 5F190-1431-041-023	髄液0.7	2	冷蔵	3~4		EIA法	(−)	判定基準:下記参照 ※01	
	3043	単純ヘルペスウイルス(HSV) 1型 5F191-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	7~13	79 ❸ 免疫	NT法(中和反応)	倍 4未満	1型、2型間には抗原交差性があります。 下記参照(*NT法) ※02	
	3044	単純ヘルペスウイルス(HSV) 2型 5F192-1430-023-151	血清0.2	1	冷蔵	7~13		NT法(中和反応)	倍 4未満		
	3005	単純ヘルペスウイルス(HSV) 5F190-1430-023-141	血清0.3 速やかに遠心	1	冷蔵	4~6		CF法(補体結合反応)	倍 4未満	下記参照(*CF法) ※01	
	1274	水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原(VZV抗原) 5F193-1410-094-161	専用スライド	36	凍結	3~4	227 免疫	蛍光抗体法	(−)	採取方法は次頁参照 ※01	水痘 帯状疱疹
	3094	水痘・帯状ヘルペスウイルス(VZV) IgM 5F193-1432-023-023	血清0.4	1	冷蔵	3~4	200 ❷ 免疫	EIA法(捕捉法)	(−)	判定基準:下記参照 髄液の測定も可能です。検体量各0.7mL(冷蔵) ※01	水痘 帯状疱疹
	3093	水痘・帯状ヘルペスウイルス(VZV) IgG 5F193-1431-023-023	血清0.4	1	冷蔵	3~4		EIA法	(−)		
	3006	水痘・帯状ヘルペスウイルス(VZV) 5F193-1430-023-141	血清0.3 速やかに遠心	1	冷蔵	4~6	79 ❸ 免疫	CF法(補体結合反応)	倍 4未満	下記参照(*CF法) ※01	

❶単純ヘルペスウイルス抗原定性は、ヘルペスウイルスの型別確認を行った場合に算定できる。
❷グロブリンクラス別ウイルス抗体価(121ページ)を参照ください。
❸ウイルス抗体価(定性・半定量・定量)(121ページ)を参照ください。

＊CF法(補体結合反応):補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　血清4倍(髄液の測定も可能です　検体量　0.5mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)
＊NT法(中和反応):細菌繁殖などにより細胞が汚染され、測定不能になる場合がありますので、ご注意ください。
出発希釈　血清4倍(髄液の測定も可能です　検体量　0.4mL(冷蔵)　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍)

[3097]単純ヘルペスウイルス IgM
[3096]単純ヘルペスウイルス IgG
[3094]水痘・帯状ヘルペスウイルス IgM
[3093]水痘・帯状ヘルペスウイルス IgG (血清)判定基準

判定	IgM(抗体指数)	IgG(EIA価)
(−)	0.80未満	2.0未満
(±)	0.80~1.20	2.0~3.9
(+)	1.21以上	4.0以上

判定結果とともにインデックス値(IgG抗体ではEIA価、IgM抗体では抗体指数)を併記しますが、これはウイルス抗原に対する抗体の反応の強さを表します。

[1296] 単純ヘルペスウイルス IgG(髄液) 判定基準

判定	EIA価
(−)	0.20未満
(±)	0.20~0.39
(+)	0.40以上

判定結果とともにインデックス値(EIA価)を併記しますが、これはウイルス抗原に対する抗体の反応の強さを表します。

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

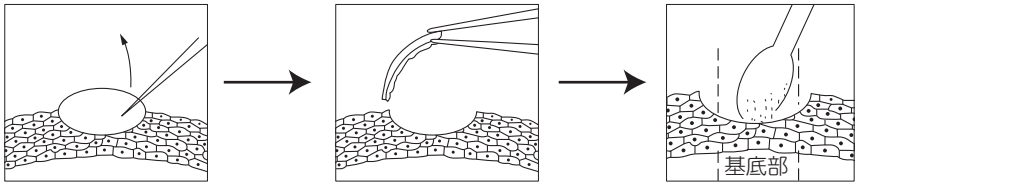
36 蛍光抗体法専用スライド

単純ヘルペス抗原、水痘・帯状ヘルペス抗原 提出方法

1. 検体の採取

Ⅰ. 水疱の場合
小水疱、膿疱、痂皮

Ⅱ. 水疱でない場合（潰瘍等）



針を挿入し、上部の皮あるいは痂皮をはがします。

ピンセットで、剥がした皮を除去します。

ポリエステル綿棒を生理食塩水や精製水で軽く湿らせ、病巣基底部全面を綿棒で強くぬぐいます。

<注意>
1) 早朝の水疱病巣が検体として最適です。
2) 水疱内容液は検体として不適です。
3) ウイルス感染細胞は病巣基底部にありますので、患者が痛いというくらい強くぬぐい、基底部の細胞を採取します。
4) 膿がでている場合は、病巣基底部をかき乱さないように注意し、綿棒でまず膿をぬぐい去り、別の綿棒で検体を採取してください。

2. 検体塗抹方法

綿棒にて病巣部位より感染細胞を採取し、ご依頼の項目に応じ下記の位置に塗抹してください。スライドグラスのウェルに内側から円を描くようにこすらず、軽くたたくように塗抹してください。この際、綿棒に付着している検体すべてが、塗抹されるよう綿棒を少しずつ回転させ、ウェルからはみ出さないように塗抹してください。

*両ウイルスをご依頼の場合は、3ウェルすべてに塗抹してください。（単純ヘルペスウイルス抗原のみをご依頼の場合はHSV-1、HSV-2の2ウェルに塗抹してください。）

3. 風　乾　操作中検体が剥がれ落ちる原因ともなりますので、完全に乾燥させてください。ドライヤーの冷風で乾燥させることも可能です。

4. アセトン固定　検体の塗布してあるウェルにアセトンを滴下して固定し、蒸発させます。

5. 提　出　乾燥後のスライドグラスは、輸送用ケースに入れ、検査項目名、病院名、氏名等を記入後、凍結保存してください。

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
ウイルス感染症検査	3641	CMV核酸検出(新生児尿) 5F194-1440-001-890	尿0.2 単独検体	105	凍結(42日)	4~10	801 ❶微生物	等温核酸増幅法	陰性	＊1 ＊2 ※02	先天性サイトメガロウイルス感染症
	3501	CMV核酸定量 5F194-1441-022-862	血漿1.8 単独検体	122	(分離後)凍結(84日)	3~5	450 ❷微生物	リアルタイムPCR法	IU/mL 検出せず	遠心分離後そのまま凍結してご提出ください。 ＊2 ※02	サイトメガロウイルス肺炎 サイトメガロウイルス感染症
	4660	サイトメガロウイルス(CMV)pp65抗原(C7-HRP) 予約検査 5F194-1422-019-174	血液3.0 (EDTA-2Na加)	13	室温	3~5	356 ❸免疫	直接酵素抗体法	陰性	受託可能日は月～木曜日です。血液は採血後、速やかにご提出下さい。採血後24時間以内の血液を使用しない場合、検出率の低下が認められます。 ※02	サイトメガロウイルス感染症 後天性免疫不全症候群
	3360	サイトメガロウイルス(CMV)IgM 5F194-1432-023-051	血清0.5	1	冷蔵	3~4	200 ❹免疫	CLIA法	(−) index：0.85未満	判定基準：下記参照 髄液の測定も可能です。 検体量各0.5mL(冷蔵) ※01	サイトメガロウイルス肺炎 サイトメガロウイルス感染症
	3359	サイトメガロウイルス(CMV)IgG 5F194-1431-023-051	血清0.5	1	冷蔵	3~4		CLIA法	AU/mL (−) 6.0未満		
	3021	サイトメガロウイルス(CMV) 5F194-1430-023-141	血清0.3 速やかに遠心	1	冷蔵	4~6	79 ❺免疫	CF法 (補体結合反応)	倍 4未満	下記参照(＊CF法) ※01	

❶サイトメガロウイルス核酸検出
ア　サイトメガロウイルス核酸検出は、先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として、尿を検体として等温核酸増幅法により測定した場合に、1回に限り算定できる。
イ　先天性サイトメガロウイルス感染の診断を目的として、当該検査と「D012」感染症免疫学的検査のウイルス抗体価（定性・半定量・定量）又はグロブリンクラス別ウイルス抗体価におけるサイトメガロウイルスを対象とした検査を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。
❷サイトメガロウイルス核酸定量は、以下のいずれかに該当する場合であって、血液を検体としてリアルタイムPCR法によりサイトメガロウイルスDNAを測定した場合に算定する。
ア　臓器移植後若しくは造血幹細胞移植後の患者、HIV感染者又は高度細胞性免疫不全の患者に対して、サイトメガロウイルス感染症の診断又は治療効果判定を目的として行った場合。ただし、高度細胞性免疫不全の患者については、本検査が必要であった理由について、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
イ　症候性先天性サイトメガロウイルス感染症患者に対して、治療効果判定を目的として行った場合。
❸サイトメガロウイルスpp65抗原定性は免疫染色法により、臓器移植後若しくは造血幹細胞移植後の患者又はHIV感染者又は高度細胞性免疫不全の患者に対して行った場合に限り算定できる。ただし、高度細胞性免疫不全の患者については、当該検査が必要であった理由について、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
❹グロブリンクラス別ウイルス抗体価（121ページ）を参照ください。
❺ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（121ページ）を参照ください。

＊1　生後3週間以内に採取された新生児尿をご提出ください。依頼書に生年月日のご記入をお願いします。
＊2　他項目との重複は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに十分ご注意ください。

＊CF法（補体結合反応）：補体結合反応におきましては抗補体作用がみられ、測定不能になる場合がありますので、抗凝固剤を入れずに採血して速やかに血清分離し冷蔵保存してください。
出発希釈　血清4倍（髄液の測定も可能です　検体量　各0.5mL（冷蔵）　基準値　1倍未満　出発希釈　1倍）

[3360] サイトメガロウイルスIgM
[3359] サイトメガロウイルスIgG　判定基準

IgG抗体（血清）

判定	抗体濃度(AU/mL)
(−)	6.0未満
(＋)	6.0以上

IgM抗体（血清）

判定	index
(−)	0.85未満
(±)	0.85~0.99
(＋)	1.00以上

1 プレイン容器

13 EDTA-2Na入り

105 凍結用滅菌ポリスピッツ

122 CMV核酸定量用

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
ウイルス感染症検査	4792	EBウイルス 抗EA IgG 5F203-1431-023-023	血清0.2	1	冷蔵	3~5	200 ❶ 免疫	EIA法	(−) 0.5未満	判定基準：下記参照	慢性活動性EBウイルス感染症 伝染性単核症 上咽頭癌 胃癌 悪性リンパ腫
	4793	EBウイルス 抗VCA IgM 5F202-1432-023-023	血清0.2	1	冷蔵	3~5		EIA法	(−) 0.5未満		
	4794	EBウイルス 抗VCA IgG 5F202-1431-023-023	血清0.2	1	冷蔵	3~5		EIA法	(−) 0.5未満		
	4795	EBウイルス 抗EBNA IgG 5F204-1431-023-023	血清0.2	1	冷蔵	3~5		EIA法	(−) 0.5未満	※02	
	3081	EBウイルス 抗EA-DR IgG 5F203-1431-023-162	血清0.2	1	冷蔵	4~6		FA法(蛍光抗体法)	10未満 倍	出発希釈 10倍	
	3079	EBウイルス 抗VCA IgM 5F202-1432-023-162	血清0.2	1	冷蔵	4~6		FA法(蛍光抗体法)	10未満 倍		
	3078	EBウイルス 抗VCA IgG 5F202-1431-023-162	血清0.2	1	冷蔵	4~6		FA法(蛍光抗体法)	10未満 倍		
	3083	EBウイルス 抗EBNA 5F204-1430-023-162	血清0.2	1	冷蔵	4~6	79 ❷ 免疫	FA法(蛍光抗体法)	10未満 倍		
	3080	EBウイルス 抗VCA IgA 5F202-1433-023-162	血清0.2	1	冷蔵	4~6		FA法(蛍光抗体法)	10未満 倍		
	3082	EBウイルス 抗EA-DR IgA 5F203-1433-023-162	血清0.2	1	冷蔵	4~6		FA法(蛍光抗体法)	10未満 倍	※02	

❶グロブリンクラス別ウイルス抗体価（121ページ）を参照ください。
❷ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）（121ページ）を参照ください。

[4792~4795] EBウイルス抗体/EIA 判定基準

判定	抗体指数
(−)	0.5未満
(±)	0.5~0.9
(+)	1.0以上

1 プレイン容器

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料	検査方法	備考
分離・同定	5341	ウイルス分離 6B655-0000-099-748	下記参照	33	冷蔵 凍結不可	5~22		細胞変性効果、血球吸着現象、赤血球凝集反応	凍結保存は避けてください。 分離、同定検査は以下の細胞を使用しています。PHfb（ヒト繊維芽細胞）、HEp-2（ヒト喉頭癌細胞）、Vero（ミドリザル腎細胞）、MA104（アカモザル腎細胞）、RD-18S（ヒト横紋筋腫細胞）、MDCK（イヌ腎細胞）、B95a（マーモセットB細胞）、AGMK（アフリカミドリザル腎細胞）、A549（ヒト肺癌細胞）、Caco-2（ヒト結腸腺癌細胞）※02
	5342	ウイルス同定 6B705-0000-099-748	＊1参照	33	冷蔵 凍結不可	14~30 ※		標準抗血清による中和反応・免疫蛍光抗体法・赤血球凝集抑制反応	

※同時に複数検体をご依頼いただく場合は、所要日数が変動する場合がございます。予めご了承ください。

＜検査材料＞

ウイルス分離・同定検査を実施するためには適切な分離用検査材料と、同時に発病後できるだけ早期に採取することが大切です。
ウイルス分離材料の選択は、分離率向上のため、できる限り複数の材料をご提出ください。

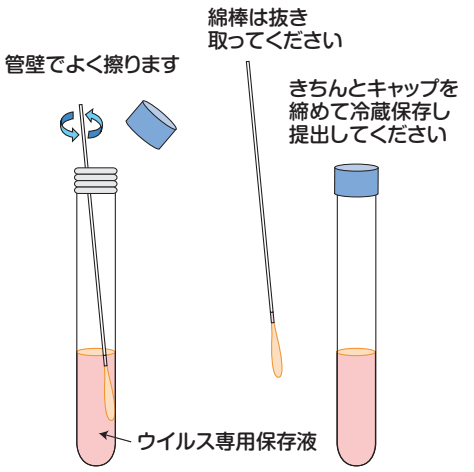
臨床症状	分離可能ウイルス	主要検査材料
上気道感染症	ライノ、パラインフルエンザ	咽頭ぬぐい液、鼻分泌液
	アデノ、コクサッキー、エコー	咽頭ぬぐい液、糞便
下気道感染症	インフルエンザ、パラインフルエンザ、アデノ、RS、サイトメガロ	咽頭ぬぐい液、喀痰、気管支洗浄液
紅斑性発疹症	麻疹、風疹	咽頭ぬぐい液
	エコー、コクサッキー	咽頭ぬぐい液、糞便
水疱性発疹症	単純ヘルペス、水痘・帯状ヘルペス	水疱内容
	コクサッキー、エンテロ71	水疱内容、咽頭ぬぐい液、糞便
中枢神経系疾患	エコー、コクサッキー	咽頭ぬぐい液、髄液、糞便
	水痘・帯状ヘルペス、ムンプス	咽頭ぬぐい液、髄液
先天性異常	サイトメガロ、風疹	咽頭ぬぐい液、尿 、髄液
	単純ヘルペス、水痘・帯状ヘルペス	水疱内容
嘔吐・下痢症	エコー、コクサッキー、アデノ	咽頭ぬぐい液、糞便
出血性膀胱炎	アデノ	尿
耳下腺炎	ムンプス	咽頭ぬぐい液
眼疾患	アデノ、単純ヘルペス、水痘・帯状ヘルペス	結膜ぬぐい液

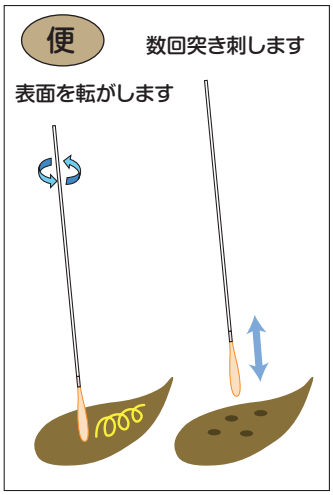
＜検体採取および保存方法＞

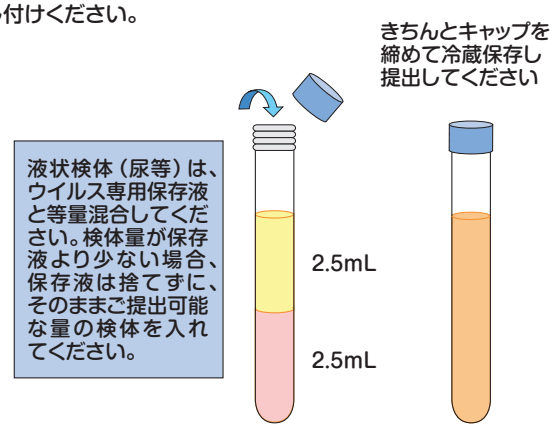
検査材料	ウイルス専用容器への採取方法
患部ぬぐい液・水疱内容・糞便　等	＊2　滅菌綿棒でぬぐい、下図の採取方法でウイルス専用保存液に採取し、冷蔵保存してください。
尿・髄液・胸水・鼻汁　等	下図の採取方法でウイルス専用保存液と等量の検体を採取し、冷蔵保存してください。
組織	組織小片（5mm角程度）をウイルス専用保存液に入れ冷蔵保存してください。

＊1　同定検査はウイルス分離（項目コード：5341）において分離された検体のみの受付となります。
＊2　滅菌綿棒はプラスチック棒かアルミニウム棒付の綿棒で採取してください。

●ウイルス専用保存液は当所にて準備しておりますので、ご依頼前に営業担当員にお申し付けください。







ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
ウイルス感染症検査	4887	ヒトパピローマウイルスHPV(中～高リスク)HPV-DNA同定 5F101-1405-085-842	ぬぐい液	59	冷蔵	4～6	347 ❶❸ 微生物	ハイブリッドキャプチャー法	陰性 index：1.00未満	測定対象は、16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型です。ただし、型別の判定ではありません。 ※29	ヒトパピローマウイルス感染症(子宮頸癌,子宮頸部異形成)
	5048	ヒトパピローマウイルスHPVハイリスク(LBC) 5F101-1405-085-842	ぬぐい液	70	冷蔵	4～6		ハイブリッドキャプチャー法		測定対象は、16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型です。ただし、型別の判定ではありません。＊1 ※29	
	5046	HPV簡易ジェノタイプ(HPV-DNA) 5F101-1440-070-862	ぬぐい液	70	冷蔵(3ヵ月)	4～5	347 ❷❸ 微生物	リアルタイムPCR法	検出せず	必ず指定容器使用 ＊2 ※06	
	4948	ヒトパピローマウイルス(HPV)DNA型判定(ハイリスク13種) 5F101-1440-070-889	ぬぐい液	70	冷蔵	4～7	2000 ❹ 微生物	PCR-rSSO法	検出せず	16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型の"中～高リスク型"HPVを検出致します。 ※06	
	4888	ヒトパピローマウイルスHPV(低リスク)HPV-DNA同定 5F102-1405-085-842	ぬぐい液	59	冷蔵(3週)	3～9		ハイブリッドキャプチャー法	陰性 index：1.00未満	測定対象は、6、11、42、43、44型です。ただし、型別の判定ではありません。 ※06	ヒトパピローマウイルス感染症(尖圭コンジローマ)

❶HPV核酸検出については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、細胞診によりベセスダ分類がASC-USと判定された患者又は過去に区分番号K867に掲げる子宮頸部（腟部）切除術、区分番号K867-3に掲げる子宮頸部摘出術（腟部切断術を含む。）若しくは区分番号K867-4に掲げる子宮頸部異形成上皮又は上皮内癌レーザー照射治療を行った患者に対して行った場合に限り算定する。

❷HPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）については、別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、細胞診によりベセスダ分類がASC-USと判定された患者又は過去に区分番号K867に掲げる子宮頸部（腟部）切除術、区分番号K867-3に掲げる子宮頸部摘出術（腟部切断術を含む。）若しくは区分番号K867-4に掲げる子宮頸部異形成上皮又は上皮内癌レーザー照射治療を行った患者に対して行った場合に限り算定する。

❸HPV核酸検出、HPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）

ア　HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）は、予め行われた細胞診の結果、ベセスダ分類上ASC-US（意義不明異型扁平上皮）と判定された患者又は過去に子宮頸部円錐切除若しくはレーザー照射治療を行った患者に対して行った場合に限り算定できる。なお、過去に子宮頸部円錐切除又はレーザー照射治療を行った患者以外の患者については、細胞診と同時に実施した場合は算定できない。

イ　HPV核酸検出とHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）を併せて実施した場合は、主たるもの１つに限り算定する。

❹HPVジェノタイプ判定

ア　HPVジェノタイプ判定は、あらかじめ行われた組織診断の結果、CIN1又はCIN2と判定された患者に対し、治療方針の決定を目的として、ハイリスク型HPVのそれぞれの有無を確認した場合に算定する。

イ　当該検査は、HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）の施設基準を届け出ている保険医療機関のみ算定できる。

ウ　当該検査を算定するに当たっては、あらかじめ行われた組織診断の実施日及び組織診断の結果、CIN1又はCIN2のいずれに該当するかを診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

エ　同一の患者について、当該検査を２回目以降行う場合は、当該検査の前回実施日を上記に併せて記載する。

＊1　細胞診を容器70（細胞診（婦人科C-R法））で行った場合のHPV検査は、採取日より4週間以内であれば、その検体で追加検査する事が可能です。

＊2　16型、18型の型別判定を行います。その他、66型を含む12種類の高リスク型HPV（31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、66および68型）に関してはいずれか（または全て）の型に感染している場合に陽性となります。どの型に感染しているかは判別できません。
細胞診を容器70（細胞診（婦人科C-R法））で行った場合のHPV検査は、採取日より4週間以内であれば、その検体で追加検査する事が可能です。

59 ヒトパピローマウイルスDNA

70 細胞診(婦人科C-R法)

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
ウイルス感染症検査	5471	HTLV-1抗体(ATLA抗体) 5F450-1430-023-051	血清0.5	1	冷蔵	3~4	159 免疫	CLIA法	(−)	検査結果が陽性の場合には、確認試験の実施を推奨します。 ※06	成人T細胞白血病 HTLV-1関連脊髄症
	3358	HTLV-1抗体(ラインブロット法(LIA法)) 5F460-0000-023-833	血清0.2	1	冷蔵(28日)	4~6	425 ❶ 免疫	ラインブロット法(LIA法)	陰性	判定基準:下記参照 測定対象は、抗HTLV-1抗体および抗HTLV-2抗体です。型別の報告ではありません。 ※02	

❶HTLV-Ⅰ抗体(ウエスタンブロット法及びラインブロット法)は、HTLV-Ⅰ抗体定性、半定量又はHTLV-Ⅰ抗体によって陽性が確認された症例について、確定診断を目的としてウエスタンブロット法又はラインブロット法により行った場合に算定する。

[3358] HTLV-1抗体/ラインブロット 判定基準

ラインが認められない		陰 性
ラインが1本認められる(≧±)	gag p19かgag p24かenv gp46のいずれかが認められる	陰 性
	env gp21が認められる	保 留
ラインが2本認められる(≧±)	env gp21が認められない	保 留
	env gp21が認められる	陽 性
ラインが3本以上認められる(≧±)		陽 性

1 プレイン容器

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
ウイルス感染症検査	3470	**HIV-抗原・抗体定量** 5F560-1550-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1～2	127 ❶❷ 免疫	CLIA法	(－) index：1.0未満		後天性免疫不全症候群(AIDS)
	2530	**HIV-抗原・抗体** 5F560-1550-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1～2	109 ❶❷ 免疫	CLIA法	(－)		
	4582	**HIV-抗原・抗体（迅速）** 5F560-1550-023-190	血清0.3	1	冷蔵	1～2	109 ❶❷ 免疫	イムノクロマト法	(－)		
	3588	**HIV-1/2抗体確認検査** 5F560-1430-023-190	血清0.3 単独検体	104	冷蔵	4～7	660 ❸ 免疫	イムノクロマト法	(－)	他項目との重複依頼は避けてください。 ※01	
	4854	**HIV-1核酸定量(HIV-1RNA定量)** 5F500-1453-022-875	血漿2.0 単独検体 開封厳禁	63	冷蔵	4～6	520 ❹ 微生物	リアルタイムPCR法	copy/mL 検出せず	結果表示：下記参照 ＊1 ※01	

❶診療録等から非加熱血液凝固因子製剤の投与歴が明らかな者及び診療録等が確認できないため血液凝固因子製剤の投与歴は不明であるが、昭和53年から昭和63年の間に入院し、かつ、次のいずれかに該当する者に対して、HIV-1抗体、HIV-1，2抗体定性、同半定量、HIV-1，2抗体定量、HIV-1，2抗原・抗体同時測定定性又はHIV-1，2抗原・抗体同時測定定量を実施した場合は、HIV感染症を疑わせる自他覚症状の有無に関わらず所定点数を算定する。
ただし、保険医療機関において採血した検体の検査を保健所に委託した場合は、算定しない。
ア　新生児出血症（新生児メレナ、ビタミンK欠乏症等）等の病気で「血が止まりにくい」との指摘を受けた者
イ　肝硬変や劇症肝炎で入院し、出血の著しかった者
ウ　食道静脈瘤の破裂、消化器系疾患により大量の吐下血があった者
エ　大量に出血するような手術を受けた者（出産時の大量出血も含む。）
なお、間質性肺炎等後天性免疫不全症候群の疾病と鑑別が難しい疾病が認められる場合やHIVの感染に関連しやすい性感染症が認められる場合、既往がある場合又は疑われる場合でHIV感染症を疑う場合は、本検査を算定できる。

❷HIV-1抗体及びHIV-1，2抗体定性、同半定量又は同定量、HIV-1，2抗原・抗体同時測定定性又は同定量
ア　「K920」輸血（自己血輸血を除く。以下この項において同じ。）を算定した患者又は血漿成分製剤（新鮮液状血漿、新鮮凍結人血漿等）の輸注を行った患者に対して、一連として行われた当該輸血又は輸注の最終日から起算して、概ね2か月後にHIV-1抗体、HIV-1，2抗体定性、同半定量、HIV-1，2抗体定量、HIV-1，2抗原・抗体同時測定定性又はHIV-1，2抗原・抗体同時測定定量の測定が行われた場合は、HIV感染症を疑わせる自他覚症状の有無に関わらず、当該輸血又は輸注につき１回に限り、所定点数を算定できる。
イ　他の保険医療機関において輸血料の算定又は血漿成分製剤の輸注を行った場合であってもアと同様とする。
ウ　ア又はイの場合においては、診療報酬明細書の摘要欄に当該輸血又は輸注が行われた最終日を記載する。

❸HIV-1特異抗体・HIV-2特異抗体は、スクリーニング検査としてのHIV-1，2抗体定性若しくは同半定量、HIV-1，2抗原・抗体同時測定定性、HIV-1抗体、HIV-1，2抗体定量又はHIV-1，2抗原・抗体同時測定定量によって陽性が確認された症例について、確定診断を目的として、全血、血清又は血漿を検体とし、イムノクロマト法により測定した場合に算定する。

❹HIV-1核酸定量
検体の超遠心による濃縮前処理を加えて行った場合は、濃縮前処理加算として、130点を所定点数に加算する。
HIV-1核酸定量は、PCR法と核酸ハイブリダイゼーション法を組み合わせた方法又はTMA法と核酸ハイブリダイゼーション法を組み合わせた方法により、HIV感染者の経過観察に用いた場合又は「D012」感染症免疫学的検査のHIV-1，2抗体定性、同半定量、HIV-1，2抗原・抗体同時測定定性、HIV-1抗体、HIV-1，2抗原・抗体同時測定定量、又はHIV-1，2抗体定量が陽性の場合の確認診断に用いた場合にのみ算定する。

＊1　汚染の影響を受けやすい検査法のため、核酸増幅法以外の検査項目との重複依頼は避けてください。

［4854］HIV-1核酸定量の結果表示

増幅反応シグナルを検出しなかった場合	検出せず
20copy/mL（定量下限値）未満で、増幅反応シグナルを検出した場合	＜20＋
測定範囲内で結果を得た場合	$20～10^7$
10^7copy/mL（定量上限値）を超えた場合	10^7以上

1 プレイン容器

63 血漿用ウイルス遺伝子検査用

104 HIV1,2抗体専用

ウイルス感染症検査

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
ウイルス感染症検査	4950	HA-IgG抗体（HA抗体） 5F350-1431-023-051	血清0.6	1	冷蔵	3～4	146 ❶ 免疫	CLIA法	(－) S/CO：1.00未満	※01	A型肝炎
	4951	HA-IgM抗体 5F350-1432-023-051	血清0.6	1	冷蔵	3～4		CLIA法	(－) S/CO：0.80未満	※01	
	4581	HBs抗原（迅速） 5F016-1410-023-190	血清0.3	1	冷蔵 (14日)	1～2	29 免疫	イムノクロマト法	(－)		B型肝炎
	3629	HBs抗原 5F016-1413-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1～2	88❷ 免疫	CLIA法	IU/mL 0.017未満	B型肝炎ウイルス(HBV)感染の診断は、本検査の結果のみで行わず、HBc抗体測定や、HBV-DNA検査など、他の検査結果および臨床経過を考慮して総合的にご判断ください。	
	2292	HBs抗体 5F016-1430-023-051	血清0.5	1	冷蔵 (14日)	1～2	88❷ 免疫	CLIA法	mIU/mL 10.0未満☆	☆WHOの勧告ではB型肝炎ウイルス感染防御能を持つHBs抗体濃度は10mIU/mL以上とされています。	
	3294	HBe抗原 5F019-1410-023-052	血清0.5	1	冷蔵	3～5	98 免疫	CLEIA法	C.O.I.：1.0未満	※02	
	3295	HBe抗体 5F019-1430-023-052	血清0.7	1	冷蔵	3～5	98 免疫	CLEIA法	% INH：60未満	※02	
	3611	HBc抗体 5F018-1430-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1～2	130 ❷❸ 免疫	CLIA法	S/CO：1.00未満	10以上の時は高力価	
	5171	IgM-HBc抗体 5F018-1432-023-051	血清0.5	1	冷蔵	2～4	146 ❸ 免疫	CLIA法	S/CO：1.0未満	※01	
	3623	B型肝炎ウイルスコア関連抗原（HBcrAg） 5F020-1410-023-052	血清0.5	1	冷蔵	3～6	252 ❹ 免疫	CLEIA法	LogU/mL 2.1未満	※02	
	3316	HBV核酸定量（IU）(HBV-DNA定量) 5F015-1441-023-862	血清2.0 単独検体 開封厳禁	66	(分離後) 凍結	4～6	256 ❹❺ 微生物	リアルタイムPCR法	LogIU/mL 検出せず	結果表示：下記参照 汚染の影響を受けやすい検査法のため、核酸増幅法以外の検査項目との重複依頼は避けてください。 ※01	
	4952	HBVゲノタイプ 5F015-1405-023-023	血清0.6	1	冷蔵	3～5	340 ❻ 免疫	EIA法		HBs抗原量の少ない検体は判定保留となる場合があります。 ※02	

❶HA抗体とHA-IgM抗体を同時に測定した場合は、一方の所定点数のみを算定する。
❷免疫抑制剤の投与や化学療法を行う患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、当該治療開始前にHBs抗原、HBs抗体及びHBc抗体半定量・定量を同時に測定した場合は、患者１人につきそれぞれ１回に限り算定できる。
❸HBc抗体半定量・定量とHBc-IgM抗体を同時に測定した場合は、一方の所定点数を算定する。
❹HBVコア関連抗原（HBcrAg）は、HBV感染の診断の補助及び治療効果の判定の目的で、血清又は血漿中のHBVコア関連抗原（HBcrAg）を測定した場合に１月に１回に限り算定する。なお、「D023」微生物核酸同定・定量検査のHBV核酸定量を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。
❺HBV核酸定量は、分岐DNAプローブ法、TMA法又はPCR法による。また、B型肝炎ウイルス既感染者であって、免疫抑制剤の投与や化学療法を行っている悪性リンパ腫等の患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、HBV核酸定量を行った場合は、当該治療中及び治療終了後１年以内に限り、月１回を限度として算定できる。
❻HBVジェノタイプ判定は、B型肝炎の診断が確定した患者に対して、B型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。

[3316] HBV核酸定量（IU）の結果表示

増幅反応シグナルを検出しなかった場合	検出せず
1.0L.IU/mL（定量下限値）未満で、増幅反応シグナルを検出した場合	<1.0+
測定範囲内で結果を得た場合	1.0～9.0
9.1L.IU/mL（定量上限値）を超えた場合	9.1以上

1 プレイン容器

66 ウイルス遺伝子検査用

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
ウイルス感染症検査	4623	HCV抗原（コア蛋白質） 5F360-1500-023-051	血清0.5	1	冷蔵	3~4	102 免疫	CLIA法	fmol/L 3.0未満	本検査が“定量下限未満”でも直ちにウイルスの存在は否定できません。※06	C型肝炎
	4842	HCV核酸定量（HCV-RNA定量） 5F360-1453-023-875	血清2.0 単独検体 開封厳禁	66	(分離後)凍結	4~5	412 ❶ 微生物	リアルタイムPCR法	Log IU/mL 検出せず	結果表示：下記参照 汚染の影響を受けやすい検査法の為、核酸増幅法以外の検査項目との重複依頼は避けてください。※01	
	1430	HCV抗体 5F360-1480-023-051	血清0.3	1	冷蔵	1~2	102 免疫	CLIA法	(−) S/CO：1.0未満	スクリーニング検査としてご利用ください。 C型肝炎ウイルス(HCV)感染の診断は、本検査の結果のみで行わず、HCV-RNA測定等、他の検査結果及び臨床経過を考慮して総合的にご判断ください。	
	2320	HCV-3抗体（迅速） 5F360-1480-023-190	血清0.3	1	冷蔵	1~2		イムノクロマト法	(−)		
	5230	HCV特異抗体群別判定（グルーピング） 5F360-1406-023-052	血清0.6	1	冷蔵	3~4	215 ❷ 免疫	CLEIA法		判定基準：下記参照 ※01	
	2183	HCV RNA コアジェノタイプ 5F360-1405-023-867	血清0.5 単独検体	66	(分離後)凍結(3ヵ月)	4~6		RT-PCR法	検出せず	＊1 ※02	

❶HCV核酸定量
ア　HCV核酸定量は、分岐DNAプローブ法、PCR法又はTMA法と核酸ハイブリダイゼーション法を組み合わせた方法により、急性C型肝炎の診断、C型肝炎の治療法の選択及び治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できる。
イ　治療経過の観察の場合において、HCV核酸検出及びHCV核酸定量を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❷HCV血清群別判定は、EIA法により、C型肝炎の診断が確定した患者に対して、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。

＊1　他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。指定の採取量を容器に採取後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて30～60分放置してください。凝固完了を確認後、遠心分離しそのまま凍結してご提出ください。

[4842] HCV核酸定量の結果表示

増幅反応シグナルを検出しなかった場合	検出せず
1.2Log IU/mL（定量下限値）未満で、増幅反応シグナルを検出した場合	<1.2+
測定範囲内で結果を得た場合	1.2~8.0
8.1Log IU/mL（定量上限値）を超えた場合	8.1以上

[5230] HCV特異抗体群別判定 判定基準

一方のグループの抗体が陽性で、他方のグループが陰性の場合	GROUP1又はGROUP2
どちらのグループも陽性で抗体価が他方のグループの抗体価の2倍以上を示した場合、高い抗体価のグループを報告します	
どちらのグループも陽性で抗体価の比較が2倍以上とならない場合で、どちらのグループか判定できない場合	判定保留（ホリュウ）
どちらのグループの抗体も陰性の場合	判定不能（不検出）

1 プレイン容器

66 ウイルス遺伝子検査用

ウイルス抗体検査の使い分け

＜抗体検査法＞

検査方法	原　理	特　徴
補体結合反応（CF）	抗原抗体複合体と結合した補体を感作血球の不溶血を指標として間接的に証明します。	★群特異性が高い ★比較的早期に抗体消失 ★感染スクリーニング用
赤血球凝集抑制反応（HI）	赤血球凝集能をもつウイルスの場合、その凝集を抑制する抗体を証明します。	★型特異性が高い ★早期に抗体が上昇、持続する
蛍光抗体法（FA）	感染細胞中のウイルス抗原と抗体との反応を蛍光標識抗体で証明します。	★抗体分画が可能
中和反応（NT）	活性ウイルスを抗体により中和させ、感染防御抗体を証明します。	★型特異性が高い
酵素免疫法（EIA）	固相化したウイルス抗原と抗体を反応させ、酵素標識抗体との反応により証明します。	★抗体分画が可能 ★定量的データ ★他法に比して高感度
受身（粒子）凝集反応（PA）	固相化ゼラチン粒子にウイルスを吸着させ、これに抗体を反応させ、凝集の有無により証明します。	★高感度
化学発光免疫測定法（CLIA）	検体中の抗体と磁性粒子に固相した抗原および化学発光物質で標識した抗原を反応させ、この発光強度を測定することにより、抗体の有無あるいは量を測定する方法です。	★特異性が高い ★高感度

＜検出抗体の性質＞

性質／抗体	動　態	抗ウイルス抗体活性	補体結合能	胎盤移行性
IgM	早期に産生されるが短期間で消失	＋	＋	－
IgG	IgMに遅れて出現。漸減しながら長期間持続	＋	＋	＋
IgA	IgMより多少遅れて出現するがIgMより長時間検出可能	＋	－	－

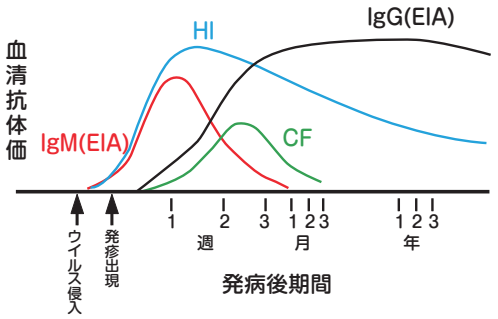
＜抗体価の解釈とペア血清検査の意義＞

■ウイルス血清抗体価に正常値という概念はありません。ウイルス感染後に産生される抗体の検出は、過去にそのウイルスに感染したことを回顧的に示すだけで、現在の状態を必ずしも反映してはいません。

■ウイルス血清抗体価は感染の直後に高く、以後下降するパターンを示しますが、単一の血清の抗体価の高低だけで近い過去に感染があったかどうかの判定は出来ない場合が多いといえます。

■ウイルス感染後の抗体応答パターン、各検査法の特徴、検査意義を理解し、目的に応じた検査法を選択する必要があります。

■急性期（発病後早期）と回復期（発病後14～21日）のペア血清の抗体価が4倍以上上昇した場合有意と判断しそのウイルスの感染を推定します。ただし、治療にγグロブリンを投与した場合の抗体価の上昇は、必ずしも有意とは考えられません。



＜目的別検査法選択の目安＞

検査法の特徴により目的に合った検査の選択が必要です。自然感染では感染初期に応答するIgM抗体の検出やペア血清による抗体上昇をみることが有用です。また既往の有無やワクチンの効果判定にはEIAによるIgG抗体の検査が有用です。

	自然感染	既往の有無	ワクチン効果判定
麻疹	NT,EIA(IgM)(IgG)	NT,EIA(IgG)	NT,EIA(IgG)
風疹	HI,EIA(IgM)(IgG)	HI,EIA(IgG)	HI,EIA(IgG)
ムンプス	CF,HI,NT,EIA(IgM)(IgG)	EIA(IgG)	NT,EIA(IgG)
水痘	CF,EIA(IgM)(IgG)	EIA(IgG)	EIA(IgG)
日本脳炎	CF,HI		HI
インフルエンザ	CF,HI		HI

＜依頼方法および結果解釈＞

測定値は病状との関連で変動しますので、必ず急性期（発病後早期）および回復期（発病後２～３週間）の血清をペアで依頼してください。

なお、急性期と回復期を同時に測定し抗体価が４倍（２管差）以上の上昇が見られる場合は血清学的に有意とみなします。

ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）

同一検体についてウイルス抗体価（定性・半定量・定量）の測定を行った場合は、8項目を限度として算定する。

ア　ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）は、治療上必要な場合に行うものとし、次に掲げるものを当該検査の対象とする。
（イ）アデノウイルス　（ロ）コクサッキーウイルス　（ハ）サイトメガロウイルス　（ニ）EBウイルス　（ホ）エコーウイルス　（ヘ）ヘルペスウイルス
（ト）インフルエンザウイルスＡ型　（チ）インフルエンザウイルスＢ型　（リ）ムンプスウイルス　（ヌ）パラインフルエンザウイルスⅠ型
（ル）パラインフルエンザウイルスⅡ型　（ヲ）パラインフルエンザウイルスⅢ型　（ワ）ポリオウイルスⅠ型　（カ）ポリオウイルスⅡ型　（ヨ）ポリオウイルスⅢ型
（タ）RSウイルス　（レ）風疹ウイルス　（ソ）麻疹ウイルス　（ツ）日本脳炎ウイルス　（ネ）オーム病クラミジア　（ナ）水痘・帯状疱疹ウイルス

イ　ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）に当たって、同一検体について同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても、所定点数のみを算定する。

グロブリンクラス別ウイルス抗体価

同一検体について、グロブリンクラス別ウイルス抗体価の測定を行った場合は、２項目を限度として算定する。

ア　グロブリンクラス別ウイルス抗体価は、下記の項目のウイルスのIgG型ウイルス抗体価又はIgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。ただし、（ト）のヒトパルボウイルスＢ19は、紅斑が出現している15歳以上の成人について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。
（イ）ヘルペスウイルス　（ロ）風疹ウイルス　（ハ）サイトメガロウイルス　（ニ）EBウイルス　（ホ）麻疹ウイルス　（ヘ）ムンプスウイルス
（ト）ヒトパルボウイルスＢ19　（チ）水痘・帯状疱疹ウイルス

イ　同一ウイルスについてIgG型ウイルス抗体価及びIgM型ウイルス抗体価を測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。

ウ　ウイルス抗体価（定性・半定量・定量）と併せて測定した場合にあっては、いずれか一方の点数を算定する。

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
視床下部・下垂体関連検査	2228	甲状腺刺激ホルモン(TSH) 4A056-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1～2	98 生Ⅱ	CLIA法	mIU/L 0.61～4.23		原発性甲状腺機能亢進症(バセドウ病) 原発性甲状腺機能低下症(橋本病)
	2101	成長ホルモン(GH) 4A010-0000-023-053	血清0.3	1	冷蔵	3～4	105 生Ⅱ	ECLIA法	ng/mL M：2.47以下 F：0.13～9.88 (負荷前安静時)	＊1 ※06	先端巨大症 巨人症 下垂体腫瘍 下垂体機能低下症 GH分泌不全性低身長症
	5480	ソマトメジンC(IGF-1) 4A015-0000-023-053	血清0.5	1	(分離後)凍結	3～4	212 生Ⅱ	ECLIA法	次頁参照	＊1 ※01	先端巨大症 下垂体性巨人症 下垂体機能低下症 GH分泌不全性低身長症
	2542	黄体形成ホルモン(LH) 4A030-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1～2	105 生Ⅱ	CLIA法	次頁参照	性別を明記してください。	無月経症 多嚢胞性卵巣症候群 ターナー症候群 クラインフェルター症候群 下垂体機能低下症 更年期症候群 不妊症
	2543	卵胞刺激ホルモン(FSH) 4A035-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1～2	105 生Ⅱ	CLIA法	次頁参照	性別を明記してください。	
	2131	副腎皮質刺激ホルモン(ACTH) 4A025-0000-022-053	血漿0.5 速やかに冷却遠心	13	(分離後)凍結(21日)	3～5	184 生Ⅱ	ECLIA法	pg/mL 7.2～63.3 (午前7時～10時)	＊2 ※02	アジソン病 クッシング症候群 異所性ACTH産生腫瘍
	2544	プロラクチン(PRL) 4A020-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1～2	98 生Ⅱ	CLIA法	次頁参照		下垂体腫瘍 下垂体機能低下症 高プロラクチン血症 甲状腺機能低下症
	3228	抗利尿ホルモン(AVP) 4A070-0000-023-001	血漿1.5 速やかに冷却遠心	13	(分離後)凍結	6～8	224 生Ⅱ	RIA 2抗体法	pg/mL 2.8以下 (水制限の場合4.0以下)	溶血でのご依頼は避けてください。 ※02	腎性尿崩症 中枢性尿崩症 下垂体機能低下症 心因性多飲症 異所性ADH産生腫瘍

＊1　ビオチンを1日5mg以上投与・摂取している患者からの採血は投与後少なくとも8時間以上経過してから実施してください。
＊2　ACTHはEDTA濃度増加により測定値が低下するため、容器の指定容量を採取してください。早朝安静時に指定の容器に採血し、よく混和させ、低温（4℃）で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
ACTH基準値は、午前7時～10時に採血した場合の基準値となります。

1 プレイン容器

13 EDTA-2Na入り

[5480] ソマトメジンC（IGF-1）基準値

【 男性 】

単位：ng/mL

年齢	−2SD～+2SD	年齢	−2SD～+2SD	年齢	−2SD～+2SD
0	11～149	26	119～329	52	86～242
1	14～148	27	116～322	53	85～240
2	18～154	28	114～315	54	84～239
3	24～164	29	111～309	55	84～238
4	32～176	30	109～303	56	83～237
5	44～193	31	107～297	57	82～236
6	55～215	32	105～292	58	81～235
7	63～247	33	103～287	59	80～233
8	72～292	34	102～283	60	79～232
9	84～350	35	100～279	61	77～230
10	99～423	36	99～275	62	76～228
11	113～499	37	97～272	63	75～226
12	125～557	38	96～269	64	73～224
13	133～579	39	95～266	65	72～221
14	138～570	40	94～263	66	70～219
15	141～552	41	94～261	67	68～216
16	142～543	42	93～259	68	66～213
17	142～540	43	92～257	69	65～209
18	142～526	44	92～255	70	63～206
19	143～501	45	91～253	71	61～202
20	142～470	46	90～250	72	58～198
21	139～436	47	90～250	73	56～194
22	135～405	48	89～248	74	54～190
23	131～379	49	88～246	75	52～185
24	128～356	50	87～245	76	50～181
25	125～337	51	87～243	77	48～177

【 女性 】

単位：ng/mL

年齢	−2SD～+2SD	年齢	−2SD～+2SD	年齢	−2SD～+2SD
0	15～154	26	146～336	52	78～213
1	23～186	27	141～328	53	77～212
2	32～213	28	137～320	54	76～211
3	40～227	29	133～312	55	75～210
4	48～238	30	129～304	56	74～208
5	56～252	31	126～297	57	73～207
6	69～287	32	122～290	58	72～205
7	89～357	33	119～283	59	71～203
8	111～438	34	115～277	60	70～201
9	133～517	35	112～271	61	69～198
10	155～588	36	109～265	62	68～196
11	175～638	37	106～260	63	66～194
12	188～654	38	103～254	64	65～191
13	193～643	39	100～250	65	64～188
14	193～625	40	98～245	66	62～186
15	192～614	41	95～240	67	61～183
16	192～611	42	93～236	68	60～180
17	191～599	43	90～233	69	59～177
18	188～574	44	88～229	70	57～175
19	182～539	45	87～226	71	56～172
20	175～499	46	85～224	72	55～170
21	168～459	47	83～221	73	54～167
22	161～425	48	82～219	74	53～165
23	155～397	49	81～218	75	52～163
24	151～375	50	80～216	76	50～160
25	147～358	51	79～215	77	49～158

[2544] プロラクチン（PRL）基準値

単位：ng/mL

非妊娠女性	卵胞期	4.6～26.8
	排卵期	6.0～40.9
	黄体期	1.2～33.6
有経女性		3.5～32.7
閉経女性		0.6～18.5
男性		3.7～16.3

[2542] 黄体形成ホルモン（LH）基準値

単位：mIU/mL

非妊娠女性	卵胞期	1.2～13.3
	排卵期	1.3～55.7
	黄体期	0.5～16.5
閉経女性		13.3～61.6
男性		0.1～8.7

[2543] 卵胞刺激ホルモン（FSH）基準値

単位：mIU/mL

非妊娠女性	卵胞期	2.2～11.5
	排卵期	2.1～18.6
	黄体期	1.1～10.6
閉経女性		10.5～142.8
男性		<0.3～13.8

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
甲状腺関連検査	3284	トリヨードサイロニン(T3) 4B010-0000-023-053	血清0.5	1	冷蔵	2~4	99 生Ⅱ	ECLIA法	ng/dL 80~160	ビオチンを投与している患者(1日の投与量5mg以上)からの採血は、投与後、少なくとも8時間以上経過してから実施してください。 ※01	甲状腺機能亢進症(バセドウ病) 甲状腺機能低下症(橋本病) 亜急性甲状腺炎
	2545	遊離トリヨードサイロニン(Free T3) 4B015-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1~2	121 生Ⅱ	CLIA法	pg/mL 2.1~4.0		
	3283	サイロキシン(T4) 4B030-0000-023-053	血清0.5	1	冷蔵	2~4	105 生Ⅱ	ECLIA法	μg/dL 6.1~12.4	ビオチンを投与している患者(1日の投与量5mg以上)からの採血は、投与後、少なくとも8時間以上経過してから実施してください。 ※01	
	2541	遊離サイロキシン(Free T4) 4B035-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1~2	121 生Ⅱ	CLIA法	ng/dL 0.8~1.8		
	2228	甲状腺刺激ホルモン(TSH) 4A056-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1~2	98 生Ⅱ	CLIA法	mIU/L 0.61~4.23		原発性甲状腺機能亢進症(バセドウ病) 原発性甲状腺機能低下症(橋本病)
	3480	TBG定量(サイロキシン結合グロブリン) 4B045-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵	3~5	130 生Ⅱ	CLEIA法	μg/mL 14.0~31.0	※02	TBG異常症
	3531	サイログロブリン 4B040-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵(23日)	3~5	128 生Ⅱ	CLEIA法	ng/mL 35.10以下	※02	甲状腺癌 甲状腺腫 無痛性甲状腺炎
	3530	抗サイログロブリン抗体(抗Tg抗体) 5G290-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵(21日)	3~5	136 免疫	CLEIA法	IU/mL 19.3未満	※02	バセドウ病 橋本病 甲状腺機能低下症 慢性甲状腺炎
	3532	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体) 5G285-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵(21日)	3~5	138 免疫	CLEIA法	IU/mL 3.3未満	※02	
	5295	TSHレセプター抗体(TRAb)(第2世代) 5G310-0000-023-811	血清0.4	1	冷蔵	3~6	214 ❶ 免疫	RRA法	IU/L 1.0未満	＊1 ※02	バセドウ病 甲状腺機能低下症 甲状腺機能亢進症
	3533	TSHレセプター抗体(TRAb)(第3世代) 5G310-0000-023-052	血清0.8	1	冷蔵(21日)	3~5		CLEIA法	IU/L 2.0未満	＊2 ※02	
	3624	甲状腺刺激抗体(TSAb) 5G300-0000-023-905	血清0.3	1	冷蔵(21日)	3~5	330 ❶ 免疫	Bioassay法	% 110未満	溶血により低値傾向があるため、溶血検体は避けてください。 ※02	バセドウ病 甲状腺機能亢進症

❶抗TSHレセプター抗体(TRAb)及び甲状腺刺激抗体(TSAb)を同時に行った場合は、いずれか一方のみ算定する。

＊1　ヒト型レセプターを使用しています。固相法の第2世代TRAbです。
基準値については少数の健常人において、1.0 IU/Lを超える結果を示すことがあるため、欧米では1.0~1.5 IU/Lをグレーゾーンと設定することを推奨しています。

＊2　TSHレセプターのTSH結合部位を認識するM22抗体(抗TSHレセプターモノクローナル抗体(ヒト))を用いた第3世代TRAbです。

1 プレイン容器

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
副甲状腺・骨代謝関連検査	1283	PTH(副甲状腺ホルモン)-インタクト 4C025-0000-023-053	血清0.5	1	(分離後)凍結	3~4	161 生Ⅱ	ECLIA法	pg/mL 10~65	＊1 ※01	副甲状腺機能亢進症 副甲状腺機能低下症 ビタミンD過剰症 ビタミンD欠乏症
	4838	ホールPTH(副甲状腺ホルモン) 4C026-0000-022-052	血漿0.5	13	冷蔵(14日)	3~5		CLEIA法	pg/mL 8.3~38.7	※02	
	4690	副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP) 4C030-0000-022-006	血漿0.5 冷却遠心	16	(分離後)凍結(7日)	6~8	186 ❶ 生Ⅱ	RIA固相法(IRMA)	pmol/L 1.1以下	※02	高カルシウム血症
	3260	カルシトニン(CT) 4C035-0000-023-053	血清0.3	1	(分離後)凍結(24ヵ月)	3~4	130 生Ⅱ	ECLIA法	(空腹時) pg/mL M：5.15以下 F：3.91以下	※06	肺癌 甲状腺髄様癌
	2181	1,25-(OH)$_2$ビタミンD 3G070-0000-023-001	血清0.6	1	冷蔵	4~8	388 ❷ 生Ⅰ	RIA 2抗体法	pg/mL 成人：20.0~60.0 小人：20.0~70.0	※02	副甲状腺機能低下症 慢性腎不全
	3432	25-OHビタミンD 3G065-0000-023-051	血清0.6	1	冷蔵	3~5	117 ❸ 生Ⅰ	CLIA法	ng/mL	判定の目安については下欄「ビタミンD不足・欠乏の判定指針」をご参照ください。 ※01	ビタミンD欠乏性くる病 ビタミンD欠乏性骨軟化症 骨粗鬆症
	3448	25-OHビタミンD/ECLIA 3G065-0000-023-053	血清0.5	1	冷蔵	3~5		ECLIA法	ng/mL		
	5049	total-P1NP(1型プロコラーゲン-N-プロペプチド) 5C120-0000-023-053	血清0.3	1	冷蔵	3~4	160 ❹ 生Ⅱ	ECLIA法	下記参照	溶血は低値の影響があります。 ＊1 ※01	骨粗鬆症
	4944	低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC) 4Z282-0000-023-053	血清0.3	1	(分離後)凍結	4~7	154 ❺ 生Ⅱ	ECLIA法	ng/mL 4.50未満	溶血は低値の影響があります。 ※01	骨粗鬆症

❶副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント（C-PTHrP）又は副甲状腺ホルモン関連蛋白（PTHrP）は、高カルシウム血症の鑑別並びに悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症に対する治療効果の判定のために測定した場合に限り算定する。

❷1,25-ジヒドロキシビタミンD_3は、ラジオレセプターアッセイ法、RIA法又はELISA法により、慢性腎不全、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存症Ⅰ型若しくは低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時又はそれらの疾患に対する活性型ビタミンD_3剤による治療中に測定した場合に限り算定できる。ただし、活性型ビタミンD_3剤による治療開始後１月以内においては2回を限度とし、その後は３月に１回を限度として算定する。

❸25-ヒドロキシビタミンD

ア　25-ヒドロキシビタミンDは、原発性骨粗鬆症の患者に対して、ECLIA法、CLIA法又はCLEIA法により測定した場合は、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に１回に限り算定できる。なお、本検査を実施する場合は関連学会が定める実施方針を遵守すること。

イ　25-ヒドロキシビタミンDは、ビタミンD欠乏性くる病若しくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中にECLIA法、CLIA法又はCLEIA法により測定した場合は、診断時においては１回を限度とし、その後は３月に１回を限度として算定できる。

❹骨型アルカリホスファターゼ（BAP）、Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（PⅠNP）、インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（IntactPⅠNP）及びALPアイソザイム（PAG電気泳動法）のうち２項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

❺低カルボキシル化オステオカルシン（ucOC）は、骨粗鬆症におけるビタミンK_2剤の治療選択目的で行った場合又は治療経過観察を行った場合に算定できる。ただし、治療開始前においては１回、その後は６月以内に１回に限り算定できる。

＊1　ビオチンを投与している患者（1日の投与量5mg以上）からの採血は、投与後、少なくとも8時間以上経過してから実施してください。

[3432・3448] 25-OHビタミンD　ビタミンD不足・欠乏の判定指針

ビタミンD充足状態	30.0ng/mL以上
ビタミンD不足	20.0ng/mL以上、30.0ng/mL未満
ビタミンD欠乏	20.0ng/mL未満

[5049] total-P1NP 基準値

単位：ng/mL

男性（30~83才）	18.1~74.1
女性（閉経前30~44才）	16.8~70.1
女性（閉経後45~79才）	26.4~98.2

1 プレイン容器

13 EDTA-2Na入り

16 EDTA-2Na+ アプロチニン(トラジロール)

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
副甲状腺・骨代謝関連検査	3247	オステオカルシン(BGP；OC) 4Z280-0000-023-053	血清0.5	1	(分離後)凍結(1ヵ月)	3~4	157 ❶❸❹ 生Ⅱ	ECLIA法	ng/mL M : 8.4~33.1 F(閉経前) : 7.8~30.8 F(閉経後) : 14.2~54.8	＊1 ※01	副甲状腺機能亢進症 副甲状腺腺腫 副甲状腺過形成
	4580	NTX(1型コラーゲン架橋N-テロペプチド) 5C123-0000-001-052	尿2.0	2	冷蔵	3~5	156 ❷❸❹❺ 生Ⅱ	CLEIA法	下記参照	早朝第二尿をご提出ください。 ※01	原発性副甲状腺機能亢進症 骨粗鬆症 骨転移 (乳癌、肺癌、前立腺癌)
	4579	尿DPD(尿中デオキシピリジノリン) 5C146-0000-001-021	尿2.0	2	冷蔵	4~6	191 ❷❸❹❺ 生Ⅱ	EIA法	下記参照	早朝第二尿をご提出ください。 ※01	
	4564	BAP(骨型アルカリホスファターゼ) 3B072-0000-023-052	血清0.3	1	冷蔵	3~5	157 ❻ 生Ⅱ	CLEIA法	μg/L M : 3.7~20.9 F(閉経前) : 2.9~14.5 F(閉経後) : 3.8~22.6	※33	骨粗鬆症 癌の骨転移 副甲状腺機能亢進症

❶オステオカルシン（OC）は、続発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定及び原発性又は続発性の副甲状腺機能亢進症による副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術後の治療効果判定に際して実施した場合に限り算定できる。

❷Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX）及びデオキシピリジノリン（DPD）（尿）は、原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定する。なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に１回、その後６月以内の薬剤効果判定時に１回に限り、また薬剤治療方針を変更したときは変更後６月以内に１回に限り算定できる。

❸Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX）、オステオカルシン（OC）又はデオキシピリジノリン（DPD）(尿)を併せて実施した場合は、いずれか１つのみ算定する。

❹酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）とⅠ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX)、オステオカルシン（OC）又はデオキシピリジノリン（DPD）（尿）を併せて実施した場合は、いずれか１つのみ算定する。

❺Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド（ⅠCTP)、Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTX）又はデオキシピリジノリン（DPD）（尿）は、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。

❻骨型アルカリフォスファターゼ（BAP)、Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（ＰⅠNP)、インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（IntactＰⅠNP）及びALPアイソザイム（PAG電気泳動法）のうち２項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

＊1　溶血は低値の影響があります。ビオチンを投与している患者（1日の投与量5mg以上）からの採血は、投与後、少なくとも8時間以上経過してから実施してください。

[4580] NTX 基準値

単位：nmol BCE/mmol Cr

男性	13.0~66.2
閉経前女性	9.3~54.3
閉経後女性	14.3~89.0

単位：nmol BCE/mmol Cr

判定基準	
骨吸収亢進の指標	55以上
悪性腫瘍（乳癌、肺癌、前立腺癌）の骨転移の指標	100以上
副甲状腺摘出術の適応	200以上

単位：nmol BCE/mmol Cr

骨粗鬆症薬剤治療の指標	
骨折高リスクの指標	54.3超
骨量減少高リスクの指標	35.3以上

※BCEは骨コラーゲン相当量（Bone Collagen Equivalents）の単位

[4579] 尿DPD 基準値

単位：nmol /mmol・CRE

	基準値
男　性	2.1~5.4
女　性	2.8~7.6

骨粗鬆症薬剤治療の指標	
骨折高リスクの指標	7.6超
骨量減少高リスクの指標	5.9以上

骨代謝マーカー	検査項目	代表的な疾患
骨吸収マーカー	ＤＰＤ（デオキシピリジノリン）	骨粗鬆症、骨転移、副甲状腺機能亢進症
	ＮＴＸ（Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド）	
	ＴＲＡＣＰ-5ｂ（酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ）	骨粗鬆症、骨転移
骨形成マーカー	ＢＡＰ（骨型アルカリホスファターゼ）	骨粗鬆症、骨転移、副甲状腺機能亢進症
	Total-P1NP（1型コラーゲン-N-プロペプチド）	骨粗鬆症
	ＯＣ（オステオカルシン）	副甲状腺機能亢進症
骨マトリックス関連マーカー	ucOC（低カルボキシル化オステオカルシン）	骨粗鬆症

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
副腎髄質関連検査	5115	尿カテコールアミン 4E010-0000-004-204	酸性蓄尿 2.0	35	冷蔵(28日)	4~6	184 生Ⅱ	HPLC法	μg/day 52.0~195.3	＊1 ※02	
	2173	カテコールアミン3分画 (A:アドレナリン NA:ノルアドレナリン DA:ドーパミン) 血漿 4E016-0000-022-204 髄液 4E016-0000-041-204 蓄尿 4E016-0000-004-204	血漿1.5 速やかに冷却遠心	13	(分離後)凍結(1ヵ月)	4~6	161 生Ⅱ	HPLC法	pg/mL A : 100以下 NA : 100~450 DA : 20以下	※02	
	4715		髄液1.5	2	凍結	4~6		HPLC法	pg/mL	※02	
	2174		酸性蓄尿 2.0	35	冷蔵(28日)	4~6		HPLC法	μg/day A : 3.4~26.9 NA : 48.6~168.4 DA : 365.0~961.5	＊1 ※02	褐色細胞腫 神経芽細胞腫
	2178	ドーパミン総 血漿 4E050-0000-022-204 髄液 4E050-0000-041-204	血漿1.5 速やかに冷却遠心	13	(分離後)凍結	6~12		HPLC法	ng/mL 1.8~7.7	※02	
			髄液1.5	2	凍結	6~12		HPLC法	ng/mL	※02	
	5381	L-ドーパ 4E045-0000-022-204	血漿1.5 速やかに冷却遠心	13	(分離後)凍結	6~19		HPLC法	ng/mL 1.2~2.2	※02	神経芽細胞腫 褐色細胞腫 悪性黒色腫 Parkinson症候群

＊1　所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。
酸性蓄尿されていないものはデータに影響がみられますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。

2 滅菌スピッツ

13 EDTA-2Na入り

35 遮光用尿容器

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
副腎髄質関連検査	5447	VMA(バニリルマンデル酸) 4E060-0000-022-204 4E060-0000-004-204	血漿1.5	13	冷蔵(21日)	5~7	90 生Ⅱ	HPLC法	ng/mL 3.3~8.6	※02	褐色細胞腫 神経芽細胞腫
	0521		酸性蓄尿1.5	35	冷蔵(28日)	4~6		HPLC法	mg/day 1.5~4.3	＊1 ※02	
	2179	HVA(ホモバニリン酸) 4E055-0000-022-204 4E055-0000-041-204 4E055-0000-004-204	血漿1.5	13	冷蔵(21日)	5~7	69 生Ⅱ	HPLC法	ng/mL 4.4~15.1	※02	褐色細胞腫 神経芽細胞腫
	5118		髄液1.5	2	冷蔵(21日)	5~7		HPLC法	ng/mL	※02	
	2180		酸性蓄尿1.5	35	冷蔵(28日)	4~6		HPLC法	mg/day 2.1~6.3	＊1 ※02	
	3380	尿メタネフリン2分画 (MN:メタネフリン NMN:ノルメタネフリン) 4E040-0000-004-205	酸性蓄尿2.0	2	冷蔵(28日)	4~6	220❶ 生Ⅱ	LC-MS/MS法	mg/day MN :0.04~0.19 NMN :0.09~0.33	＊1 ＊2 ※02	褐色細胞腫 神経芽細胞腫
	1259	5-HIAA(5-ハイドロキシインドール酢酸) 4E070-0000-022-204 4E070-0000-004-204	血漿1.5	13	冷蔵(25日)	5~7	95 生Ⅱ	HPLC法	ng/mL 1.8~6.1	※02	カルチノイド症候群
	2188		酸性蓄尿0.5	35	冷蔵(28日)	4~6		HPLC法	mg/day 1.0~6.0	＊1 ※02	

❶メタネフリン、メタネフリン・ノルメタネフリン分画、ノルメタネフリン又は遊離メタネフリン・遊離ノルメタネフリン分画のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

＊1　所定用量の専用蓄尿添加剤を入れた蓄尿瓶に尿を24時間蓄尿し、よく混和後必要量をご提出ください。
酸性蓄尿されていないものはデータに影響がみられますので、必ず専用蓄尿添加剤を入れてください。
＊2　メタネフリン総（mg/day）も報告いたします。

2 滅菌スピッツ

13 EDTA-2Na入り

35 遮光用尿容器

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
副腎皮質関連検査	2166	DHEA-S(デヒドロエピアンドロステロンサルフェート) 4D090-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵	3~5	164 生Ⅱ	CLEIA法	下記参照	性別、年齢を明記してください。 ※02	クッシング症候群 異所性ACTH産生腫瘍 先天性副腎過形成 アジソン病
	2160	11-OHCS(11-ヒドロキシコルチコステロイド) 4D035-0000-023-282	血清0.5	1	冷蔵	3~9	60 生Ⅱ	蛍光法(De Moor変法)	μg/dL 7.0~23.0 (午前10時採血)	※02	クッシング症候群 クッシング病 異所性ACTH産生腫瘍 アジソン病
	2147	コルチゾール 4D040-0000-023-051 4D040-0000-004-051	血清0.2	1	冷蔵	1~2	121 生Ⅱ	CLIA法	下記参照		クッシング症候群 異所性ACTH産生腫瘍 アジソン病 副腎皮質過形成症
	1321		蓄尿5.0	35	冷蔵	1~2		CLIA法	μg/day 4.3~176.0	一日尿量記入	
	3514	アルドステロン 4D115-0000-022-052 4D115-0000-023-052 4D115-0000-004-052	血漿0.5	13	(分離後)凍結(21日)	3~5	122 生Ⅱ	CLEIA法	pg/mL 4.0~82.1	採血は座位で15分間安静後、午前を推奨いたします。 ※02	原発性アルドステロン症 特発性アルドステロン症 続発性アルドステロン症 腎血管性高血圧症 腎性高血圧症 バーター症候群
			血清0.5	1	(分離後)凍結(21日)						
	3515		蓄尿1.5	2	凍結(21日)	6~8		CLEIA法	μg/day 1.0~19.3	一日尿量記入 ＊1 ※02	

＊1　蓄尿剤として塩酸およびC-ペプチド安定化剤を使用しないでください。

[2166] DHEA-S 基準値

単位：μg/dL

年齢(歳)	男　性	女　性
18~20	24~537	51~321
21~30	85~690	18~391
31~40	106~464	23~266
41~50	70~495	19~231
51~60	38~313	8~188
61~70	24~244	12~133
71~	5~253	7~177

[2147] コルチゾール 基準値

単位：μg/dL

採取時間	午前10時以前	3.7~19.4
	午後　5時以降	2.9~17.3

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

13 EDTA-2Na入り

35 遮光用尿容器

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
性腺・胎盤関連検査	2208	エストラジオール（E2） 4F025-0000-023-051	血清0.4	1	冷蔵	1～2	167 生Ⅱ	CLIA法	下記参照	性別を明記してください。また妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。 ＊1	卵巣腫瘍 先天性副腎過形成 エストロゲン産生腫瘍 卵巣機能不全
	3540	抗ミュラー管ホルモン（AMH） 4F100-0000-023-052	血清0.5	1	冷蔵 (21日)	3～5	597 ❶ 生Ⅱ	CLEIA法	下記参照	※02	不妊症

❶抗ミュラー管ホルモン（AMH）は、不妊症の患者に対して、卵巣の機能の評価及び治療方針の決定を目的として、血清又は血漿を検体としてEIA法、CLEIA法又はECLIA法により測定した場合に、６月に１回に限り算定できる。

＊1　薬剤フルベストラントとの交差反応性がある為、真値より高くなる可能性がございます。

[2208] エストラジオール（E2） 基準値

単位：pg/mL

男　性		39.8以下
女　性	卵　胞　期	19.5～144.2
	排　卵　期	63.9～356.7
	黄　体　期	55.8～214.2
	閉　経　後	32.2以下

妊　婦	前期（ 1～16W）	135～3916
	中期（17～28W）	1710～15690
	後期（29～40W）	3720～29280

[3540] 抗ミュラー管ホルモン（AMH） 基準値

単位：ng/mL

女　性	22～25歳	0.28～8.01
	26～30歳	0.29～12.2
	31～35歳	0.07～10.0
	36～40歳	9.23以下
	41～45歳	4.48以下

1 プレイン容器

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
性腺・胎盤関連検査	1466	プロジェステロン(プロゲステロン) 4F045-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	1~2	143 生Ⅱ	CLIA法	下記参照	性別を明記してください。また妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。	先天性副腎過形成 無月経症 卵巣機能不全 排卵障害 胞状奇胎
	2206	プレグナンジオール 4F055-0000-004-203	蓄尿12	35	冷蔵(28日)	7~8	213 生Ⅱ	GC/MS法(酵素水解法)	下記参照	性別を明記してください。 ※02	先天性副腎過形成 胞状奇胎 思春期早発症 無月経症 排卵障害 副腎癌
	2207	プレグナントリオール 4F060-0000-004-203	蓄尿12	35	冷蔵(28日)	7~8	232 生Ⅱ	GC/MS法(酵素水解法)	下記参照	性別を明記してください。 ※02	
	2210	テストステロン 4F065-0000-023-053	血清0.4	1	冷蔵	2~4	119 生Ⅱ	ECLIA法	ng/mL M:1.31~8.71 F:0.11~0.47	性別を明記してください。 ＊1 ※33	ホルモン産生腫瘍 多嚢胞性卵巣症候群 先天性副腎過形成
	4773	フリーテストステロン 4F070-0000-023-005	血清0.3	1	(分離後)凍結	3~7	159 生Ⅱ	RIA固相法	下記参照	午前中に採血してください。性別、年齢を明記してください。 ※02	クラインフェルター症候群 精巣機能不全症 副腎癌

＊1　負荷試験の場合は、検査依頼書に負荷時間を明記してください。

[1466] プロジェステロン 基準値

単位：ng/mL

非妊婦	卵胞期	1.2以下
	排卵期	0.3~10.4
	黄体期	1.4~20.6
閉経女性		0.9以下
男性		0.9以下
妊婦	第一期	11.22~90.00
	第二期	25.55~89.40
	第三期	48.40~422.50

[2207] プレグナントリオール 基準値

単位：mg/day

女性	卵胞期	0.13~1.30
	分泌期	0.13~1.90
	閉経期	0.02~0.83
男性		0.13~1.60

[2206] プレグナンジオール 基準値

単位：mg/day

男性		0.16~0.79
非妊婦	卵胞期	0.28~1.42
	黄体期	0.79~6.83
妊婦	前期	1.29~6.08
	中期	3.05~24.22
	後期	9.10~60.51

[4773] フリーテストステロン 基準値（メーカー参考値）

単位：pg/mL

年齢	男性	女性
20~29	7.6~23.8	0.4~2.3
30~39	6.5~17.7	0.6~2.5
40~49	4.7~21.6	0.3~1.8
50~59	4.6~19.6	0.8~1.7
60~69	5.3~11.5	
70以上	4.6~16.9	

1 プレイン容器

35 遮光用尿容器

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
性腺・胎盤関連検査	2212	HCG定量(ヒト絨毛性ゴナドトロピン) 4F080-0000-023-051 4F080-0000-001-023	血清0.5	1	冷蔵	1~2	130 ❶ 生Ⅱ	CLIA法	下記参照	妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。	妊娠 異所性妊娠 胞状奇胎 絨毛癌 切迫流産
	3612		尿3.0	2	冷蔵	1~2		FEIA法	下記参照	妊婦の場合は妊娠週数を明記してください。	
	3642	遊離βHCG(HCGβサブユニット) 4F090-0000-023-051	血清0.5	1	冷蔵	3~4	129 ❶ 生Ⅱ	CLIA法	ng/mL 1.00未満	※01	HCG産生腫瘍
	1494	子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ 3B200-0000-058-062	子宮頸管粘液	48	凍結(1ヵ月)	3~5	116 ❷ 尿糞	ラテックス凝集免疫法	μg/mL 1.60以下	検体採取方法は次ページをご参照ください。 ※02	絨毛膜羊膜炎 切迫早産
	5221	ヒト癌胎児性フィブロネクチン 5C111-0000-067-023	膣分泌物	110	凍結(1ヵ月)	3~5	204 ❸ 免疫	ELISA法	(−)	検体採取方法は次ページをご参照ください。 ※02	破水 切迫早産

❶ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット（HCG-β）は、HCG産生腫瘍患者に対して測定した場合に限り算定できる。
ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット（HCG-β）、ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定性、ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量又は同半定量を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
❷顆粒球エラスターゼ（子宮頸管粘液）は、絨毛羊膜炎の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の妊婦で切迫早産の疑いがある者に対して行った場合に算定する。
❸癌胎児性フィブロネクチン定性（頸管膣分泌液）は、破水の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の者を対象として測定した場合又は切迫早産の診断のために妊娠満22週以上満33週未満の者を対象として測定した場合のみ算定する。

[2212] HCG定量 基準値

単位：mIU/mL

妊娠女性	2週~4週	39.1~8388
	5週~6週	861~88769
	6週~8週	8636~218085
	8週~10週	18700~244467
	10週~12週	23143~181899
	13週~27週	6303~97171
	28週~40週	4360~74883
非妊娠女性		10未満
閉経女性		10未満
男　性		10未満

[3612] 尿HCG定量 基準値

単位：mIU/mL

男性		
女性(非妊婦)		2.5以下
妊婦	4~7週	1210~475000
	8~11週	21900~709000
	12~20週	2890~193000
	21~40週	1680~74300

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

48 子宮頸管顆粒球

110 ヒト癌胎児性フィブロネクチン

子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ　検体採取方法

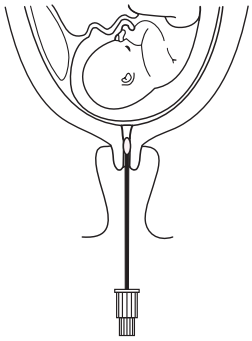
容　器

48

内　容：抽出液
（リン酸バッファー）
貯蔵方法：室温
（抽出液は冷蔵）
有効期間：製造後1年

採取方法

正しい採取部位

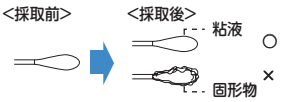


①子宮膣部の粘液を綿球で丁寧に拭い取ります。

②綿球を子宮頸管内腔に挿入します。注3)

③綿棒をゆっくりと2回転させ、頸管粘液を採取します。注4)

●注意事項
1)子宮頸管部より採取してください。
2)検体採取は膣部洗浄前に行ってください。
3)綿棒が外子宮口周辺の分泌物や粘液に接触しないようにしてください。綿棒の先が初めて接触する部分が頸管内腔であるように挿入してください。
4)綿棒1回転あたり約5秒をかけ、自然に粘液を浸み込ませるようにしてください。少量の固形物が付着した場合には、接子等で取り除いてください。

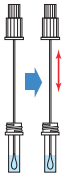


5) 採取した検体は15分以内に抽出作業を行ってください。

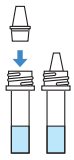
[ご注意]
検体採取時に無理な力がかかりますと、綿棒が折れる可能性がありますので、十分ご注意ください。

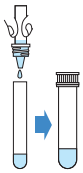
抽出方法

①
抽出液の入った抽出容器の青色キャップをはずします。

② 
頸管粘液を採取した綿棒を浸けて、2～3分間放置します。その後、綿棒を20～30回細かく上下させて検体を抽出します。

③
綿棒に浸み込んだ検体抽出液を抽出容器ごと指で押しつぶす等して絞り出した後、綿棒を取り除きます。

④ 
フィルターをセットします。

⑤ 
検体抽出液を検体保存容器へ濾過します。この時の加圧は1回のみとし、5～7滴（約300μL）を分取します。必要量が得られない場合は検体採取からやり直してください。検体保存容器に白色キャップをして保存します。冷蔵（8℃）で3日以内、冷凍（−15℃以下）で3ヵ月以内に測定してください。

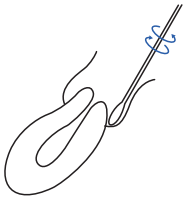
ヒト癌胎児性フィブロネクチン　検体採取方法

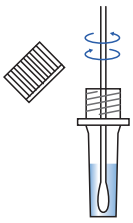
容　器

110

内　容：抽出液
貯蔵方法：室温
有効期間：製造後1年

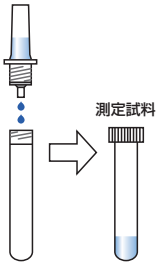
採取方法

① 
専用綿棒を後膣円蓋に挿入し、約10秒間回して分泌物を吸収させます。
※膣表面を強くこすらないでください。
※粘液は混入させないでください。

② 
検体抽出容器の紫色キャップをはずし、分泌液を吸収させた綿棒を浸けて、5回程度綿棒を回します。（この際、容器から液がこぼれないよう注意してください。）

③
綿棒を検体抽出容器から引き抜きます。

④
検体抽出容器に検体濾過フィルターを取り付けます。

⑤ 

検体抽出液の全量を検体保存チューブに滴下し、チューブの蓋を締めて必ず凍結保存してください。

●注意事項
・検体の採取は膣洗浄前に行ってください。
・検体中に精液が混入しているときは、その検体は使用しないでください。
・検体中に0.1%以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。
・検体は後膣円蓋から採取してください。
・膣表面を強くこすらないように注意してください。

〈採取後は必ず凍結保存してください〉

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
膵・消化管関連検査	0241	インスリン(IRI) 4G010-0000-023-051	血清0.5	1	(分離後)凍結(1ヵ月)	2~4	100 生Ⅱ	CLIA法	μU/mL 3.0~15.0 負荷前(空腹時)	溶血注意	糖尿病 インスリノーマ インスリン抵抗性糖尿病 自己免疫症候群
	0281	CPR (C-ペプチド) 4G020-0000-023-051 4G020-0000-004-051	血清0.5	1	冷蔵	2~3	105 ❶ 生Ⅱ	CLIA法	ng/mL 1.5~3.5 負荷前		インスリノーマ インスリン自己免疫症候群 糖尿病
	3455		蓄尿0.4	2	凍結	3~4		CLIA法	μg/day 20.1~155	24時間尿量を明記 ＊1 ※06	
	3233	抗GAD抗体 5G340-0000-023-023	血清0.3	1	冷蔵	3~5	134 ❷ 生Ⅱ	ELISA法	U/mL 5.0未満	※02	1型糖尿病 自己免疫介在性脳症
	3628	インスリン抗体 5G360-0000-023-007	血清0.5	1	冷蔵	5~8	107 免疫	RIA法	U/mL 0.4未満	※01	インスリン自己免疫症候群 インスリン治療中糖尿病
	3381	膵グルカゴン 4G030-0000-022-023	血漿0.5 速やかに冷却遠心	16	(分離後)凍結	4~7	150 生Ⅱ	EIA法	pg/mL 5.4~55.0 (空腹時)	＊2 ※01	グルカゴン産生腫瘍 糖尿病

❶C-ペプチド(CPR)を同時に血液及び尿の両方の検体について測定した場合は、血液の場合の所定点数のみを算定する。
❷抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体(抗GAD抗体)は、すでに糖尿病の診断が確定した患者に対して1型糖尿病の診断に用いた場合又は自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に用いた場合に算定できる。

＊1　尿C-ペプチド安定化剤1袋全量を蓄尿前、あるいは初回排尿時に尿と同時に蓄尿容器に入れてください。蓄尿後はよく混和したのち、必要量を滅菌スピッツに移し替えて凍結保存してご提出ください。防腐剤として塩酸を添加するとCPR活性の低下を生じるため、使用を避けてください。また、尿C-ペプチド安定化剤は他の測定項目に影響を与える場合があるため、C-ペプチド専用の蓄尿にお使いください。
＊2　容器16(アプロチニン入りEDTA管)に採血後、直ちに十分混和し冷却遠心分離を行い、血漿を凍結してご提出ください。溶血は低値の影響があります。

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

16 EDTA-2Na+アプロチニン(トラジロール)

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
心臓関連検査	5467	hANP (ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド) 4Z270-0000-022-052	血漿0.5	16	(分離後)凍結(2ヵ月)	3~4	221 ❶ 生Ⅱ	CLEIA法	pg/mL 43.0以下	溶血は低値の影響があります。 ※01	慢性心不全 急性心不全 うっ血性心不全
	1450	BNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド) 4Z271-0000-022-051	血漿0.5	13	(分離後)凍結	3~4	130 ❶❷ 生Ⅱ	CLIA法	pg/mL 18.4以下	※01	心不全 急性心不全 慢性心不全
	4830	NT-proBNP (ヒト脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント) 4Z272-0000-023-053	血清0.5	1	冷蔵	2~4	136 ❶❸ 生Ⅱ	ECLIA法	pg/mL 125以下 (心不全除外診断のカットオフ値)	※33	
	4599	H-FABP (ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白) 5C091-0000-023-062	血清0.5	1	冷蔵(28日)	3~5	131 ❹ 生Ⅰ	ラテックス凝集法	ng/mL 6.2未満	※02	急性心筋梗塞 急性冠症候群
	2341	ミオグロビン 5C090-0000-023-051 5C090-0000-001-052	血清0.5	1	冷蔵	3~5	131 ❹ 生Ⅰ	CLIA法	ng/mL 男性:154.9以下 女性:106.0以下	※02	心筋梗塞 ミオグロビン尿症 横紋筋融解 進行性筋ジストロフィー 心筋炎 挫滅症候群
	3614		尿6.0	49	冷蔵(22日)	3~5		CLEIA法	ng/mL 2.0未満	採尿後、速やかに専用容器に入れ、よく混和させ冷蔵してください。凍結は避けてください。 ※02	
	5217	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ 5C092-0000-023-023	血清0.5	1	冷蔵	3~7	184 ❺ 生Ⅰ	EIA法	ng/mL 2.5以下	※02	心筋梗塞 心筋炎
	0156	心筋トロポニンT 5C093-0000-023-053	血清0.5	1	冷蔵(4日)	3~5	109 ❻ 生Ⅰ	ECLIA法	ng/mL 0.014以下 急性心筋梗塞診断のカットオフ値 0.100	※02	急性心筋梗塞 不安定狭心症 急性冠症候群
	2490	ホルター心電図 9A150-0000-000-000	ICカード			2~10	1750 ❼ (生体検査料)			※06	不整脈 狭心症 無症候性心筋虚血

❶脳性Na利尿ペプチド（BNP）、脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）及び心房性Na利尿ペプチド（ANP）のうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から起算して1週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
脳性Na利尿ペプチド（BNP）、脳性Na利尿ペプチド前駆体Ｎ端フラグメント（NT-proBNP）及び心房性Na利尿ペプチド（ANP）のうち２項目以上を実施した場合は、各々の検査の実施日を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。
❷脳性Na利尿ペプチド（BNP）は、心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月1回に限り算定する。
❸脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）は、心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月1回に限り算定する。
❹心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）定性及び定量は、ELISA法、免疫クロマト法、ラテックス免疫比濁法又はラテックス凝集法により、急性心筋梗塞の診断を目的に用いた場合のみ算定する。ただし、心臓由来脂肪酸結合蛋白（H-FABP）定性又は定量とミオグロビン定性又は定量を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❺心室筋ミオシン軽鎖Ⅰは、同一の患者につき同一日に当該検査を2回以上行った場合は、1回のみ算定する。
❻心筋トロポニンⅠと心筋トロポニンT（TnT）定性・定量を同一月に併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。
❼ホルター型心電図検査
1　30分又はその端数を増すごとに　　90点
2　8時間を超えた場合　　1,750点
注　解析に係る費用は、所定点数に含まれるものとする。
(1) ホルター型心電図検査は、患者携帯用の記録装置を使って長時間連続して心電図記録を行った場合に算定するものであり、所定点数には、単に記録を行うだけではなく、再生及びコンピューターによる解析を行った場合の費用を含む。
(2) やむを得ず不連続に記録した場合においては、記録した時間を合算した時間により算定する。また、24時間を超えて連続して記録した場合であっても、「2」により算定する。

1 プレイン容器

13 EDTA-2Na入り

16 EDTA-2Na+ アプロチニン(トラジロール)

49 尿ミオグロビン用

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
その他	3514	アルドステロン 4D115-0000-022-052 4D115-0000-023-052 4D115-0000-004-052	血漿0.5	13	(分離後)凍結(21日)	3~5	122 生Ⅱ	CLEIA法	pg/mL 4.0~82.1	採血は座位で15分間安静後、午前をおすすめします。※02	原発性アルドステロン症 特発性アルドステロン症 腎血管性高血圧症 腎性高血圧症 バーター症候群 ギッテルマン症候群
			血清0.5	1	(分離後)凍結(21日)						
	3515		蓄尿1.5	2	凍結(21日)	6~8		CLEIA法	μg/day 1.0~19.3	一日尿量記入 ＊1 ※02	
	3516	レニン活性(PRA) 4Z010-0000-022-023	血漿0.7 冷却遠心	13	(分離後)凍結(14日)	4~6	100❶ 生Ⅱ	EIA法	ng/mL/hr 臥位:0.2~2.3 座位:0.2~3.9 立位:0.2~4.1	採血は座位で15分間安静後、午前をおすすめします。冷蔵保存した場合、レニン濃度の上昇が認められます。※02	
	3517	レニン濃度(ARC) 4Z020-0000-022-052	血漿0.5	13	(分離後)凍結(21日)	3~5	102❶ 生Ⅱ	CLEIA法	pg/mL 2.21~39.50		
	3585	アルドステロン/レニン活性比 4D120-1301-022-919	血漿1.2 冷却遠心	13	(分離後)凍結(14日)	4~6	122+100❶ 生Ⅱ	アルドステロン:CLEIA法 レニン活性:EIA法	下記参照	採血は早朝空腹時の安静臥位後が望ましいが、スクリーニングは随時座位で行ってよい、とされています。冷蔵保存した場合、レニン濃度の上昇が認められます。※02	
	3586	アルドステロン/レニン濃度比 4D122-1301-022-919	血漿1.0	13	(分離後)凍結(21日)	3~5	122+102❶ 生Ⅱ	CLEIA法	下記参照		

❶レニン活性とレニン定量を併せて行った場合は、一方の所定点数のみ算定する。

＊1　蓄尿剤として塩酸およびC-ペプチド安定化剤を使用しないでください。

[3585] アルドステロン/レニン活性比 基準値

アルドステロン[CLEIA]	4.0~82.1(pg/mL)
レニン活性(PRA)[EIA]	臥位:0.2~2.3 座位:0.2~3.9 立位:0.2~4.1 (ng/mL/hr)
アルドステロン/レニン活性比	100未満

[3586] アルドステロン/レニン濃度比 基準値

アルドステロン[CLEIA]	4.0~82.1(pg/mL)
レニン濃度(ARC)[CLEIA]	2.21~39.50(pg/mL)
アルドステロン/レニン濃度比	20未満

1 プレイン容器

2 滅菌スピッツ

13 EDTA-2Na入り

	項目コード	検査項目	検体量(mL)	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値(単位)	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
その他	3305	サイクリックAMP(C-AMP) 4Z255-0000-022-004 4Z255-0000-004-004	血漿0.3 冷却遠心	13	(分離後)凍結(1ヵ月)	事前にご確認ください	165 生Ⅱ	RIA DCC法	pmol/mL 11～21	※02	副甲状腺機能亢進症 副甲状腺機能低下症 偽性副甲状腺機能低下症
	5166		蓄尿1.0	35	凍結	事前にご確認ください		RIA DCC法	μmol/day 1.8～6.3	トルエン1～2mLを入れて冷暗所にて24時間蓄尿し、よく混和し必要量をご提出ください。 ※02	
	4974	エリスロポエチン 4Z275-0000-023-052	血清0.7	1	冷蔵	3～4	209 ❶ 生Ⅱ	CLEIA法	mIU/mL 4.2～23.7	※01	骨髄異形成症候群 腎性貧血 真性赤血球増加症 エリスロポエチン産生腫瘍

❶エリスロポエチンは、以下のいずれかの目的で行った場合に算定する。
ア　赤血球増加症の鑑別診断
イ　重度の慢性腎不全患者又はエリスロポエチン、ダルベポエチン、エポエチンベータペゴル若しくはHIF-PH阻害薬投与前の透析患者における腎性貧血の診断
ウ　骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定

1 プレイン容器

13 EDTA-2Na入り

35 遮光用尿容器

主な内分泌負荷試験

ご注意：実際のご使用に際しては、投与製剤の添付文書をご参照下さい。

負荷試験（実施方法例）	検査項目	結 果 の 解 釈
TRH 試験 **・下垂体 TSH 分泌機能検査** プロチレリンとして 0.5mg を皮下又は静脈内に注射 ↓ 採血スケジュール　前・30分・60分・90分・120分・180分	TSH	健康成人では、血中TSH値は15分後より上昇し、30分後に最大（10～40μU/mL）に達し、以後漸減する。下垂体性甲状腺機能低下症では増加せず、視床下部性甲状腺機能低下症では増加する。甲状腺機能低下症でも増加しない。
LH-RH 試験 **・下垂体 LH 分泌機能検査** ゴナドレリン酢酸塩 0.1mg を静脈内、筋肉内に注射 ↓ 採血スケジュール　前・30分・60分・90分	LH FSH	健康成人男子に投与した場合、血中LH、FSH値は10分後より上昇し、30分後に最大（LH値：80.3±18.5mIU/mL、FSH値：19.0±11.6mIU/mL）に達し、以後漸減する。性腺機能低下症で正常反応が認められれば視床下部性、低反応では下垂体性の機能低下症が疑われる。原発性性腺機能不全の場合は過剰反応を示す。
Rapid　ACTH テスト **・副腎皮質機能検査** テトラコサクチドとして 0.25mg を静脈内、筋肉内に注射 ↓ 採血スケジュール　前・30分・60分	コルチゾール	前値の約２倍以上（又は前値より10μg/dL以上）増加した場合を正常と判定する。増加がみられないときは、副腎皮質分泌予備機能が低下しており、副腎皮質機能不全が疑われる。

内分泌負荷試験

1．下垂体前葉負荷試験
　イ．成長ホルモン（ＧＨ）（一連として）・・・・・・ 1200点
　　（患者１人につき月２回に限り算定する）
　ロ．ゴナドトロピン（ＬＨ及びＦＳＨ）・・・・・・・ 1600点
　　（一連として月１回）
　ハ．甲状腺刺激ホルモン（ＴＳＨ）・・・・・・・・・ 1200点
　　（一連として月１回）
　ニ．プロラクチン（ＰＲＬ）・・・・・・・・・・・・・ 1200点
　　（一連として月１回）
　ホ．副腎皮質刺激ホルモン（ＡＣＴＨ）・・・・・・・ 1200点
　　（一連として月１回）
2．下垂体後葉負荷試験（一連として月１回）・・・・ 1200点
3．甲状腺負荷試験（一連として月１回）・・・・・・ 1200点
4．副甲状腺負荷試験（一連として月１回）・・・・・ 1200点
5．副腎皮質負荷試験
　イ．鉱質コルチコイド（一連として月１回）・・・・ 1200点
　ロ．糖質コルチコイド（一連として月１回）・・・・ 1200点
6．性腺負荷試験（一連として月１回）・・・・・・・・ 1200点

注１）１月に3600点を限度として算定する。
注２）負荷試験に伴って行った注射、採血及び検体測定の費用は、採血回数及び測定回数にかかわらず、所定点数に含まれるものとする。ただし、「D419」の５に掲げる副腎静脈サンプリングを行った場合は、当該検査の費用は別に算定できる。

白血球の分化抗原の CD 分類

CD	分布、機能
CD1	胸腺細胞、Langerhans 細胞
CD2	T 細胞、NK 細胞の一部、E ロゼット R、LFA-2
CD3	T 細胞、シグナル伝達に関与
CD4	helper/inducer T、単球
CD5	T 細胞、一部の B 細胞
CD6	T 細胞の一部、B 細胞の一部、細胞接着に関与
CD7	T 細胞、NK 細胞、白血病の一部
CD8	suppressor/cytotoxic T、NK 細胞
CD9	単球、血小板、pre B、顆粒球、内皮細胞
CD10	リンパ球系前駆細胞、悪性 B 細胞、neutral endopeptidase、CALLA
CD11a	顆粒球、リンパ球、マクロファージ、LFA-1 α鎖、CD54（ICAM-1）と結合
11b	マクロファージ、顆粒球、NK 細胞、CR3. Mac-1 α鎖
11c	マクロファージ、顆粒球、CR4
CD13	単球、顆粒球、aminopeptidase N
CD14	単球、マクロファージ、顆粒球、リポ多糖体のレセプター
CD15	顆粒球、単球、セレクチンと結合
CD16a	単球、マクロファージ、NK 細胞、Ec γ R Ⅲ
CDw17	顆粒球、単球、血小板、活性化 T 細胞
CD18	白血球全般、LFA-1 β鎖
CD19	B 細胞
CD20	B 細胞
CD21	成熟 B 細胞、樹状細胞、C3d/EBV R
CD22	成熟 B 細胞
CD23	B 細胞、単球、T 細胞、血小板、Fc ε R Ⅱ
CD24	B 細胞全般、顆粒球、活性化 T 細胞
CD25	活性化 T/B 細胞、活性化単球、IL-2R α鎖
CD26	活性化 T/B 細胞、単球、T 細胞活性化に関与、ADA と結合
CD27	成熟 T 細胞、活性化 T 細胞
CD28	T 細胞の一部、活性化 B 細胞、胸腺細胞
CD29	VLA β鎖
CD30	活性化 T/B 細胞、、RS 細胞、Ki-1 抗原
CD31	単球、顆粒球、血小板、内皮細胞、PECAM- Ⅰ
CD32	単球、マクロファージ、好中球、Fc γ R Ⅱ
CD33	造血細胞特異的
CD34	造血幹細胞
CD35	顆粒球、単球、赤血球、B 細胞、CR1
CD36	血小板、単球、マクロファージ、赤血球
CD37	B 細胞全般、悪性 B 細胞
CD38	活性化 T 細胞、形質細胞、プレ B 細胞、胸腺細胞、単球
CD39	成熟 / 活性化 B 細胞、悪性 B 細胞
CD40	B 細胞全般、単球、樹状細胞
CD41	血小板、巨核球、GP Ⅱ b/ Ⅲ a
CD42a	血小板、巨核球、GP Ⅸ
42b	血小板、巨核球、GP Ⅰ b α
42c	血小板、巨核球、GP Ⅰ b β
42d	血小板、巨核球、GPV
CD43	白血球全般、CD54L
CD44	白血球全般、赤血球、血小板、ヒアルロン酸受容体
CD45	白血球全般
CD45RA	末梢 T 細胞の一部（naiveT）、B 細胞、単球
45RB	B 細胞、T 細胞の一部、単球
45RO	memory T、単球
CD46	白血球全般、胸腺細胞、血小板、上皮細胞
CD47	造血系細胞全般、その他の広範な細胞
CD48	白血球全般
CD49a ～ f	活性化 T 細胞、B 細胞、NK 細胞、単球、血小板 VLA- α鎖
CD50	白血球全般、胸腺細胞、ICAM-3
CD51	血小板、巨核球、ビトロネクチン受容体のα鎖
CD53	白血球全般
CD54	白血球、活性化内皮細胞、ICAM-1、LFA-1R
CD55	ほとんどすべての細胞、補体制御蛋白 DAF
CD56	NK 細胞、一部の T 細胞、脳、N-CAM
CD57	NK 細胞の一部、T/B 細胞の一部
CD58	ほとんどすべての細胞、LFA-3
CD59	ほとんどすべての細胞
CD61	血小板、巨核球、単球、内皮細胞、GP Ⅲ a、vitronectinR β鎖
CD62P	血小板、血管内皮細胞、P-selectin
62E	血管内皮細胞、E-selectin
62L	白血球全般、L-selectin
CD63	活性化血小板、単球、マクロファージ
CD64	単球、好中球、Fc γ R Ⅰ
CD65	顆粒球、単球の一部
CD69	活性化 T/B 細胞、NK 細胞、活性化マクロファージ
CD70	活性化 T/B 細胞
CD71	transferrinR、増殖中の細胞

CD	分布、機能
CD72	B 細胞全般
CD73	B/T 細胞の一部、胸腺細胞、ecto-5'-nucleotidase
CD74	B 細胞、単球、マクロファージ、樹状細胞
CD79a	B 細胞全般
79b	B 細胞全般
CD80	活性化 B/T 細胞、マクロファージ、CD28L
CD81	広範な細胞
CD86	活性化 B 細胞、単球
CD87	広範な細胞、uPA の受容体
CD88	顆粒球、単球、マクロファージ、血小板、C5aR
CD89	単球、好中球、T/B 細胞の一部、FC α R
CD91	肝細胞、組織マクロファージ、単球
CD94	NK 細胞、T 細胞の一部
CD95	広範な細胞、Fas
CD98	広範な細胞
CD102	リンパ球、単球、血管内皮細胞、ICAM-2
CD104	上皮細胞、神経細胞、integrin β 4 鎖
CD105	上皮細胞、単球、TGF β 1 とβ 3 の高親和性受容体複合体の一部
CD106	活性化血管内皮細胞、VCAM-1、VLA-4 の受容体
CD114	顆粒球、単球、血小板、G-CSF R
CD115	単球系細胞、M-CSF R
CD116	GM-CSF R α鎖
CD117	造血幹細胞、造血前駆細胞、SCF R（c-kit）
CDw119	IFN- γ R
CD120a	TNF R type1
120b	TNF R type2
CD121a	IL-1 R type1
CDw121b	IL-1 R type2
CD122	IL-2 R β鎖
CDw123	IL-3 R α鎖
CD124	IL-4 R
CDw125	IL-5 R α鎖
CD126	IL-6 R
CD127	IL-7 R α鎖
CDw128	IL-8 R
CD130	ほとんどすべての細胞、gp130
CDw131	common β chain
CD132	common γ chain
CD134	活性化 T 細胞、OX40 L レセプター
CD135	造血幹細胞、Flt3/Flk2 R
CD140a	血小板、線維芽細胞、平滑筋細胞、PDGF R α鎖
140b	血小板、線維芽細胞、平滑筋細胞、PDGF R β鎖
CD141	thrombomodulin
CD142	活性化単球、内皮細胞、tissue factor
CD143	内皮細胞、上皮細胞、ACE
CD144	VE-cadherin
CD147	造血細胞全般、上皮細胞
CD152	活性化 T/B 細胞、CTLA-4
CD153	CD30L
CD154	CD40L
CD155	単球、CD34 ＋胸腺細胞、ポリオウイルス R
CD158a	HLA-C 抗原のレセプター
158b	HLA-C 抗原のレセプター
CD161	成熟末梢血 NK 細胞、CD4-CD8+T 細胞サブセット
CD164	上皮細胞、単球
CD165	T/B/NK 細胞、未熟胸腺細胞、単球、血小板の大部分、胸腺細胞と胸腺上皮細胞の接着
CD166	活性化 T/B、活性化単球、胸腺上皮細胞、CD6 L
CD172a	チロシンホスファターゼ
CD178	Fas ligand, CD95 L
CD183	ケモカイン R3
CD184	ケモカイン R4
CD195	ケモカイン R5
CDw197	ケモカイン R7
CD209	HIVgp120 結合蛋白
CDw210	IL-10 R α、β
CD212	IL-12 R β 1
CD213a1	IL-13 R α 1
213a2	IL-13 R α 2
CD220	インスリン R
CD221	insulin like growth factor 1R
CD235a	glycophorinA
235b	glycophorinB
CD236	glycophorinC/D
CD242	赤血球、ICAM-4
CD243	幹細胞、MDR－1
CD247	CD3 ξ鎖

スタンダード検査血液学（医歯薬出版株式会社）より引用

検査方法の略称と概要

CF	補体結合試験
Complement Fixation Test	
補体が抗原抗体複合体と結合することと溶血反応を引き起こすことを利用した方法。赤血球に溶血素を結合した感作赤血球は補体が結合すると溶血を起こすが、抗原抗体複合体が存在すると補体が消費され溶血が阻止されることから、溶血の程度から抗体の存在を判定する。	

CLEIA	化学発光・酵素免疫測定法
Chemiluminescent Enzyme Immunoassay	
固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、酵素標識した抗体を抗原に二次反応させ、化学発光基質を加えて発光強度を測定する方法。	

CLIA	化学発光免疫測定法
Chemiluminescent Immunoassay	
固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、化学発光性物質で標識した抗体を抗原に二次反応させ、化学発光性物質の発光強度を測定する方法。	

CPBA	競合性蛋白結合分析法
Competitive Protein Binding Assay	
ラジオアイソトープで標識した物質と、これと結合する特異結合蛋白との反応に対してアイソトープを標識していない物質を競合反応させた後、結合部分と遊離部分を分離してその放射能を測定する事により被検物質を測定する方法。	

dRVVT	希釈ラッセル蛇毒試験法
Diluted Russell's Viper Venom Time	
ラッセル蛇毒は、外因系の第Ⅶ因子、接触因子、内因系の抗出血因子の関与を受けずに直接血漿中の第Ⅹ因子を活性化して凝固反応を開始し、リン脂質、カルシウム、活性第Ⅴ因子の共存下で最終的にトロンビンを生成する。抗リン脂質抗体の一種であるループスアンチコアグラント（LA）が存在すると上記反応系からリン脂質が消費され、その結果として凝固時間の延長をきたす。ここで過剰なリン脂質を添加して同様の反応を行いLAの影響を予め排除した場合に、凝固時間の延長が補正されれば、血漿中の LA の存在を間接的に証明できる。	

ECLIA	電気化学発光免疫測定法
Electro Chemiluminescence Immunoassay	
抗体を結合したビーズを用いて抗原と反応させた後、ルテニウムピリジン錯体で標識した抗体を抗原に２次反応させ、電気化学反応によりルテニウムピリジン錯体の発光強度を測定する方法。	

EIA	酵素免疫測定法
Enzyme Immunoassay	
測定原理はＲＩＡと同様で、標識物質に酵素で標識した抗原または抗体を用いて抗原抗体反応を行い、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。	

ELISA	酵素免疫測定法
Enzyme-Linked immunosorbent assay	
固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、酵素標識した抗体を抗原に２次反応させ、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。	

ELISPOT	
Enzyme-Linked immunospot	
サイトカインを高感度に検出する検査方法。通常の ELISA 法の数十倍以上の感度で測定が可能。結核菌感染既往を検査する T-SPOT、TB 検査に用いられており、抗原により刺激して IFN- γ産生細胞数を計測することで感染診断を行う。	

EMIT	多元酵素免疫測定法
Enzyme-multiplied Immunoassay Technique	
主に薬物濃度測定に用いられる検査方法。検体中の薬物とグルコース -6- リン酸脱水素酵素（G-6-PDH）で標識されたその薬物の抗体に対する競合反応を利用したもので、抗体に未結合の G-6-PDH が、さらにニコチンアミドアデニンジヌクレオチド（NAD）を NADH に還元することによって生じる吸光度の変化を測定する事を利用した酵素免疫法の一種である。	

FA	蛍光抗体法
Fluorescent Antibody Method	
IFA	間接蛍光抗体法
Indirect Fluorescent Antibody Method	
目的とする抗原に対して、蛍光色素で標識した抗体を用いて抗原抗体反応を行い、蛍光顕微鏡下で蛍光強度を測定する方法。 酵素で標識した抗体を直接反応させる直接法と、抗原に対して未標識の抗体を反応させた後、酵素で標識した抗体を２次反応させる間接法がある。	

FEIA	蛍光酵素免疫測定法
Fluorescence Enzyme Immunoassay	
EIA の１つで、標識物質に酵素で標識した抗原または抗体を用いて抗原抗体反応を行い、蛍光基質を加えて蛍光強度を測定する方法。	

FISH	蛍光 insitu ハイブリダイゼーション法
Fluorescence In Situ Hybridization	
蛍光色素で標識したプローブを用いて標的 DNA とハイブリダイゼーションを行い、特定の波長で発色させた蛍光部位を染色体上のシグナルとして蛍光顕微鏡下で検出する方法。	

FPIA	蛍光偏光免疫測定法
Fluorescence Polarization Immunoassay	
蛍光標識した抗原は分子量が小さい場合には液相中で活発に回転運動しており、偏光励起光をあてても蛍光の偏光度が小さいが、抗体と結合し分子量が大きくなると回転運動が抑制され、蛍光の偏光度が増大することを利用して、蛍光の偏光強度を測定する方法。	

GC	ガスクロマトグラフ法
Gas Chromatography	
固定相（固体または液体）と接して流れる移動相（液体又は気体）の間に物質を通し、両相への親和性の差を利用して目的とする物質の成分を分離する方法。移動相が液体の場合は液体クロマトグラフィー、気体の場合にはガスクロマトグラフィーと呼ばれる。	

GC-MS	ガスクロマトグラフ・マススペクトロメトリー法
Gas Chromatography-Mas Spectrometry	
MS（質量分析）は、測定試料を気化しイオン化した後、高電圧で加速し、これを磁場に導き、ここで得たイオン化物質のエネルギー分布や電荷分布の違いによる特異なスペクトルの解析により同定、定量、構造解析を行う。この MS にガククロマトグラフィーを組み合わせた検査方法。	

HA	赤血球凝集反応
Hemagglutination	
赤血球の表面抗原と抗体を反応させ、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体の存在を判定する方法。	

HEIA	ホモジニアスエンザイムイムノアッセイ法
Homogeneous Enzyme Immunoassay	
検体中の抗原物質は試薬中の酵素（G-6-PDH）で標識された測定対象物質と同一の抗原物質と反応させると競合する。　その結果、抗体と結合できなかった G-6-PDH で標識された測定対象物質は G-6-PDH の酵素活性により補酵素である NAD が還元され、NADH に変換される。 しかし、この酵素活性は抗体と結合することにより活性を失うため、検体中の測定対象物質の量に比例して NADH の量が増加する。吸光度によりこの NADH を測定し、標準物質により作成した検量線により濃度を測定する。	

HI	赤血球凝集抑制反応
Hemagglutination Inhibition	
ウイルスの持つ赤血球凝集能が、ウイルスに対する抗体により抑制されることを利用した方法。抗原抗体複合体と赤血球を反応させ、凝集抑制の有無によりウイルスに対する抗体の存在を判定する。	

HPLC	高速液体クロマトグラフ法
High Performance Liquid Chromatography	
移動相に液体を用いる液体クロマトグラフィーで、高密度充填カラムと高圧ポンプを用いて高速かつ高精度に分離し、光学的方法や電気的な検出方法により測定物質を検出、定量する方法。	

IAHA	免疫粘着赤血球凝集反応
Immuno Adherence Hemagglutination	
ウイルス抗原と抗体の複合体に補体（C3 まで）が結合するとその複合体は霊長類の血球に付着するようになる。この現象（免疫粘着現象）を利用して血清中の抗体を検出する方法。	

ICP-MS	誘導結合プラズマ質量分析法
Inductively Coupled Plasma-Mass Spectrometry	
ＩＣＰは試料を気化させ、高電圧をかけることによりプラズマ化し、さらに高周波の変動磁場により高温プラズマ化させるものである。ICP-MS はこの高温プラズマを質量分析計に導入し、元素の同定・定量を行う検査方法。	

IR	赤外吸収スペクトロメトリー法
Infrared Absorption Spectrometry	
物質の赤外吸収波数を測定することにより試料の定性・定量分析を行う方法。	

IRMA	免疫放射定量法
Immuno Radio Metric Assay	
RIA の１つで、固相化した抗体に対して抗原を反応させた後、放射性同位元素（ＲＩ）で標識した抗体を抗原に２次反応させる検査方法。固相化抗体と標識抗体が抗原を挟む形で結合することから、サンドイッチ法とも呼ばれる。	

KIMS	
Kinetic Interaction of Microparticles in a Solution	
抗原または抗体を結合させたマイクロパーティクルを用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の濁度を、光を照射させて透過率から測定する方法。	

LA	ラテックス凝集比濁法
Latex Agglutination turbidimetric Immunoassay	
ラテックス凝集反応を利用し、凝集に伴う反応液の濁度変化に基づいて目的物質を測定する方法。	

検査方法の略称と概要

LA	ラテックス凝集反応
Latex　Agglutination	
抗原または抗体を吸着（結合）させたラテックス粒子（感作ラテックス粒子）を用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体又は抗原の存在を判定する方法。	

LAMP	
Loop-Mediated　Isothermal　Amplification	
PCR 法と同じく遺伝子増幅法の１つ。標的とする DNA の６つの領域に対し４種類のプライマーを設定し鎖置換反応を利用して、サンプルとなる遺伝子、鎖置換型 DNA 合成酵素、基質等を一定温度で反応させ増幅する検査方法。	

LC-MS	液体クロマトグラフ質量分析
Liquid　Chromatography/Mass　Spectrometry	
目的物質を高速かつ高精度に分離する HPLC に、MS（質量分析）を検出器として結合させ、検出選択性・定性機能をさらに向上させた検査方法。	

LC-MS/MS	液体クロマトグラフィータンデム四重極型質量分析法
Liquid　Chromatography-Tandem　Mass　Spectrometry	
液体クロマトグラフで親和性の差を利用して目的とする物質の成分を分解し、質量分析計でさらに質量ごとに分離して特定の質量イオンを分離・フラグメント化させ、それらのイオンを検出する検査方法。	

LPIA	ラテックス近赤外比濁法
Latex　Photometric　Immunoassay	
抗原または抗体を結合させたラテックス粒子を用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の濁度を、近赤外光を照射させて透過率を測定する方法。	

MEIA	
Microparticle　Enzyme　Immunoassay	
抗体固相化担体にマイクロパーティクル（微粒子）を用いた EIA 法で、自動測定機器により測定される。マイクロパーティクル上に形成される酵素標識複合体量は検体中に含まれる標的物質量に逆相関するため、酵素基質を添加して得られる活性から換算する方法。	

MPHA	混合受身赤血球凝集試験
Mixed　Passive　Hemagglutination　Test	
プレートのような担体に測定対象となる抗体に対する抗原を固相する。 それに被検検体を加え一定時間反応させ、プレートを洗浄し指示血球を滴下し、一定時間後に受身赤血球凝集反応と同様の基準で判定を行う方法。	

NT	中和試験
Neutralization　Test	
ウイルスがウイルスに対する抗体との反応により感染性が失われる（中和）ことを利用した検査方法。ウイルスと抗体を反応させた後、ウイルスに感受性のある培養細胞に接種し、細胞変性効果（cytopathogenic　effect：CPE）の有無により中和抗体の存在を判定する。	

PA	粒子凝集反応
Particle　Agglutination	
抗原または抗体を吸着（結合）させたゼラチン粒子など（感作粒子）を用いて抗原抗体反応を行い、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体又は抗原の存在を判定する検査方法。	

PCR	
Polymerase　Chain　Reaction	
DNA が加熱により２本鎖から１本鎖に解離し、冷却することで２本鎖に戻ることを利用し、１本鎖 DNA を鋳型として目的のプライマーを結合させ、DNA ポリメラーゼの転写反応により DNA 合成を行うことを繰り返し、目的とする DNA 領域を指数関数的に増幅させる方法。	

PHA	受身赤血球凝集反応
Passive　Hemagglutination	
赤血球の表面に抗原を吸着（結合）させた感作赤血球を用いて抗体を反応させ、抗原抗体反応による凝集の有無により抗体の存在を判定する方法。	

RIA	放射性免疫測定法
Radio　Immunoassay	
抗体に対して放射性同位元素（RI）で標識した抗原と検体中の抗原を競合的に抗原抗体反応を行い、抗体と結合した標識抗原（結合型：Bound）と抗体と結合していない標識抗原（遊離型：Free）を分離し、その割合を放射活性から抗原の濃度として測定する方法。 結合型と遊離型の分離方法（B/F 分離）として、抗体を固相化しておく固相法、 抗原抗体複合体に第２抗体を結合させて沈澱させる２抗体法 抗原抗体複合体を硫酸アンモニウム（硫安）で沈澱させる硫安塩析法 抗原抗体複合体を沈澱試薬で沈澱させる PEG 法などがある。	

RPHA	逆受身赤血球凝集反応
Reversed　Passive　Hemagglutination	
抗原に対する抗体をある特定の動物の赤血球に吸着（結合）させた後、抗原抗体反応させると、抗原が陽性の場合には凝集を起こす性質を利用した検査方法。	

RPLA	逆受身ラテックス凝集試験
Reversed　Passive　Latex　Agglutination　Test	
RPHA 法と基本的な検出原理を同じくするが、抗体の固相化担体として動物赤血球の代わりにラテックス粒子を用いる検査方法。	

RRA	ラジオレセプターアッセイ
Radio　Receptor　Assay	
測定原理は RIA と同様で、結合体として測定物質に特異的に結合する蛋白を用いる検査方法。	

RT-PCR	
Reverse　Transcriptase-polymerase　Chain　Reaction	
RNA が増幅対象の場合に、RNA を鋳型として逆転写酵素（reversatranscriptase：RT）により相補的な cDNA を合成して PCR を行う検査方法。	

SBPA	結合蛋白サンドイッチ測定法
Sandwich　Binding　Protein　Assay	
固相化した測定物質に結合する蛋白と測定物質を結合させた後、酵素で標識した結合蛋白を２次反応させ、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。	

SRID	免疫拡散法
Single　Radial　Immunodiffusion	
ある特定の抗原量や抗体価を測定する場合に、それに対応する抗体や抗原が入ったゲルを用いた免疫拡散板に検体をスポットし、ゲル内沈降反応により生じた沈降線の直径により被検物質の濃度を定量する方法。二重免疫拡散法は沈降線の交差により判定を行う。	

TIA	免疫比濁法
Turbidimetric　Immunoassay	
抗原抗体反応による混濁物に光を照射させ、透過率を測定する検査方法。	

TMA	
Transcription　Mediated　Amplification	
２種類の酵素と２種類のプライマー及び基質を用いて RNA を増幅する方法。抽出した RNA から逆転写酵素により２本鎖 DNA を合成し、この２本鎖 DNA を鋳型として RNA ポリメラーゼの転写反応により RNA を合成することを繰り返し、目的とする RNA 領域を増幅させる。	

UV法	紫外部吸光光度分析法
Ultraviolet　Absorption　Spectrophotometry	
測定原理は比色法と同様で、紫外部波長を用いて測定する方法。 通常は 200 ～ 400nm の近紫外部の波長が使われる。	

イムノクロマトグラフィー法
液体をニトロセルロース膜に滴下すると毛細管現象により膜上を移動する性質を利用した免疫学的測定法。膜を移動する過程でまず色素標識抗体を結合させ、さらに固相化した抗体で抗原抗体複合体を補足する。

インベーダー法
DNA の三重鎖構造を特異的に認識して切断するクリベース（エンドヌクレアーゼの一種）を利用した、二段階のホモジニアスな等温反応からなる遺伝子多型の判定法。

ウエスタンブロット法
Western　Blot
目的とする蛋白質を電気泳動により分画し、電気的にニトロセルロース膜に転写して、目的の蛋白質に対する抗体を反応させた後、放射性同位元素又は酵素で標識した抗体を２次反応させ、目的の蛋白質を検出する方法。イムノブロット法とも呼ばれる。

液相（核酸）ハイブリダイゼーション
液相中で rRNA を遊離させ、化学発光物質で標識した DNA プローブを用いてハイブリダイゼーションを行い、ハイブリッドを分離剤に吸着させた後、化学発光により検出する検査方法。

オクタロニー法	平板内二重免疫拡散法
Ouchterlony　Method	
平板内二重免疫拡散法とも呼ばれるゲル内拡散法の１つ。ゲル内で抗体と抗原を拡散させ、抗原抗体反応により形成された沈降線の数や反応性の有無から、抗原と抗体の反応を確認する検査方法。	

凝固時間法
測定対象となる因子の欠乏血漿とトロンボプラスチン、アクチン、塩化カルシウムを加え、凝固するまでの時間を測定する方法。

検査方法の略称と概要

金コロイド免疫測定法
Colloidal Gold Immunoassay
抗原抗体反応により捕捉した標的物質に、さらに金コロイド標識した抗体または結合親和性物質（プロテインＡなど）を反応させ、金コロイドの呈色により標的物質の存在を判定する。

原子吸光分析法
Atomic Absorption Method
元素試料を化学炎中や加熱グラファイト管中などで元素の原子化を行い、この原子蒸気に元素固有の共鳴線をあてると原子蒸気中の原子の数に応じて吸収されることを利用して、吸光度から元素量を定量する方法。

酵素法
測定原理は比色法と同様で、測定物質を酵素を用いて特異的に測定する方法。

酵素抗体法
目的とする抗原に対して、酵素で標識した抗体を用いて抗原抗体反応を行い、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法。酵素で標識した抗体を直接反応させる直接法と、抗原に対して未標識の抗体を反応させた後、酵素で標識した抗体を２次反応させる間接法がある。

サザンブロットハイブリダイゼーション
Southern Blot Hybridization
制限酵素で消化したDNAを電気泳動により分画し、１本鎖DNAに変性後、毛細管現象を利用してナイロンメンブレンに転写して、標的プローブとハイブリダイゼーションを行ない、目的の遺伝子を検出する方法。DNAの量的、質的変化の異常を解析する場合に用いられる。

超遠心法
超遠心機を用いて蛋白質の比重の差により分離し測定する方法。

電気泳動法
Electrophoresis
荷電粒子の浮遊する電解質溶液に通電すると、粒子は各粒子の荷電と逆の極側に移動する現象を利用し、移動度から目的の物質を測定する方法。水溶液支持体にはセルロースアセテート膜、アガロースゲル、ポリアクリルアミドゲルなどが用いられる。

電極法
電極と溶液界面における電荷移行反応を利用した方法。
イオン選択電極は特定のイオンに応答し、イオンの活量の対数に比例して生じる電位差からイオンの濃度を測定する。

ネフェロメトリー
Nephelometry
抗原抗体反応による混濁物に光を照射させ、光の錯乱強度を測定する方法。

バイオアッセイ法　生物学的検定法
Bioassay
生物または組織、細胞などを用いて生物学的応答により生物作用量を主に評価する方法。

発色性合成基質法
ヘパリンを加えてAT-Ⅲ-ヘパリン複合体を形成させ、そのトロンビン不活化能をトロンビンに対する発色性合成基質を用いて測定する方法。

比色法
測定物質を着色物質に変換後、可視部波長を照射して吸光度を測定して色調を標準液と比較する方法。

比濁時間分析法
Turbidimetric Time Assay
エンドトキシン測定法の１つ。エンドトキシンの存在下にカブトガニ血液抽出物中の凝固成分が段階的に活性化され、最終的に生成したコアグリンがゲル化する性質を利用した方法。ゲル形成時間が反応初発時のエンドトキシン量の２回対数に反比例することから量を測定する。

フローサイトメトリー法
Flow Cytometry
蛍光色素で標識したモノクローナル抗体で染色した細胞を高速度で流しながらレーザー光を照射し、前方散乱光（細胞の大きさ）や９０°散乱光（細胞の内部構造）と蛍光強度（細胞表面の対応抗原）から個々の細胞を解析する方法。
２種類の蛍光色素を用いて二重染色を行い解析する場合はTwo-Color フローサイトメトリーと呼ばれる。

ベセスダ法
Bethesda
主に血液凝固系検査に用いられる検査方法。凝固因子インヒビター測定の場合は目的とする凝固因子の正常血漿と被検血漿を混合・反応させ、反応前と反応後の残存凝固因子を測定し、その比により Bethesda 算定図より凝固因子阻止量を読み取る。

リアルタイムＰＣＲ法
PCR法を基本原理とする核酸増幅法の１種であり、分解により蛍光を発するオリゴヌクレオチドを利用することにより、PCRサイクルごとに蛍光シグナルを確認することでリアルタイムにターゲット核酸の定量が可能となる測定方法。

^{3}Ｈ-サイミジン取り込み能
^{3}Ｈ-Td Ｒ uptake
リンパ球が非自己抗原による刺激に反応して芽球化する現象を利用した方法。
リンパ球に刺激物質と^{3}Ｈ-サイミジンを加えて培養し、DNA合成により^{3}Ｈ-サイミジンが細胞に取り込まれる量を放射活性として測定する。刺激物質にはPHA、ConA、薬剤などが用いられる。

ラインブロット法
Line immunoassay
抗原を機械的にメンブレン上に点着し、抗原に対する特異的抗体を反応させた後、酵素で標識した抗体を２次反応させ、抗体の検出を行う方法。

基準値・単位の略称

「基準値」の欄の略称　M：男性（Male）F：女性（Female）

単位の略称	
L	liter（＝1000mL）
dL	deciliter（＝0.1L＝100mL）
mL	milliliter（＝0.001L）
g	gram
mg	milligram（＝0.001g）
μg	microgram（＝10^{-6} g）
ng	nanogram（＝10^{-9} g）
pg	picogram（＝10^{-12} g）
U	Unit
mU	milli Unit（＝0.001U）
μU	micro Unit（＝10^{-6} U）
IU	International Unit
mIU	milli International Unit（＝0.001IU）

単位の略称	
mmol	millimole（＝0.001mol）
μ mol	micromole（＝10^{-6} mol）
nmol	nanomole（＝10^{-9} mol）
pmol	picomole（＝10^{-12} mol）
fmol	femtomole（＝10^{-15} mol）
M	mol／L
mEq	milli Equivalent（＝10^{-3} Eq）
Meq	mega Equivalent（＝10^{6} Eq）
mOsm	milli Osmole
cpm	count per minutes
%	percent
‰	permille
S.I.	Stimulation Index
UA	Unit allergen
BU	Bethesda Unit
R.U.	RPR Units

検体の安定性

検査項目	保存期間		
■生化学的検査			
総ビリルビン（T-Bil）	室温２日	冷蔵１週間	凍結１ヶ月（遮光）
直接ビリルビン（D-Bil）	室温２日	冷蔵１週間	凍結１ヶ月（遮光）
総蛋白（TP）	室温１週間	冷蔵１ヶ月	凍結１年
アルブミン（Alb）	室温１週間	冷蔵１ヶ月	凍結１年
蛋白分画	室温２日	冷蔵１週間	凍結＞１ヶ月
AST（GOT）	室温３日	冷蔵１週間	凍結＞１ヶ月
ALT（GPT）	室温１日	冷蔵３日	凍結＞１ヶ月
ALP	室温＜１日	冷蔵１週間	凍結６ヶ月
LD	室温５日	冷蔵５日	凍結不安定
LAP	室温３日	冷蔵１週間	凍結３ヶ月
γ -GT	室温１週間	冷蔵１週間	凍結３ヶ月
コリンエステラーゼ	室温１週間	冷蔵１週間	凍結６ヶ月
アミラーゼ	室温１週間	冷蔵１ヶ月	凍結１年
リパーゼ	室温１週間	冷蔵１ヶ月	凍結６ヶ月
トリプシン			凍結６ヶ月
エラスターゼ１			凍結３ヶ月
CK（CPK）	室温２日	冷蔵１週間	凍結１ヶ月
アルドラーゼ	室温１日	冷蔵１ヶ月	凍結＞３ヶ月
リゾチーム	室温１～４日	冷蔵１週間	
グアナーゼ	室温３日	冷蔵２週間	凍結 10 ヶ月
総コレステロール	室温１週間	冷蔵１週間	凍結１年
トリグリセライド	室温１日	冷蔵４日	凍結＞１ヶ月
リン脂質（PL）	室温不安定	冷蔵１週間	凍結＞１ヶ月
HDL コレステロール	室温１週間	冷蔵２週間	凍結３ヶ月
リポ蛋白分画		冷蔵１週間	
総胆汁酸	室温１週間	冷蔵６ヶ月	凍結１年
ナトリウム（Na）	室温１～２週間	冷蔵１ヶ月	凍結１年
クロール（C l）	室温１～２週間	冷蔵１ヶ月	凍結１年
カリウム（K）	室温１～２週間	冷蔵１ヶ月	凍結１年
カルシウム（Ca）	室温１週間	冷蔵２週間	凍結１年
無機リン（IP）	室温３日	冷蔵１週間	凍結＞１ヶ月
マグネシウム（Mg）	室温１週間	冷蔵２週間	凍結１年
尿素窒素（BUN）	室温３日	冷蔵１週間	凍結６ヶ月
クレアチニン	室温３日	冷蔵１週間	凍結６ヶ月
尿酸（UA）	室温３日	冷蔵１週間	凍結６ヶ月
クレアチン		冷蔵１週間	凍結６ヶ月
アンモニア	室温２時間	冷蔵５時間	凍結１週間
グルコース（血糖）	室温８時間	冷蔵１週間	凍結＞１年
乳酸			凍結１ヶ月
ピルビン酸			凍結１ヶ月
ビタミン A			凍結１週間
ビタミン B_1			凍結 10 日
ビタミン B_2			凍結１週間
ビタミン B_6			凍結１週間
ビタミン B_{12}	室温４日		凍結３ヶ月
ビタミン C（アスコルビン酸）		冷蔵６時間	凍結２週間
ビタミン E		冷蔵２週間	
葉酸			凍結４週間
鉄（Fe）	室温１週間	冷蔵２週間	凍結６ヶ月
TIBC	室温１週間	冷蔵２週間	凍結６ヶ月
UIBC	室温１週間	冷蔵２週間	凍結６ヶ月
銅（Cu）	室温１週間	冷蔵２週間	凍結６ヶ月
亜鉛（Zn）	室温１週間	冷蔵１ヶ月	凍結１年
■内分泌学的検査			
成長ホルモン	室温１日	冷蔵１日	凍結＞６ヶ月
黄体形成ホルモン	室温１日	冷蔵１日	凍結＞６ヶ月
卵胞刺激ホルモン	室温１日	冷蔵１日	凍結＞６ヶ月
TSH	室温１日	冷蔵１日	凍結＞６ヶ月
ACTH			凍結６ヶ月
プロラクチン			凍結３ヶ月
アルギニンバゾプレッシン			凍結４ヶ月
T_3（トリヨード　サイロニン）	室温数日	冷蔵２週	凍結＞６ヶ月
T_4（サイロキシン）	室温数日	冷蔵２週	凍結＞６ヶ月
TBG			凍結３ヶ月
サイログロブリン			凍結３ヶ月
抗マイクロゾーム抗体			凍結３ヶ月
抗サイログロブリン抗体			凍結３ヶ月
カルシトニン			凍結３週間
PTH	室温不安定	冷蔵不安定	凍結３ヶ月
11-OHCS			凍結１ヶ月
コルチゾール	室温１日	冷蔵 10 日	凍結＞６ヶ月
VMA			凍結６ヶ月
HVA			凍結３ヶ月
カテコールアミン	室温２時間	冷蔵１～２日	凍結１ヶ月
5-HIAA			凍結３ヶ月
インスリン	室温１日	冷蔵数日	凍結＞６ヶ月
C- ペプチド			凍結３ヶ月
エストロゲン		冷蔵２週間	凍結３ヶ月
プロゲステロン			凍結１ヶ月
テストステロン			凍結２～４ヶ月
レニン濃度	室温３時間	冷蔵３日	凍結２ヶ月

検査項目	保存期間		
■免疫血清学的検査			
血清補体価（CH_{50}）			凍結１週間（-20℃）
			６ヶ月（-70℃）
C_3			凍結１ヶ月
C_4			凍結１ヶ月
IgG	室温１週間	冷蔵１ヶ月	凍結１年
IgA	室温１週間	冷蔵１ヶ月	凍結１年
IgM	室温１週間	冷蔵１ヶ月	凍結１年
IgE（非特異的 IgE）			凍結６ヶ月
特異的 IgE			凍結 14 日
α $_{1}$- アンチトリプシン	室温１週間	冷蔵１ヶ月	凍結１年
ハプトグロビン	室温１週間	冷蔵１ヶ月	凍結１年
セルロプラスミン	室温不安定	冷蔵１ヶ月	凍結１年
トランスフェリン（Tf）	室温１週間	冷蔵２週間	凍結６ヶ月
フェリチン		冷蔵２日	凍結４ヶ月
α $_{1}$- マイクログロブリン		冷蔵２週間	凍結６ヶ月
β $_{2}$- マイクログロブリン		冷蔵３週間	凍結＞３週間
免疫電気泳動			凍結１年（-80℃）
リウマトイド因子	室温２日	冷蔵１週間	凍結＞４ヶ月
CRP	室温２日	冷蔵１週間	凍結＞４ヶ月
ASO	室温２日	冷蔵１週間	凍結＞４ヶ月
トキソプラズマ抗体			凍結６ヶ月
梅毒　FTA-ABS 法			凍結６ヶ月
ウイルス抗体（HI）		冷蔵１週間	
ウイルス抗体（CF）		冷蔵１週間	
HTLV- Ⅰ抗体（ATLA）			凍結６ヶ月
HA 抗体			凍結６ヶ月
HBs 抗原			凍結６ヶ月
HBs 抗体			凍結６ヶ月
HBc 抗体			凍結６ヶ月
HBe 抗原			凍結６ヶ月
HBe 抗体			凍結６ヶ月
■腫瘍関連検査			
CEA	室温１週間	冷蔵１ヶ月	凍結１年
α - フェトプロテイン		冷蔵１ヶ月	凍結１年
神経特異エノラーゼ			凍結２年
CA125		冷蔵２週間	
CA19-9		冷蔵１週間	凍結６ヶ月
■血液学的検査			
プロトロンビン値			凍結３日
APTT			凍結３日
フィブリノゲン	室温１週間	冷蔵１ヶ月	凍結１年
プラスミノゲン活性			凍結３ヶ月
凝固因子			凍結３ヶ月
β - トロンボグロブリン			凍結１年

引用文献：検査値を変えるもの―影響因子の一覧と対策―　（株）薬事日報社

◆影響の大きさは溶血の程度や用いる測定法により異なるが、おおむね血球／血漿内濃度比により次のように分けた。
ただし血球内成分の各測定原理に与える影響は省略した。

検　査　項　目	溶　　血	乳　　び
AST（GOT）	↑↑	
ALT（GPT）	↑	
LD（乳酸脱水素酵素）	↑↑↑	
ALP（アルカリホスファターゼ）		↑↑
ChE（コリンエステラーゼ）	↑	
CK（CPK）	↑↑	
ALD（アルドラーゼ）	↑↑↑	
アミラーゼ（AMY）	(↓)	
リパーゼ	↓	
TP（総蛋白）	↑	↑
Alb（アルブミン）	(—)	
HbA1c（グリコヘモグロビン）	—	
NH_3（アンモニア）	↑	
BUN（尿素窒素）	↑	
クレアチニン	↑	
尿酸（UA）	(—)	
T-Bil（総ビリルビン）	(↓)	↑
葉酸	↑↑	
総コレステロール	(—)	—
中性脂肪（TG）	(—)	↑↑
HDL-C	(—)	
PL（リン脂質）	(↑)	やや上昇
ナトリウム（Na）	(↓)	
カリウム（K）	↑↑↑	
カルシウム（Ca）	(↓)	
無機リン（IP）	↑↑	
鉄（Fe）	↑↑	
グルコース（血糖）	(↓)	
亜鉛（Zn）	↑	
NSE（神経特異エノラーゼ）	↑↑	
ACTH（副腎皮質ホルモン）	↓	
インスリン	↓	
赤血球数（RBC）	(↓)	
ヘマトクリット（Ht）	↓	

※引用文献：検査値を変えるもの　—影響因子の一覧と対策—　（株）薬事日報社

↑↑↑：血球／血漿比が約100倍以上
↑↑　：血球／血漿比が約50倍以上
↑　　：血球／血漿比が約10倍以上
↓　　：血球／血漿比が約0.1倍以下
↓↓　：血球／血漿比が約0.05倍以下
↓↓↓：血球／血漿比が約0.01倍以下
（　）：定見はないが、（　）内の報告のあるもの
—　：影響なし

主要参考文献

案内 頁	コード	検査項目名	参考文献名
1	0366	非特異的IgE	島津　伸一郎、他：アレルギーの領域　2、920、1995.
1		特異的IgE	奥平　博一、他：アレルギー 40、544、1991.
1	3436	View39	鈴木　義徳、他：臨床病理 60(7)、621、2012.
3	4869	TARC	玉置　邦彦、他：日本皮膚科学会雑誌116、27～39、2006.
3	2100	アトピー鑑別試験	奥田　勲、他：医学検査46(10)、1525～1530、1997.
4	0506	尿pH	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、120、2020.
4	0507	尿比重	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、120～121、2020.
4	0513	尿潜血	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、150～153、2020.
4	0508	尿ケトン体定性	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、130～136、2020.
4	0503	尿ウロビリノゲン定性	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、139～141、2020.
4	0505	尿ビリルビン定性	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、137～139、2020.
4	0501	尿蛋白定性	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、125～131、2020.
4	0502	尿糖定性	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、131～134、2020.
4	0509	尿蛋白定量	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、121～131、2020.
4	0510	尿糖定量	木村　聡：薬の影響を考える臨床検査値ハンドブック、2版、212、2014.
4	0536	尿沈査（無染色）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、157～177、2020.
4	0511	尿沈渣（染色）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、157～177、2020.
5	0549	髄液一般	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、203～217、2020.
5、6	0550	細胞分類	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、192～211、2020.
5	0572	髄液蛋白定量	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、212～213、2020.
5	1435	髄液糖定量	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、214、2020.
5	0558	髄液クロール（Cl）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、740～741、2020.
5	3552	精液一般	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、217～222、2020.
6	5290	痛風と仮性痛風	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、202～203、2020.
6	0562	関節液一般	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、199～203、2020.
6	0561	胸水一般	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、189～199、2020.
6	0576	腹水一般	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、189～199、2020.
6	0577	穿刺液蛋白定量	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、193～194、2020.
6	0578	穿刺液糖定量	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、194、2020.
6	0196	穿刺液クロール（Cl）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、740～741、2020.
7	0662	虫卵塗抹	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、1269、1280～1284、2020.
7	0663	虫卵（集卵法）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、1269、1280～1284、2020.
7	0674	便虫体検出	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、1269～1287、2020.
7	0650	便中アメーバ検査	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、1292～1293、2020.
7	0668	便ヒトヘモグロビン（定性）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、183～185、2020.
7	2536	便ヒトヘモグロビン（定量）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、183～185、2020.
7	4815	便Hb・Tf（定量）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、183～186、2020.
8、104	2167	アデノウィルス抗原	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、187～188、2020.
8、104	3039	ロタウイルス抗原	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、187～188、1234～1235、2020.
8、13	5184	便CD抗原・トキシン	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、1201～1202、2020.
8	4858	ノロウイルスRNA	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、186～187、1235～1236、2020.
9	0601	一般細菌塗抹	橋本　雅一、他：新編　臨床検査講座22　微生物学・臨床微生物学第2版、20～26、1991.
9	3626	真菌塗抹	松岡　喜美子：Medical Technology23(7)、553～555、1995.
9	0603	培養同定　喀痰	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0604	培養同定　咽頭	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0605	培養同定　口腔	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0606	培養同定　鼻汁	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0611	培養同定　鼻腔	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0637	培養同定　気管支洗浄液	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0630	培養同定　気道	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0607	培養同定　便	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0608	培養同定　胆汁	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0609	培養同定　胃液	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0610	培養同定　吐物	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	3544	培養同定　大腸粘膜	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0617	培養同定　血液	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0633	培養同定　動脈血	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0618	培養同定　髄液	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0619	培養同定　腹水	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0620	培養同定　関節液	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0621	培養同定　胸水	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0613	培養同定　尿	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0614	培養同定　腟分泌物	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0628	培養同定　頸管分泌物	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0616	培養同定　尿道膿	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0631	培養同定　精液	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	3545	培養同定　帯下	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	3546	培養同定　羊水	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0625	培養同定　眼脂	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0626	培養同定　膿	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0615	培養同定　褥瘡	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.
9	0629	培養同定　菌株	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第4版、45～135、2011.

案内 頁	コード	検査項目名	参考文献名
9	0622	培養同定　耳漏	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第４版、45～135、2011.
9	0623	培養同定　皮膚	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第４版、45～135、2011.
9	0624	培養同定　爪	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第４版、45～135、2011.
9	0602	培養同定　その他	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第４版、45～135、2011.
10	0643	嫌気性培養	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第４版、174～184、2011.
10	0644	感受性１菌種	本間　賢：臨床と微生物33(１)、３～９、2006. 金沢　裕　：感受性ディスク法の基礎と臨床、22～26、1994.
10	0645	感受性２菌種	本間　賢：臨床と微生物33(１)、３～９、2006. 金沢　裕　：感受性ディスク法の基礎と臨床、22～26、1994.
10	0648	感受性３菌種	本間　賢：臨床と微生物33(１)、３～９、2006. 金沢　裕　：感受性ディスク法の基礎と臨床、22～26、1994.
11	0652	抗酸菌塗抹	抗酸菌検査ガイド2020、33～38、2020.
11	0661	抗酸菌塗抹（集菌・蛍光法）	抗酸菌検査ガイド2020、33～38、2020.
11	0654	抗酸菌分離培養（小川法）	抗酸菌検査ガイド2020、39～45、2020.
11	3563	抗酸菌液体培養（MGIT法）	抗酸菌検査ガイド2020、39～45、2020.
11	0657	抗酸菌薬剤感受性	抗酸菌検査ガイド2020、91～108、2020.
12	2339	結核菌群核酸検出	抗酸菌検査ガイド2020、71～81、2020.
12	2590	MAC核酸検出	抗酸菌検査ガイド2020、71～81、2020.
13	2499	ヘリコバクター・ピロリ培養	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第４版、213～215、1994.
13	1440	大腸菌抗原同定検査（血清型別）	小栗　豊子、他：臨床微生物検査ハンドブック第４版、55～59、2011.
13	5520	大腸菌ベロトキシン	甲斐　明美、他：感染症学雑誌71(３)、248～253、1997.
13	3649	CDトキシンB遺伝子	松浦　成美、他：医学検査67(４)、451～455、2018.
15	4605	淋菌核酸検出（ぬぐい液）	熊本悦明、他：医学と薬学 66(６)、1007、2011.
15	4933	淋菌核酸検出（尿）	熊本悦明、他：医学と薬学 66(６)、1007、2011.
15	5142	クラミジア核酸検出（ぬぐい液）	熊本悦明、他：医学と薬学 66(６)、1007、2011.
15	4934	クラミジア核酸検出（尿）	熊本悦明、他：医学と薬学 66(６)、1007、2011.
15	3621	トリコモナス/マイコプラズマ・ジェニタリウム同時核酸検出（ぬぐい液）	髙橋　聡、他：日本性感染症学会誌32(１)、１、2021.
15	3622	トリコモナス/マイコプラズマ・ジェニタリウム同時核酸検出（尿）	髙橋　聡、他：日本性感染症学会誌32(１)、１、2021.
22	0401	赤血球数	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、224、2020.
22	0402	白血球数	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、232、243、2020.
22	0403	血色素量	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、226、243、2020.
22	0404	ヘマトクリット	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、224、227、243、2020.
22	0407	血小板数	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、231、243、371、379、2020.
22	0408	網赤血球数	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、224、228、229、2020.
22	0431	好酸球数	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、266、270～273、2020.
22	0406	血液像	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、266、270～273、2020.
22	1317	特殊染色１（末梢血）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、285、2020.
22	1318	特殊染色２（末梢血）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、285、2020.
22	1319	特殊染色３（末梢血）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、285、2020.
22	0433	末血ALP染色	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、294～296、2020.
22	0423	骨髄像（マルク）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、278、2020.
22	1314	特殊染色１（マルク）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、285、2020.
22	1315	特殊染色２（マルク）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、285、2020.
22	1316	特殊染色３（マルク）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、285、2020.
22	2170	特殊染色４（マルク）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、285、2020.
23	0410	赤血球沈降速度	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、366～368、2020.
23	0184	ヘモグロビンF	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、364、2020.
23	5183	鼻汁喀痰中好酸球	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、912、2020.
24	0432	フィブリノーゲン	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、442、443、1527、2020.
24	3497	プロトロンビン時間	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、417、1527、2020.
24	3625	APTT	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、412～414、2020.
24	2361	血小板第４因子PF４	高橋　芳右、他：血液と脈管18(４)、326～335、1987.
24	5359	β－TG	高橋　芳右、他：血液と脈管18(４)、326～335、1987.
25	2351	凝固第２因子活性	安達　眞二：Medical Technology24(６)、629～633、1996.
25	2352	凝固第５因子活性	安達　眞二：Medical Technology24(６)、629～633、1996.
25	2353	凝固第７因子活性	安達　眞二：Medical Technology24(６)、629～633、1996.
25	2354	凝固第８因子活性	金井　正光：臨床検査法提要、第33版、349、2010.
25	2355	凝固第９因子活性	安達　眞二：Medical Technology24(６)、629～633、1996.
25	2356	凝固第10因子活性	安達　眞二：Medical Technology24(６)、629～633、1996.
25	2357	凝固第11因子活性	安達　眞二：Medical Technology24(６)、629～633、1996.
25	2364	凝固第12因子活性	安達　眞二：Medical Technology24(６)、629～633、1996.
25	2385	凝固第13因子抗原量	高橋　一郎、他：日本臨床62(増12)、660～662、2004.
25	2358	凝固抑制第８因子	金井　正光：臨床検査法提要、第33版、376、2010.
25	2359	凝固抑制第９因子	金井　正光：臨床検査法提要、第33版、376、2010.
25	1134	vW因子活性	高瀬　俊夫、他：検査と技術15、1193～1196、1987.
26	0427	プラスミノゲン活性	Friberger P et al：Haemostasis７、138～145、1978.
26	0442	アンチプラスミン活性	Friberger P et al：Haemostasis７、138～145、1978.
26	3312	AT－Ⅲ	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、437～439、2020.
25	3313	血中総FDP	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、458、2020.
26	0430	尿FDP	藤巻　道男、他：血液凝固検査ハンドブック第２版、329、1992.

案内 頁	コード	検査項目名	参考文献名
26	3503	SFMC	八戸　雅孝、他：臨床病理60(12)別冊、1139～1144、2012.
26	4526	FM定量	内藤　澄悦、他：医学と薬学48、595～599、2002.
26	1204	D－Dダイマー定量	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、462、2020.
26	3627	トロンボモジュリン	小野　真弓、他：JJCLA38、114～117、2013.
27	5495	α２PI複合体	徐　吉夫、他：臨床検査機器・試薬16、1107～1113、1993.
27	0456	プロテインC活性	藤岡　貴：医学と薬学73(５)、621～626、2016.
27	5215	プロテインC抗原量	筒井　聰明、他：検査と技術12(７)、581～587、1984.
27	4963	プロテインS活性	藤岡　貴：医学と薬学73(５)、621～626、2016.
27	3502	プロテインS抗原量	安藤　秀実、他：医療と検査機器・試薬41(５)、509～519、2018.
27、93	4575	ループスアンチコアグラント	藤岡　貴：医学と薬学73(５)、621～626、2016.
27、91	5050	HIT抗体	阪田　敏幸：医学と薬学68(３)、547、2012. 宮田　茂樹：日本検査血液学会雑誌12(１)、60､2011.
28	0851	病理組織標本作製１臓器	長村　義之：エッセンシャル病理学、第６版、2009. 長村　義之：外科病理マニュアル、第２版、1996.
28	0852	病理組織標本作製２臓器	長村　義之：エッセンシャル病理学、第６版、2009. 長村　義之：外科病理マニュアル、第２版、1996.
28	0854	病理組織標本作製３臓器	長村　義之：エッセンシャル病理学、第６版、2009. 長村　義之：外科病理マニュアル、第２版、1996.
28	0853	標本判定	長村　義之：エッセンシャル病理学、第６版、2009. 長村　義之：外科病理マニュアル、第２版、1996.
29	1227	エストロゲンレセプター	高久　史麿：臨床検査データブック2021-2022、2021.
29	1226	プロゲステロンレセプター	高久　史麿：臨床検査データブック2021-2022、2021.
29	5976	HER－２タンパク	高久　史麿：臨床検査データブック2021-2022、2021.
31	0883	一般細胞診	金原　優：臨床検査増刊Vol44、2000.
31	0882	細胞診　婦人科	平井　康夫：ベセスダシステム2014アトラス、2014.
31	0893	細胞診　肺癌集細胞法	金原　優：臨床検査増刊Vol44、2000.
31	0894	細胞診　肺癌３日連続法	金原　優：臨床検査増刊Vol44、2000.
35	1032	総蛋白（TP）	市原　清志、他：エビデンスに基づく検査診断実践マニュアル、初版、15～18、2011.
35	3601	アルブミン	市原　清志、他：エビデンスに基づく検査診断実践マニュアル、初版、19～21、2011.
35	3602	アルブミン／グロブリン比	市原　清志、他：エビデンスに基づく検査診断実践マニュアル、初版、15～21、2011.
35	3378	蛋白分画	伊藤　喜久：Medical Technology39(３)、278～284、2011.
35	2495	尿中アルブミン定量	木村　聡：薬の影響を考える臨床検査値ハンドブック、２版、206、2014.
35	2494	尿中アルブミン定性	木村　聡：薬の影響を考える臨床検査値ハンドブック、２版、206、2014.
35	2169	尿中トランスフェリン	齋藤　良一、他：日本臨床検査自動化学会会誌25(５)、687～690、2020.
35	4589	尿４型コラーゲン	小幡　賢一、他：臨床検査機器・試薬18、439～444、1995.
35	4964	L型脂肪酸結合蛋白（L-FABP）	森　さゆり、他：医療と検査機器・試薬41(６)、615～620、2018.
37	1051	尿素窒素（BUN）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、497～499、2020.
37	0105	尿UN	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、497～499、2020.
37	1049	尿　酸（UA）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、503～507、2020.
37	0106	尿UA	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、503～507、2020.
37	3521	クレアチン	今野　稔：Med.Technol.12、270～276、1984.
37	1055	尿クレアチン	今野　稔：Med.Technol.12、270～276、1984.
37	1052	クレアチニン	市原　清志、他：エビデンスに基づく検査診断実践マニュアル、初版、30～31、2011.
37	1053	尿クレアチニン	市原　清志、他：エビデンスに基づく検査診断実践マニュアル、初版、30～31、2011.
37	4859	eGFRcreat	市原　清志、他：エビデンスに基づく検査診断実践マニュアル、初版、30～31、2011.
37	3281	シスタチンC	八塚　信明、他：医学と薬学54、877～881、2005.
37	1056	アンモニア（NH３）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、508～510、2020.
38	3524	アミノ酸定量全種（全種）	植木　眞琴、他：臨床病理 28(補)、138、1980. 大沢　恵津子、他：臨床化学シンポジウム 20、142、1980. Stein、W. H. and Moore、S.：J. Biol. Chem. 176、337、1948.
38	3525	尿アミノ酸定量全種（全種）	植木　眞琴、他：臨床病理 28(補)、138、1980. 大沢　恵津子、他：臨床化学シンポジウム 20、142、1980. Stein、W. H. and Moore、S.：J. Biol. Chem. 176、337、1948.
38	0459	BTR	和田　明子、他：臨床検査機器・試薬18、621～627、1995.
39	0209	血糖	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、515～520、2020.
39	4929	HbA１c	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、520～522、2020.
39	3229	糖尿病分類	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、820～823、2020.
39	3287	グリコアルブミン（GA）	永峰　康孝、他：医学と薬学51、737～745、2004.
39	3288	１,５AG	山内　俊一：日本臨床53、553～556、1995.
39、134	3233	抗GAD抗体	及川　洋一、他：医学と薬学72(９)、1551～1560、2015.
39	3445	抗IA-２抗体	川崎　英二、他：医学と薬学66(２)、345～352、2011.
39	0107	乳酸	浅沼　和子、他：生物試料分析8、16～24、1985.
39	0108	ピルビン酸	浅沼　和子、他：生物試料分析8、16～24、1985.
41	3486	ALP（IFCC）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、602～604、2020.
41	1012	AST（GOT）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、621～624、2020.
41	1013	ALT（GPT）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、621～624、2020.
41	3487	LD（IFCC）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、626～627、2020.
41	1017	γ-GT	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、633～634、2020.
41	1016	LAP	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、1526、2020.
41	1015	コリンエステラーゼ	木村　聡：薬の影響を考える臨床検査値ハンドブック、２版、38～39、2014.
41	1018	CK	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、615～616、2020.
41	1020	アミラーゼ	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、607～610、2020.

案内 頁	コード	検査項目名	参考文献名
41	1021	尿アミラーゼ	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、607～610、2020.
41	3269	リパーゼ	松井　静代、他：医学と薬学41、489～496、1999.
41	2371	トリプシン	河野　幹彦、他：医学と薬学53(５)、635、2005.
41	1025	尿NAG	櫻林　郁之介、他：臨床検査項目辞典、188～189、2008.
42	1279	ペプシノゲン	三木　一正、他：医学と薬学49、519、2003.
42	1024	アルドラーゼ	宮原　洋一：Med.Technol.12、157～162、1984.
42	1324	膵PLA２	竹田　昌弘、他：ホルモンと臨床38(７)、729～734、1990.
42	0141	グアナーゼ	伊東　進：肝胆膵11、448～456、1985.
42	3282	ACE	Kasahara、Y、et al.：Clin Chem.27、1922、1981.
42	3522	ADA	山田　満博、他：JJCLA17、135～140、1992.
42	2372	体腔液中ADA	山田　満博、他：JJCLA17、135～140、1992.
43	3535	ABC分類（LA）	NPO法人　日本胃がん予知・診断・治療研究機構：胃がんリスク検診(ABC検診)マニュアル、９～10、2009.
44	3492	LDアイソザイム（IFCC）	星野　忠、他：臨床化学48補冊１、229、2019.
44	3491	ALPアイソザイム（IFCC）	高橋　美記子、他：医療検査と自動化46、53～58、2021.
44	3263	Amy－アイソザイム	星野　忠、他：JJCLA37、293～297、2012.
44	3264	尿Amyアイソザイム	星野　忠、他：JJCLA37、293～297、2012.
44	4617	P型アミラーゼ定量	古川　雅規、他：医学検査64、448、2015.
44	3265	CKアイソザイム	石浦　章一、他：臨床検査MOOK11、67～72、1982.
44	5409	CK－MB	櫻林　郁之介、他：臨床検査項目辞典、146～149、2008.
45	1001	総ビリルビン（T-Bil）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、564、2020.
45	1002	直接ビリルビン（D-Bil）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、564、2020.
45、53	0525	尿中δ-アミノレブリン酸	園藤　陽子、他：産業医学35、126～127、1993.
45	0528	尿ウロポルフィリン	近藤　雅雄：日本臨床　53(６)、1377～1382、1995.
45	5228	赤血球コプロポルフィリン	Salmi M et al：Clinical Chemistry26(13)1832～1835.1980.
45	0526	尿コプロポルフィリン	近藤　雅雄：日本臨床　53(６)、1377～1382、1995.
45	2246	赤血球プロトポルフィリン	Salmi M et al：Clinical Chemistry26、1832、1980.
46	0122	ICG停滞率	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、1522～1523、2020.
46	0140	ICG消失率	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、1522～1523、2020.
46	0183	PFD	Yamato C et al：Anal Biochem98、13、1979.
47	1035	総コレステロール	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、541、2020.
47	1036	遊離コレステロール	金井　正光：「臨床検査法提要」第33版、464、2010.
47	1040	HDLコレステロール	市原　清志、他：エビデンスに基づく検査診断実践マニュアル、初版、118～121、2011.
47	1037	中性脂肪	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、543～544、2020.
47	3271	リン脂質	岡部　和彦、他：日本臨床43(秋季増刷)、352～355、1985.
47	3267	コレステロール分画	大井　絹枝、他：検査と技術29、973～979、2001.
47	3266	リポ蛋白分画	芝　紀代子、他：臨床検査29、1335～1340、1985.
47	3556	リポ蛋白分画/HPLC法	廣渡　祐史、他：臨床化学41、327～335、2012.
47	3557	sd LDL-C	中村　麻里衣、他　：新薬と臨牀71、３～12、2022.
47	3297	アポリポ蛋白A１	山田　満廣、他：臨床検査機器・試薬11、794～800、1988.
47	3298	アポリポ蛋白A２	山田　満廣、他：臨床検査機器・試薬11、794～800、1988.
47	3299	アポリポ蛋白B	山田　満廣、他：臨床検査機器・試薬11、794～800、1988.
47	3300	アポリポ蛋白C２	山田　満廣、他：臨床検査機器・試薬11、794～800、1988.
47	3301	アポリポ蛋白C３	山田　満廣、他：臨床検査機器・試薬11、794～800、1988.
47	3302	アポリポ蛋白E	山田　満廣、他：臨床検査機器・試薬11、794～800、1988.
48	0155	レムナント様リポ蛋白Ch	滝野　豊、他：医学と薬学56、269、2006.
48	1298	リポ蛋白（a）	藤田　誠一、他：臨床化学20、193～202、1991.
48	5440	HDL２,３コレステロール	Bronzert TJ et al：Clinical Chemistry23(11)、2089～2098、1977.
48	5536	LDLコレステロール	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、554、2020.
48	4877	MDA－LDL	小谷　一夫：酸化ストレスマーカー学術出版センター、243～246、2005.
48	3272	胆汁酸（TBA）	藤原　啓子：臨床病理37、1114～1121、1989.
49	3341	脂肪酸分画（４成分）	小沢　昭夫、他：分析化学31、87～91、1982.
49	1113	脂肪酸分画（24成分）	小沢　昭夫、他：分析化学31、87～91、1982.
50	1061	Na	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、735～736、2020.
50	0131	尿Na	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、735～737、2020.
50	1064	Cl	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、739～741、2020.
50	0133	尿Cl	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、739～741、2020.
50	1062	K	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、737～739、2020.
50	0132	尿K	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、737～739、2020.
50	1063	Ca	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、577～578、2020.
50	0134	尿Ca	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、577～578、2020.
50	5392	イオン化Ca	桑　克彦：検査と技術19、119～124、1991.
50	1066	Mg	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、583～584、2020.
50	0110	尿Mg	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、583～584、2020.
50	1065	無機リン（P）	木村　聡：薬の影響を考える臨床検査値ハンドブック、２版、77、2014.
50	0181	尿無機リン（P）	木村　聡：薬の影響を考える臨床検査値ハンドブック、２版、77、2014.
51	1067	鉄（Fe）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、591、2020.
51	1069	総鉄結合能（比色）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、592、2020.
51	1068	不飽和鉄結合能（比色）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、592、2020.
51	3273	銅（Cu）	山下　寿美子、他：JJCLA18、48～52、1993.
51	1044	アルミニウム	Mazzeo-Farina.A.andCerulli.N：Clin.Chim.Acta147、247、1985.
51	3453	Zn	井上　哲、他：医療と検査機器・試薬 41(３)、283、2018.

案内 頁	コード	検査項目名	参考文献名
51	2511	クロム（Cr）	松岡　澄：産業医学13(６)、525～537、1971. 田中　俊行、他：医学と生物学101(５)、277～281、1980.
51	2509	血中マンガン	Tsalev DL et al：Bulletin of Environmental Contamination & Toxicology17(６)、660～666、1977.
51	2507	血中カドミウム	Lagesson V et al：Clinical Chemistry25(11)、1948～1953、1979.
51	2508	尿カドミウム	Lagesson V et al：Clinical Chemistry25(11)、1948～1953、1979.
51	2506	尿鉛	原田　章、他：鉛健康診断のすすめ方、56、1990.
52	2388	結石分析	神　ちひろ、他：分析化学53(７)、735～741、2004.
52	2562	エチルアルコール	馬嶋　正隆、他：北里医学14、424～430、1984.
52	3317	浸透圧	長浜　大輔、他：検査と技術14、961、1986.
52	3318	尿浸透圧	長浜　大輔、他：検査と技術14、961、1986.
52	2406	ケトン体分画	Harano、Y.et al：Clin.Chim.Acta134、327、1983.
53	1413	赤血球遊離プロトポルフィリン	新沼　幸子、他：産業医学23、254～259、1981.
53	4569	血清インジウム	野本　昭三：生体試料中微量金属の測定法、微量金属代謝7、1～10、1979.
53	5375	総三塩化物（トリクロルエチレン）	城山　康、他：松仁会医誌25(２)、225～231、1986.
53	4765	総三塩化物（1・1・1-トリクロルエタン）	城山　康、他：松仁会医誌25(２)、225～231、1986.
53	4766	総三塩化物（テトラクロルエチレン）	城山　康、他：松仁会医誌25(２)、225～231、1986.
53	2467	トリクロル酢酸（トリクロルエチレン）	城山　康、他：松仁会医誌25(２)、225～231、1986.
53	4767	トリクロル酢酸（1・1・1-トリクロルエタン）	城山　康、他：松仁会医誌25(２)、225～231、1986.
53	4768	トリクロル酢酸（テトラクロルエチレン）	城山　康、他：松仁会医誌25(２)、225～231、1986.
53	5010	馬尿酸（トルエンの代謝物）	岸浪　菊江子、他：臨床化学17(３)、128～135、1988.
53	5011	メチル馬尿酸（キシレンの代謝物）	岸浪　菊江子、他：臨床化学17(３)、128～135、1988.
53	5247	N－メチルホルムアミド	Mraz J et al：Journal of Chromatography414、399～404、1987.
53	5253	２，５－ヘキサンジオン	Iwata M et al：Int Arch Occup Environ Health51、253～260、1983.
53	5012	尿マンデル酸（エチルベンゼン）	岸浪　菊江子、他：臨床化学17(３)、128～135、1988.
55	2267	ビタミンB１	宮川秀則、他：生物試料分析36(４)、327～330、2013.
55	2268	ビタミンB２	大石　誠子：ビタミンハンドブック３　ビタミン分析法(化学同人)71～80、1989.
55	2270	ビタミンB12	河口　行雄、他：医学と薬学41、145～151、1999.
55	5255	ビタミンC	Esteve M J etal：J.Chromatogr.B、688、345、1997.
55	3285	葉酸	安田　和人、他：臨床検査機器・試薬25、441～448、2002.
55	2272	ニコチン酸	宮沢　滋：ビタミン56(９・10)、487～499、1982.
56、125	2181	１,25-$(OH)_2$ビタミンD	Fraser WD et al：Ann Clin Biochem34、632～637、1997.
56、125	3432	25-OHビタミンD	Ersfeld、D.L.et al：Clin.Biochem.37、867～874、2004.
56、125	3448	25-OHビタミンD/ECLIA	Batista、M.C.et al：Clin Chem Lab Med.56、e298～e301、2018.
56	2498	ビタミンK分画	langenberg JP et al：Journal of Chromatography305、61～72、1984.
56	3104	カルニチン	伊丹　儀友、他：臨床検査58、651～658、2014.
57	2258	CEA	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、641、2020.
57	2487	BFP	設楽　光弘、他：臨床病理36(９)、1039～1044、1988.
57	2259	α－FP	三橋　太、他：臨床検査機器・試薬23、413～419、2000.
57	3242	PIVKA－Ⅱ	田中　一平、他：細胞47、561～565、2015
57	2451	DUPAN－２	櫻林　郁之介、他：臨床病理34(６)、705～710、1986.
57	1093	エラスターゼ１	大出　勝也、他：肝と膵23(６)、477～480、2002.
57	2402	CA19－９	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、641～642、2020.
57	2486	SPan－１抗原	福田　容子、他：核医学27、405～413、1990.
57	3652	APOA2アイソフォーム	十亀　麻子、他：医学と薬学80、1089～1096、2023.
57	2489	NCC－ST－439	吉岡　久、他：臨床病理35、1233～1238、1987.
58	2460	SLX	井村　裕夫、他：癌と化学療法14(５)、1315～1321、1987.
58	4921	ProGRP	吉村　徹、他：医学と薬学62、759～766、2009.
58	2407	NSE	矢田　紗世、他：医学と薬学74(７)、831～840、2017.
58	4840	抗p53抗体	橋本　礼輔、他：医学と薬学75、955～964、2018.
58	3339	SCC抗原	林　圭織、他：医学と薬学76(12)、1809～1818、2019.
59	0457	CA54／61	野澤　志朗、他：癌と化学療法19(12)、2085～2093、1992.
59	3446	HE４	木村　英三：産婦人科の実際64(８)、1055、2015. 竹内　聡、他：Biotherapy23(２)、136、2009.
59	3292	CA125	梅木　尚子、他：日臨検自動化会誌26、143、2001.
59	3564	TFPI ２	大竹　則久、他：東ソー研究・技術報告62、23、2018.
59	2488	CA72－４	矢田　紗世、他：医学と薬学74(７)、831～840、2017.
59	1256	STn抗原	井村　裕夫、他：癌と化学療法16、3213～3219、1989.
59	3325	CA15－３	熊田　益子、他：医学と薬学54、551～554、2005.
59	3361	BCA225	小林　美耶子、他：医学と薬学72(７)、1249～1259、2015.
59、132	2212	HCG定量	櫻林　郁之介、他：臨床検査項目辞典、424～427、2008.
59、132	3612	尿HCG定量	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、177～178、2020.
59、132	3642	遊離βHCG	日本産科婦人科学会/日本病理学会　編：絨毛性疾患取扱い規約、第３版、59-65、2011.
60	1143	PSA	木村　聡：薬の影響を考える臨床検査値ハンドブック、２版、172～173、2014.
60	4544	高感度PSA	木村　聡：薬の影響を考える臨床検査値ハンドブック、２版、172～173、2014.
60	3320	PSA－ACT	大野　明美、他：医学と薬学49、325～332、2003.
60	4586	PSA－F／T比	武田　悟、他：Prog.Med21、2279～2283、2001.
60	3653	S2,3PSA％	米山　徹、他：医療と検査機器・試薬46、244～257、2023.
60	3389	γ－セミノプロテイン	佐藤　達郎、他：医学と薬学43、97、2000.
60	5013	血清５-S-CD	Wakamatsu K et al：Clinical Chemistry40(３)、495～496、1994.
60	2177	sIL-２R	飯沼　克弘、他：医学検査59、141～145、2010.
61	5509	ＩCTP	清原　剛、他：ホルモンと臨床42(12)、1189～1193、1994.
61、126	4579	尿DPD	山本　逸雄、他：ホルモンと臨床44、747～757、1996.

案内 頁	コード	検査項目名	参考文献名
61	4870	TRACP－5b	西沢　良記、他：医学と薬学54、709～717、2005.
62、126	4564	BAP	倉澤　健太郎　他：医学と薬学55(2)、279～284、2006.
62、125	5049	total-P1NP	日高　好博：医学と薬学70、357～365、2013.
68	2551	フェノバルビタール	海老原　昭夫、扇谷　茂：くすりのプロフィールとモニタリングメモ、22～23、1991.
68	2552	プリミドン	宮本　侃治：臨床化学6(3)、202～211、1978.
68	2553	フェニトイン	海老原　昭夫、扇谷　茂：くすりのプロフィールとモニタリングメモ、20～21、1991. メディカルテクノロジー36(3)、257～261、2008.
68	2554	カルバマゼピン	メディカルテクノロジー36(3)、257～261、2008.
68	2555	エトスクシミド	宮本　侃治：臨床化学6(3)、202～211、1978.
68	2559	バルプロ酸Na	メディカルテクノロジー36(3)、257～261、2008.
68	1117	ゾニサミド	一般社団法人日本TDM学会編：抗てんかん薬TDM標準化ガイドライン2018.
68	1118	トリメタジオン	Sadee W et al：ドラッグレベルモニタリング、100、1982.
69	5372	ジアゼパム	Brodie RR et al：Journal of Chromatography150、361～366、1978.
69	4997	レベチラセタム	赤松　直樹、他：Epilepsy 4(2)、129、2010.
69	4960	トピラマート	小嶺　幸弘：沖縄医報45(9)、51、2009. 金澤　治：こころの科学157、45、2011.
69	3465	ラコサミド	Kim、J.S.et al：Brain Dev36(6)、510、2014.
69	3466	ペランパネル	花田　敬久：脳21(16)、3、322、2013. Mano、Y.et al：J.Pharm.Biomed.Ana.107、56、2015.
69	3482	リチウム	金井　正光：臨床検査法提要、第33版、586、2010.
69	2463	ハロペリドール	白井　晶子、他：医学と薬学49、1011～1017、2003.
69	5236	ブロムペリドール	白井　晶子、他：医学と薬学50(1)、101～107、2003.
69	3618	クロザピン	矢田　勇慈：臨床精神薬理25(1)、9、2022. 野村　信行：臨床精神薬理23(1)、85、2020.
70	2572	ジゴキシン	Jacques Wallach著、福井　次矢監、田島　裕訳：ワラック検査値ハンドブック、6版、19章、1997.
70	5388	リドカイン	宮本　侃治：臨床化学6(3)、202～211、1978.
70	5387	キニジン	木村　英樹、他：日本臨床検査自動化学会誌33(5)、860～864、2008.
70	2574	プロカインアミド	木村　英樹、他：日本臨床検査自動化学会誌33(5)、860～864、2008.
71	4602	ピルメノール	市川　林、他：臨床医薬11(4)、903～906、1995.
71	5386	プロプラノロール	Ahnoff M et al：Journal of Chromatography340、73～138、1985.
71	2579	ゲンタマイシン	石橋　みどり、他：医学と薬学42(6)、1061～1074、1999.
71	4857	トブラマイシン（トラフ値）	木村　英樹、他：日本臨床検査自動化学会誌33(5)、860～864、2008.
71	2578	トブラマイシン（ピーク値）	木村　英樹、他：日本臨床検査自動化学会誌33(5)、860～864、2008.
71	2576	アミカシン	木村　英樹、他：日本臨床検査自動化学会誌33(5)、860～864、2008.
71	4796	バンコマイシン（トラフ値）	ナノピアTDMバンコマイシン、添付文書、積水メディカル
71	4797	バンコマイシン（ピーク値）	ナノピアTDMバンコマイシン、添付文書、積水メディカル
71	4541	テイコプラニン	諸岡 美里、他：日本臨床検査自動化学会会誌38(1)、79～82、2013.
72	5379	サリチル酸	木村　英樹、他：日本臨床検査自動化学会誌33(5)、860～864、2008.
72	2229	シクロスポリン	古屋　実、他：医学と薬学70(5・6)、961～973、2013.
72	4645	タクロリムス	古屋　実、他：医学と薬学70(5・6)、961～973、2013.
72	5453	メトトレキサート	中原　佑香里、他：医学と薬学72(4)、761～767、2015.
72	2556	テオフィリン	海老原　昭夫、扇谷　茂：くすりのプロフィールとモニタリングメモ、6～7、1991.
75	3481	カンジダマンナン抗原	新崎　晃弘、他：臨床検査機器・試薬23(3)、197～203.2000. 吉田　耕一郎、他：感染症学雑誌76(7)、536～541、2002.
75	3326	β－D－グルカン	吉田 耕一郎、他：医学と薬学67、895、2012. 大林 民典：臨床病理44、528、1996.
75	1458	アスペルギルス抗原	堀口　祐司：感染症学雑誌78、566～573、2004.
75	3460	エンドトキシン－ES	石原　美弥子、他：検査と技術30、739、2003.
75	4880	プロカルシトニン定量	齋藤　大輔、他：医学と薬学62(2)、323、2009.
75	5298	C. ネオフォルマンス抗原	篠田　孝子、他：真菌と真菌症30(3)、211～221、1989.
75	1075	ASO	金井　正光：臨床検査法提要、第35版、908～909、2020.
75	1356	トキソプラズマ抗体IgM	亀井　喜世子、他：臨床病理42(7)、743～747、1994.
75	1358	トキソプラズマ抗体IgG	亀井　喜世子、他：臨床病理42(7)、743～747、1994.
76	3026	オーム病クラミジア	北村　元仕、他：臨床検査マニュアル、880～886、1988.
76	1359	クラミジアトラコマチス抗体	梶原　祥子、他：医学と薬学37、711、1997.
76	5038	クラミジアニューモニエIgG	松本　明：第22回日本臨床微生物学会総会ワークショップ1
76	5039	クラミジアニューモニエIgA	松本　明：第22回日本臨床微生物学会総会ワークショップ1
76	5040	クラミジアニューモニエIgM	宮下修行、他：小児科診療71(1)、95～99、2008.
77	3504	尿素呼気試験ユービット	Ohara、S.et al：Hericobacter 3、49、1998.
77	4740	H. ピロリ抗原定性（便）	福田　能啓、他：医学と薬学52、261～266、2004.
77	3541	H. ピロリ抗体（LA）	兒玉　雅明、他：医学と薬学73、737～744、2016.
78	4973	百日咳菌抗体	岡田　賢司：医学と薬学65、531～536、2011.
78	3418	百日咳菌核酸検出	Kamachi、K.et al：J.Clin.Microbiol.44、1889～1902、2006.
78	1345	恙虫ギリアムIgG	山本　正悟：臨床とウイルス12(3)、270～274、1984.
78	1341	恙虫ギリアムIgM	山本　正悟：臨床とウイルス12(3)、270～274、1984.
78	1346	恙虫カトーIgG	山本　正悟：臨床とウイルス12(3)、270～274、1984.
78	1342	恙虫カトーIgM	山本　正悟：臨床とウイルス12(3)、270～274、1984.
78	1347	恙虫カーブIgG	山本　正悟：臨床とウイルス12(3)、270～274、1984.
78	1343	恙虫カーブIgM	山本　正悟：臨床とウイルス12(3)、270～274、1984.
79	5074	寒冷凝集反応	岩本　幸子：免疫と疾患6、335、1983.
79	0334	マイコプラズマ抗体（PA）	円山　顕次：検査と技術16、738、1988.
79	4975	マイコプラズマ核酸検出	山口　恵三、他：医学と薬学58(4)、565～571、2007.

案内 頁	コード	検査項目名	参考文献名
79	3107	MAC抗体（抗酸菌抗体定性）	Kitada.S.et al：Clin.Diagn.Lab.Immunol.12、44～51、2005. Kitada.S.et al：Am.J.Respir.Crit.Care Med.177、793～797、2008.
79	4965	T－SPOT　TB	原田　登之、他：モダンメディア54(５)、148、2008.
80	2523	RPR定性	木村　聡：薬の影響を考える臨床検査値ハンドブック、２版、189、2014.
80	3607	TPLA定性	メディエースTPLA、添付文書、積水メディカル
80	2524	RPR定量	木村　聡：薬の影響を考える臨床検査値ハンドブック、２版、189、2014.
80	3608	TPLA定量	メディエースTPLA、添付文書、積水メディカル
80	0312	FTA－ABS定性	山屋　駿一：微生物検査必携　細菌・真菌検査、第３版、H83～H91、1995.
80	5297	FTA－ABSIgM	厚生省監修：微生物検査必携　免疫血清反応検査、第２版、196、1978.
81	0313	ABO式血液型	日本臨床衛生検査技師会編：輸血・移植検査技術教本、第２版、2016.
81	0314	Rh式（D)血液型	日本臨床衛生検査技師会編：輸血・移植検査技術教本、第２版、2016.
81	0315	Rh－タイピング	日本臨床衛生検査技師会編：輸血・移植検査技術教本、第２版、2016.
81	0318	直接クームス試験	日本臨床衛生検査技師会編：輸血・移植検査技術教本、第２版、2016.
81	0319	間接クームス試験	日本臨床衛生検査技師会編：輸血・移植検査技術教本、第２版、2016.
81	0322	間接クームス試験定量	日本臨床衛生検査技師会編：輸血・移植検査技術教本、第２版、2016.
81	0320	不規則抗体	日本臨床衛生検査技師会編：輸血・移植検査技術教本、第２版、2016.
81	0381	クロスマッチ	日本臨床衛生検査技師会編：輸血・移植検査技術教本、第２版、2016.
83	0357	α１アンチトリプシン	櫻林　郁之介、他：臨床病理　特53、71～81、1983.
83	1108	レチノール結合蛋白	古田島　伸雄、他：日本臨床検査自動化学会誌32(１)、84～88、2007.
83	3321	β２-MG	徳山　昌司郎、他：医学と薬学39、835～844、1998.
83	3463	尿β２－MG	伊藤　浩治、他：医療と検査機器・試薬26(２)、127、2003.
83	1092	ハプトグロビン	櫻林　郁之介、他：臨床病理　特53、71～81、1983.
83	3590	SAA	旭　由香里、他：医学と薬学 78、175-181、2021.
83	1094	CRP定性	市原　清志、他：エビデンスに基づく検査診断実践マニュアル、初版、167～169、2011.
83	1059	CRP定量	市原　清志、他：エビデンスに基づく検査診断実践マニュアル、初版、167～169、2011.
83	2280	フェリチン	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、487、2020.
83	3268	トランスフェリン	斎藤　憲祐：臨床病理　特101、38～47、1996.
83	5270	セルロプラスミン	櫻林　郁之介、他：臨床病理　特53、71～81、1983.
83	5525	C１インアクチベータ	Dick W et al：Immun Infekt13、113～118、1985.
83	5274	α２マクログロブリン	櫻林　郁之介、他：臨床病理　特53、71～81、1983.
83	3457	α１-マイクログロブリン	徳山　昌司郎：医学と薬学39(４)、835、1998. 伊藤　喜久：検査と技術16(７)、658、1988. 伊藤　喜久：臨床検査32(８)、863、1988.
83	3458	尿α１マイクログロブリン	徳山　昌司郎：医学と薬学39(４)、835、1998. 伊藤　喜久：検査と技術16(７)、658、1988. 伊藤　喜久：臨床検査32(８)、863、1988.
83	2150	肝細胞増殖因子	二井谷　好行、他：臨床検査35(13)、1360～1364、1991.
84	3279	CH50	大當　京子、他：医学と薬学76、345～353、2019.
84	3277	C３	黒澤　弘美、他：臨床検査機器・試薬25、159～165、2002.
84	3278	C４	黒澤　弘美、他：臨床検査機器・試薬25、159～165、2002.
84	3275	IgG	黒澤　弘美、他：臨床検査機器・試薬25、159～165、2002.
84	3274	IgA	黒澤　弘美、他：臨床検査機器・試薬25、159～165、2002.
84	3276	IgM	黒澤　弘美、他：臨床検査機器・試薬25、159～165、2002.
84	3324	IgGサブクラス分画	川　茂幸、他：医学と薬学74(４)、463～470、2017.
84	3328	IgG２	川　茂幸、他：医学と薬学74(４)、463～470、2017.
84	3357	IgG４	松木　友里、他：医学と薬学75(７)、849～858、2018.
84	3587	LRG	高山　茂雄、他：医学と薬学 76(12)、1769～1780、2019. 藤本　穣、他：医学のあゆみ 270(13)、1215～1216、2019.
84	3433	便中カルプロテクチン	松岡　克善、他：医学と薬学 74、717～726、2017.
85	3342	オリゴクローナルバンド	佐々木　征治、他：最新電気泳動実験法、61～74、1999.
85	2343	ミエリン塩基性蛋白（MBP）	中山　莉奈子、他：医学と薬学80(９)、921～925、2023.
85	0157	クリオグロブリン	金井　正光：臨床検査法提要、第33版、729、2010.
85	3526	インターロイキン-６（IL-６）	エクルーシス試薬　IL-６試薬添付文書：Shimazui T、et al.、Shock、2020.
85	4562	SP－D	村田　誠、他：医学と薬学71、2303～2308、2014.
85	4847	SP－A	大木　卓、他：医学と薬学71、161～166、2014.
85、135	5217	心室筋ミオシン軽鎖I	宮崎　修一、他：医学と薬学52(３)、443～449、2004.
85、135	0156	心筋トロポニンT	古屋　実、他：医学と薬学74(５)、607～617、2017.
85、135	2341	ミオグロビン	吉川　文雄、他：医学と薬学37(５)、1243～1253、1997.
86	4510	４型コラーゲン	山田　満廣、他：臨床検査機器・試薬15、489～496、1992.
86	3498	４型コラーゲン・７S	大高木　結媛、他：医学と薬学77(５)、785～792、2020.
86	2462	P－Ⅲ－P	上野　隆登、他：医学と薬学24、675、1990.
86	2468	ヒアルロン酸	島村　朗、他：医学と薬学44、1141～1146、2000.
86	3444	オートタキシン	池田　均：医学のあゆみ263(13)、1050、2017. 島本　怜史、他：東ソー研究・技術報告61、99、2017.
87	0348	IEP－抗人全血清	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、842～847、2020.
87	0349	IEP－抗人特異血清	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、842～847、2020.
87	2411	血清免疫固定電気泳動	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、842～847、2020.
87	2412	尿免疫固定電気泳動	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、842～847、2020.
87	0350	尿B－J蛋白同定	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、842～847、2020.
87	5071	免疫グロブリン遊離L鎖κ/λ比	守田　由香、他：医学と薬学74、945～950、2017.
88	3290	リウマトイド因子（RF定量）	森　大輔、他：日本臨床検査自動化学会雑誌37、751、2012.
88	1357	IgG型リウマチ因子	中園　清：医学と薬学 45(３)、481～486、2001.

案内 頁	コード	検査項目名	参考文献名
88	1310	免疫複合体	森　勝志、他：医学と薬学27(２)、347～354、1992.
88	4597	MMP－３	氏家　真二、他：医学と薬学67、741～747、2012.
88	4572	抗ガラクトース欠損IgG抗体	平山　吉郎、他：医学と薬学42(５)、817～828、1999.
89	3643	抗核抗体（FAT法）	林　伸英、他：臨床病理 64(２)、142、2016.
89	5034	抗核抗体（FEIA法）	渡辺　幸子、他：臨床病理35、61～66、1987.
89	2321	抗DNA抗体	宮脇　晶二、他：日本臨床免疫学会会誌17(３)、164～171、1994.
89	2348	抗ssDNA－IgG	陣内　記代、他：日本臨床検査自動化学会会誌26(６)、747～753、2001.
89	2347	抗dsDNA－IgG	陣内　記代、他：日本臨床検査自動化学会会誌26(６)、747～753、2001.
89	2349	抗ssDNA－IgM	山下　雅樹、他：医学と薬学58(５)、763～767、2007.
89	2346	抗dsDNA－IgM	山下　雅樹、他：医学と薬学58(５)、763～767、2007.
89	3322	抗RNP抗体	朝倉　奈津子、他：医学と薬学62、747～757、2009.
89	3248	抗Sm抗体	高崎　芳成、他：医学と薬学72、139～146、2015.
89	4969	抗SS－A抗体	朝倉　奈津子、他：医学と薬学62、747～757、2009.
89	4970	抗SS－B抗体	朝倉　奈津子、他：医学と薬学62、747～757、2009.
90	4971	抗Scl－70抗体	濱口　儒人、他：医学と薬学72、1907～1911、2015.
90	5051	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	掛川　真弓、他：医学と薬学64、295～299、2010.
90	4972	抗Jo－１抗体	朝倉　奈津子、他：医学と薬学62、747～757、2009.
90	5053	抗ARS抗体	村上　昭弘、他：医学と薬学71、1403～1410、2014.
90	3493	抗MDA５抗体	佐藤　慎二：炎症と免疫22(６)、443、2014.
90	3494	抗TIF１-γ抗体	室　慶直：医学のあゆみ239(１)、83、2011. 佐藤　慎二：リウマチ科55(２)、227、2016.
90	3495	抗Mi-２抗体	室　慶直：医学のあゆみ239(１)、83、2011. 佐藤　慎二：リウマチ科55(２)、227、2016.
90	5527	抗セントロメア抗体	小島　和夫、他：医学と薬学69(３)、677～687、2013.
90	2331	抗ミトコンドリア抗体	岡野　哲郎、他：臨床病理37、1367～1372、1989.
90	2322	抗ミトコンドリアM２抗体	丹野　瑞木、他：医学と薬学67(３)、485～495、2012.
90	4598	抗LKM－１抗体	竹村　真理、他：医学と薬学46(１)、109～114、2001.
90	2332	抗平滑筋抗体	西岡　幹夫、他：肝胆膵11、591～597、1985.
91	5192	PR３－ANCA	松下 雅和、他：医学と薬学66(５)、823～828、2011.
91	5193	MPO－ANCA	松下 雅和、他：医学と薬学66(５)、823～828、2011.
91	5294	抗糸球体基底膜抗体	臼井　丈一、他：医学と薬学68(４)、697～704、2012.
91	2496	PA-IgG	林　悟、他：臨床病理32(11)、1253～1257、1984.
91	2329	抗血小板抗体	柴田　洋一：輸血学、457～470、1978.
91	3244	抗内因子抗体	Elizabeth　A.Gomez et al：Clinical　Chemistry51(１)、232～235、2005.
91	3245	抗胃壁細胞抗体	山内　進：衛生検査22(12)、1085～1089、1973.
91	1330	抗精子抗体	香山　浩二：日本産科婦人科学会雑誌42(11)、N209～N212、1990.
92	4733	抗デスモグレイン１抗体	吉田　かおり、他：医学と薬学70(５・６)、989-1000、2013.
92	4734	抗デスモグレイン３抗体	吉田　かおり、他：医学と薬学70(５・６)、989-1000、2013.
92	4866	抗BP180NC16a抗体	吉田　かおり、他：医学と薬学70(５・６)、989-1000、2013.
92	3413	抗ACレセプター抗体	太田　光熙、他：ホルモンと臨床48(１)、89～93、2000.
92	3239	抗MuSK抗体	本村　政勝、他：医学と薬学70(２)、421～428、2013.
92	3323	抗アクアポリン４抗体	高橋　利幸、他：医学と薬学73(10)、1297～1300、2016.
93	3506	抗リン脂質抗体パネル	出口　雅士、他：産科と婦人科87(suppl)、230、2020. 渥美　達也：腎と透析84(４)、572、2018.
93	3581	抗カルジオリピンIgG抗体	小川　昌起、他：医学と薬学78(４)、447～459、2021.
93	3582	抗カルジオリピンIgM抗体	小川　昌起、他：医学と薬学78(４)、447～459、2021.
93	3583	抗β２グリコプロテインⅠIgG抗体	小川　昌起、他：医学と薬学78(４)、447～459、2021.
93	3584	抗β２グリコプロテインⅠIgM抗体	小川　昌起、他：医学と薬学78(４)、447～459、2021.
93	2149	抗CLβ２GPI抗体	野島　順三、他：医学と薬学32(６)、1315～1320、1994.
94	4001	CD３	Ip、S.H. et al：Clin、Chem.28、1905～1909、1982.
94	4002	CD４	Ip、S.H. et al：Clin、Chem.28、1905～1909、1982.
94	4003	CD８	Ip、S.H. et al：Clin、Chem.28、1905～1909、1982.
94	4060	CD４／CD８比	Ip、S.H. et al：Clin、Chem.28、1905～1909、1982.
94	4007	抗HLA－DR	Ip、S.H. et al：Clin、Chem.28、1905～1909、1982.
95	4018	T細胞・B細胞百分率	江口　勝美、他：臨床検査34、685～691、1990.
95	4021	表面免疫グロブリンIgG	田沢　裕光、他：臨床病理33、426～430、1985.
95	4020	表面免疫グロブリンIgA	田沢　裕光、他：臨床病理33、426～430、1985.
95	4022	表面免疫グロブリンIgM	田沢　裕光、他：臨床病理33、426～430、1985.
95	4023	表面免疫グロブリンIgD	田沢　裕光、他：臨床病理33、426～430、1985.
95	4024	表面免疫グロブリンκ鎖	田沢　裕光、他：臨床病理33、426～430、1985.
95	4025	表面免疫グロブリンλ鎖	田沢　裕光、他：臨床病理33、426～430、1985.
95	5067	CD45　急性白血病解析セット	宮崎　年恭、他：臨床血液37、214～220、1996.
95	5068	７AAD　リンパ腫解析セット	Schmid、I.et al：Cytometry13、204～208、1992. Harris、N.L.et al：Blood84、1361～1392、1994.
96	5181	リンパ球幼若化PHA	笠原　忠、他：臨床検査23(７)、660～667、1979.
96	5182	リンパ球幼若化ConA	笠原　忠、他：臨床検査23(７)、660～667、1979.
96	4029	薬剤によるリンパ球刺激試験-１（DLST）	北見　啓之、他：臨床免疫15(９)、727～736、1983.
96	4030	薬剤によるリンパ球刺激試験-２（DLST）	北見　啓之、他：臨床免疫15(９)、727～736、1983.
96	4031	薬剤によるリンパ球刺激試験-３（DLST）	北見　啓之、他：臨床免疫15(９)、727～736、1983.

案内 頁	コード	検査項目名	参考文献名
96	4033	NK細胞活性	康　浩一、他：Medical Technology21(７)、574～580、1993.
97	4708	HLA－A、B	吉川　枝里、他：MHC10(１)、21～31、2003.
97	4709	HLA－DR	吉川　枝里、他：MHC10(１)、21～31、2003.
98	3349	RAS-BRAF遺伝子変異	日本臨床腫瘍学会：大腸癌診療における遺伝子関連検査のガイダンス、第３版、2016.
99	3566	MSI　結腸・直腸癌	廣中　秀一：がん分子標的治療16(１)、33、2018. 本多　和典、他：がん分子標的治療15(４)、371、2017.
99	3567	MSI　胃癌	廣中　秀一：がん分子標的治療16(１)、33、2018. 本多　和典、他：がん分子標的治療15(４)、371、2017.
99	3568	MSI　卵巣癌	廣中　秀一：がん分子標的治療16(１)、33、2018. 本多　和典、他：がん分子標的治療15(４)、371、2017.
99	3569	MSI　前立腺癌	廣中　秀一：がん分子標的治療16(１)、33、2018. 本多　和典、他：がん分子標的治療15(４)、371、2017.
99	3570	MSI　乳癌	廣中　秀一：がん分子標的治療16(１)、33、2018. 本多　和典、他：がん分子標的治療15(４)、371、2017.
99	3571	MSI　食道癌	廣中　秀一：がん分子標的治療16(１)、33、2018. 本多　和典、他：がん分子標的治療15(４)、371、2017.
99	3572	MSI　胆管癌	廣中　秀一：がん分子標的治療16(１)、33、2018. 本多　和典、他：がん分子標的治療15(４)、371、2017.
99	3573	MSI　膵臓癌	廣中　秀一：がん分子標的治療16(１)、33、2018. 本多　和典、他：がん分子標的治療15(４)、371、2017.
99	3574	MSI　その他癌	廣中　秀一：がん分子標的治療16(１)、33、2018. 本多　和典、他：がん分子標的治療15(４)、371、2017.
99	3575	MSI　子宮頸癌	廣中　秀一：がん分子標的治療16(１)、33、2018. 本多　和典、他：がん分子標的治療15(４)、371、2017.
99	3576	MSI　子宮内膜癌	廣中　秀一：がん分子標的治療16(１)、33、2018. 本多　和典、他：がん分子標的治療15(４)、371、2017.
99	3577	MSI　小細胞癌	廣中　秀一：がん分子標的治療16(１)、33、2018. 本多　和典、他：がん分子標的治療15(４)、371、2017.
99	3578	MSI　腎癌	廣中　秀一：がん分子標的治療16(１)、33、2018. 本多　和典、他：がん分子標的治療15(４)、371、2017.
99	3579	MSI　正常組織	廣中　秀一：がん分子標的治療16(１)、33、2018. 本多　和典、他：がん分子標的治療15(４)、371、2017.
99	3580	MSI　正常血液	廣中　秀一：がん分子標的治療16(１)、33、2018. 本多　和典、他：がん分子標的治療15(４)、371、2017.
102	4639	WT１mRNA定量	宮脇　修一、他：臨床血液46(12)、1279～1287、2005.
104	3004	アデノウイルスCF	北村　元仕、他：臨床検査マニュアル、880～886、1988.
104	3069	アデノウイルス１型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
104	3070	アデノウイルス２型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
104	3071	アデノウイルス３型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
104	3072	アデノウイルス４型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
104	3073	アデノウイルス５型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
104	3074	アデノウイルス６型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
104	3075	アデノウイルス７型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
104	1132	アデノウイルス11型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
104	3077	アデノウイルス19型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
104	1133	アデノウイルス37型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
105	3037	インフルエンザA型HI	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
105	3001	インフルエンザA型CF	北村　元仕、他：臨床検査マニュアル、880～886、1988.
105	3231	インフルエンザB型HI	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、214～225、1973.
105	3002	インフルエンザB型CF	北村　元仕、他：臨床検査マニュアル、880～886、1988.
105	3033	パラインフルエンザ１型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、214～225、1973.
105	3034	パラインフルエンザ２型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、214～225、1973.
105	3035	パラインフルエンザ３型	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、214～225、1973.
105	3020	RSウイルスCF	北村　元仕、他：臨床検査マニュアル、880～886、1988.
105	3040	RSウイルスNT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
106	3057	エコーウイルス１型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
106	3058	エコーウイルス３型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
106	3059	エコーウイルス４型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
106	5325	エコーウイルス５型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
106	3060	エコーウイルス６型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
106	3061	エコーウイルス７型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
106	3062	エコーウイルス９型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
106	5326	エコーウイルス11型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
106	5327	エコーウイルス12型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
106	3063	エコーウイルス13型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
106	4711	エコーウイルス14型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
106	5329	エコーウイルス16型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
106	3064	エコーウイルス17型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
106	5330	エコーウイルス18型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
106	4712	エコーウイルス19型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
106	4713	エコーウイルス21型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
106	4644	エコーウイルス22型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.

案内 頁	コード	検査項目名	参考文献名
106	4714	エコーウイルス24型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
106	3065	エコーウイルス25型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
106	3066	エコーウイルス30型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
107	1128	コクサッキーA群２型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
107	1129	コクサッキーA群３型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
107	5318	コクサッキーA群４型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
107	5523	コクサッキーA群５型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
107	4642	コクサッキーA群６型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
107	3048	コクサッキーA群７型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
107	3049	コクサッキーA群９型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
107	3013	コクサッキーA群９型CF	北村　元仕、他：臨床検査マニュアル、880～886、1988.
107	1130	コクサッキーA群10型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
107	3050	コクサッキーA群16型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
107	3051	コクサッキーB群１型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
107	3014	コクサッキーB群１型CF	北村　元仕、他：臨床検査マニュアル、880～886、1988.
107	3052	コクサッキーB群２型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
107	3015	コクサッキーB群２型CF	北村　元仕、他：臨床検査マニュアル、880～886、1988.
107	3053	コクサッキーB群３型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
107	3016	コクサッキーB群３型CF	北村　元仕、他：臨床検査マニュアル、880～886、1988.
108	3054	コクサッキーB群４型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
108	3017	コクサッキーB群４型CF	北村　元仕、他：臨床検査マニュアル、880～886、1988.
108	3055	コクサッキーB群５型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
108	3018	コクサッキーB群５型CF	北村　元仕、他：臨床検査マニュアル、880～886、1988.
108	3056	コクサッキーB群６型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
108	3019	コクサッキーB群６型CF	北村　元仕、他：臨床検査マニュアル、880～886、1988.
108	1428	エンテロ70型　NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
108	3068	エンテロ71型　NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
109	3024	日本脳炎ウィルスHI	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学、２版、総論、214、1973.
109	3010	日本脳炎ウィルスCF	北村　元仕、他：臨床検査マニュアル、880～886、1988.
109	1225	ムンプスIgM（EIA）	内田　立志、他：川崎医学会誌35、139～145、2009.
109	1224	ムンプスIgG（EIA）	尾崎　隆男、他：臨床とウイルス47、420～426、2019.
109	3031	ムンプスウィルスHI	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、214～225、1973.
109	3042	ムンプスウイルスNT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
109	3003	ムンプスCF	北村　元仕、他：臨床検査マニュアル、880～886、1988.
109	1222	麻疹IgM（EIA）	庵原　俊昭、他：医学と薬学69、969～975、2013.
109	1221	麻疹IgG（EIA）	庵原　俊昭、他：医学と薬学69、969～975、2013.
109	3041	麻疹ウイルスNT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学、２版、総論、260、1973.
110	3099	風疹IgM（EIA）	佐藤　俊則、他：臨床とウイルス23、44～47、1995.
110	3098	風疹IgG（EIA）	杉下　知子、他：医学と薬学28、325～334、1992.
110	0329	風疹（HI）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学、２版、総論、214、1973.
110	1336	パルボB19IgM	要藤　裕孝、他：感染症学雑誌69、1135～1140、1995.
110	1467	パルボB19IgG	要藤　裕孝、他：感染症学雑誌69、1135～1140、1995.
111	2244	単純ヘルペス特異抗原	川名　尚、他：感染症学雑誌61、1030～1037、1987.
111	3097	HSV　IgM（EIA）	川名　尚、他：医学と薬学69、517～522、2013.
111	3096	HSV　IgG（EIA）	川名　尚、他：医学と薬学69、517～522、2013.
111	1296	髄液HSV　IgG	川名　尚、他：医学と薬学69、517～522、2013.
111	3043	単純ヘルペス１型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
111	3044	単純ヘルペス２型NT	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論、２版、260～274、1973.
111	3005	単純ヘルペスCF	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学、２版、総論、226、1973. 厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジアリケッチア検査、第３版、第１分冊、31、1987.
111	1274	水痘・帯状ヘルペスウイルス抗原	佐多　徹太郎、他：日本臨床47、356～360、1989.
111	3094	水痘帯状IgM（EIA）	平野　勝、他：医学と薬学42、641～645、1999.
111	3093	水痘帯状IgG（EIA）	厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジアリケッチア検査、第３版、第１分冊、48、1987.
111	3006	水痘帯状ヘルペスCF	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学、２版、総論、226、1973. 厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジアリケッチア検査、第３版、第１分冊、31、1987.
113	3641	CMV核酸検出（新生児尿）	Mitani Y、et al：Nat Methods 4（３）、257～262、2007.
113	3501	CMV核酸定量	森　沙耶香、他：医学と薬学77（８）、1181～1188、2020.
113	4660	CMV抗原（C７HRP）	権藤　久司、他：臨床血液34(11)、1438～1444、1993.
113	3360	サイトメガロウイルス　IgM	熊田　洋高、他：医学と薬学72、1087～1094、2015.
113	3359	サイトメガロウイルス　IgG	熊田　洋高、他：医学と薬学72、1087～1094、2015.
113	3021	サイトメガロウイルスCF	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学、２版、総論、226、1973. 厚生省監修：微生物検査必携　ウイルス・クラミジアリケッチア検査、第３版、第１分冊、31、1987.
114	4792	EB抗EA　IgG	脇口　宏、他：医学と薬学58（２）、363～369、2007.
114	4793	EB抗VCA　IgM	脇口　宏、他：医学と薬学58（２）、363～369、2007.
114	4794	EB抗VCA　IgG	脇口　宏、他：医学と薬学58（２）、363～369、2007.
114	4795	EB抗EBNA　IgG	脇口　宏、他：医学と薬学58（２）、363～369、2007.
114	3081	EB抗EA－DR　IgG	日沼　頼夫、他：臨床病理　特(35)179～189、1978.
114	3079	EB抗VCA　IgM	日沼　頼夫、他：臨床病理　特(35)179～189、1978.
114	3078	EB抗VCA　IgG	日沼　頼夫、他：臨床病理　特(35)179～189、1978.
114	3083	EB抗EBNA	日沼　頼夫、他：臨床病理　特(35)179～189、1978.
114	3080	EB抗VCA　IgA	日沼　頼夫、他：臨床病理　特(35)179～189、1978.
114	3082	EB抗EA-DR　IgA	日沼　頼夫、他：臨床病理　特(35)179～189、1978.

案内 頁	コード	検査項目名	参考文献名
115	5341	ウイルス分離	Hsiung GD：Diagnostic Virology An Illustrated Handbook、３～20、1973.
115	5342	ウイルス同定	Hsiung GD：Diagnostic Virology An Illustrated Handbook、３～20、1973.
116	4887	HPV（ハイリスク）	石　和久、他：医学と薬学39、1998.
116	5048	HPVハイリスク（LBC）	石　和久、他：医学と薬学39、1998.
116	5046	HPV簡易ジェノタイプ	三浦　俊昭、他：医学と薬学69(１)、157、2013.
116	4948	HPVハイリスク13種	尾崎　聡、他：臨床病理60(７)、621、2012.
116	4888	HPV（ローリスク）	石　和久、他：医学と薬学39、849、1998.
117	5471	HTLV－１抗体CLIA	有馬　直道、他：医学と薬学65、651～655、2011.
117	3358	HTLV－１抗体LIA	Zein M、et al：Clin Diagn Lab Immunol ５(１)、45～49、1998.
118	3470	HIV-抗原・抗体定量	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、1259～1263、2020.
118	2530	HIV－抗原・抗体	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、1259～1263、2020.
118	4582	HIV－抗原・抗体（迅速）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、1259～1263、2020.
118	4854	HIV－１RNA定量	目崎　和久、他：医学と薬学73、705～709、2016.
119	4950	HA－IgG抗体	矢野　公士、他：医学と薬学58、151～161、2007.
119	4951	HA－IgM抗体	矢野　公士、他：医学と薬学58、151～161、2007.
119	4581	HBs抗原（迅速）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、1530～1536、2020.
119	3629	HBs抗原	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、1530～1536、2020.
119	2292	HBs抗体	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、1530～1536、2020.
119	3294	HBe抗原	中尾　瑠美子、他：Progress in Medicine、24、11、2839～2852、2004.
119	3295	HBe抗体	中尾　瑠美子、他：Progress in Medicine、24、11、2839～2852、2004.
119	3611	HBc抗体	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、1530～1536、2020.
119	5171	IgM－HBc抗体	中尾　瑠美子、他：医学と薬学52、847～858、2004.
119	3623	HBcrAg	Inoue T et al：Journal of Hepatorogy vol.75(２)、302～310、2021.
119	3316	HBV核酸RT－PCR	菅原　昌章、他：医学と薬学73、1329～1339、2016.
119	4952	HBVゲノタイプ	田中　靖人、他：臨床病理57(１)、42～47、2009.
120	4623	HCV抗原コア蛋白質	熊田　博光、他：消化器科45(４)、454、2007.
120	4842	HCV核酸RT－PCR	菅原　昌章、他：医学と薬学73、1329～1339、2016.
120	1430	HCV抗体	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、1537～1540、2020.
120	2320	HCV－３抗体（迅速）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、1537～1540、2020.
120	5230	HCV特異抗体群別判定	長谷川　瞳、他：医学と薬学70、633～641、2013.
120	2183	HCVRNAジェノタイプ	Ohno T et al：Journal of Clinical Microbiology35(１)、201～207、1997.
122、124	2228	TSH	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、771～772、2020.
122	2101	成長ホルモン	小山　紗世、他：医学と薬学68、899、2012.
122	5480	ソマトメジンC	Isojima、T. et al：Endocrine Journal59、771～780、2012.
122	2542	LH	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、801、805～806、2020.
122	2543	FSH	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、801、805～806、2020.
122	2131	ACTH	古屋　実、他：医学と薬学74(７)、819～830、2017.
122	2544	プロラクチン（PRL）	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、768～769、2020.
122	3228	AVP	田中　誠仁、他：医学と薬学72(８)、1379～1388、2015.
124	3284	T３	金澤　健一：医学と薬学41、718～724、1999.
124	2545	遊離T３.	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、775、2020.
124	3283	T４	金澤　健一：医学と薬学41、718～724、1999.
124	2541	遊離T４.	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、775、2020.
124	3531	サイログロブリン	北村　由之、他：医学と薬学77(12)、1683～1690、2020.
124	3530	抗Tg抗体	矢野　美沙紀、他：医学と薬学77(５)、793～804、2020.
124	3532	抗TPO抗体	矢野　美沙紀、他：医学と薬学77(５)、793～804、2020.
124	5295	TRAb	小森　明日香、他：医学と薬学46(４)、563～570、2001.
124	3533	TSHﾚｾﾌﾟﾀｰ抗体（第３世代）	矢野　美沙紀、他：医学と薬学77(５)、793～804、2020.
124	3624	TSAb	保科　元気、他：医学と薬学79(８)、1079～1086、2022.
125	1283	PTHインタクト	山岡　美穂、他：医学と薬学46、753～758、2001.
125	4838	ホールPTH	森山　和重、他：医学と薬学70(４)、829～836、2013.
125	4690	PTHrP	福本　誠二、他：ホルモンと臨床40(12)、1309～1314、1992.
125	3260	カルシトニン	北川　亘、他：医学と薬学72、97、2015.
125	4944	低カルボキシル化オステオカルシン	西村　順、他：医学と薬学57、523～535、2007.
127	5115	尿カテコールアミン	Honda S et al：Analytica Chimica Acta149、297～303、1983.
127	2173	CA３分画	辻　潮、他：臨床検査機器・試薬11(４)、635～641、1988.
127	2174	尿CA３分画	Honda S et al：Analytica Chimica Acta149、297～303、1983.
127	2178	血中ドーパミン総	守　和子：産業医学17、170～171、1975.
127	5381	L－ドーパ	守　和子：産業医学17、170～171、1975.
128	5447	VMA	Gironi A et al：Clinical Chemistry34(12)、2504～2506、1988.
128	0521	尿VMA	Gironi A et al：Clinical Chemistry34(12)、2504～2506、1988.
128	2179	HVA	Gironi A et al：Clinical Chemistry34(12)、2504～2506、1988.
128	2180	尿HVA	Gironi A et al：Clinical Chemistry34(12)、2504～2506、1988.
128	3380	尿メタネフリン２分画	Clark ZD、et al：Journal of Chromatography B 879(31)、3673～3680、2011.
128	1259	５－HIAA	小島　司、他：臨床化学21(２)、119～126、1992.
128	2188	尿５－HIAA	Mailman RB et al：Clinical Chemistry31(11)、1849～1854、1985.
129	2166	DHEA－S	増戸　梨恵、他：医学と薬学56(３)、443～448、2006.
129	2160	11－OHCS	宇田川　美佐子、他：臨床化学５(３)、321～325、1977.
129	2147	コルチゾール	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、788～793、2020.
129	1321	尿コルチゾール	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、788～793、2020.
129、136	3514	アルドステロン	佐藤　文俊、他：医学と薬学76(12)、1819～1826、2019.
129、136	3515	尿アルドステロン	佐藤　文俊、他：医学と薬学76(12)、1819～1826、2019.

案内 頁	コード	検査項目名	参考文献名
130	2208	エストラジオール（E２）	木村　聡：薬の影響を考える臨床検査値ハンドブック、２版、133～134、2014.
130	3540	抗ミュラー管ホルモン	浅田　義正、他：医学と薬学76(10)、1527～1532、2019.
131	1466	プロジェステロン	櫻林　郁之介、他：臨床検査項目辞典、421～422、2008.
131	2206	プレグナンジオール	平井　利生、他：日本臨床検査自動化学会会誌９(２)、564～567、1984.
131	2207	プレグナントリオール	平井　利生、他：日本臨床検査自動化学会会誌９(２)、564～567、1984.
131	2210	テストステロン	木内　理世、他：医学と薬学64(１)、87～93、2010.
132	1494	子宮頸管エラスターゼ	北村　光、他：臨床検査機器・試薬21(４)、357～361、1998.
132	5221	癌胎児性フィブロネクチン	Lockwood CJ et al：The New England Journal of Medicine325(10)、669～674、1991.
134	0241	IRI	金井　正光、奥村　伸生：臨床検査法提要、第35版、816、2020.
134	0281	CPR	櫻林　郁之介、他：臨床検査項目辞典、432、2008.
134	3628	インスリン抗体	内潟　安子、他：医学と薬学 65、525-530、2011.
134	3381	膵グルカゴン	稲垣　貴之、他：医学と薬学72、491～497、2015. 菊池　唯史、他：医学と薬学75、417～424、2018.
135	5467	hANP	下迫　賢一、他：医学と薬学71、477～483、2014.
135	1450	BNP	蔦本　尚慶、他：医学と薬学65、657～661、2011.
135	4830	NT－proBNP	堀井　隆、他：医学と薬学61(５)、761～767、2009.
135	4599	H－FABP	藤田　孝、他：医療と検査機器・試薬33(５)、629～632、2010.
136	3516	レニン活性（PRA）	宇津　貴央、他：医学と薬学73(３)、311～321、2016.
136	3517	レニン濃度（ARC）	佐藤　文俊、他：医学と薬学76(12)、1827～1832、2019.
137	3305	サイクリックAMP	孫　孝義、他：日本内分泌学会雑誌61(９)、912～923、1985.
137	5166	尿サイクリックAMP	孫　孝義、他：日本内分泌学会雑誌61(９)、912～923、1985.
137	4974	エリスロポエチン	増田　詩織、他：医学と薬学67、297～306、2012.

1 プレイン容器

容量　9mL
内容　凝固促進剤 血清分離剤
貯蔵方法　室温
有効期間　製造後1年

適用検査項目
- 生化学的検査
- 薬物検査
- 免疫学的検査
- ウイルス感染症検査
- 内分泌学的検査

2 滅菌スピッツ

容量　10mL
貯蔵方法　室温
有効期間　製造後1年

適用検査項目
- 尿一般検査
- 髄液・穿刺液検査
- 関節液検査
- 精液検査

・新鮮尿を冷蔵保存にてご提出ください。
・尿一般検査については中間尿を採取してください。

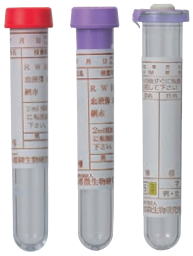
4 乳酸・ピルビン酸

採取量　血液 1mL
内容　1N 過塩素酸 1mL
貯蔵方法　冷蔵
有効期間　製造後3ヵ月

適用検査項目
- 乳酸
- ピルビン酸

・氷冷1.0N過塩素酸1.0mLに血液1.0mLを入れよく混和し除蛋白後15～60分静置し、遠心分離を行ってください。上清分離後凍結。

5 血球用



採取量　血液 2mL
内容　EDTA-2K
貯蔵方法　室温
有効期間　製造後1年

適用検査項目
- 末梢血一般検査
- 血液像（白血球分類）
- ABO 式血液型
- Rh 式（D）血液型
- 直接クームス試験

・溶血・凝固及び凍結検体は測定不可

6 アンモニア用

採取量　血液1mL正確に
内容　除蛋白液（タングステン酸ナトリウム）
貯蔵方法　室温
有効期間　製造後6ヵ月

適用検査項目
- 血中アンモニア

・採血後、直ちに正確に1.0mLを専用容器に加え、充分撹拌後、速やかに遠心分離し、その上清をご提出ください。
・上清分注後、凍結保存願います
・真空採血厳禁

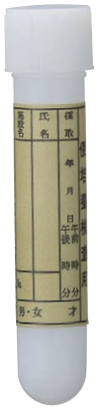
9 便ヘモグロビン

採取量　適当量
内容　緩衝液
貯蔵方法　室温
有効期間　表示通り

適用検査項目
- 便ヘモグロビン
- 便 Hb・Tf

・容器中の緩衝液は捨てないでください。
・採便時の食事制限はありません。
・採取方法は本文P7を参照願います。

10 便検査用



採取量　便 1g
貯蔵方法　室温
有効期間　製造後1年

適用検査項目
- 便虫卵（集卵・塗抹）
- 便培養
- 病原大腸菌 O-157
- ノロウイルス抗原

など

11 尿中 FDP

採取量　尿 1mL
内容　トロンビン様酵素
貯蔵方法　室温
有効期間　製造後1年6ヵ月

適用検査項目
- 尿中 FDP

・抗プラスミン剤とトロンビン入り容器に新鮮尿1.0mL採取し、容器のままご提出ください。

13 EDTA-2Na 入り

採取量　血液5mL・7mL
内容　EDTA-2Na
貯蔵方法　室温
有効期間　製造後1年

適用検査項目
- ACTH
- レニン活性
- カテコールアミン
- クロスマッチ
- BNP

など

16 EDTA-2Na+ アプロチニン

採取量　血液 3mL
内容　EDTA-2Na アプロチニン
貯蔵方法　室温
有効期間　表示通り

適用検査項目
- HANP
- グルカゴン
- PTHrP

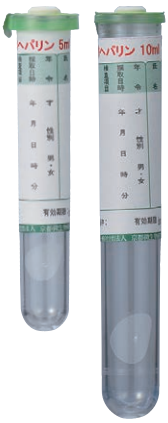
17 血糖用

採取量　血液 1mL
内容　フッ化 Na,ヘパリン Na EDTA-2Na
貯蔵方法　室温
有効期間　製造後1年

適用検査項目
- 血糖
- ヘモグロビン A1c

・採血後、よく混和させ冷蔵保存願います。

19 ヘパリン



採取量　血液5mL・10mL
内容　ヘパリン Na
貯蔵方法　室温
有効期間　製造後1年

適用検査項目
- 細胞性免疫検査

・リンパ球が少ない患者は多めに採血願います。
・検体採取後は、当日中にご提出ください。

23 3.2%クエン酸 Na 入り

採取量　血液 1.8mL

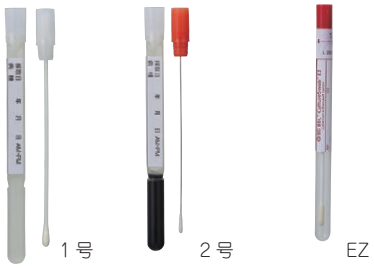
内容　3.2%クエン酸ナトリウム

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後1年

適用検査項目
- プロトロンビン時間
- APTT
- AT-Ⅲ、FDP
- フィブリノーゲン
- ヘパプラスチンテスト
- D-D ダイマー
- 凝固因子検査

30 シードスワブ



内容　キャリーブレア培地・アミーズ培地

貯蔵方法　室温

有効期間　表示通り

適用検査項目
- 一般細菌培養同定

・採取後は冷蔵保存願います（目的菌が淋菌、髄膜炎菌の時は常温保存）

35 遮光用尿容器

容量 10mL・100mL

貯蔵方法　室温

適用検査項目
- 尿コプロポルフィリン
- δ-アミノレブリン酸

27 β-TG、PF4

採取量　血液 2.7mL

内容　クエン酸Na、テオフィリン、クエン酸アデノシン、ジピリダモール

貯蔵方法　遮光・冷蔵

有効期間　製造後1年

適用検査項目
- 血小板第 4 因子
- β-TG

・真空採血厳禁

31 赤　沈　用

採取量　血液 1.6mL

内容　3.8%クエン酸ナトリウム

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後1年

適用検査項目
- 血沈

・採血後、当日中にご提出願います。
・血液1.6mLを採取し、転倒混和後、冷蔵保存

36 蛍光抗体法専用スライド

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後1年

適用検査項目
- 単純ヘルペス特異抗原
- 水痘ウイルス抗原

・採取方法はP112参照願います。

28 カルチャーボトル

接種量　血液8~10mL

貯蔵方法　室温

有効期間　表示通り

適用検査項目
- 好気性菌培養同定
- 真菌培養同定
- 嫌気性菌培養同定

・直射日光を避けて保存してください。

32 サコマノ液入り喀痰容器

内容　サコマノ氏液（DTT 液）

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後1年

適用検査項目
- 肺癌集細胞法

39 肺癌 3 日連続（柴田氏法）用

内容　55%エタノール

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後6ヵ月

適用検査項目
- 肺癌 3 日連続法

29 嫌気ポーター

内容　保存培地 CO_2

貯蔵方法　冷蔵

有効期間　製造後1年

適用検査項目
- 嫌気性培養

33 ウイルス分離用

内容　ウイルス専用保存液

貯蔵方法　冷蔵

有効期間　製造後6ヵ月

適用検査項目
- ウイルス分離・同定

40 喀痰容器

貯蔵方法　室温

適用検査項目
- 結核菌 DNA-PCR
- MACDNA-PCR
- 培養同定　喀痰

41 病理組織容器

容量　50mL

貯蔵方法　室温

適用検査項目
病理組織検査

50 ヘリコバクター培養用

貯蔵方法　冷蔵

有効期間　表示通り

適用検査項目
ヘリコバクター培養

64 尿中４型コラーゲン専用容器

採取量　早朝第一尿5mL

内容　0.5mLトリス塩酸緩衝液(pH7.5)

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後３年

適用検査項目
尿中４型コラーゲン

43 NK 細胞活性用

採取量　血液 5mL

内容　保存液

貯蔵方法　冷蔵

有効期間　製造後1年

適用検査項目
NK 細胞活性

53 標本用スライドガラス

貯蔵方法　室温

適用検査項目
骨髄像
末血 ALP 染色
特殊染色
鼻汁喀痰中好酸球

65 糞便中ヘリコバクターピロリ抗原検査

採取量　適当量

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後1年

適用検査項目
便中ヘリコバクター
ピロリ抗原

48 子宮頸管粘液中顆粒球エラスターゼ

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後1年

適用検査項目
子宮頸管粘液中
顆粒球エラスターゼ

59 ヒトパピローマウイルス DNA

内容　保存液

貯蔵方法　室温

有効期間　表示通り

適用検査項目
HPV（ハイリスク）
HPV（ローリスク）

66 ウイルス遺伝子検査用

採取量　血液 5mL

内容　凝固促進剤
血清分離剤

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後1年

適用検査項目
HBV 核酸定量
HCV-RNA 定量
HCV-RNA
コアジェノタイプ

49 尿ミオグロビン用

容量　10mL

内容　保存剤

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後２年

適用検査項目
尿ミオグロビン

63 血漿用ウイルス遺伝子検査用

採取量　血液 8mL

内容　EDTA-2K
血漿分離剤

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後1年

適用検査項目
HIV-1RNA 定量

68 ACD-A 液（PA・IgG 用）

採取量　血液 7.5mL

内容　ACD-A保存液

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後1年

適用検査項目
PA・IgG
（血小板関連 IgG）

69 EDTA-2K 入り

採取量　血液 2mL

内容　EDTA-2K

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後1年

適用検査項目
- シクロスポリン
- タクロリムス
- ビタミン B_1
- ビタミン B_2

70 細胞診（婦人科 C-R 法）

内容　Thinlayer 法保存液

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後2年

適用検査項目
- ヒトパピローマウイルス（HPV）DNA 型判定（ハイリスク 13 種）

71 保存液入り　マルク用

内容
- RPMI-1640
- FBS
- 硫酸カナマイシン
- ノボヘパリン Na
- 炭酸水素 Na
- HEPES

貯蔵方法　凍結

有効期間
色が薄いピンクの状態で使用してください。
（凍結時は淡黄色ですが解凍すると薄いピンク色に戻ります。）

適用検査項目
- WT1mRNA 定量

101 PCR 専用容器：ぬぐい液

内容　塩酸グアニジン

貯蔵方法　室温

有効期間　表示通り

適用検査項目
- クラミジア核酸検出
- 淋菌核酸検出

102 PCR 専用容器：尿

採取量　尿 4.5mL

内容　塩酸グアニジン

貯蔵方法　室温

有効期間　表示通り

適用検査項目
- クラミジア核酸検出
- 淋菌核酸検出

103 PCR 専用容器：うがい液

採取量　4.5mL

内容　塩酸グアニジン

貯蔵方法　室温

有効期間　表示通り

適用検査項目
- クラミジア核酸検出
- 淋菌核酸検出

104 HIV1,2 抗体　専用

採取量　血液 5mL

内容　血清分離剤
凝固促進用シリカ微粒子

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後1年

適用検査項目
- HIV-1/2 抗体確認検査

採血後、遠心分離し、そのままご提出ください。

105 凍結用滅菌ポリスピッツ

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後1年

適用検査項目
- マイコプラズマ核酸検出（咽頭ぬぐい液）
- CMV核酸検出（新生児尿）

・咽頭ぬぐい液は、滅菌綿棒で拭い、容器に綿棒を入れて凍結保存してください。
・他項目との重複依頼は避けてください。

106 Lamp 専用容器

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後1年

適用検査項目
- マイコプラズマ核酸検出（喀痰）

107 T-SPOT·TB 専用容器

採取量　血液 9mL

内容　ヘパリン Na

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後1年

適用検査項目
- T-SPOT·TB

108 金属専用容器

採取量　血液 3mL

内容　凝固促進剤
トロンビンヘパリン中和剤

貯蔵方法　室温

有効期間　表示通り

適用検査項目
- アルミニウム（Al）

血液3mLを採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち、速やかに遠心分離し、そのまま冷蔵保存してください。

110 ヒト癌胎児性フィブロネクチン

内容　抽出液

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後1年

適用検査項目
- ヒト癌胎児性フィブロネクチン

111 細胞性免疫骨髄液容器

容量　7mL

内容　10% FBS 加 RPMI1640 ヘパリン

貯蔵方法　到着後凍結 ドライアイス不可

有効期間　製造後冷凍1年

適用検査項目
細胞性免疫検査（骨髄液）

・使用時に解凍していただき、濁りや溶液が変色している場合は使用しないでください。検体採取後は冷蔵でご提出ください。

112 細胞性免疫リンパ節その他容器

容量　15mL

内容　10% FBS 加 RPMI1640

貯蔵方法　到着後凍結 ドライアイス不可

有効期間　製造後1年

適用検査項目
細胞性免疫検査

・使用時に解凍していただき、濁りや溶液が変色している場合は使用しないでください。検体採取後は冷蔵でご提出ください。

113 エンドトキシン・β-D グルカン

採取量　血液 3mL

内容　ノボヘパリン 15IU

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後2年

適用検査項目
エンドトキシン
β－D グルカン

・キャップを取らずに血液3mLを無菌的に採取し、5～6回ほど静かに転倒混和したのち、そのまま冷蔵保存してください。
・他項目との重複依頼は避けてください。
・透析液の測定はできません。

114 百日咳菌核酸検出

後鼻腔ぬぐい液

貯蔵方法　室温

有効期間　製造後3年

適用検査項目
百日咳菌核酸検出

116 メチルイソブチルケトン

容量　15mL

貯蔵方法　室温

適用検査項目
メチルイソブチルケトン

・揮発性物質のため、容器内に空間部分（気相部分）を作らないよう尿を入れてください。
・採尿後は直ちに付属のスクリューキャップで密栓してください。
・凍結保存はできません。

121 TFPI2 専用容器

容量　5mL

貯蔵方法　室温

有効期限　表示通り

適用検査項目
TFPI2

122 CMV 核酸定量用

採取量　血液 5mL

内容　EDTA-2K 血漿分離剤

貯蔵方法　4～25℃

有効期間　製造後1年

適用検査項目
CMV 核酸定量

123 トリコモナス培養用

貯蔵方法　冷蔵

有効期間　製造後3ヵ月

適用検査項目
トリコモナス培養

・滅菌綿棒を入れた状態で容器を冷やさずにご提出ください。

124 金属専用容器（尿）

貯蔵方法　室温

内容　酸処理済

適用検査項目
尿カドミウム（Cd）

新規検査項目記入欄

項目コード	検査項目	検体量（mL）	容器	保存	所要日数	実施料	検査方法	基準値	提出条件・備考

項目コード	検査項目	検体量（mL）	容器	保存	所要日数	実施料	検査方法	基準値	提出条件・備考

お問い合わせ・ご意見・苦情等の受付ご案内

TEL(075)593-1441　FAX(075)593-9394

	受付部署	担当者
営業面のお問い合わせ・ご意見等	臨床事業部	
検査の技術的・学術的なお問い合わせ	臨床情報室	
検査データに関するお問い合わせ	総合事務室	
請求書・お支払いに関するお問い合わせ	総合事務室	
その他、総合ご案内	臨床事業部	

測定委託先	検体搬送時間
※01　株式会社ビー・エム・エル　BML総合研究所	7時間
※02　株式会社エスアールエル　八王子・MUQS・セントラルラボラトリー	10時間
※06　株式会社ＬＳＩメディエンス　中央総合ラボラトリー	10時間
※09　株式会社日本医学臨床検査研究所	2時間
※26　京都微生物研究所　福知山支所	2時間
※29　株式会社日本セルネット	10分
※33　株式会社ファルコバイオシステムズ　総合研究所	1時間

本案内書は2024年8月現在の内容です。

KyotoMicrobio Laboratory

一般社団法人
京都微生物研究所

https://kml.kyoto

本　　部　〒607-8326 京都市山科区川田御出町3番地の4
TEL.075-593-1441(代) FAX.075-593-9394
付属診療所　TEL.075-593-1443　FAX.075-593-1445
環境衛生　TEL.075-593-3320　FAX.075-501-7110
公衆衛生　TEL.075-593-1444　FAX.075-593-1445

本部ラボ　〒607-8326 京都市山科区川田御出町14番地1
TEL.075-593-1441(代) FAX.075-593-9394
福知山支所　〒620-0933 福知山市東羽合町43番地
TEL.0773-23-7311　FAX.0773-23-7313
豊岡支所　〒668-0055 兵庫県豊岡市昭和町2番50号河本ビル1階北側
TEL.0796-26-8072　FAX.0796-26-8073

PDF検索

2024-2025

2024年8月版